

医歯学総合研究科  
博士課程  
生命理工医療科学専攻  
履修要項

2024 年 度

(2024. 4. 1)

東京医科歯科大学大学院

※東京医科歯科大学は東京工業大学と令和6（2024）年10月1日に統合し、  
東京科学大学となります。

Tokyo Medical and Dental University (TMDU) and Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech) will be integrated to  
become "Institute of Science Tokyo" as of October 1, 2024.

# 目 次

1. 医歯学総合研究科博士課程生命理工医療科学専攻の概要	1
2. 修了要件及び履修方法・取消について	5
3. 授業科目の概要	16
4. 医歯学総合研究科博士課程生命理工医療科学専攻の分野構成	25
5. 2024年度授業時間割	30
6. 各授業科目内容	36
(1) マネジメント特論	37
(2) 国際動向特論	39
(3) 知的財産特論	41
(4) 英語ディベート特論	42
(5) 英語プレゼンテーション特論	46
(6) 疾患生命科学特論	47
(7) 先端機能分子特論	49
(8) 機能分子開発技術特論	51
(9) 機能再建材料学特論	52
(10) 組織再生材料学特論	53
(11) 生体機能材料学特論	55
(12) 医用材料工学特論	56
(13) 生体情報数理解析論	57
(14) 理研生体分子制御学特論	59
(15) 病態推論特論	61
(16) 高度臨床実践特別演習入門	63
(17) 高度臨床実践特別演習Ⅰ	65
(18) 高度臨床実践特別演習Ⅱ	67
(19) 疾患予防パブリックヘルス医学概論	69
(20) 臨床・遺伝統計学	71
(21) 先端口腔保健応用学特論	74
(22) 先端口腔保健応用学演習	76
(23) 先端口腔保健工学特論	78
(24) 硬組織研究・骨形態計測学特論	80
(25) 先制医歯理工学概論Ⅰ	82
(26) 先制医歯理工学概論Ⅱ	86
(27) データサイエンス特論Ⅰ	87
(28) データサイエンス特論Ⅱ	89

(29) データサイエンス特論Ⅲ	93
(30) データサイエンス特論Ⅳ	94
(31) Advanced Human Pathology for Graduate Students	95
(32) 先端バイオセンシングデバイス特論	97
(33) 医療デバイス・システム機器特論	99
(34) ウェアラブル IoT 技術特論	101
(35) 臨床検査法開発学特論	103
(36) 疾患分子病態学特論	105
(37) 先端ケミカルバイオロジー特論	106
(38) 生体分子制御学特論	107
(39) 疫学基礎	108
(40) 生物統計学基礎	110
(41) 生物統計学応用 I	112
(42) 生物統計学応用 II	114
(43) 臨床試験方法論基礎	116
(44) 臨床試験方法論応用	118
(45) 口腔疫学基礎	120
(46) 疫学応用	122
(47) 臨床疫学解析演習	124
(48) センサ医工学演習	126
(49) 情報医工学演習	128
(50) 精密医工学演習	130
(51) 物質医工学演習	131
(52) 薬化学演習	132
(53) 生命有機化学演習	133
(54) メディシナルケミストリー演習	134
(55) ソフトマター医工学演習	135
(56) 有機生体材料学演習	136
(57) 診断治療システム医工学演習	137
(58) セラミックバイオマテリアル演習	138
(59) 先進バイオ分子医学演習	139
(60) 分子細胞生物学演習	140
(61) 発生再生生物学演習	141
(62) 恒常性医学演習	142
(63) 先端ナノ医工学演習	143

(64) 分子構造情報学演習	144
(65) 機能分子病態学演習	145
(66) 生体情報薬理学演習	1465
(67) 疾患ゲノム機能演習	148
(68) 環境エピゲノム演習	149
(69) ゲノム機能情報演習	151
(70) 医化学演習	152
(71) 理研生体分子制御学演習	153
(72) NCC腫瘍医科学演習	155
(73) 細胞分子医学演習	156
(74) 領域創成科学演習	157
(75) データ科学アルゴリズム設計・解析演習	158
(76) AI 技術開発演習	159
(77) 分子機構免疫学演習	161
(78) 計算創薬科学演習	162
(79) 形態情報解析学演習	163
(80) 血液・生体システム解析学演習	165
(81) 生命情報応用学演習	167
(82) 疾患生理機能解析学演習	168
(83) 臨床分析・分子生物学演習	170
(84) 微生物・感染免疫解析学演習	173
(85) 生体検査科学セミナーⅡ	174
(86) 生涯口腔保健衛生学演習	176
(87) 健康支援口腔保健衛生学演習	178
(88) 口腔疾患予防学演習	179
(89) 地域・福祉口腔機能管理学演習	180
(90) 口腔健康教育学演習	181
(91) 口腔基礎工学演習	182
(92) 口腔デジタルプロセス学演習	184
(93) 口腔医療工学演習	185
(94) 口腔保健学セミナー	186
(95) 生命理工医療科学先端研究特論	188

各科目授業内容英訳	189
-----------	-----

7. 諸規則	344
--------	-----

○東京医科歯科大学大学院学則	345
○東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程履修内規	372
○東京医科歯科大学学位規則	375
○東京医科歯科大学大学院履修規則	388
○東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科委員会博士（理学・工学） に係る学位論文審査及び試験内規	420
○東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科委員会博士（保健学） に係る学位論文審査及び試験内規	431
○東京医科歯科大学大学院学位論文審査基準	447
○東京医科歯科大学大学院GPA制度に関する要項	448
○東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ	450
8. 学生周知事項	460
9. 長期履修制度について	465
10. 諸手続きについて	469
11. 学内主要施設・校内案内図	476

## 1. 医歯学総合研究科博士課程生命理工医療科学専攻の概要

### 人材育成目標

生命科学、生体工学、医療科学とその関連分野（生命理工医療科学分野）に精通し、生命理工医療科学と疾患研究領域との融合的学際分野において幅広い教養と国際的な視野を有し、高度な専門性と実践的問題解決能力を持った人材、とりわけ先端的な研究遂行能力を有する研究者、卓越した学識と優れた人間性を有する教育者、技術革新を目指すバイオ産業、医療機器開発、先制医療を実現する臨床検査などの現場で、リーダーシップを発揮して活躍できる人材を育成する。

### アドミッションポリシー

#### 《求める学生像》

本学の掲げる、幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成するという教育理念の下、大学院医歯学総合研究科医歯学専攻と生命理工医療科学専攻は、各々のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた教育を行っている。このような教育を受ける者として、次に掲げる意欲・目的意識と知識・技能等を備えた学生を求める。

- 1) 医学、歯学、生命理工学、または医療科学に対する高い関心と明確な目的意識があり、関連する諸問題に主体性を持って取り組む意欲を有している。
- 2) 医学、歯学、生命理工学、または医療科学に関わる諸問題の解決に向けた研究を実施できる知識と技能を有している。
- 3) 研究を協働して推進し且つその成果を広く各界に発信するために必要な倫理観、英語力及びコミュニケーション能力を有している。

#### 《入学者選抜の基本方針》

筆記試験により英語力を評価し、口述試験により生命理工医療科学分野における学問・研究を遂行していく専門的知識、能力、意欲、倫理観及びコミュニケーション能力を見ることで、総合的に判定する。

### カリキュラムポリシー

本学大学院医歯学総合研究科生命理工医療科学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、教育課程を編成するにあたっては、教育内容、教育方法、学習成果の評価方法等を以下のように設定する。

#### 博士（理学）

- 1) 生命科学に関連する高度で幅広い専門的知識の修得に加え、グローバルな視野形成と人的ネットワーク形成に必要で産業界から要求される実践的スキルを養成する科目を設定する。
- 2) 高度の専門性を修得することを目的に、所属分野の演習、研究実習を履修し、先端的な

国内外共同研究に参加する。

- 3) 学内外の高度専門家による多彩なテーマの「生命理工医療科学先端研究特論」を履修する。
- 4) 国際性の向上のため、国際動向についての講義、外国語による専門分野の講義や外国語によるプレゼンテーション能力を養成する講義を行う。
- 5) 複数指導体制と学内外のアドバイザーによる集団的な指導体制により客観的で学際的な研究指導および論文作成指導を行う。分野間の共同研究あるいは研究指導委託による国内外の他の機関での研究もリサーチワークの対象となる。
- 6) 長期履修学生制度、早期修了制度などを用意し、多様な学生の要請に対応する。
- 7) 成績評価は、レポートの提出、講義への参加状況などに基づき、各講義において学修達成度を適切に反映する基準を定めた上で行う。
- 8) 学位論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

#### 博士（工学）

- 1) 生体工学に関連する高度で幅広い専門的知識の修得に加え、グローバルな視野形成と人的ネットワーク形成に必要で産業界から要求される実践的スキルを養成する科目を設定する。
- 2) 高度の専門性を修得することを目的に、所属分野の演習、研究実習を履修し、先端的な国内外共同研究に参加する。
- 3) 学内外の高度専門家による多彩なテーマの「生命理工医療科学先端研究特論」を履修する。
- 4) 国際性の向上のため、国際動向についての講義、外国語による専門分野の講義や外国語によるプレゼンテーション能力を養成する講義を行う。
- 5) 複数指導体制と学内外のアドバイザーによる集団的な指導体制により客観的で学際的な研究指導および論文作成指導を行う。分野間の共同研究あるいは研究指導委託による国内外の他の機関での研究もリサーチワークの対象となる。
- 6) 長期履修学生制度、早期修了制度などを用意し、多様な学生の要請に対応する。
- 7) 成績評価は、レポートの提出、講義への参加状況などに基づき、各講義において学修達成度を適切に反映する基準を定めた上で行う。
- 8) 学位論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

#### 博士（保健学）

- 1) 臨床検査学領域の最先端の知識と研究力を身につけるために、講義、演習、研究実習を設定する。
- 2) 臨床検査技師としての技能、倫理感、対人関係を研修する仕組みを設ける。
- 3) 臨床検査データから病態を推論する能力を磨く科目を設定する。
- 4) 幅広い視野からの学習を促進するため、生命理工系も含めた多彩な選択科目を設定する。
- 5) 医療系大学院生として習得すべき教養科目を設定する。
- 6) 国際社会で活躍できる資質を育成するため、英語で行う授業科目を設定し、国際学会

発表、海外研修、海外留学などへの参加を支援する。

- 7) 学生のプレゼンテーション力を向上させ、客観的・学際的な研究指導を充実させるために、分野の枠を超えて教員と学生が研究の進捗状況について討論する場を設ける。
- 8) 社会人入学制度、長期履修制度を設け、多様な学生の要請に応える。
- 9) 成績は各科目の特性に応じた基準を定めて、多面的に評価する。
- 10) 学位論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

#### 博士（口腔保健学）

- 1) 口腔保健学領域の最先端の知識と研究力を身につけるために、講義、演習、研究実習を設定する。
- 2) 生命倫理などの生命科学全般の最先端の知識を身につけるために、学内外の高度専門家による多彩なテーマの「生命理工医療科学先端研究特論」を履修する。
- 3) 国際的な視野形成と研究ネットワーク形成に必要な実践的スキルを養成し、国際学会発表、海外研修、海外留学などへの参加を支援するため、英語で行う授業科目やプレゼンテーション能力養成講座を設定する。
- 4) 幅広い視野からの学習を促進するため、医歯学系・生命理工系を含めた多彩な選択科目を設定する。
- 5) 学生のプレゼンテーション力を向上させ、客観的・学際的な研究指導を充実させるために、分野の枠を超えて教員と学生が研究の進捗状況について討論する場を設ける。
- 6) 多様な学生の要請にこたえるために、社会人入学制度、長期履修制度、複数指導体制を設ける。
- 7) 成績評価は、定期試験、レポートの提出、講義への参加状況などに基づき、各講義において学修達成度を適切に反映する基準を定めた上で行う。
- 8) 学位論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

#### ディプロマポリシー

本専攻では、次のような能力・資質を身につけていると認められた者で、かつ所定の単位を収め、本専攻が行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。

#### 博士（理学）

- 1) 卓越した研究成果をあげており、先端的・分野融合的な生命科学の発展に貢献できる研究能力を有している。
- 2) 高い専門性と倫理観を持ち、次世代の生命科学を担う人材育成や高度な専門的業務に貢献できる能力を有している。
- 3) 生命科学や関連分野の多様な知識や技術を持ち、先端的技術開発を通して、医療・バイオ産業界の発展に貢献できる能力を有している。
- 4) 自ら課題を設定し、研究を立案・遂行できる能力を有している。
- 5) 自身の研究成果を広く社会に説明・発信できる能力を有している。
- 6) 国際的な視野を持ち、海外でも活躍できる能力を有している。



#### 博士（工学）

- 1) 卓越した研究成果をあげており、先端的・分野融合的な生体工学の発展に貢献できる研究能力を有している。
- 2) 高い専門性と倫理観を持ち、次世代の生体工学を担う人材育成や高度な専門的業務に貢献できる能力を有している。
- 3) 生体工学に関する多様な知識や技術を持ち、先端的技術開発を通して、医療・バイオ産業界の発展に貢献できる能力を有している。
- 4) 自ら課題を設定し、研究を立案・遂行できる能力を有している。
- 5) 自身の研究成果を広く社会に説明・発信できる能力を有している。
- 6) 国際的な視野を持ち、海外でも活躍できる能力を有している。

#### 博士（保健学）

- 1) 臨床検査学および関連領域における専門的業務に必要な高い学識・技術・応用力を身につけ、自ら先駆的な研究活動を遂行する能力を有している。
- 2) 臨床検査学および関連領域における指導者、教育者、研究者となるための基盤を習得し、国際的・学際的にリーダーシップを発揮できる資質と力量を有している。

#### 博士（口腔保健学）

- 1) 次世代の口腔保健学および関連領域における専門的業務の発展に必要な高い学識・技術・応用力を身につけ、自ら先駆的な研究活動を遂行する能力を有している。
- 2) 口腔保健学および関連領域における指導者、教育者、研究者となるための基盤を習得し、国際的・学際的にリーダーシップを発揮できる資質と力量を有している。

#### 標準修業年限及び学位

標準修業年限 3年

所定の単位を修得し、博士論文審査に合格することにより次の学位のいずれかが取得できます。

博士（理学）

博士（工学）

博士（保健学）

博士（口腔保健学）

## 2. 修了要件及び履修方法・取消について（生命理工医療科学専攻）

### 1. 修了要件

生命理工医療科学専攻に3年以上在学し、授業科目を20単位以上修得し、研究指導を受け、かつ本専攻の行う博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

※優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、2年で修了することができる。

### 2. 履修方法

#### ※2024 年度授業方針について

博士課程生命理工医療科学専攻では以下のとおり実施します。

- ・授業は対面を基本としつつ、ハイフレックス型授業を積極的に活用し、感染状況等に応じた柔軟な参加形態を確保する。科目責任者の判断のもと、教育内容、事情に応じて授業の編成を行う。
- ・対面講義を行う場合には、「感染予防に係る留意事項」に十分留意の上、実施する。

この方針は今後の情勢により変更することもあります。

今後更新があった場合には大学ウェブサイト等で最新情報をお知らせする予定です。

実際の授業実施方法については Web Class でご確認いただくか、授業担当教員にお問い合わせください。

#### 【感染予防に係る留意事項】

- ・手洗い、換気、マスクの効果的な場面での着用、咳エチケットなど、基本的な感染対策の徹底をお願いします。
- ・下記出席停止基準に抵触する、または抵触しないものの体調がすぐれない場合は登校せず、すみやかに「学部生・大学院生向けの登校を控える症状・状況と報告と対応方法」に従って「登校を控える状況発生 Forms」から大学および指導教員に報告を行ってください。後日、欠席届を大学院教務第二係へ提出してください。

なお、新型コロナウイルス感染症以外の学校感染症（インフルエンザなど）の診断を受けている場合は、「学校感染症 初回報告 Forms」の回答を行い、Forms に示された内容に沿ってください。

#### 【出席停止の判断基準】

1. 体温 37.5℃以上があり、咽頭痛（違和感を含む）・咳のどちらかがある
2. 周囲に COVID-19 陽性者がいて、自身にも風邪症状（発熱・咽頭痛・咳・倦怠感・鼻汁・頭痛など）がある
3. 症状があり、検査にて COVID-19 陽性が判明した
4. 無症状だが、定期検査などで検査受けたら COVID-19 陽性が判明した

※周囲に COVID-19 陽性がいるが、自身は無症状の場合

無症状の間は、通常登校可です。大学への報告は不要です。健康観察に留意し、症状が出た際は、登校を控えて、下記沿って報告してください。

各種 HP は以下のとおりです。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う本学の対応：

<https://www1.tmd.ac.jp/others/soumusoumu/soumu/cov/>

保健管理センター「新型コロナウイルス感染症関連」:

<https://www.tmd.ac.jp/hsc/covid/>

「学部生・大学院生向けの登校を控える症状・状況における報告と対応方法」:

[https://www.tmd.ac.jp/files/topics/55184\\_ext\\_19\\_4.pdf](https://www.tmd.ac.jp/files/topics/55184_ext_19_4.pdf)

「登校を控える状況発生報告Forms」:



「学校感染症 初回報告Forms」



1) 本専攻において修得すべき20単位の履修方法は、次のとおりとする。

- ・一般科目から1単位以上、
- ・一般科目・先制医歯理工学科目・臨床疫学科目・専門科目から5単位以上、
- ・所属分野が開設する演習科目1科目6単位、

(演習科目が5単位の場合、生体検査科学講座に所属する学生は併せて生体検査科学セミナーⅡ1単位、口腔保健学講座に所属する学生は併せて口腔保健学セミナー1単位を履修するものとする)

- ・必修科目8単位(生命理工医療科学先端研究特論・研究実習)

○生命理工医療科学先端研究特論のうち、初期研究研修については、本学修士課程修了者を除き出席することが望ましい。

※履修登録にあたっては、事前に指導教員と授業の履修方法等について相談のうえ、履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを行わなければならない。履修登録の受付は学務企画課にて行う。

2) 単位は原則として2年次末までに修得するものとし、3年次は複数の指導教員から研究課題に則した研究指導を受け、論文作成などの研究活動を行うものとする。ただし、学則第13条に基づく長期履修学生が単位を修得する場合は、指導教員のもとで履修方法について、よく相談のうえ、計画的に履修を行うものとする。

※本研究科の学生は、必要に応じ、所定の手続きを経て他の大学院の授業科目を履修し、若しくは他の大学院、研究所又は高度の水準を有する。病院において研究指導を受け、若しくは休学することなく外国の大学院等に留学し、その科目を履修し、又は研究指導を受けることができる。

3) 先制医歯理工学コースについて

『先制医療デバイスIoTプログラム』または『疾患生命創薬科学プログラム』を履修する学生は、一般科目、専門科目及び先制医歯理工学科目から各プログラムが指定する授業科目を6単位以上修得した場合、学位記に先制医歯理工学コース(先進医療デバイスIoTプログラムまたは疾患生命創薬科学プログラム)を修了した旨を付記する。各プログラムが指定する授業科目は別表のとおり。

4) 臨床疫学プログラム(Clinical Epidemiology Program)について

『臨床疫学プログラム(Clinical Epidemiology Program)』を履修する学生は、臨床疫学プログラム

(Clinical Epidemiology Program) が指定する授業科目（臨床疫学科目から選択科目（△）を 5 単位以上かつ必修科目（▲））を修得した場合、学位記に、臨床疫学プログラム（Clinical Epidemiology Program）を修了した旨を付記する。各プログラムが指定する授業科目は別表のとおり。

別表  
博士課程生命理工医療科学専攻 2024年度開講科目一覧表

区分	時間割コード (2025年度～)	単位数	科目名	開講予定 時期	先制医歯理工学コース			臨床疫学プ ログラム	科目責任者
					先制医療デバイス IoT学プログラム	疾患生命創薬科学 プログラム	修了要件		
一般科目	0360001	1	マネジメント特論(日本語)	通年	■	■			竹内 勝之
	0360001E	1	マネジメント特論(英語)	後期	■	■			竹内 勝之
	0360002	1	国際動向特論(日本語)	前期	■	■			竹内 勝之
	0360002E	1	国際動向特論(英語)	2024休講	■	■			竹内 勝之
	0360003	1	知的財産特論	後期	■	■			竹内 勝之
	0360004S	1	英語ディベート特論(前期)	前期	■	■			JEANETTE DENNISSE
	0360004F	1	英語ディベート特論(後期)	後期	■	■			JEANETTE DENNISSE
	0360005	1	英語プレゼンテーション特論	2024休講	■	■			伊藤 暢隆
	0361001	2	疾患生命科学特論	通年	□	□			二階堂 愛
	0361002	1	先端機能分子特論	前期	□	□			影近 弘之
専門科目	0361003	1	機能分子開発技術特論	通年	□	□			細谷 孝充
	0361004	1	機能再建材料学特論	2024休講	□	□			岸田 晶夫
	0361005	1	組織再生材料学特論	前期	□	□			川下 将一
	0361006	1	生体機能材料学特論	前期	□	□			松元 亮
	0361007	1	医用材料学特論	前期	□	□			岸田 晶夫
	0361008	1	生体情報学特論	前期	□	□			中島 義和
	0361009	2	理研生体分子制御学特論	通年	□	□			岸田 晶夫
	0361010	2	病態推論特論	後期	□	□			免 勇樹
	0361011	1	高度臨床実践特別演習入門	前期	□	□			大川 龍之介
	0361012	2	高度臨床実践特別演習I	通年	□	□			大川 龍之介
0361013	2	高度臨床実践特別演習II	通年	□	□			大川 龍之介	
0361014	2	疾患予防パブリックヘルス医学概論	後期	□	□			中村 桂子	
0361015	2	臨床・遺伝統計学	前期	□	□			高橋 邦彦	
0361016	2	先端口腔保健応用学特論	通年	□	□			樺沢 勇司	
0361017	1	先端口腔保健応用学演習	通年	□	□			樺沢 勇司	
0361018	1	先端口腔保健工学特論	通年	□	□			金澤 学	
0361019	1	硬組織研究・骨形態計測学特論	通年	□	□			青木 和広	
先制医歯理工学 共通科目	0362001	1	先制医歯理工学概論I(日本語)	通年	○	○			石川 欽也
	0362001E	1	先制医歯理工学概論I(英語)	後期	○	○			石川 欽也
	0362002	1	先制医歯理工学概論II	後期	○	○			石川 欽也
	0362003	1	データサイエンス特論I(日本語)	前期	○	○			竹内 勝之
	0362003E	1	データサイエンス特論I(英語)	後期	○	○			高橋 邦彦
	0362004	1	データサイエンス特論II(日本語)	通年	○	○			竹内 勝之
	0362004E	1	データサイエンス特論II(英語)	前期	○	○			長谷川 常矩
	0362013	1	データサイエンス特論III	前期	○	○			竹内 勝之
	0362014	1	データサイエンス特論IV	通年	○	○			竹内 勝之
	0362005	1	Advanced Human Pathology for Graduate Students	前期	○	○			大川 龍之介
先進医療 デバイス IoT学 専門科目	0362006	1	先端バイオセンシングデバイス特論	前期	☆	☆			三林 浩二
	0362007	1	医療デバイス・システム機器特論	前期	☆	☆			中島 義和
	0362008	1	ウェアラブルIoT技術特論	前期	☆	☆			三林 浩二
	0362009	1	臨床検査法開発学特論	前期	☆	☆			星 治
	0362010	1	疾患分子病態学特論	前期	●	●			佐々木 純子
	0362011	1	先端ケミカルバイオロジー特論	前期	●	●			宇村 啓和
	0362012	1	生体分子制御学特論	前期	●	●			岸田 晶夫
	0362015	1	疫学基礎	通年			△		藤原 武男
	0362016	1	生物統計学基礎	通年			△		高橋 邦彦
	0362017	1	生物統計学応用I	通年			△		高橋 邦彦
0362018	1	生物統計学応用II	通年			△		高橋 邦彦	
0362019	1	臨床試験方法論基礎	通年			△		平川 晃弘	
0362020	1	臨床試験方法論応用	通年			△		平川 晃弘	
0362021	1	口腔疫学基礎	通年			△		相田 潤	
0362022	1	疫学応用	通年			△		相田 潤	
0362023	1	臨床疫学解析演習	通年			▲		藤原 武男	
臨床疫学 科目	0363001	6	センサ医学演習	通年					三林 浩二
	0363003	6	情報医学演習	通年					中島 義和
	0363004	6	精密医学演習	通年					池内 真志
	0363005	6	物質医学演習	通年					岸田 晶夫
	0363006	6	薬化学演習	通年					影近 弘之
	0363007	6	生命有機化学演習	通年					細谷 孝充
	0363021	6	メディシナルケミストリー演習	通年					宇村 啓和
	0363040	6	ソフトマター医学演習	通年					鳴瀬 彩絵
	0363009	6	有機生体材料学演習	通年					松元 亮
	0363035	6	診断治療システム医学演習	通年					樺 弘和
0363025	6	セラミックバイオマテリアル演習	通年					横井 太史	
0363026	6	先進バイオ分子医学演習	通年					影近 弘之(代)	
0363011	6	分子細胞生物学演習	通年					渡谷 浩司	
0363012	6	発生再生生物学演習	通年					仁科 博史	
0363037	6	恒常性医学演習	通年					内田 智子	
0363036	6	先端ナノ医学演習	通年					伊藤 暢隆	
0363015	6	分子構造情報学演習	通年					松田 憲之	
0363031	6	機能分子病態学演習	通年					遠藤 中	
0363017	6	生体情報薬理学演習	通年					遠藤 中	
0363032	6	疾患ゲノム機能演習	通年					遠藤 中	
0363019	6	環境エピゲノム演習	通年					二階堂 愛	
0363024	6	ゲノム機能情報学演習	通年					瀬川 勝盛	
0363030	6	医学化学演習	通年					岸田 晶夫	
0363020	6	理研生体分子制御学演習	通年					岸田 晶夫	
0363022	6	NCC腫瘍医学演習	通年					佐々木 純子	
0363023	6	細胞分子医学演習	通年					樺枝 光憲	
0363027	6	領域創成科学演習	通年					坂内 英夫	
0363028	6	データ科学アルゴリズム設計・解析演習	通年					坂内 英夫(代)	
0363029	6	AI技術開発演習	通年					加藤 一希	
0363038	6	分子機構免疫学演習	通年					石谷 隆一郎	
0363039	6	計算創薬科学演習	通年					星 治	
0363113	5	形態情報解析学演習	通年					伊藤 南	
0363114	5	血液・生体システム解析学演習	通年					角 勇樹	
0363115	5	生命情報応用学演習	通年					柿沼 晴	
0363112	5	疾患生体機能解析学演習	通年					大川 龍之介	
0363115	5	臨床分析・分子生物学演習	通年					藤原 良一	
0363117	5	微生物・感染免疫解析学演習	通年					鈴木 喜晴	
0363201	1	生体検査科学セミナーII	3年通年					遠藤 中	
0363301	5	生涯口腔保健衛生学演習	通年					樺沢 勇司	
0363302	5	健康支援口腔保健衛生学演習	通年					遠藤 中	
0363303	5	口腔疾患予防学演習	通年					松尾 浩一郎	
0363304	5	地域・福祉口腔機能管理学演習	通年					吉田 直美	
0363305	5	口腔健康教育学演習	通年					青木 和広	
0363306	5	口腔基礎工学演習	通年					金澤 学	
0363307	5	口腔デジタルプロセス学演習	通年					池田 正臣	
0363308	5	口腔医療工学演習	通年					樺沢 勇司	
0363401	1	口腔保健学セミナー	3年通年					教育委員長	
必修科目	0364001	2	生命理工医療科学先端研究特論	2年通年					各指導教員
	0364002	2	研究実習	2年通年					各指導教員

修了要件: 計20単位以上

・先制医歯理工学コース先制医療デバイスIoT学プログラム ■□○☆から6単位(ただし■から1単位以上、○から1単位以上、☆から3単位以上)を履修すること。  
 ・先制医歯理工学コース疾患生命創薬科学プログラム ■□○●から6単位(ただし■から1単位以上、○から1単位以上、●から1単位以上)を履修すること。  
 ・臨床疫学プログラム △から5単位以上かつ▲を履修すること。

4 ) 履修登録例

(履修例 1 : 薬化学分野所属の場合)

必修科目		特論科目	
生命理工医療科学先端研究特論	2 単位	先端機能分子特論	1 単位
研究実習	6 単位	機能分子開発技術特論	1 単位
演習科目		先端ケミカルバイオロジー特論	1 単位
薬化学演習	6 単位	生体機能材料学特論	1 単位
		英語ディベート特論	1 単位
		マネジメント特論	1 単位
計		計	6 単位
1 4 単位		合 計	
		2 0 単位	

(履修例 2 : センサ医工学分野所属で先進医療デバイス IoT プログラムの場合)

必修科目		特論科目	
生命理工医療科学先端研究特論	2 単位	先端バイオセンシングデバイス特論	1 単位
研究実習	6 単位	医療デバイス・システム機器特論	1 単位
演習科目		ウェアラブル IoT 技術特論	1 単位
センサ医工学演習	6 単位	臨床検査法開発学特論	1 単位
		先制医歯理工学概論 I	1 単位
		英語ディベート特論	1 単位
計		計	6 単位
1 4 単位		合 計	
		2 0 単位	

(履修例 3 : 発生再生生物学分野所属で疾患生命創薬科学プログラムの場合)

必修科目		特論科目	
生命理工医療科学先端研究特論	2 単位	疾患生命科学特論	2 単位
研究実習	6 単位	疾患分子病態学特論	1 単位
演習科目		先制医歯理工学概論 I	1 単位
発生再生生物学演習	6 単位	データサイエンス特論 I	1 単位
枠内の一般科目・先制医歯理工学科目から 3 単位 (それぞれ必ず 1 単位以上)		マネジメント特論	1 単位
		知的財産特論	1 単位
		英語ディベート特論	1 単位
計		計	6 単位
1 4 単位		合 計	
		2 0 単位	

(履修例 4 : 血液・生体システム解析学分野所属の場合)

必修科目		特論科目	
生命理工医療科学先端研究特論	2 単位	病態推論特論	2 単位
研究実習	6 単位	高度臨床実践特別演習 I	2 単位
演習科目		臨床検査法開発学特論	1 単位
血液・生体システム解析学演習	5 単位	英語ディベート特論	1 単位
生体検査科学セミナー II	1 単位		
計		計	6 単位
1 4 単位		合 計	
		2 0 単位	

(履修例 5 : 口腔健康教育学分野所属の場合)

必修科目		特論科目	
生命理工医療科学先端研究特論	2 単位	国際動向特論	1 単位
研究実習	6 単位	先端口腔保健応用学特論	2 単位
演習科目		先端口腔保健応用学演習	1 単位
口腔健康教育学演習	5 単位	先制医歯理工学概論 I	1 単位
口腔保健学セミナー	1 単位	先制医歯理工学概論 II	1 単位
計		計	6 単位
		合計	20 単位

(履修例 6 : 口腔基礎工学分野所属の場合)

必修科目		特論科目	
生命理工医療科学先端研究特論	2 単位	英語ディベート特論	1 単位
研究実習	6 単位	先端口腔保健工学特論	1 単位
演習科目		骨形態計測学特論	1 単位
口腔基礎工学演習	5 単位	データサイエンス特論 I	1 単位
口腔保健学セミナー	1 単位	先制医歯理工学概論 I	1 単位
		先制医歯理工学概論 II	1 単位
計		計	6 単位
		合計	20 単位

### 3. 成績

#### 1) 成績評価について

【2024年度入学者】

授業科目の成績は、以下の基準に従い、60~100 を合格、59 以下を不合格とする。

評点	GP	評価基準
90~100	3.5~4.5	当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した
80~89	2.5~3.4	当該科目の到達目標を全て達成した
70~79	1.5~2.4	当該科目の到達目標を概ね達成した
60~69	0.5~1.4	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した
0~59	0	当該科目の到達目標を達成していない

【2023年度以前入学者】

授業科目の成績は、以下の基準に従い、A+・A・B・C を合格、D・F を不合格とする。

評価	GP	評価基準
合格	A+	4.0 当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した
	A	3.5 当該科目の到達目標を全て達成した
	B	3.0 当該科目の到達目標を概ね達成した
	C	2.0 当該科目の到達目標のうち最低限を達成した
不合格	D	1.0 当該科目の到達目標を達成していない
	F	0 到達目標の達成度を評価できない

## 2) GPAについて

GPAとは、履修した各科目の成績評価に対して、それぞれポイント（GP）を定め、成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法のひとつである。GPAは当該年度のものと同累積のものを算出するが、成績証明書には、修了要件を満たした時点で累積GPAを表示するものとする。

$$\text{累積 GPA} = \frac{(\text{修得科目のGP}(\ast 1) \times \text{単位数})\text{の総和}}{(\text{履修登録単位数})\text{の総和}}$$

<2024年度以降入学者>

※1 GP = (科目の評価 - 55) × 0.1

ただし、科目の評価が59点以下の場合は、GP = 0.0 とする

※2 小数点第3位を四捨五入する

<2023年度までの在學生>

※1 GP = A+:4.0, A:3.5, B:3.0, C:2.0, D:1.0, F:0.0

※2 小数点第3位を四捨五入する

## 4. 履修取消について

登録済みの科目のうち履修を継続しない科目については、所定の期日までに本人からの届け出により、履修を取り消すことが出来る。履修取消を行った科目に関しては、GPAには算出されず、成績証明書にも記載されない。

履修取消の手続きは、履修登録科目取消願（様式は本学 HP「学部・大学院」→「大学院医歯学総合研究科」→「統合教育機構学務企画課」→「履修登録科目取消願」）を学務企画課大学院教務第二係へ提出すること。なお、履修を継続しない科目について所定の期日までに履修取消の手続きを行わない場合には、当該授業科目の成績評価を不合格とする。



## 「科目ナンバリング」について

### 1. 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングは、授業科目に適切な番号を付けて分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。

本学大学院では、科目ナンバリングにより授業科目に付された特定の記号及び数字のことを「科目ID」と呼び、シラバスの各科目のページに掲載しています。

なお、同じく各科目のページに掲載されている「科目コード」は、主に履修登録の際などに使用されます。

### 2. 「科目ID」の構成

G
H
—
a
3
0
0
1
—
L

①
②
③
④
⑤

各桁の意味

#### ①授業開設部局名

部局名	コード
大学院	G

#### ②専攻・コース名等

専攻・コース名等	コード
医歯理工保健学専攻	H
医歯理工保健学専攻医療管理政策学コース	A
医歯理工保健学専攻グローバルヘルスリーダー養成コース	P
医歯学専攻	M
生命理工医療科学専攻	B
東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻	J
東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻	I
東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻	S
看護先進科学専攻	N
共同災害看護学専攻	D
大学院共通科目	C

#### ③レベル

レベル	コード
大学院共通科目 学部生先取履修対象科目	a
修士課程における発展的な内容の科目、または 修士論文の作成にあたり履修する論文(研究)指導等の科目	b
博士課程における発展的な内容の科目、または 博士論文の作成にあたり履修する論文(研究)指導等の科目	c
5年一貫制博士課程における発展的な内容の科目、または 博士論文の作成にあたり履修する論文(研究)指導等の科目	d
その他	e

#### ④科目コード

各専攻で開講している授業科目の通し番号(4桁)

#### ⑤授業形態

授業形態	コード
講義	L
演習	S
実習	E
論文指導・研究指導	T
その他	Z

博士課程生命理工医療科学専攻 科目ID一覧

区分	時間割コード	単位数	科目名	科目ID		
一般科目	0360001	1	マネジメント特論(日本語)	GC-c6331L		
	0360001E	1	マネジメント特論(英語)	GC-c6331L		
	0360002	1	国際動向特論(日本語)	GC-c6341L		
	0360002E	1	国際動向特論(英語)	GC-c6341L		
	0360003	1	知的財産特論	GC-c6351L		
	0360004S	1	英語ディベート特論(前期)	GC-c6400L		
	0360004F	1	英語ディベート特論(後期)	GC-c6400L		
	0360005	1	英語プレゼンテーション特論	GC-c6425L		
	0361001	2	疾患生命科学特論	GC-c6426L		
	0361002	1	先端機能分子特論	GC-c6427L		
専門科目	0361003	1	機能分子開発技術特論	GC-c6428L		
	0361004	1	機能再建材料学特論	GC-c6405L		
	0361005	1	組織再生材料学特論	GC-c6406L		
	0361006	1	生体機能材料学特論	GC-c6407L		
	0361007	1	医用材料工学特論	GC-c6408L		
	0361008	1	生体情報処理解析論	GC-c6429L		
	0361009	2	理研生体分子制御学特論	GC-c6190L		
	0361010	2	病態推論特論	GC-c6411L		
	0361011	1	高度臨床実践特別演習入門	GB-c6412L		
	0361012	2	高度臨床実践特別演習Ⅰ	GB-c6413S		
	0361013	2	高度臨床実践特別演習Ⅱ	GB-c6414S		
	0361014	2	疾患予防パブリックヘルス医学概論	GC-c8606L		
	0361015	2	臨床・遺伝統計学	GC-c8608L		
	0361016	2	先端口腔保健応用学特論	GC-c6430L		
	0361017	1	先端口腔保健応用学演習	GC-c6431S		
	0361018	1	先端口腔保健工学特論	GC-c6432L		
	0361019	1	硬組織研究・骨形態計測学特論	GC-c6433L		
	先制医歯理工学科目	共通科目	0362001	1	先制医歯理工学概論Ⅰ(日本語)	GC-c6415L
			0362001E	1	先制医歯理工学概論Ⅰ(英語)	GC-c6415L
0362002			1	先制医歯理工学概論Ⅱ	GC-c6416L	
0362003			1	データサイエンス特論Ⅰ(日本語)	GC-c6360L	
0362003E			1	データサイエンス特論Ⅰ(英語)	GC-c6360L	
0362004			1	データサイエンス特論Ⅱ(日本語)	GC-c6370L	
0362004E			1	データサイエンス特論Ⅱ(英語)	GC-c6370L	
0362013			1	データサイエンス特論Ⅲ	GC-c6371L	
0362014			1	データサイエンス特論Ⅳ	GC-c6372L	
0362005			1	Advanced Human Pathology for Graduate Students	GB-c6417L	
先進医療デバイスIoT学専門科目		0362006	1	先端バイオセンシングデバイス特論	GC-c6418L	
		0362007	1	医療デバイス・システム機器特論	GC-c6419L	
		0362008	1	ウェアラブルIoT技術特論	GC-c6420L	
		0362009	1	臨床検査法開発学特論	GB-c6421L	
		0362010	1	疾患分子病態学特論	GC-c6422L	
疾患生命科学創薬科学専門科目	0362011	1	先端ケミカルバイオロジー特論	GC-c6423L		
	0362012	1	生体分子制御学特論	GC-c6424L		
	臨床疫学科目	0362015	1	疫学基礎	GC-c6444L	
		0362016	1	生物統計学基礎	GC-c6445L	
		0362017	1	生物統計学応用Ⅰ	GC-c6446L	
0362018		1	生物統計学応用Ⅱ	GC-c6447L		
0362019		1	臨床試験方法論基礎	GC-c6448L		
0362020		1	臨床試験方法論応用	GC-c6449L		
0362021		1	口腔疫学基礎	GC-c6450L		
0362022		1	疫学応用	GC-c6451L		
0362023		1	臨床疫学解析演習	GC-c6452L		
演習科目		0363001	6	センサ工学演習	GB-c6002S	
	0363033	6	情報医学演習	GB-c6095S		
	0363034	6	精密医学演習	GB-c6096S		
	0363005	6	物質医学演習	GB-c6005S		
	0363006	6	薬化学演習	GB-c6006S		
	0363007	6	生命有機化学演習	GB-c6007S		
	0363021	6	メディシナルケミストリー演習	GB-c6025S		
	0363040	6	ソフトマター医学演習	GB-c6102S		
	0363009	6	有機生体材料学演習	GB-c6010S		
	0363035	6	診断治療システム医学演習	GB-c6097S		
	0363025	6	セラミックバイオマテリアル演習	GB-c6042S		
	0363026	6	先進バイオ分子医学演習	GB-c6043S		
	0363011	6	分子細胞生物学演習	GB-c6012S		
	0363012	6	発生再生生物学演習	GB-c6013S		
	0363037	6	恒常性医学演習	GB-c6099S		
	0363036	6	先端ナノ医学演習	GB-c6098S		
	0363015	6	分子構造情報学演習	GB-c6017S		
	0363031	6	機能分子病態学演習	GB-c6084S		
	0363017	6	生体情報薬理学演習	GB-c6019S		
	0363032	6	疾患ゲノム機能演習	GB-c6085S		
	0363019	6	環境エピゲノム演習	GB-c6022S		
	0363024	6	ゲノム機能情報演習	GB-c6041S		
	0363030	6	医化学演習	GB-c6048S		
	0363020	6	理研生体分子制御学演習	GB-c6024S		
	0363022	6	N.C.C腫瘍医学演習	GB-c6026S		
	0363023	6	細胞分子医学演習	GB-c6027S		
	0363027	6	徳域創成科学演習	GB-c6044S		
	0363028	6	データ科学アルゴリズム設計・解析演習	GB-c6045S		
	0363029	6	AI技術開発演習	GB-c6046S		
	0363038	6	分子機構免疫学演習	GB-c6100S		
	0363039	6	計算創薬科学演習	GB-c6101S		
	0363113	5	形態情報解析学演習	GB-c6100S		
	0363114	5	血液・生体システム解析学演習	GB-c6101S		
	0363115	5	生命情報応用学演習	GB-c6103S		
	0363112	5	疾患生理機能解析学演習	GB-c6047S		
	0363115	5	臨床分析・分子生物学演習	GB-c6103S		
	0363117	5	微生物・感染免疫解析学演習	GB-c6104S		
	0363201	1	生体検査科学セミナーⅡ	GB-c6028T		
	0363301	5	生涯口腔保健衛生学演習	GB-c6086S		
	0363302	5	健康支障口腔保健衛生学演習	GB-c6087S		
	0363303	5	口腔疾患予防学演習	GB-c6088S		
	0363304	5	地域・福祉口腔機能管理学演習	GB-c6089S		
	0363305	5	口腔健康教育学演習	GB-c6090S		
	0363306	5	口腔基礎工学演習	GB-c6091S		
	0363307	5	口腔デジタルプロセス学演習	GB-c6092S		
0363308	5	口腔医療工学演習	GB-c6105S			
0363401	1	口腔保健学セミナー	GB-c6094T			
必修科目	0364001	2	生命理工医療科学先端研究特論	GB-c6201L		
	0364002	6	研究実習	GB-c6000E		

研究実習に関する中間アドバイスの実施について  
(理学・工学の学位取得予定の学生に限る)

【目的】

医歯学総合研究科博士課程生命理工医療科学専攻「研究実習（6000）」に関して、その中間時点でレポートを提出することにより、学生の研究状況を把握し、該当科目の単位修得、学位申請に向けて的確なアドバイスを行うことを目的とする。研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う（早期修了者はその限りではない。早期修了申請者は事前に大学院教務第二係に確認すること）。なお、本中間アドバイスは予備審査、本審査へ進むための審査や評価ではない。

- 【対象学年】・生命理工医療科学専攻2年次の学生のうち、理学または工学の学位取得予定の者
- ・生命理工医療科学専攻3年次で学位（予備）申請を行わなかった学生で、理学または工学の学位取得予定の者
- ※当該年度に学位（予備）申請を行った学生もしくは行う予定である学生は、本アドバイスの対象外となる。
- ※対象学生が当該年度中に学位（予備）申請を行い、中間アドバイスを実施しない場合は、指導教員より大学院教務第二係へ連絡を行う。

【方法】（1）対象学生は、これまでの研究の背景、目的、結果、考察をA4用紙数枚程度（様式自由）にまとめる。表紙は指定の用紙を使用し、アドバイザー教員名（3名）を記入後、大学院教務第二係にメールにて提出する（grad02@ml.tmd.ac.jp）。この際、教員のメールアドレス・送付先を添付する。

◎提出期限 2年次後期（決定次第通知予定）

- （2）大学院教務第二係から面談に関してメール連絡を受けたら、各アドバイザー教員へ連絡をとり、面談を行う。（実施方法は対面・オンラインどちらでも可とする）
- （3）大学院教務第二係から、アドバイザーの報告書をメールで受け取る。必要に応じて、教務委員会が面談をする場合がある。

【アドバイザー】

- ・アドバイザー教員は3名であり、アドバイザー教員のうち1名を主アドバイザーとする。
- ・主アドバイザーは2名の指導教員のうち、副指導教員とする。主指導教員は、アドバイザーにはなることはできない。
- ・残りの2名のアドバイザーについては、主指導教員と当該学生で相談して決定する。このとき、原則1名は他大学の教員とする。その際、教員からはあらかじめ了解を得る必要がある。
- ・学外の教員をアドバイザーに選ぶ際は、学際生命科学東京コンソーシアム事業で連携している大学の教員のリスト（決定次第通知予定）を活用すること。この場合も、事前に了解を得ることが必要となる。
- ・当該学生は、大学院教務第二係から面談について連絡を受けた後に、各アドバイザー教員に連絡を取り、面談を行う。面談は当該学生と各アドバイザー教員が1：1で行うこととする。

【長期履修学生に対する取扱いについて】

- ・長期履修学生については、修了予定年度の2年度前までは副指導教員が面談等により論文の作成状況の把握等、適宜アドバイスを行い、報告書（様式任意）を大学院教務第二係へメールにて提出することとし、修了予定年度の1年度前に、中間アドバイスを実施する。

## Information of the Mid-term report of Lab (6000)

### ※Students scheduled to obtain a degree of " Doctor of Philosophy in Science / Engineering" only

Students need to submit the Mid-term report of Lab (6000) to "Educational Planning Section". Please refer to the following information.

#### 【Purpose】

On purpose of submission of the Mid-term report of Lab (6000), Doctor Course, we will grasp student's progress of research and student will receive some advice for acquiring the unit of the research programs and applying for dissertations. The grade of Lab (6000) will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice. (This is not applied to the students who will complete the Doctoral Program early. For those who are applying for the early completion of the Doctoral Program, please contact Graduate Education Team 2 well in advance.)

However, this Mid-term advice is not the evaluation or the judgement to proceed to the dissertations directly.

#### 【Eligible Students】

Students in the second year of doctoral course

Students in the third or more year of doctoral course, who have not applied for dissertation defense

※Students scheduled to obtain a degree (Doctor of Philosophy in Science / Engineering) only

#### 【Method】

(1) You need to write report about the introduction, purpose, results, and discussion of student's research so far. (Free format, A4, 1~5 pages) Student must use the template of the Cover Letter. Write student's 3 advisers' name and student's main supervisor on the Cover Letter. Then, submit the MS Word or pdf file of student's report to Educational Planning Section (grad02@ml.tmd.ac.jp). You need to attach all advisers' e-mail addresses and the affiliations. © Deadline ; TBD

(2) When you receive an e-mail about the interview from Educational Planning Section, you need to contact with each adviser and have an interview. You can have the interview whether face-to-face or online.

(3) You will receive the report from your advisors by e-mail. You may have an interview with Professors of Biomedical Science PhD Program or Life Science and Technology (Doctoral Program) as needed.

#### 【Adviser】

- Student will have 3 advisers. Your main supervisor cannot be an adviser.
- Your sub-supervisor is automatically assigned as main adviser. The other advisers should be professors whom student is not instructed directly.
- You will consult with your main supervisor about advisers, and decide the 2 advisers. One of the advisers is desirable to be a professor at other universities. Student must have informal consent from the professor beforehand. We recommend to refer to the list (TBD) of professors in The Tokyo Interdisciplinary Life Science Consortium (Ochanomizu University, Kitasato University, and Gakushuin University). Since the list is written in Japanese, you should consult with your main supervisor. In this case, also, you must have consent from the professor, beforehand.
- After you receive an e-mail about the interview from Educational Planning Section, you need to contact with each adviser. The interview will be one by one with each adviser.

#### 【Long-term Extended Studies Students】

- If you have applied for Long-term Extended Studies Students, a sub-supervisor will give you an advise of your dissertation through interviews when needed according to your progress, and then the sub-supervisor submits a report (free format) to Educational Planning Section via email. This will have continued until two years before you are supposed to complete curricula. You will afterwards take the mid-term advice one year before the expected year of completing curricula.

### 3. 授業科目の概要

	科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
一般科目	マネジメント特論 (0360001、英語開講 0360001E)	選択 (1単位)	将来、医療人・研究者・企業人として活躍するうえで必要なマネジメントスキルのうち、特に、プロジェクトマネジメント、キャリアマネジメント、ビジネスコミュニケーションを中心に解説する。
	国際動向特論 (0360002、英語開講 0360002E※ 2023年度は英語開講休講)	選択 (1単位)	将来、医療人・研究者・企業人として活躍するうえで基礎となる教養・国際感覚を身につけるため、科学技術、医療・保健、産業、環境、経済、政治分野を中心に、国際情勢を解説する。
	知的財産特論 (0360003)	選択 (1単位)	特許、著作権など研究開発やビジネスの場面で必要になる知的財産のエッセンスを講義する。また、研究開発やビジネスにおける知的財産戦略のケーススタディを行い、知的財産に対する理解を深める。
	英語ディベート特論 (前期開講 0360004S 後期開講 0360004F)	選択 (1単位)	English proficiency is essential as a common world language for not only communication but also information dissemination in state-of-the-art medical and dental research. In order to become leaders in the international arena, we will use critical thinking skills to discuss current topics, practice the basic skills required to have conversations, and to explain your research/ study area.
	英語プレゼンテーション特論 (0360005) ※2024年度は休講	選択 (1単位)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ In the first four lessons you will learn the basic skills for creating and giving a presentation.</li> <li>・ Then, you must make four appointments from the available dates.</li> <li>・ For three of these sessions your instructor will help you to revise your presentation slides and script.</li> <li>・ In the fourth appointment session, you will give your presentation and answer Q &amp; A.</li> </ul>
専門科目	疾患生命科学特論 (0361001)	選択 (2単位)	疾患生命科学の基礎であるゲノミクス、エピジェネティクス、免疫学から、応用として生活習慣病や腫瘍医学までの最新の知識を学び、論理的な思考の習得を目標とする。
	先端機能分子特論 (0361002)	選択 (1単位)	生命機能を制御もしくは解析する機能性分子及びこれらと生体分子との相互作用に関する基礎及び最近の知見について学ぶ。
	機能分子開発技術特論 (0361003)	選択 (1単位)	機能性分子の設計、合成、機能解析に必要な基礎的手法について、その分子構造に基づいた論理的な解析に関する講義ならびに討論をする。
	機能再建材料学特論 (0361004) ※2024年度は休講	選択 (1単位)	生体用金属材料が持つ機能を理解し、その根幹となる基礎物性について議論できるようになるため、また、生体用金属材料開発のための適切な材料およびプロセス、表面処理、評価法の選択が行えるようになるための知識および技能の習得を目的とする。
	組織再生材料学特論 (0361005)	選択 (1単位)	医療を革新するデバイスの開発戦略は多岐にわたる。無機生体材料(バイオセラミックス)をベースとして生体組織材料の様々な特性や再生原理に触れることにより、基礎的な知見を具体的なデバイスに応用するまでの能力を習得することを目標とする。
	生体機能材料学特論 (0361006)	選択 (1単位)	超分子科学的側面をもって有機材料と生体との相互作用を解説し、今後期待される有機材料のあり方を思索する。
	医用材料工学特論 (0361007)	選択 (1単位)	様々な最先端の医療デバイスおよび再生医療に関する研究内容について最新の研究成果について概説し、その内容について考え方などの討議を行う。

	科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
専門科目	生体情報数理解析論 (0361008)	選択 (1 単位)	人工知能をはじめとした医療生体情報の統合的解析、数理コンピューティング理論等の研究ならびにシステム開発に必要な数理解析の基礎理論を解説するとともに、先端動向ならびに具体的な実施例を紹介する。
	理研生体分子制御学特論 (0361009)	選択 (2 単位)	化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学、構造生物学、分子免疫学、分子神経病態学などの分野で用いられている生体機能分子の探索・創製とこれを用いた高次生命現象の理解のための基礎知識を習得し、医学・生物学への応用研究について理解を深める。
	病態推論特論 (0361010)	選択 (2 単位)	実際の検査所見をもとに、その基本的な解釈方法を身につけ、患者病態を推論する能力を身につける。
	高度臨床実践特別演習入門 (0361011)	選択 (1 単位)	本演習は HCA 新規採用申請者のうち、検査部または輸血部での業務を希望する生体検査科学系博士(後期)課程学生を対象として(病理部は除く)、業務に就く前に必要な知識と技術を身につけるものである。
	高度臨床実践特別演習 I (0361012)	選択 (2 単位)	本演習は HCA 制度を利用した生体検査科学系博士(後期)課程 1 年次学生を対象とするインターンシップで、非常勤職員として毎週 4 時間程度、検査部、病理部、または輸血・細胞治療センターに勤務し、臨床検査技師に必要な基本的技能、職場で求められる態度、職業的倫理観などを身につけることを目的としている。
	高度臨床実践特別演習 II (0361013)	選択 (2 単位)	本演習は HCA 制度を利用した生体検査科学系博士(後期)課程 2 年次の学生を対象とするインターンシップで、非常勤職員として毎週 4 時間程度、検査部、病理部、または輸血・細胞治療センターに勤務し、高度臨床実践特別演習 I で習得した技能や知識をさらに深めることを目的としている。
	先端口腔保健応用学特論 (0361016)	選択 (2 単位)	本特論は、博士課程生命理工医療科学専攻及び医歯学専攻の学生のうち、取得学位に関わらず履修可能である。
	先端口腔保健応用学演習 (0361017)	選択 (1 単位)	東京医科歯科大学大学院と病院とは医療人育成の卒業後教育に取り組むために、歯科衛生士の資格をもつ大学院学生を対象としたインターンシップであるヘルスケアアシスタント(HCA)制度を設け、非常勤職員として実際に業務に就きながら研修する制度を設けている。本演習は HCA 新規採用申請者のうち、オーラルヘルスセンターでの業務を希望する学生を対象として、主に周術期等口腔健康管理を実施するのに必要な知識と技術を身につけるために実施する演習である。
	先端口腔保健工学特論 (0361018)	選択 (1 単位)	口腔医療工学分野、口腔デジタルプロセス工学分野、口腔基礎工学分野の教員が担当し、口腔保健工学を支える研究・技術について各自の先端的専門分野を基盤に講義する。
	硬組織研究・骨形態計測学特論 (0361019)	選択 (1 単位)	非脱灰切片の作成や骨形態計測の実際は、マウスやラットというげっ歯類を用いた実習を行う。講義では、再生骨や顎骨の骨形態計測、イヌやサルなどのリモデリング動物も含めた骨形態計測、さらに、最新の骨密度解析装置についても学ぶ。

		科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
先制医歯理工学科目	共通科目	先制医歯理工学概論Ⅰ (0362001、英語開講 0362001E)	選択 (1単位)	健康な状態から疾患に至るまでの生物学的過程、遺伝要因と環境要因やエピジェネティクスなどとの基本的な関係、オミックスや生体情報などの取得方法の基本的概念、疾患発症リスクの見積もり方法、指導や介入の基本的な方法、倫理や遺伝カウンセリングについて理解する。
		先制医歯理工学概論Ⅱ (0362002)	選択 (1単位)	先制医療や個別化医療を推進するための実際の健康・医療情報の利活用事例、次世代シーケンサーなどを用いた先端のオミックス実験・解析方法や、ウェアラブルモバイルなどの生体情報センシングの開発現場の話、AIなどの解析技術の利活用事例、指導や介入の実例を学ぶ。
		データサイエンス特論Ⅰ (0362003、英語開講 0362003E)	選択 (1単位)	本科目では、データサイエンスを学ぶうえで基礎となる統計学(標準偏差、仮説検定、区間推定等)のエッセンスを学ぶ。
		データサイエンス特論Ⅱ (0362004、英語開講 0362004E)	選択 (1単位)	本科目では、データサイエンスを学ぶうえで必須となるプログラミング技術の基礎を学ぶ。使用する言語はRである。
		データサイエンス特論Ⅲ (0362013)	選択 (1単位)	本科目では、データサイエンスを学ぶうえで必須となるプログラミング技術の基礎を学ぶ。使用する言語はPythonである。
		データサイエンス特論Ⅳ (0362014)	選択 (1単位)	本科目では、ベイズ統計学の基礎から応用までを学ぶ。ベイズ統計学は人工知能や機械学習にも欠かせない知識である。
		Advanced Human Pathology for Graduate Students (0362005)	選択 (1単位)	Pathology is a study to elucidate the mechanism of the disease. It covers from the basic science to clinical medicine and is a fundamental study of all the medical studies. All lectures and discussions are performed in English. Student enrollment is limited to 10.
	先進医療デバイスIoT学専門科目	先端バイオセンシングデバイス特論 (0362006)	選択 (1単位)	最新のバイオセンシングデバイスおよびその技術について紹介すると共に、医学・歯学領域にて期待される応用の可能性について、議論する。
		医療デバイス・システム機器特論 (0362007)	選択 (1単位)	手術支援を目的とした医療デバイス・システムとして、術中画像計測、AI解析による手術支援システム、手術支援ロボットなどの最新研究を紹介する。
		ウェアラブルIoT技術特論 (0362008)	選択 (1単位)	最新のウェアラブルIoTデバイスおよびその技術について紹介すると共に、医学・歯学領域にて期待される応用の可能性について、議論する。
		臨床検査法開発学特論 (0362009)	選択 (1単位)	現在の最先端検査部における臨床検査の現状と限界を提示するとともに、デバイス開発を含むその打開策の一端を紹介する。
	疾患生命創薬科学専門科目	疾患分子病態学特論 (0362010)	選択 (1単位)	分子生物学、ゲノム科学、エピジェネティクスなどの基礎的な生命科学に基づいた、がんや神経難病、先天性心疾患などの分子病態研究の現状を紹介する。さらに、分子病態に即した予防、治療法の開発についての討議を行う。
		先端ケミカルバイオロジー特論 (0362011)	選択 (1単位)	ケミカルバイオロジー研究に必要な基礎的手法を講義し、最新の先端研究成果をもとに講義ならびに討論をする。
		生体分子制御学特論 (0362012)	選択 (1単位)	化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学などのケミカルバイオロジーに関連する分野に必要な基礎的手法を講義し、生体機能分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。

	科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
臨床疫学 科目	疫学基礎 (0362015)	選択 (1 単位)	疫学の基礎を理解し、臨床研究論文を適切に解釈し執筆するための土台をつくる。
	生物統計学基礎 (0362016)	選択 (1 単位)	生物統計学の基本的な解析手法についての復習および理解を深め、臨床疫学研究における適用について学習する。
	生物統計学応用 I (0362017)	選択 (1 単位)	生物統計学を応用した発展的な課題として、ベイズ統計学およびメタアナリシスの基本的事項と実践について学習する。
	生物統計学応用 II (0362018)	選択 (1 単位)	生物統計学を応用した発展的な課題として、薬剤疫学および医療分野における AI の活用について、その基本的事項と実践について学習する。
	臨床試験方法論基礎 (0362019)	選択 (1 単位)	エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項(試験デザイン、ランダム化、盲検化、エンドポイント、解析対象集団、サンプルサイズ設計等)を体系的に学習する。
	臨床試験方法論応用 (0362020)	選択 (1 単位)	効率的な臨床試験方法論として注目されている群逐次デザイン、アダプティブデザイン、ベイズ流デザイン、プラットフォーム試験等について学習する。また、がん領域特有の臨床試験デザインについても学ぶ。
	口腔疫学基礎 (0362021)	選択 (1 単位)	歯科口腔疾患の疫学の基礎を理解する。国際的なコンテキストを理解して論文がかける土台をつくる。
	疫学応用 (0362022)	選択 (1 単位)	疫学の発展的な内容を理解するために、統計ソフトを用いた解析の実際や発展的な内容を学習する。
	臨床疫学解析演習 (0362023)	選択 (1 単位)	臨床研究のデータ解析で頻用される統計的手法について習得する。学生が解析したいと思っているデータを実際にハンズオンで解析し、リサーチクエスチョンの作成、データクリーニング、欠損値の処理、共変量の選択、Table 1 の作成、多変量解析、Table 2 の作成までを行う。交互作用、傾向スコア法、多重代入法、マルチレベル解析の実際の様子にも触れる。
演習科目	センサ医工学演習 (0363001)	選択 (6 単位)	医療や健康科学のためのセンサデバイスや計測工学について、関連する学術論文(英文)を精読し、内容を紹介すると共に議論を重ね、当該分野の知識を修得し最新の研究動向を知る。
	情報医工学演習 (0363033)	選択 (6 単位)	生体の計測、解析、医療支援ならびにそれらを用いた生体システムの理解を通して、バイオ情報分野に関連する基礎的手法を習得し、医歯学等への展開について最新の動向を学ぶ。
	精密医工学演習 (0363034)	選択 (6 単位)	機械工学、制御工学、加工学等の工学知識と、治療介入の対象である生体の分子メカニズムを習得し、治療系医療機器およびシステム開発に必要な生体・機械・情報のインタラクション・デザイン技術について学ぶ。
	物質医工学演習 (0363005)	選択 (6 単位)	高分子、生体組織、遺伝子などの機能物質を用いた治療技術および生体機能の理解・応用に関連する最新の学術論文を熟読し、解説、議論を通じて、当該分野の知識を修得する。また、当該分野の研究に必要な機器や最新技術について学ぶ。



	科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
演習科目	薬化学演習 (0363006)	選択 (6単位)	医薬化学、機能分子化学に関連する最新の学術論文を熟読し、解説、紹介、議論を通じて、当該分野の知識を修得する。また、当該分野の研究に必要な機器や最新技術について学ぶ。
	生命有機化学演習 (0363007)	選択 (6単位)	生命科学に関連する有機化学の最新の学術論文を熟読し、解説、紹介、議論を通じて、当該分野の知識を修得する。また、当該分野の研究に必要な機器や最新技術について学ぶ。
	メディシナルケミストリー 演習 (0363021)	選択 (6単位)	創薬に必須な化学、生物の基礎知識・実験技術および機器操作を習得し、最新の創薬化学、バイオ医薬品開発に関する学術論文を熟読し、解説、紹介、議論を通じて、当該分野の知識を習得する。
	ソフトマター工工学演習 (0363040)	選択 (6単位)	内容の詳細は未定
	有機生体材料学演習 (0363009)	選択 (6単位)	有機生体材料の機能や物性に関する基礎知識を習得した上で、タンパク質・細胞・組織の異なる階層での生体との相互作用について最近の学術論文をもとに議論し、当該分野の知識を習得する。
	診断治療システム工工学演習 (0363035)	選択 (6単位)	診断や治療を目的とした医療デバイス・システムに関する最新の学術論文を精読し、その内容を紹介すると共に議論を重ねることで、当該分野の研究動向を学ぶ。さらに、新しい医療デバイス・システムの研究開発に必要な知識と技術の習得を目指す。
	セラミック バイオマテリアル演習 (0363025)	選択 (6単位)	セラミックバイオマテリアルの研究分野における基礎と臨床応用の課題を理解する。さらに、研究論文を中心に、セラミックバイオマテリアルに関する最新の研究動向を探り、新たなセラミックバイオマテリアルの研究・開発の手法を習得する。
	先進バイオ分子医学演習 (0363026)	選択 (6単位)	医療と生命科学に役立つ有用な mRNA を主とする核酸医薬、細胞運命変換技術、新たな mRNA 医薬・ワクチンの開発に関連する学術論文を精読・紹介と議論を重ね、分かり易く当該分野の研究に必要な基本、および最新技術の知識と研究推進の能力の素養を習得する。
	分子細胞生物学演習 (0363011)	選択 (6単位)	増殖分化因子群の細胞内シグナル伝達機構等を基盤とした分子メカニズムについて形態形成・組織形成及び疾患発症機構に焦点をあてて研究論文を講読し、問題点等の討論を行う。
	発生再生生物学演習 (0363012)	選択 (6単位)	「細胞の生死や器官形成を制御する分子機構」を、哺乳類動物マウスや小型魚類メダカおよびゼブラフィッシュを用いて、シグナル伝達の観点から研究する考え方と実験方法を学ぶ。
	恒常性医学演習 (0363037)	選択 (6単位)	生体恒常性に関する研究の遂行に必要な分子・細胞・再生生物学の知識・技術を習得し、研究の立案、計画、結果解釈、論文作成の手法を学ぶ。研究室内の成果発表会、論文輪読会を通して、研究発表や科学的議論の手法を学ぶ。
	先端ナノ工工学演習 (0363036)	選択 (6単位)	核酸医薬、メッセンジャーRNA (mRNA) 医薬等の次世代バイオ医薬品の開発は、ナノ Drug Delivery System (DDS)を用いた生体への送達法の構築から、生体内動態、生体反応の解析、ワクチンや難治疾患治療への応用、さらには社会実装まで、数多くの要素からなる。それらを俯瞰しながら、専門知識と技術を身につけ、自身の研究を主体的に遂行する。

	科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
演習科目	分子構造情報学演習 (0363015)	選択 (6単位)	X線結晶解析を中心に蛋白質などの生体高分子の立体構造の解析手法や蛋白質の大量発現や精製などの関連技術を学ぶ。構造生物学の最新の論文を用いて、ディスカッションによる文献演習も行う。
	機能分子病態学演習 (0363031)	選択 (6単位)	神経科学、神経変性疾患に関連する学術論文(英語)や、関連する細胞内翻訳後修飾や細胞内分解・品質管理に関する学術論文(英語)を熟読し、その内容の解説・紹介・議論を通じて、当該分野の知識を修得する。また、当該分野の研究に必要な機器や最新技術について学ぶ。
	生体情報薬理学演習 (0363017)	選択 (6単位)	内容の詳細は未定
	疾患ゲノム機能演習 (0363032)	選択 (6単位)	内容の詳細は未定
	環境エピゲノム演習 (0363019)	選択 (6単位)	内容の詳細は未定
	ゲノム機能情報演習 (0363024)	選択 (6単位)	最先端のゲノム実験・データ解析技術のいずれかの知識・技能の習得を目的とする。関連論文の精読・紹介、研究セミナーへの参加・議論、新技術の研究開発を通じてゲノム科学に精通した研究の基礎を習得する。
	医化学演習 (0363030)	選択 (6単位)	生命科学・基礎医学研究の遂行に必要な生化学や分子遺伝学の知識を習得し、さまざまな研究の妥当性を自身で判断する能力を養う。プログ्रेसミーティングとジャーナルクラブを通じ、研究の企画・遂行能力を養う。
	理研生体分子制御学演習 (0363020)	選択 (6単位)	生体分子制御学研究に必要な知識や最新技術の取得を目的に、化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学、分子免疫学、分子神経病態学、化学遺伝学分野ならびにその周辺分野の最新の論文を熟読し、解説、紹介、議論を行う。研究の背景や着想に至った経緯、具体的な実験的手法についても学ぶ。
	NCC腫瘍医科学演習 (0363022)	選択 (6単位)	がん研究を行うために必要な知識や技術の習得を目的に、第一線のがん研究者による講義やセミナー、リサーチミーティング、論文抄読会、学会発表等への参加と実践を通じて、将来独立したがん研究者として、がん研究を実践していくための基礎力を養う。
	細胞分子医学演習 (0363023)	選択 (6単位)	細胞膜リン脂質の取扱いや解析技術を習得し、様々な細胞応答におけるリン脂質代謝の意義を理解する。また遺伝子改変マウスや疾患モデルマウスを用いて、脂質代謝異常に基づく疾患の分子機構を解明する。

	科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
演習科目	領域創成科学演習 (0363027)	選択 (6単位)	生命分子スペクトル解析、構造生命科学、AIによる病理組織の画像解析、高気圧酸素環境による治癒促進といった様々な学際的な研究領域を対象として、英語の学術論文を精読、内容を紹介するとともに、議論を重ねることで、当該分野の知識を広げるとともに、最新の研究手法についても体得する。
	データ科学アルゴリズム 設計・解析演習 (0363028)	選択 (6単位)	アルゴリズムとデータ構造に関連する最新の学術論文を読解し、解説・議論を通じて、健康・医療分野のデータ処理・解析のための新しいアルゴリズムの設計・実装およびその解析・評価の理論と実際を習得する。
	AI技術開発演習 (0363029)	選択 (6単位)	本演習では、健康・医療分野のバイオメディカルデータ解析に向けた統計モデリングや人工知能の基礎知識を習得する。また、それらの活用による現場の課題解決に向けたメディカルデータ解析に関する実践的な知識・能力を修得することを目的とする。
	分子機構免疫学演習 (0363038)	選択 (6単位)	免疫応答における自己・非自己の認識機構に着目した基礎研究・応用研究(創薬研究、CRISPR-Casを用いたツール開発など)を行い、生化学、構造生物学、細胞生物学に対する高度な知識と実験技術を身につける。
	計算創薬科学演習 (0363039)	選択 (6単位)	生体高分子の立体構造を用いた深層学習の応用技術、分子シミュレーション技術の習得を目的とし、関連分野の論文の精読と紹介、研究室セミナーへの参加と議論、新たな技術の研究と開発を行う。
	形態情報解析学演習 (0363113)	選択 (5単位)	①医学・生物学分野での電子顕微鏡や原子間力顕微鏡など、さまざまな顕微鏡技術による研究方法を理解し、それらの技術を利用した研究を推進する能力を習得する。 ②疾病の病因・病態を理解し、診断に寄与し得るような分子病理学的検査の理論や方法を修得するとともに、病理学・病理検査学領域の高度専門職業人および教育研究者の養成を目指す。 国際的、臨床指向型研究でリーダーシップを発揮できるよう自立して研究ができる能力を修得する。
	血液・生体システム解析学 演習 (0363114)	選択 (5単位)	臨床検査学を含む幅広い生命科学研究を行うための基本的な考え方や知識を学び、自立して研究を行い学術的研究のリーダーとなるための基礎能力修得を目的とする。①システム神経科学、②医用工学、ないし③血液疾患の分子生学的・遺伝学的な研究を通じて、複雑な生体システムのメカニズムを理解しコントロールする、病因や病態を解明し診断・治療に役立てるための実験技術、検査法、専門知識を習得する。
	生命情報応用学演習 (0363116)	選択 (5単位)	生体のシステムとしてのはたらきを測定、解析する検査法の理論および技術について理解を深める。とくに呼吸器領域、脳神経領域における最新の医学知識について習熟し、検査で得られる生体情報と病因・病態との関連を解析する方法論を学ぶ。さらに、新たな検査法を開発、改良するための理論や技術を修得する。
疾患生理機能解析学演習 (0363112)	選択 (5単位)	分子・細胞レベルから器官までの個々の要素が統合されたシステムとしての生体機能を学ぶ。特に、消化器・肝胆膵領域を中心とする疾患病態生理学を対象とし、疾患生理学理論と、診断に必要な検査技術とを学ぶ。さらに、幹細胞生物学、分子生物学、再生医学的手法から、新規の病態解明、診断検査法、治療法の開発をめざす研究手法を修得する。	

	科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
演習科目	臨床分析・分子生物学演習 (0363115)	選択 (5単位)	臨床分析・分子生物学分野は「粥状動脈硬化性疾患発症リスクを予見可能なリポタンパク関連因子の同定と検査法の確立」という大目的を掲げている。本目的を遂行するために必要な知識や様々な新しい情報を得る能力を養うとともに、本分野の研究に必要な分析技術を高い精度で実施できる技能を養成する。これらの授業を通じて、自ら研究計画を立案し、自ら実験を行い、結果の正しい解釈と妥当な考察を加えて、さらに研究を進めるという一連の活動を実践する。 また、個体の発生や疾患に関わる様々な生命現象を細胞レベル・分子レベルで学び、そのメカニズムを理解する。そのような基礎的研究、またそれに基づく医療分野への応用研究を最先端の学術論文から学び、分子生命科学の基礎を修得する。
	微生物・感染免疫解析学演習 (0363117)	選択 (5単位)	病原微生物の薬剤耐性化機構、病原性発現制御機構、免疫逃避機構に関する分子レベルの最新トピックスを包括的に理解する。得られた知見を基に、独自の研究を展開できる基盤となる能力を修得する。
	生体検査科学セミナーII (0363201)	選択 (1単位)	生体検査科学系大学院生を対象として、全学年が一堂に会して分野横断的な発表と討論を行うものである。毎年、学生が研究の進捗状況について発表し、学生、教員による質疑応答を行う。生体検査科学系の学生は、本セミナーの受講は必修である。
	生涯口腔保健衛生学演習 (0363301)	選択 (5単位)	オゾンウルトラファインバブル水を用いた口腔の健康を維持することによる全身状態への影響、がん治療に伴う有害事象の予防法・治療について、科学的に評価する研究を行うための能力を養う。また、英語の学術論文を精読、内容を紹介するとともに議論を行い、当該分野の知識を広げるとともに、研究手法についても体得する。
	健康支援口腔保健衛生学演習 (0363302)	選択 (5単位)	口腔保健により健康の維持・増進を支援するための研究。特に周術期口腔機能管理についての研究や基礎疾患を有する人の口腔ケアに関する研究や、口腔の健康と社会格差についての研究、口腔清掃が全身に与える効果についての基礎研究などについて学び、独自の研究を展開できる基盤となる能力を養うことを目的とする。
	口腔疾患予防学演習 (0363303)	選択 (5単位)	口腔疾患予防の疫学調査 口腔疾患の予防方法の開発・評価 口腔疾患の予防に応用できる物質・製品の開発・評価 歯科衛生に関する研究
	地域・福祉口腔機能管理学 演習 (0363304)	選択 (5単位)	地域包括ケアシステムにおける医療・介護・生活支援に対する口腔機能管理の役割に関するエビデンスについての理解を深める。また、口腔機能の定量的評価に関する手法とその解析方法を学ぶ。さらに、実臨床への展開もしくは社会実装化を踏まえた研究計画手法を習得する。
	口腔健康教育学演習 (0363305)	選択 (5単位)	口腔健康教育及び歯科衛生に関する研究について理解を深める。

	科目名 (時間割コード)	単位数	授業概要
演習科目	口腔基礎工学演習 (0363306)	選択 (5単位)	工学と生物学の融合研究、基礎から臨床への橋渡し研究を通して、口腔から全身の健康に寄与するための学術基盤を理解する。関連論文の精読・紹介、研究セミナーへの参加・議論、新技術の研究開発を通じて口腔基礎工学に精通した研究の基礎を習得する。
	口腔デジタルプロセス学演習 (0363307)	選択 (5単位)	口腔デジタルプロセス学分野や関連分野のセミナー、ジャーナルクラブ、プログレスミーティング等に参加し、デジタルデンティストリーに関する最新知識や技術情報を学び、研究背景・方法および実験技術の基本を理解するなかで、研究に必要な基本能力を獲得する。
	口腔医療工学演習 (0363308)	選択 (5単位)	歯科用 CAD/CAM 器材と接着技術の応用方法について学び、新しい器材と技術の開発につなげるための創造力を身に着ける。また、様々な分析・評価方法を学ぶことにより、学会・論文発表のための基礎力を習得する。
	口腔保健学セミナー (0363401)	選択 (1単位)	口腔保健学系大学院生を対象として、分野横断的な発表と討論を行うものである。分野ごとに学生が研究の進捗状況について発表し、それぞれの発表後に不明な点を 2～3 名の小グループで明らかにしながら、全体の場では各グループからの質問を発表者は受け回答を行う。頂いたアドバイスに対する研究計画への反映の可能性に対しても Web 上の評価・反映シートに合わせて記載する。口腔保健学系の学生は、本セミナーの受講は必修である。
必修科目	生命理工医療科学先端研究特論 (0364001)	必修 (2単位)	生命理工医療科学研究における専門的かつ最新の知見を含む講演やセミナーに参加することによって、最先端の研究領域についての見識を広める。
	研究実習 (0364002)	必修 (6単位)	生命理工医療科学に関する研究課題を設定し、研究計画の立案、問題解決の工夫を通して高度な研究を実践的に行う。研究成果をまとめて博士論文の作成、および発表を行なう。

#### 4. 医歯学総合研究科博士課程生命理工医療科学専攻の分野構成

分野名	指導教員	研究内容
センサ医工学	三林 浩二 (BM)	1.「センサ医工学」に関する基礎・応用研究（電気・光・バイオ・化学・生物・機械・情報の医療融合） 2.MEMS 技術と生体適合性ポリマーを融合したウェアラブルデバイス及び人工臓器 3.疾病に基づく「呼吸成分」のバイオ蛍光法による高感度センシングと疾病診断 4.血液由来の皮膚ガス成分のリアルタイム動画像化（イメージング）と代謝評価 5.新規ウェアラブル・バイオセンサ（イヤホン型経皮ガス計測システム等）
情報医工学	中島 義和 (BM)	1.生体イメージングに関する基礎・応用研究 2.医用画像・医用データの高次元化・多元化に関する研究 3.医用データのコンピュータ解析・診断に関する研究 4.生体情報記述、生体モデリング、生体シミュレーションならびにその医療応用に関する研究 5.コンピュータ統合手術支援システムに関する研究
精密医工学	池内 真志 (BM)	1.ポリマー3次元微細加工技術に関する基礎研究 2.マイクロソフトロボティクスに関する研究 3.マイクロデバイスを用いたメカノバイオロジー研究 4.生殖補助医療のためのマイクロロボティクス 5.マイクロ流路技術を用いた自動細胞培養システム開発
物質医工学	岸田 晶夫 (BM)	1.再生医療に貢献する材料および工学技術の開発 2.生体由来材料の加工・高機能化技術の開発 3.医用材料の新規炎症性評価法の開発 4.ナノベシクルによる細胞機能制御技術の基礎および開発研究 5.免疫制御のための高選択的細胞捕獲デバイスの開発
薬化学	影近 弘之 (BM)	1.レチノイド及び核内受容体の医薬化学 2.難治疾患治療を志向した遺伝子転写及びシグナル伝達制御剤の創製 3.新規蛍光物質の開発を基盤とした細胞内情報伝達機構の解明 4.芳香族アミドの立体特性と機能性分子創製
生命有機化学	細谷 孝充 (BM)	1.新しい分子骨格の有機合成法開発にもとづく薬剤候補化合物の創出 2.歪み分子の特性を利用した新規分子連結法の開発 3.薬剤の標的タンパク質同定のためのプローブ開発 4.生体イメージング用蛍光プローブ、生物発光基質、PET プローブの開発
メディシナルケミストリー	玉村 啓和 (BM)	1.有機合成化学による機能性分子の創製 2.ペプチドおよび他の天然物を基にした創薬研究・ケミカルバイオロジー研究 3.がん・COVID-19・アルツハイマー・関節リウマチ等をターゲットとした医薬創製 4.蛍光プローブ（生体機能探索分子）の創製とこれを用いる機能解明
ソフトマター医工学	鳴瀧 彩絵 (BM)	未定（2024.4 着任）
有機生体材料学	松元 亮 (BM)	1.細胞組織機能調節を目指した動的超分子表面の設計 2.難治疾患治療を目指した細胞内分解性超分子の設計 3.生体分子の生理活性亢進と細胞機能誘導を目指した超分子複合体の設計 4.組織再生を目指した超分子三次元体の設計
診断治療システム医工学	梶 弘和 (BM)	1.バイオファブリケーション技術の開発 2.体内埋込型ドラッグデリバリーデバイスの開発 3.低侵襲細胞デリバリーシステムの開発 4.生体模倣システムの開発

分野名	指導教員	研究内容
セラミックバイオマテリアル	横井 太史 (BM)	1.層状リン酸カルシウム系硬組織修復材料の開発 2.超高韌性人工骨の開発 3.生体分子にตอบสนองする無機材料のバイオメディカル応用 4.治療と診断を両立するセラミックデバイスの設計 5.深部がん血管内治療用セラミックマイクロ/ナノ粒子の創製
先進バイオ分子医学	影近 弘之 (代) (BM)	1.mRNA 治療法の開発 2.細胞運命決定の技術開発 3.分生生物学的手法による mRNA 治療の応用 4.先進的な核酸医薬の分子医学設計
分子細胞生物学	澁谷 浩司 (MR)	1.細胞増殖・分化因子と細胞内シグナル制御機構 2.疾患発症の分子機構 3.形態形成・器官形成の分子機構
発生再生生物学	仁科 博史 (MR)	1.細胞の生死や器官形成を制御するシグナル伝達系に関する研究 2.幹細胞の増殖や分化誘導シグナルに関する研究 3.マウスや小型魚類を用いた肝臓研究 4.概日リズムを制御する分子時計に関する研究
先端ナノ医工学	内田 智士 (MR)	1. mRNA、核酸医薬、遺伝子治療薬のナノ DDS の開発 2. mRNA の分子設計、mRNA 工学技術の開発 3. 感染症予防、がん治療のための mRNA ワクチンの開発 4. mRNA 医薬の様々な疾患治療への展開
分子構造情報学	伊藤 暢聡 (MR)	1.X 線結晶解析やクライオ電子顕微鏡を用いた構造生物学 2.蛋白質間相互作用の構造学的・物性的解析 3.蛋白質による低分子（薬剤）の分子認識機構 4.シミュレーションなどの立体構造を応用した構造情報科学
機能分子病態学	松田 憲之 (MR)	1.翻訳後修飾に着目して、遺伝性パーキンソン病の原因因子 DJ-1 の機能を解明する 2.遺伝性パーキンソン病の原因因子 PINK1 と Parkin のミトファジー(ミトコンドリア選択的分解)における機能を理解する 3.ユビキチン化と連携した選択的オートファジーの細胞内の役割を解明する 4.オルガネラ選択的分解におけるメンブレントラフィックに関わる新規因子を同定・解析する
生体情報薬理学	(選考中)	未定
疾患ゲノム機能	(選考中)	未定
環境エピゲノム	(選考中)	未定
ゲノム機能情報	二階堂 愛 (MR)	1.機械学習や計算機科学を利用した大規模ゲノム解析のためのデータサイエンス技術の開発 2.大規模ゲノム科学分野の新しい実験技術の開発 3.大規模ゲノム解析技術を用いた再生医療・創薬研究
医化学	瀬川 勝盛 (MR)	1.膜脂質を移層・感知する分子の同定 2.膜脂質の動態の異常と疾患 3.細胞の恒常性を制御する分子の同定
恒常性医学	豊島 文子 (MR)	1.ライフステージの進行に伴う臓器リモデリングと可塑性に関する研究 2.妊娠期における母体臓器リモデリングと胎児発生との関連に関する研究 3.生理的な臓器リモデリング機構を基盤とした再生医療の開発

分野名	指導教員	研究内容
理研生体分子制御学 ※1	分野長： 谷内 一郎  今見 考志 石垣 和慶 田中 元雅 渡邊 力也 萩原 伸也	1.生体分子によるリンパ球・分化との制御機構 (担当教員：谷内一郎) 2.プロテオミクスによる遺伝子発現制御の理解と疾患研究 (担当教員：今見考志) 3.生体分子によるヒト疾患リスクの制御 (担当教員：石垣和慶) 4.神経細胞における生体分子の解析による精神・神経変性疾患研究 (担当教員：田中元雅) 5.疾患関連因子のデジタルバイオ分析技術の開発と1分子生物物理学研究 (担当教員：渡邊力也) 6.植物の生理機能制御を目指した化学遺伝学研究 (担当教員：萩原伸也)
NCC腫瘍医科学※2	分野長： 鈴木 啓道  吉見 昭秀 吉田 健一 武田 はるな 小幡 裕希 吉岡 研一	1.がんのゲノム・トランスクリプトーム・エピゲノム解析による病態解明と治療標的的同定および個別化医療への応用に関する研究 2.正常組織に見られる遺伝子異常と早期発がん機序およびそのメカニズムに関する研究 3.ゲノム不安定性のリスク要因と発がんへの影響に関する研究 4.がん関連遺伝子の機能の解明と治療標的の同定に関する研究 5.がん微小環境・がん幹細胞・non-coding RNA・シグナル伝達に関する研究
細胞分子医学	佐々木 純子 (MR)	1.脂質代謝異常による性転換の分子機構解明 2.がんの悪性化と脂質代謝との関連 3.アシル基の違いによるリン脂質分子種の機能解析
領域創成科学※3	分野長： 檜枝 光憲  奈良 雅之 柳下 和慶 中林 潤 徳永 伸一	1.生命分子スペクトル解析学 2.AIによる肝臓がん病理組織の画像解析 3.軟部組織外傷における高気圧酸素環境による治癒促進に関する研究 4.ナノトライボロジーと水晶マイクロバランスの高感度化 5.生命科学におけるネットワーク構造の基礎としてのグラフ理論の諸問題
データ科学アルゴリズム設計・解析※4	坂内 英夫 (DS)	1.パターン照合・検索, 特徴抽出発見のアルゴリズムとデータ構造 2.データ圧縮・処理のアルゴリズムとデータ構造 3.文字列組み合わせ論
AI技術開発※4	坂内 英夫 (代) (DS)	1.統計モデリングの理論及び手法に関する研究 2.疾患のシステムの理解に向けて説明可能な人工知技術開発研究 3.健康・医療におけるオミックスデータ解析 4.遺伝子発現制御機構の解明に関するネットワークバイオロジーの研究
分子機構免疫学	加藤 一希 (IR)	1 ヒトの自然免疫応答に関する基礎研究 2 自己免疫疾患に対する創薬研究 3 CRISPR-Cas を用いた新規ツール開発 4 タンパク質、RNA/DNA を用いた生化学解析 5 クライオ電子顕微鏡を用いた免疫関連タンパク質の立体構造
計算創薬科学	石谷 隆一郎 (MR)	1. 生体高分子の分子動力学シミュレーションを用いた創薬研究 2. 生体高分子や化合物の量子化学シミュレーションを用いた創薬研究 3. 生体高分子や化合物の立体構造を用いた創薬に資する深層学習モデルの開発
形態情報解析学	星 治 (MT)	1.原子間力顕微鏡の医生物学分野への応用 2.染色体の高次構造解析 3.成長円錐の制御機構解析
	星 治 (代) (MT)	1.胆管癌の進展に関わる分子病理学的解析および新規治療法の開発 2.細胞診画像を用いたデジタルコンテンツの作成、AI画像診断の開発 3.開発途上国における病理診断・病理技術の発展



分野名	指導教員	研究内容
血液・生体システム解析学	伊藤 南 (MT)	1.視覚情報と触感情報の統合による素材感覚の神経メカニズムの解析 2.状況に応じた視覚情報の統合と認知のための神経メカニズムの解明 3.医療支援のための数理モデルを利用した身体情報計測法の開発
	西尾 美和子 (MT)	1.造血器腫瘍を中心とした分子・遺伝子学的異常の解析 2.Epstein-Barr virus による T,NK 細胞腫瘍発症のメカニズム解明と治療法開発 3.ヒト ES/iPS 細胞を用いた褐色脂肪細胞検出法の開発 4.ヒト ES/iPS 細胞を用いた褐色脂肪細胞の活性化メカニズムの解析
生命情報応用学	角 勇樹 (MT)	1.気管支喘息、COPD、間質性肺炎の病態解明 2.肺疾患に対する遺伝子治療、免疫治療 3.各種の非侵襲的脳機能測定法、画像解析法を用いた神経精神疾患の病態解明 4.脳波を用いたてんかんの研究 5.事象関連電位を用いた脳機能の評価
疾患生理機能解析学	柿沼 晴 (MT)	1.ヒト iPS 細胞を利用した疾患病態モデルと分子標的の開発 2.肝胆道疾患の発生・進展を制御する細胞間相互作用解析 3.オルガノイド培養系を用いた肝胆膵疾患モデルの開発 4.消化器系組織幹・前駆細胞の恒常性を調節する分子機構の解明 5.肝再生と線維化を制御する分子機構の研究
臨床分析・分子生物学	大川 龍之介 (MT)	1.心血管疾患発症の残存危険度を評価可能なバイオマーカーの開発 2.HDL 多様化の機序および性質・機能への影響 3.赤血球関連脂質代謝の分子機構解析
	鈴木 喜晴 (MT)	1.神経疾患・精神疾患のマウスモデル解析と分子構造異常の解析 2.中枢神経系における髄鞘形成と軸索恒常性のメカニズム解明と新規マーカー分子の探索 3.細胞外マトリックス分子による細胞機能制御の解明と新規培養基質の開発
微生物・感染免疫解析学	齋藤 良一 (MT)	1.薬剤耐性菌の進化・多様性に関わる研究 2.細菌の病原性発現制御機構に関する研究 3.環境における微生物叢動態と相互作用に関する研究 4.ウイルス特異的 T 細胞の長期的免疫構築に関する研究 5.ヒト造血幹細胞の動員機構と移植免疫に関する研究 6.造血器腫瘍の分子病態解明と新規治療法の開発
生涯口腔保健衛生学	(選考中)	未定
健康支援口腔保健衛生学	樺沢 勇司 (OH)	1.がん治療や周術期の口腔健康管理に関する研究 2.全身疾患と口腔健康との関係に関する研究 3.新規口腔清掃方法や口内炎予防、治療薬の開発 4.口腔の健康と社会格差に関する研究
口腔疾患予防学	(選考中)	未定
地域・福祉口腔機能管理学	松尾 浩一郎 (OH)	1.地域在住高齢者へのオーラルフレイル予防プログラムの開発 2.要介護高齢者の食事モニタリングシステムの開発 3.自立高齢者を増やすための革新的食品提供システムの開発 4.脳卒中回復期における口腔機能管理システムの構築 5.がん周術期患者の術後早期口腔機能回復プログラムの開発
口腔健康教育学	吉田 直美 (OH)	1.口腔健康教育手法の開発と研究 2.口腔健康支援におけるアセスメントツールの開発と研究 3. 歯科衛生教育に関する研究 4.チームアプローチにおける歯科衛生士の役割

分野名	指導教員	研究内容
口腔基礎工学	青木 和広 (OE)	1.医歯工連携研究による新規骨形成促進剤の開発および臨床応用に向けた足場材料開発 2.口腔内細菌と全身疾患との関連—生活習慣病改善に向けた学際的取り組み— 3.口腔顎顔面領域の機能回復へのチームアプローチにおける歯科技工士の役割に関する研究 4.口腔顎顔面領域の補綴的リハビリテーションに関する研究 5.チームアプローチにおける歯科技工士の役割に関する研究
口腔デジタルプロセス学	金澤 学 (OE)	1.デジタルデンティストリーの臨床への応用 2.フルデジタル可撤性義歯製作方法の開発 3.歯科疾患診断用人工知能の開発 4.デジタル化された教育手法に関する研究
口腔医療工学	池田 正臣 (OE)	1.歯科材料の接着性の向上 2.3D プリンタ用樹脂の開発 3.画像診断システムの開発 4.歯科技工装置の品質管理システムの研究 5.CAD/CAM 機器の評価

・指導教員欄の（ ）は、本専攻を構成する教育研究組織等を表す。

BM：生体材料工学研究所

MR：難治疾患研究所

MT：生体検査科学専攻

OH：口腔保健衛生学専攻

OE：口腔保健工学専攻

IR：統合研究機構

※1 連携大学院分野（国立研究開発法人理化学研究所）

※2 連携大学院分野（国立研究開発法人国立がん研究センター）

※3 教養部に置く研究分野

※4 M&D データ科学センターの部門に置く研究分野

2024年度授業時間割

(遠隔講義(同期型:Zoom)) (ハイフレックス型講義(遠隔講義(同期型:Zoom)及び対面講義の併用)) (遠隔講義(非同期型)) 対面講義

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00		
4月1日 月																	
4月2日 火																	
4月3日 水																	
4月4日 木																	
4月5日 金																	
4月6日 土																	
4月7日 日																	
4月8日 月																	
4月9日 火								13:00~16:00 入学式及びガイダンス (Zoom)									
4月10日 水																	
4月11日 木																	
4月12日 金																	
4月13日 土																	
4月14日 日																	
4月15日 月																	
4月16日 火																	
4月17日 水																	
4月18日 木																	
4月19日 金																	
4月20日 土																	
4月21日 日																	
4月22日 月			8:50~10:20 臨床検査法開発学特論-1 【0362009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					13:00~14:30 英語ディベート特論(前期)-1 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))									
4月23日 火			8:50~10:20 臨床検査法開発学特論-2 【0362009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))														
4月24日 水			8:50~10:20 臨床検査法開発学特論-3 【0362009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))														
4月25日 木			8:50~10:20 臨床検査法開発学特論-4 【0362009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))														
4月26日 金																	
4月27日 土				10:00~12:15 先端機能分子特論-1 【0361002】 (遠隔講義(同期型:Zoom))													
4月28日 日																	
4月29日 月																	
4月30日 火																	
5月1日 水																	
5月2日 木																	
5月3日 金																	
5月4日 土																	
5月5日 日																	
5月6日 月			8:50~10:20 臨床検査法開発学特論-5 【0362009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		9:45~12:00 生体情報数理解析論-1 【0361006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			13:00~15:15 疾患分子病理学特論-1 【0362010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))							18:30~20:45 生体機能材料学特論-1 【0361006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
5月7日 火			8:50~10:20 臨床検査法開発学特論-6 【0362009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					14:00~16:15 医用材料工学特論-2 【0361007】 (遠隔講義(非同期型))									
5月8日 水			8:50~10:20 臨床検査法開発学特論-7 【0362009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					14:30~16:00 データサイエンス特論II(英語)-1 【0362004E】 (M&D7-4階 情報検索室2)		16:10~17:40 データサイエンス特論II(英語)-2 【0362004E】 (M&D7-4階 情報検索室2)			18:00~19:30 生物統計学基礎-1【0362016】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)				
5月9日 木	7:20~8:50 口腔保健学セミナー-1 【0363401】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						13:00~15:15 先端バイオセンシングデバイス特論-1 【0362006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			15:30~17:00 臨床検査法開発学特論-8 【0362009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			18:00~19:30 疫学基礎-1 【0362015】 (アクティブラーニング教室)		18:30~20:45 生体機能材料学特論-2 【0361006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
5月10日 金		8:50~10:20 英語ディベート特論(前期)-2 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		10:30~12:00 英語ディベート特論(前期)-3 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			13:00~15:15 疾患分子病理学特論-3 【0362010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						18:00~19:30 臨床疫学解析演習-1 【0362023】 (アクティブラーニング教室)				
5月11日 土				10:00~12:15 先端機能分子特論-2 【0361002】 (遠隔講義(同期型:Zoom))													
5月12日 日																	
5月13日 月				9:45~12:00 生体情報数理解析論-2 【0361006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				14:00~16:15 医用材料工学特論-3 【0361007】 (遠隔講義(非同期型))									
5月14日 火															18:30~20:45 生体機能材料学特論-3 【0361006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
5月15日 水								13:00~15:15 先端バイオセンシングデバイス特論-2 【0362006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 生物統計学基礎-2【0362016】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)		18:00~19:30 疫学基礎-2 【0362015】 (アクティブラーニング教室)		
5月16日 木	7:20~8:50 硬組織研究・骨形態計測学特論-1 【0361019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						13:00~15:15 生体分子制御学特論-1 【0362012】 (遠隔講義(同期型:Zoom))										
5月17日 金		8:50~10:20 英語ディベート特論(前期)-4 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		10:30~12:00 英語ディベート特論(前期)-5 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			13:00~15:15 疾患分子病理学特論-5 【0362010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						18:00~19:30 臨床疫学解析演習-2 【0362023】 (アクティブラーニング教室)				
5月18日 土										15:00~17:15 機能分子開発技術特論-1 【0361003】 (22号館1階第2会議室)							
5月19日 日																	
5月20日 月				9:45~12:00 生体情報数理解析論-3 【0361006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				14:00~16:15 医用材料工学特論-4 【0361007】 (遠隔講義(非同期型))					18:00~19:30 先端口腔保健応用学特論-4 【0361016】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				
5月21日 火								14:30~16:00 データサイエンス特論II(英語)-3 【0362004E】 (M&D7-4階 情報検索室2)		16:10~17:40 データサイエンス特論II(英語)-4 【0362004E】 (M&D7-4階 情報検索室2)				18:30~20:45 生体機能材料学特論-4 【0361006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
5月22日 水								13:00~15:15 先端バイオセンシングデバイス特論-3 【0362006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 生物統計学基礎-3【0362016】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)		18:00~19:30 疫学基礎-3 【0362015】 (アクティブラーニング教室)		
5月23日 木								生体分子制御学特論-2 【0362012】 (理研生物科学研究棟 N310)		15:30~17:45 生体分子制御学特論-3 【0362012】 (理研生物科学研究棟 S252)							
5月24日 金		8:50~10:20 英語ディベート特論(前期)-6 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		10:30~12:00 英語ディベート特論(前期)-7 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			13:00~15:15 疾患生命科学特論-1 【0361001】 (遠隔講義(同期型))						18:00~19:30 臨床疫学解析演習-3 【0362023】 (アクティブラーニング教室)				
5月25日 土				10:00~12:15 先端機能分子特論-3 【0361002】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						15:00~17:15 機能分子開発技術特論-2 (22号館1階第2会議室)							
5月26日 日																	

2024年度授業時間割

(遠隔講義(同期型:Zoom)) (ハイフレックス型講義(遠隔講義(同期型:Zoom)及び対面講義の併用)) (遠隔講義(非同同期型)) 対面講義

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
5月27日 月				9:45~12:00 生体情報数理解析論-4 【0361008】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					14:00~16:15 医用材料工学特論-5 【0361007】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						
5月28日 火		8:50~10:20 臨床・遺伝統計学-1【0361015】 (遠隔講義(非同同期型))		10:30~12:00 臨床・遺伝統計学-2【0361015】 (遠隔講義(非同同期型))								18:00~19:30 生物統計学基礎-4【0362016】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)			
5月29日 水			8:50~12:00 先端口腔保健応用学特論-5,6 【0361016】 (遠隔講義(非同同期型))					13:00~15:15 先端バイオセンシングデバイス特論-4 【0362006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		14:40~16:10 Advanced Human Pathology-4 【0362005】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			18:30~20:45 生体機能材料学特論-5 【0361006】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
5月30日 木		8:50~10:20 臨床・遺伝統計学-5【0361015】 (遠隔講義(非同同期型))		10:30~12:00 臨床・遺伝統計学-6【0361015】 (遠隔講義(非同同期型))				13:00~15:15 生体分子制御学特論-4 【0362012】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				18:00~19:30 疫学基礎-4 【0362015】 (アクティブラーニング教室)			
5月31日 金		8:50~10:20 臨床・遺伝統計学-3【0361015】 (遠隔講義(非同同期型))		10:30~12:00 臨床・遺伝統計学-4【0361015】 (遠隔講義(非同同期型))				13:00~14:30 Advanced Human Pathology-5 【0362005】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 臨床疫学解析演習-4 【0362023】 (アクティブラーニング教室)		
6月1日 土											15:00~17:15 機能分子開発技術特論-3 【0361003】 (22号館1階第2会議室)				
6月2日 日															
6月3日 月			8:50~12:00 先端口腔保健応用学特論-7,8 【0361016】 (遠隔講義(非同同期型))						14:00~16:15 生体情報数理解析論-5 【0361008】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						
6月4日 火		8:50~10:20 臨床・遺伝統計学-13 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))		10:30~12:00 臨床・遺伝統計学-14 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))			13:00~14:30 臨床・遺伝統計学-15 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))		14:40~16:10 臨床・遺伝統計学-16 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))				18:00~19:30 生物統計学基礎-5【0362016】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)		
6月5日 水		8:50~10:20 臨床・遺伝統計学-17 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))		10:30~12:00 臨床・遺伝統計学-18 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))			13:00~14:30 臨床・遺伝統計学-19 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))		14:40~16:10 臨床・遺伝統計学-20 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))				18:00~19:30 疫学基礎-5 【0362015】 (アクティブラーニング教室)		
6月6日 木	7:20~8:50 口腔保健学セミナー-2 【0363401】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		8:50~10:20 臨床・遺伝統計学-21 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))		10:30~12:00 臨床・遺伝統計学-22 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))		13:00~14:30 臨床・遺伝統計学-23 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))		14:40~16:10 臨床・遺伝統計学-24 【0361015】※英語科目 (遠隔講義(非同同期型))						
6月7日 金			09:45~12:00 疾患生命科学特論-3 【0361001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					13:00~17:00 大学院リトリート (御茶ノ水/水ソラシティ)					18:00~19:30 臨床疫学解析演習-5 【0362023】 (アクティブラーニング教室)		
6月8日 土															
6月9日 日															
6月10日 月		8:50~10:20 英語ディベート特論(前期)-8 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		10:30~12:00 英語ディベート特論(前期)-9 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					14:00~16:15 生体情報数理解析論-6 【0361008】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						
6月11日 火													18:00~19:30 生物統計学基礎-6【0362016】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)		
6月12日 水							13:00~15:15 ウェアラブルIoT技術特論-2 【0362008】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						18:00~19:30 疫学基礎-6 【0362015】 (アクティブラーニング教室)		
6月13日 木	7:20~8:50 硬組織研究・骨形態計測学特論-2 【0361019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))							13:00~14:30 Advanced Human Pathology-7 【0362005】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		14:00~16:15 生体分子制御学特論-5 【0362012】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					
6月14日 金		8:50~10:20 英語ディベート特論(前期)-10 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		10:30~12:00 英語ディベート特論(前期)-11 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			13:00~15:15 疾患生命科学特論-4 【0361001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						18:00~19:30 臨床疫学解析演習-6 【0362023】 (アクティブラーニング教室)		
6月15日 土				10:00~12:15 先端機能分子特論-4 【0361002】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			12:40~14:55 先端ケミカルバイオロジー特論-2 【0362011】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			15:00~17:15 機能分子開発技術特論-4 【0361003】 (22号館1階第2会議室)					
6月16日 日															
6月17日 月		8:50~10:20 英語ディベート特論(前期)-12 【0360004S】 (遠隔講義(同期型:Zoom))								14:30~17:40 先端口腔保健応用学特論-9,10 【0361016】 (遠隔講義(非同同期型))					
6月18日 火									14:30~16:00 データサイエンス特論II(英語)-7 【0362004E】 (M&D97-4階 情報検索室2)		16:10~17:40 データサイエンス特論II(英語)-8 【0362004E】 (M&D97-4階 情報検索室2)		18:00~19:30 生物統計学基礎-7【0362016】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)		
6月19日 水							13:00~15:15 ウェアラブルIoT技術特論-3 【0362008】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						18:00~19:30 疫学基礎-7 【0362015】 (アクティブラーニング教室)		
6月20日 木			9:45~12:00 理研生体分子制御学特論-1 【0361009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		13:00~15:15 理研生体分子制御学特論-2 【0361009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					15:30~17:45 理研生体分子制御学特論-3 【0361009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			18:00~19:30 臨床疫学解析演習-7 【0362023】 (アクティブラーニング教室)		
6月21日 金							13:00~14:30 Advanced Human Pathology-8 【0362005】 (遠隔講義(同期型:Zoom))								
6月22日 土							13:00~15:15 疾患生命科学特論-5 【0361001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))								
6月23日 日										14:00~16:15 先端ケミカルバイオロジー特論-3 【0362011】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					
6月24日 月			8:50~12:00 先端口腔保健応用学特論-11,12 【0361016】 (遠隔講義(非同同期型))						14:00~16:15 医療デバイス・システム機器特論-1 【0362007】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				18:00~20:15 組織再生材料学特論-1 【0361005】 (各研究室)		
6月25日 火			8:50~12:00 先端口腔保健応用学演習-1,2 【0361017】 (東京医科歯科大学病院 オールヘルスセンター他)										18:00~19:30 生物統計学基礎-8【0362016】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)		
6月26日 水							13:00~15:15 ウェアラブルIoT技術特論-4 【0362008】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						18:00~19:30 疫学基礎-8 【0362015】 (アクティブラーニング教室)		
6月27日 木			8:50~12:00 先端口腔保健応用学演習-8,9 【0361017】 (東京医科歯科大学病院 オールヘルスセンター他)					13:00~17:00 生体検査科学セミナーII-1【0363201】 (3号館18階 保健衛生学講義室1)						18:00~19:30 臨床試験方法論基礎-1【0362019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))	
6月28日 金							13:00~15:15 疾患生命科学特論-6 【0361001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						18:00~19:30 臨床疫学解析演習-8 【0362023】 (アクティブラーニング教室)		
6月29日 土				8:50~16:00 先端口腔保健応用学演習-10~17 【0361017】 (東京医科歯科大学病院 オールヘルスセンター他)				10:00~12:15 先端機能分子特論-5 【0361002】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		12:40~14:55 先端ケミカルバイオロジー特論-4 【0362011】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			15:00~17:15 機能分子開発技術特論-5 【0361003】 (22号館1階第2会議室)		
6月30日 日															

2024年度授業時間割

(遠隔講義(同期型:Zoom)) (ハイフレックス型講義(遠隔講義(同期型:Zoom)及び対面講義の併用)) (遠隔講義(非同同期型)) 対面講義

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
7月1日 月				8:50~12:00 先端口腔保健応用学特論-13、14 【0361016】 (遠隔講義(非同同期型))					14:00~16:15 医療デバイス・システム機器特論-2 【0362007】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				18:00~20:15 組織再生材料科学特論-2 【0361005】 (各研究室)		
7月2日 火					8:50~16:00 先端口腔保健応用学演習-18~25 【0361017】 (東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター他)								18:00~19:30 口腔疫学基礎-1 【0362021】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月3日 水								13:00~15:15 ウェアラブルIoT技術特論-5 【0362008】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 口腔疫学基礎-2 【0362021】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月4日 木													18:00~19:30 臨床試験方法論基礎-2 【0362019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月5日 金								13:00~15:15 疾患生命科学特論-7 【0361001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))							
7月6日 土				10:00~12:15 先端機能分子特論-6 【0361002】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					14:00~16:15 先端ケミカルバイオロジー特論-5 【0362011】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						
7月7日 日															
7月8日 月			8:50~10:20 先端口腔保健応用学演習-30 【0361017】 (東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター他)						14:00~16:15 医療デバイス・システム機器特論-3 【0362007】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				18:00~19:30 先端口腔保健応用学特論-15 【0361016】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月9日 火													18:00~19:30 口腔疫学基礎-3 【0362021】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月10日 水													18:00~19:30 臨床試験方法論基礎-4 【0362019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月11日 木		7:20~8:50 口腔保健学セミナー-3 【0363401】 (遠隔講義(同期型:Zoom))											18:00~20:15 組織再生材料科学特論-3 【0361005】 (各研究室)		
7月12日 金								13:00~15:15 疾患生命科学特論-8 【0361001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 口腔疫学基礎-4 【0362021】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月13日 土															
7月14日 日															
7月15日 月															
7月16日 火													18:00~20:15 組織再生材料科学特論-4 【0361005】 (各研究室)		
7月18日 木		7:20~8:50 硬組織研究・骨形態計測学特論-3 【0361019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))											18:00~20:15 組織再生材料科学特論-5 【0361005】 (各研究室)		
7月19日 金															
7月20日 土															
7月21日 日															
7月22日 月									14:00~16:15 医療デバイス・システム機器特論-4 【0362007】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				18:00~19:30 口腔疫学基礎-5 【0362021】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月23日 火													18:00~19:30 臨床試験方法論基礎-6 【0362019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月24日 水													18:00~19:30 口腔疫学基礎-6 【0362021】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月25日 木													18:00~19:30 臨床試験方法論基礎-7 【0362019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月26日 金															
7月27日 土															
7月28日 日															
7月29日 月									14:00~16:15 医療デバイス・システム機器特論-5 【0362007】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				18:00~19:30 口腔疫学基礎-7 【0362021】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月30日 火													18:00~19:30 臨床試験方法論基礎-8 【0362019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
7月31日 水													18:00~19:30 口腔疫学基礎-8 【0362021】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
8月1日 木					10:30~12:00 先制歯理工学概論 I-1 【0362001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))										
8月2日 金									15:00~16:30 先制歯理工学概論 I-2 【0362001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						
8月3日 土															
8月4日 日															
8月5日 月									14:00~16:15 医療デバイス・システム機器特論-6 【0362007】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						
8月6日 火										15:00~16:30 先制歯理工学概論 I-3 【0362001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					
8月7日 水															
8月8日 木							13:00~14:30 先制歯理工学概論 I-4 【0362001】 (講義室未定)								
8月9日 金															
8月10日 土															
8月11日 日															
8月12日 月															
8月13日 火															
8月14日 水															
8月15日 木															
8月16日 金															
8月17日 土															
8月18日 日															
8月19日 月									14:00~16:15 医療デバイス・システム機器特論-7 【0362007】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			17:30~19:00 先制歯理工学概論 I-5 【0362001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
8月20日 火															
8月21日 水															
8月22日 木										15:00~16:30 先制歯理工学概論 I-6 【0362001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					
8月23日 金								13:00~15:15 疾患生命科学特論-9 【0361001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))							
8月24日 土								13:00~14:30 先制歯理工学概論 I-7 【0362001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))							
8月25日 日															
8月26日 月															
8月27日 火				9:45~12:00 理研生体分子制御学特論-4 【0361009】 (横浜理研 北研究棟5F会議室)				13:00~15:15 理研生体分子制御学特論-5 【0361009】 (横浜理研 北研究棟5F会議室)					15:30~17:45 理研生体分子制御学特論-6 【0361009】 (横浜理研 北研究棟5F会議室)		
8月28日 水															
8月29日 木								13:00~15:15 理研生体分子制御学特論-7 【0361009】 (和光理研 脳中央棟5Fセミナー室 S505)					15:30~17:45 理研生体分子制御学特論-8 【0361009】 (和光理研 脳中央棟5Fセミナー室 S505)		
8月30日 金								13:00~15:15 疾患生命科学特論-10 【0361001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))							
8月31日 土															
9月1日 日															
9月2日 月															
9月3日 火															
9月4日 水															
9月5日 木								13:00~15:15 理研生体分子制御学特論-9 【0361009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					15:30~17:45 理研生体分子制御学特論-10 【0361009】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		
9月6日 金															



2024年度授業時間割

(遠隔講義(同期型:Zoom)) (ハイフレックス型講義(遠隔講義(同期型:Zoom)及び対面講義の併用)) (遠隔講義(非同期型)) 対面講義

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
9月7日 土															
9月8日 日															
9月9日 月										15:00~16:30 先制歯理工学概論1-8 【0362001】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					
9月10日 火															
9月11日 水															
9月12日 木		7:20-8:50 口腔保健学セミナー-4 【0363401】 (遠隔講義(同期型:Zoom))													
9月13日 金															
9月14日 土															
9月15日 日															
9月16日 月															
9月17日 火												18:00~19:30 生物統計学応用II-1【0362018】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
9月18日 水												18:00~19:30 生物統計学応用I-1【0362017】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
9月19日 木		7:20-8:50 硬組織研究・骨形態計測学特論-4 【0361019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))										18:00~19:30 臨床試験方法論応用-1【0362020】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
9月20日 金															
9月21日 土															
9月22日 日															
9月23日 月															
9月24日 火												18:00~19:30 生物統計学応用II-2【0362018】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
9月25日 水							13:00~17:00 生体検査科学セミナーII-2【0363201】 (3号館18階 保健衛生学科講義室1)					18:00~19:30 生物統計学応用I-2【0362017】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
9月26日 木												18:00~19:30 臨床試験方法論応用-2【0362020】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
9月27日 金															
9月28日 土															
9月29日 日															
9月30日 月															
10月1日 火			8:50~10:20 病態推論特論-1 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))									18:00~19:30 生物統計学応用II-3【0362018】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
10月2日 水			8:50~10:20 病態推論特論-2 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))									18:00~19:30 生物統計学応用I-3【0362017】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
10月3日 木												18:00~19:30 臨床試験方法論応用-3【0362020】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
10月4日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論- 1【0361018】(遠隔講義 (非同期型))		18:00~19:30 疫学応用-1 【0362022】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
10月5日 土															
10月6日 日															
10月7日 月															
10月8日 火			8:50~10:20 病態推論特論-3 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))									18:00~19:30 生物統計学応用II-4【0362018】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
10月9日 水			8:50~10:20 病態推論特論-4 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))									18:00~19:30 生物統計学応用I-4【0362017】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
10月10日 木		7:20-8:50 口腔保健学セミナー-5 【0363401】 (遠隔講義(同期型:Zoom))										18:00~19:30 臨床試験方法論応用-4【0362020】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
10月11日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論- 2【0361018】(遠隔講義 (非同期型))		18:00~19:30 疫学応用-2 【0362022】 (M&D7-4階 情報検索室1)			
10月12日 土															
10月13日 日															
10月14日 月															
10月15日 火			8:50~10:20 病態推論特論-5 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-1 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 生物統計学応用II-5【0362018】 (ハイフレックス型講義:G-Lab)			
10月16日 水			8:50~10:20 病態推論特論-6 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))									18:00~19:30 生物統計学応用I-5【0362017】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
10月17日 木		7:20-8:50 硬組織研究・骨形態計測学特論-5 【0361019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))										18:00~19:30 臨床試験方法論応用-5【0362020】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
10月18日 金												18:00~19:30 疫学応用-3 【0362022】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
10月19日 土															
10月20日 日															
10月21日 月												18:00~19:30 疫学応用-4 【0362022】 (M&D7-4階 情報検索室1)			
10月22日 火			8:50~10:20 病態推論特論-7 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-2 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 生物統計学応用II-6【0362018】 (ハイフレックス型講義:G-Lab)			
10月23日 水			8:50~10:20 病態推論特論-8 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					13:00~17:00 生体検査科学セミナーII-3【0363201】 (3号館18階 保健衛生学科講義室1)				18:00~19:30 生物統計学応用I-6【0362017】 (ハイフレックス型講義:アクティ ブラーニング教室)			
10月24日 木								14:30~16:00 データサイエンス特論I(英語)-1 【0362003E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		16:10~17:40 データサイエンス特論I(英語)-2 【0362003E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		18:00~19:30 臨床試験方法論応用-6【0362020】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
10月25日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論- 3【0361018】(遠隔講義 (非同期型))		18:00~19:30 疫学応用-5 【0362022】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
10月26日 土															
10月27日 日															
10月28日 月			8:50~10:20 病態推論特論-9 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))									18:00~19:30 疫学応用-6 【0362022】 (M&D7-4階 情報検索室1)			
10月29日 火															
10月30日 水			8:50~10:20 病態推論特論-10 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))												
10月31日 木												18:00~19:30 臨床試験方法論応用-7【0362020】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
11月1日 金												18:00~19:30 疫学応用-7 【0362022】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
11月2日 土															
11月3日 日															
11月4日 月										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論- 4【0361018】(遠隔講義 (非同期型))					
11月5日 火			8:50~10:20 病態推論特論-11 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))				13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-3 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 生物統計学応用II-7【0362018】 (ハイフレックス型講義:G-Lab)			
11月6日 水			8:50~10:20 病態推論特論-12 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))									16:00~19:10 疾患予防パブリックヘルス医学概論-1【0361014】 (遠隔講義(同期型:Zoom))または対面講義			
11月7日 木		7:20-8:50 口腔保健学セミナー-6 【0363401】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			10:30~12:00 先制歯理工学概論I(英語)-1 【0362001E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		13:00~14:30 先制歯理工学概論I(英語)-2 【0362001E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))	14:30~16:00 データサイエンス特論I(英語)-3 【0362003E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		16:10~17:40 データサイエンス特論I(英語)-4 【0362003E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		18:00~19:30 臨床試験方法論応用-8【0362020】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
11月8日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論- 5【0361018】(遠隔講義 (非同期型))		18:00~19:30 疫学応用-8 【0362022】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
11月9日 土															
11月10日 日															
11月11日 月					10:30~12:00 先制歯理工学概論I(英語)-3 【0362001E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))										

2024年度授業時間割

(遠隔講義(同期型:Zoom)) (ハイフレックス型講義(遠隔講義(同期型:Zoom)及び対面講義の併用)) (遠隔講義(非同同期型)) 対面講義

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
11月12日 火			8:50~10:20 病態推論特論-13 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		10:30~12:00 先制医歯理工学概論1(英語)-4 【0362001E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-4 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					18:00~19:30 生物統計学応用II-8【0362018】 (ハイフレックス型講義:G-Lab)		
11月13日 水			8:50~10:20 病態推論特論-14 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))												
11月14日 木		7:20~8:50 硬組織研究・骨形態計測学特論-6 【0361019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))						14:00~15:30 先制医歯理工学概論1(英語)-5 【0362001E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))							
11月15日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-6 【0361018】(遠隔講義(非同同期型))					
11月16日 土															
11月17日 日															
11月18日 月															
11月19日 火			8:50~10:20 病態推論特論-15 【0361010】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-5 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))							
11月20日 水					10:30~12:00 先制医歯理工学概論1(英語)-6 【0362001E】 (講義室未定)								18:00~19:30 生物統計学応用II-8【0362017】 (ハイフレックス型講義:アクティブラーニング教室)		
11月21日 木								14:30~16:00 データサイエンス特論I(英語)-5 【0362003E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		16:10~17:40 データサイエンス特論I(英語)-6 【0362003E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					
11月22日 金					10:30~12:00 先制医歯理工学概論1(英語)-7 【0362001E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-7 【0361018】(遠隔講義(非同同期型))					
11月23日 土															
11月24日 日															
11月25日 月												17:30~19:00 先制医歯理工学概論I(英語)-8 【0362001E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))			
11月26日 火							13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-6 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))								
11月27日 水							13:00~14:30 先制医歯理工学概論1(英語)-9 【0362001E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					16:00~19:10 疾患予防パブリックヘルス医学概論-3【0361014】 (遠隔講義(同期型:Zoom))または対面講義			
11月28日 木															
11月29日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-8 【0361018】(遠隔講義(非同同期型))					
11月30日 土															
12月1日 日															
12月2日 月															
12月3日 火							13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-7 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					16:00~19:10 疾患予防パブリックヘルス医学概論-4【0361014】 (遠隔講義(同期型:Zoom))または対面講義			
12月4日 水															
12月5日 木								14:30~16:00 データサイエンス特論I(英語)-7 【0362003E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))		16:10~17:40 データサイエンス特論I(英語)-8 【0362003E】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					
12月6日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-9 【0361018】(遠隔講義(非同同期型))					
12月7日 土															
12月8日 日															
12月9日 月															
12月10日 火							13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-8 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					16:00~19:10 疾患予防パブリックヘルス医学概論-5【0361014】 (遠隔講義(同期型:Zoom))または対面講義			
12月11日 水															
12月12日 木		7:20~8:50 口腔保健学セミナー-7 【0363401】 (遠隔講義(同期型:Zoom))													
12月13日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-10 【0361018】(遠隔講義(同期型))					
12月14日 土															
12月15日 日															
12月16日 月															
12月17日 火												16:00~19:10 疾患予防パブリックヘルス医学概論-6【0361014】 (遠隔講義(同期型:Zoom))または対面講義			
12月18日 水															
12月19日 木		7:20~8:50 硬組織研究・骨形態計測学特論-7 【0361019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))													
12月20日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-11 【0361018】(遠隔講義(同期型))					
12月21日 土						9:00~17:00 生体検査科学セミナーII-4【0363201】 (3号館18階 保健衛生学講義室I)									
12月22日 日															
12月23日 月															
12月24日 火															
12月25日 水															
12月26日 木															
12月27日 金															
12月28日 土															
12月29日 日															
12月30日 月															
12月31日 火															
1月1日 水															
1月2日 木															
1月3日 金															
1月4日 土															
1月5日 日															
1月6日 月															
1月7日 火							13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-9 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))								
1月8日 水															
1月9日 木		7:20~8:50 口腔保健学セミナー-8 【0363401】 (遠隔講義(同期型:Zoom))													
1月10日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-12 【0361018】(遠隔講義(非同同期型))					
1月11日 土															
1月12日 日															
1月13日 月															
1月14日 火							13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-10 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					16:00~19:10 疾患予防パブリックヘルス医学概論-7【0361014】 (遠隔講義(同期型:Zoom))または対面講義			
1月15日 水															
1月16日 木		7:20~8:50 硬組織研究・骨形態計測学特論-8 【0361019】 (遠隔講義(同期型:Zoom))													
1月17日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-13 【0361018】(遠隔講義(非同同期型))					
1月18日 土															
1月19日 日															
1月20日 月															
1月21日 火							13:00~14:30 英語ディベート特論(後期)-11 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))					16:00~19:10 疾患予防パブリックヘルス医学概論-8【0361014】 (遠隔講義(同期型:Zoom))または対面講義			
1月22日 水															
1月23日 木															
1月24日 金										16:00~17:00 先端口腔保健工学特論-14 【0361018】(遠隔講義(同期型:Zoom))					
1月25日 土															
1月26日 日															

2024年度授業時間割

(遠隔講義(同期型:Zoom))
(ハイフレックス型講義(遠隔講義(同期型:Zoom)及び対面講義の併用))
(遠隔講義(非同期型))
対面講義

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
1月27日 月															
1月28日 火							13:00-14:30 英語ディベート特論(後期)-12 【0360004F】 (遠隔講義(同期型:Zoom))								
1月29日 水															
1月30日 木															
1月31日 金										16:00-17:00 先端口腔保健工学特論-15 【0361018】(遠隔講義(同期型:Zoom))					
2月1日 土															
2月2日 日															
2月3日 月															
2月4日 火															
2月5日 水															
2月6日 木															
2月7日 金															
2月8日 土															
2月9日 日															
2月10日 月															
2月11日 火															
2月12日 水															
2月13日 木															



6. 各授業科目概要  
(P36～188 日本語)  
(P189～343 英語)

時間割番号	0360001				
科目名	マネジメント特論	科目ID	GC—c6331-L		
担当教員	竹内 勝之、板越 正彦、今村 健、吉野 宏幸[TAKEUCHI Katsuyuki, ITAGOSHI Masahiko, IMAMURA Kenn, YOSHINO Hiroyuki]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
同じ内容の英語授業を別日程で開講している。					
<b>主な講義場所</b>					
授業スケジュールを参照					
<b>授業の目的、概要等</b>					
授業目的: マネジメントスキル(プロジェクトマネジメント、キャリアマネジメント、ビジネスコミュニケーション等)の基礎知識・スキルを習得し、日々の医療活動や研究活動等に実践できるようトレーニングする。 概要: 将来、医療人・研究者・企業人として活躍するうえで必要なマネジメントスキルのうち、特に、プロジェクトマネジメント、キャリアマネジメント、ビジネスコミュニケーションを中心に解説する。					
<b>授業の到達目標</b>					
マネジメントスキルのエッセンスを理解し、日々の医療活動や研究活動に活かせるよう基本的なスキルを修得する。					
<b>授業方法</b>					
マネジメントスキルのエッセンス(知識)は講義を通じて習得し、実践的なスキルはワークショップを通じて習得する。					
<b>授業内容</b>					
授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義への出席 70%、議論などの発言内容 30%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
なし					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 統合教育機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	0360001E				
科目名	マネジメント特論(英語)	科目ID	GC—c6331-L		
担当教員	竹内 勝之, 板越 正彦, 吉野 宏志[TAKEUCHI Katsuyuki, ITAGOSHI Masahiko, YOSHINO Hiroshi]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
Availability in English: All classes are taught in English.					
<b>授業の目的、概要等</b>					
Course Purpose: Students will acquire a set of basic knowledge and skills of management (project management, career management, business communication, and so on) and will get training so that they apply it to daily medical and research activities.					
Outline: The course provides lectures explaining management skills necessary for students to make success in the medical, research or business world in the future, focusing mainly on project management, career management, and business communication.					
<b>授業の到達目標</b>					
Students will understand the essence of management skills and acquire basic skills so that they apply it to daily medical and research activities.					
<b>授業方法</b>					
Lectures on the essence of management skills, and workshops for practical skills.					
<b>授業内容</b>					
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>成績評価の方法</b>					
Participation (70%) and discussion and attitude (30%).					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
None.					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 統合教育機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	0360002				
科目名	国際動向特論	科目ID	GC—c6341—L		
担当教員	竹内 勝之, 中村 桂子, 岡田 将誌, 小野 雅司, 白神 昇平, 宇賀神 敦, 久保田 宏[TAKEUCHI Katsuyuki, NAKAMURA KEIKO, OKADA Masashi, ONO Masaji, Shohei Shirakami, UGAJIN Atsushi, KUBOTA Hiroshi]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語により授業:別日程で開講する。					
<b>主な講義場所</b>					
授業スケジュールを参照					
<b>授業の目的、概要等</b>					
授業目的:ライフサイエンス分野と関連性がある世界情勢・国際問題等を解説し、履修者と多面的な議論を重ねることで、将来、グローバルに活躍するうえで必要となる教養や国際感覚そして高い視座を養う。					
概要:将来、医療人・研究者・企業人として活躍するうえで基礎となる教養・国際感覚を身につけるため、科学技術、医療・保健、産業、環境、経済、政治分野を中心に、国際情勢を解説する。					
<b>授業の到達目標</b>					
履修者の専門性を広げる、あるいは新たな視座を得るうえで必要な社会的知見を得ることを目標とする。					
<b>授業方法</b>					
科学技術、医療・保健等に関する国際情勢・動向を理解するために不可欠な知識を教授し、国際的視野を広げるために各分野の最先端のトピックを解説する。対話型の講義を基本とし、履修者数によってはグループディスカッション等を導入する。					
<b>授業内容</b>					
授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義への参加 70%、議論などの発言内容 30%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
なし。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。					
問合せ先 統合教育機構 竹内勝之 E-mail:takeuchik.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	0360002E				
科目名	国際動向特論(英語)	科目ID	GC—c6341-L		
担当教員	竹内 勝之[TAKEUCHI Katsuyuki]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
授業の目的、概要等	2024 年度休講				
準備学習等についての具体的な指示					

時間割番号	0360003				
科目名	知的財産特論	科目ID	GC—c6351—L		
担当教員	竹内 勝之, 杉光 一成, 川瀬 真, 平井 佑希[TAKEUCHI Katsuyuki, SUGIMITSU Kazunari, KAWASE Makoto, HIRAI Yuki]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 授業スケジュールを参照					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 研究活動やビジネス等に従事するうえで必要不可欠となる知的財産の基礎知識を習得する。 概要: 特許、著作権など研究開発やビジネスの場面で必要になる知的財産のエッセンスを講義する。また、研究開発やビジネスにおける知的財産戦略のケーススタディを行い、知的財産に対する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b> 「特許」「著作権」に関する基礎知識の習得、特許調査に関する基礎的スキルの習得を目標とする。					
<b>授業方法</b> 知的財産に関する基礎知識を講義するとともに、実習やケーススタディを通じて理解を深める。					
<b>授業内容</b> 授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
<b>成績評価の方法</b> 講義への参加 70%、議論などの発言内容 30%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> なし。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 統合教育機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	0360004S				
科目名	英語ディベート特論	科目ID	GC—c6400—L		
担当教員	JEANETTE DENNISSON[JEANETTE DENNISSON]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て英語で行う					
<b>授業の目的、概要等</b>					
English proficiency is essential as a common world language for not only communication but also information dissemination in state-of-the-art medical and dental research. In order to become leaders in the international arena, we will use critical thinking skills to discuss current topics, practice the basic skills required to have conversations, and learn how to debate various topics.					
<b>授業の到達目標</b>					
At the end of the course, students will have improved skills of:					
1) Discussing current health science and cultural topics with more confidence					
2) Using the Opinion-Reason-Evidence format for expressing ideas more clearly					
3) Understanding and ability to use debate skills					
4) Leading a discussion in English					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/22	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Overview of class/Group work & debate basics	JEANETTE DENNISSON
2	5/10	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
3	5/10	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
4	5/17	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
5	5/17	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
6	5/24	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
7	5/24	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
8	6/10	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
9	6/10	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
10	6/14	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
11	6/14	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
12	6/17	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
<b>授業方法</b>					
Pre-reading of weekly topic and viewing of online video					
In-class group discussion/debate and listening exercises					
Weekly short essay writing assignments					
<b>成績評価の方法</b>					

Based on class participation (80%) and writing (20%). Students must attend 2/3 of sessions in order to be eligible to pass this course. Those who do attend at least 8 sessions and do not officially drop the course will receive a failing grade.

**準備学習等についての具体的な指示**

Reading materials will be provided by the instructor. All enrollees are expected to read/watch those materials beforehand and be prepared for class discussion and/or debate. Reading, listening or light research will be required before each session.

**備考**

Enrollment is limited to 15 students.

**連絡先(メールアドレス)**

dennisson.las@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

Wednesday/Thursday 12:30 – 13:00 PM 管理研究棟3階



時間割番号	0360004F				
科目名	英語ディベート特論	科目ID	GC—c6400—L		
担当教員	JEANETTE DENNISON[JEANETTE DENNISON]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て英語で行う					
<b>授業の目的、概要等</b>					
English proficiency is essential as a common world language for not only communication but also information dissemination in state-of-the-art medical and dental research. In order to become leaders in the international arena, we will use critical thinking skills to discuss current topics, practice the basic skills required to have conversations, and learn how to debate various topics.					
<b>授業の到達目標</b>					
At the end of the course, students will have improved skills of:					
1) Discussing current health science and cultural topics with more confidence					
2) Using the Opinion-Reason-Evidence format for expressing ideas more clearly					
3) Understanding and ability to use debate skills					
4) Leading a discussion in English					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/15	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Overview of class/Group work & debate basics	JEANETTE DENNISON
2	10/22	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISON
3	11/5	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISON
4	11/12	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISON
5	11/19	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISON
6	11/26	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISON
7	12/3	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISON
8	12/10	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISON
9	1/7	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISON
10	1/14	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISON
11	1/21	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISON
12	1/28	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISON
<b>授業方法</b>					
Pre-reading of weekly topic and viewing of online video					
In-class group discussion/debate and listening exercises					
Weekly short essay writing assignments					

<b>成績評価の方法</b> Based on class participation (80%) and writing (20%). Students must attend 2/3 of sessions in order to be eligible to pass this course. Those who do attend at least 8 sessions and do not officially drop the course will receive a failing grade.
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> Reading materials will be provided by the instructor. All enrollees are expected to read/watch those materials beforehand and be prepared for class discussion and/or debate. Reading, listening or light research will be required before each session.
<b>備考</b> Enrollment is limited to 15 students.
<b>連絡先(メールアドレス)</b> dennisson.las@tmd.ac.jp
<b>オフィスアワー</b> Wednesday/Thursday 12:30 - 13:00 PM 管理研究棟3階

時間割番号	0360005				
科目名	英語プレゼンテーション特論	科目ID	GC—c6425-L		
担当教員					
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
2024 年度は開講しない。					
準備学習等についての具体的な指示					

時間割番号	0361001				
科目名	疾患生命科学特論	科目ID	GC—c6426-L		
担当教員	二階堂 愛, 笹川 洋平, 吉見 昭秀, 後藤 利保, 澁谷 浩司, 清水 幹容, 仁科 博史, 小藤 智史, 松田 憲之, 瀬川 勝盛, 山野 晃史[NIKAIDO Itoshi, SASAGAWA Youhei, YOSHIMI Akihide, GOTO TOSHIYASU, SHIBUYA HIROSHI, SHIMIZU Masahiro, NISHINA HIROSHI, KOFUJI Satoshi, MATSUDA Noriyuki, SEGAWA Katsumori, YAMANO KOJI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	2
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
主な講義場所 オンライン (Zoom)での遠隔講義(同期型)、あるいは、動画による遠隔講義(非同期型)					
授業の目的、概要等 授業目的:疾患生命科学の基礎であるゲノミクス、エピジェネティクス、バイオインフォマティクス、免疫学から、応用として生活習慣病や腫瘍医学までの最新の知識を学び、論理的な思考の習得を目標とする。 概要:ヒトやマウスなどのモデル動物にみられる様々な高次生命現象や疾患を紹介し、解明されている分子メカニズムの紹介を行う。					
授業の到達目標 生物学、基礎医学から疾患医学までの最新の知見を広く理解する。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/24	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	がんの RNA スプライシング異常	吉見 昭秀
2	5/31	13:00-15:15	遠隔授業 (非同期型)	1 細胞オミクス実験法	笹川 洋平
3	6/7	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	細胞内の洗浄システム: オートファジー	山野 晃史
4	6/14	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	発生に関与するシグナル伝達	澁谷 浩司, 後藤 利保
5	6/21	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	1 細胞オミクス解析法	二階堂 愛
6	6/28	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	疾患発症に関与するシグナル伝達	澁谷 浩司, 清水 幹容
7	7/5	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	遺伝性パーキンソン病の発症を抑制する分子機構	松田 憲之
8	7/12	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	免疫学と細胞死	瀬川 勝盛
9	8/23	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	肝臓の形成と疾患	仁科 博史
10	8/30	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	がん代謝	小藤 智史
授業方法 ゼミ形式で教員による講義と全体で討議、レポート執筆を行うことにより学習を深める。					
成績評価の方法 授業の参加状況(80%)及びレポート(20%)に基づいて総合的に評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示 初回授業のガイダンスならびに各授業において必要に応じて指示する。					

**試験の受験資格**

講義出席75%以上

**参考書**

Molecular cell biology / Harvey Lodish ... [et al.], Lodish, Harvey F., : W.H. Freeman, 2016

Epigenetics / C. David Allis, Marie-Laure Caparros, Thomas Jenuwein, Danny Reinberg, editors ; Monika Lachner, associate editor, Allis, C.

David, Caparros, Marie-Laure, Jenuwein, Thomas, Reinberg, Danny, Lachner, Monika, : Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2015

エッセンシャル免疫学 / ピーター・パーラム 著, Parham, Peter, 笹月, 健彦, : メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016

ゲノム : 生命情報システムとしての理解 / T.A. ブラウン 著, Brown, T. A. (Terence Austen), 石川, 冬木, 中山, 潤一, : メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2018

“The immune system” (Third edition), Peter Parham, Garland Science

Molecular Cell Biology Eighth Edition, Harvey Lodish et al, ISBN-13: 978-1-4641-8339-3

Genome 4, Garland Science, 978-0815345084

**連絡先(メールアドレス)**

二階堂 愛: dritoshi@gmail.com

澁谷 浩司: shibuya.mcb@mri.tmd.ac.jp

後藤 利保: goto.mcb@mri.tmd.ac.jp

松田 憲之: nr-matsuda.biom@tmd.ac.jp

仁科 博史: nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp

瀬川 勝盛: segawa.mche@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

二階堂 愛: 毎週月曜日 AM.9:00-PM.10:00 MDタワー24階 2458 (or Zoom)

澁谷 浩司: 毎週月曜日 PM.1:00-2:00 MDタワー23階セミナー室

後藤 利保: 後藤 利保: 平日 8:15-17:00

M&Dタワー23階 N-2311号室

松田 憲之: 毎週月曜~金曜日 AM.11:00-PM.5:00 M&Dタワー 23階 N2301室

仁科 博史: 毎週木曜日 AM.10:00-12:00 M&Dタワー21階セミナー室

瀬川 勝盛: 毎週金曜日 PM. 5:00-PM. 6:00 M&Dタワー 22F\_N2206

時間割番号	0361002				
科目名	先端機能分子特論	科目ID	GC—c6427-L		
担当教員	影近 弘之, 細谷 孝充, 伊藤 暢聡, 藤井 晋也, 石田 良典, 沼本 修孝, 田口 純平, 増野 弘幸, 馬 悦 [KAGECHIKA HIROYUKI, HOSOYA TAKAMITSU, ITO NOBUTOSHI, FUJII Shinnya, ISHIDA Ryouusuke, NUMOTO NOBUTAKA, TAGUCHI Junpei, MASUNO HIROYUKI, MA YUE]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
<p>授業目的: 生命科学、分析化学、有機化学、材料科学などの分野で用いられている機能性分子の基礎知識を習得し、その応用研究について理解を深める。</p> <p>概要: 機能性分子の開発とその機能解析に必要な基礎的手法を講義し、機能性分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p>化学は、物質を対象として、分子、原子レベルでその性質を理解し、制御する学問分野であり、ナノテクノロジー、ケミカルバイオロジーといった、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となる機能性分子を用いた、最先端の研究動向について教育する。</p>					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/27	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	機能性分子先端研究 1	影近 弘之 細谷 孝充 藤井 晋也 石田 良典 増野 弘幸 馬 悦
2	5/11	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	機能性分子先端研究 2	影近 弘之 伊藤 暢聡 藤井 晋也 石田 良典 増野 弘幸
3	5/25	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	機能性分子先端研究 3	影近 弘之 藤井 晋也 石田 良典 増野 弘幸
4	6/15	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	機能性分子先端研究 4	影近 弘之 藤井 晋也 田口 純平 石田 良典 増野 弘幸 馬 悦
5	6/29	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	機能性分子先端研究 5	影近 弘之 細谷 孝充 藤井 晋也 石田 良典 増野 弘幸
6	7/6	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	機能性分子先端研究 6	影近 弘之 藤井 晋也

					田口 純平, 石田 良典 増野 弘幸, 馬 悦	
<b>授業方法</b>						
ゼミ形式で教員による講義、履修生によるプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。						
<b>授業内容</b>						
別表						
<b>成績評価の方法</b>						
授業の参加状況(50%)及び機能性分子を用いた研究に関するプレゼンテーションやレポート(50%)に基づいて総合的に評価を行う。						
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>						
有機化学、生化学の復習、もしくは次項に示した書籍等による予習をしておくが良い。						
<b>参考書</b>						
最新 創薬化学－探索研究から開発まで(長瀬博、テクノミック)、Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Weiss 編、WILEY-VCH)、ビタミン研究のブレークスルー(日本ビタミン学会編、学振出版)、The Nuclear Receptors FactsBook(Laudet, V & Gronemeyer, H., Academic Press)、生命現象を理解する分子ツール(浜地格、二木史朗編、化学同人)、生体有機化学(橋本祐一、村田道雄編、東京化学同人)						

時間割番号	0361003				
科目名	機能分子開発技術特論	科目ID	GC—c6428-L		
担当教員	細谷 孝充, 影近 弘之, 玉村 啓和, 藤井 晋也, 小早川 拓也, 田口 純平, 辻 耕平, 石田 良典, 隅田 有人 [HOSOYA TAKAMITSU, KAGECHIKA HIROYUKI, TAMAMURA HIROKAZU, FUJII Shinnya, KOBAYAKAWA Takuya, TAGUCHI Junpei, TSUJI Kouhei, ISHIDA Ryousuke, SUMIDA YUUTO]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
<p>授業目的: 生命科学、分析化学、有機化学、材料科学などの分野で用いられている機能性分子の開発に必要な化学的知識と技術について理解を深める。</p> <p>概要: 機能性分子の設計、合成、機能解析に必要な基礎的手法について、その分子構造に基づいた論理的な解析に関する講義ならびに討論をする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p>化学は、物質を対象として、分子、原子レベルでその性質を理解し、制御する学問分野であり、ナノテクノロジー、ケミカルバイオロジーといった、様々な分野との複合領域研究を理解するための基軸である。このような研究分野の鍵となる機能性分子に着目し、有機化学に関する基礎知識の理解を深めることで、機能性分子の設計・合成と分子構造に基づいた論理的な解析法を習得する。</p>					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/18	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 1	田口 純平, 隅田 有人, 細谷 孝充
2	5/25	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 2	田口 純平, 隅田 有人, 細谷 孝充
3	6/1	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 3	田口 純平, 隅田 有人, 細谷 孝充
4	6/15	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 4	藤井 晋也, 石田 良典, 影近 弘之
5	6/29	15:00-17:15	1F 第2会議室	機能性分子開発技術 5	辻 耕平, 小早川 拓也, 玉村 啓和
<b>授業方法</b>					
ゼミ形式で教員による講義や履修生によるプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
<b>成績評価の方法</b>					
授業の参加状況(50%)及び機能性分子開発に関する演習やプレゼンテーション(50%)に基づいて総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
基礎有機化学の復習、もしくは次項に示した書籍等による予習をしておくが良い。					
<b>参考書</b>					
<p>ジョーンズ有機化学 上・下巻(Maitland, Jr. Jones, Steven A. Fleming 著、奈良坂紘一、山本学、中村栄一、大石茂郎、尾中篤、正田晋一郎、徳山英利 訳、東京化学同人)、大学院講義有機化学 I・II(野依良治、中筋一弘、玉尾皓平、奈良坂紘一、柴崎正勝、橋本俊一、鈴木啓介、山本陽介、村田道雄 編、東京化学同人)、Advanced Organic Chemistry (Francis A. Carey, Richard J. Sundberg 著、Springer)</p>					
<b>備考</b>					
講義日程は変更になる場合があります。					



時間割番号	0361004				
科目名	機能再建材料学特論	科目ID	GC—c6405-L		
担当教員	岸田 晶夫[KISHIDA AKIO]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
<b>授業の目的、概要等</b>					
2024 年度休講					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
kishida.mbme@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
基本的に月曜日～金曜日 AM.10:00-PM.5:00 であれば対応可能					
駿河台地区 生体材料工学研究所 21 号館 2 階 201A 号室					

時間割番号	0361005				
科目名	組織再生材料学特論	科目ID	GC—c6406-L		
担当教員	川下 将一, 横井 太史, 島袋 将弥[KAWASHITA Masakazu, YOKOI Taishi, SHIMABUKURO Masaya]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 研究室(東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 無機生体材料学分野:21 号館 3 階)での対面講義を行う。					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: バイオセラミックスがどのように設計・製造されるかを理解し、さらに、バイオセラミックスがその構造および特性に基づいて様々な分野で臨床応用されていることを理解することを目的とする。 概要: バイオセラミックスに関する文献を輪読し、必要に応じて無機生体材料学分野の教員が講義を行う。					
<b>授業の到達目標</b> 種々のバイオセラミックスが、その構造・特性に応じて、様々な分野で臨床応用されていることを理解する。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/24	18:00-20:15	各研究室	バイオセラミックス概論	横井 太史 川下 将一, 島袋 将弥
2	7/1	18:00-20:15	各研究室	バイオセラミックスの構造	横井 太史 川下 将一, 島袋 将弥
3	7/10	18:00-20:15	各研究室	バイオセラミックスの合成および加工	横井 太史 川下 将一, 島袋 将弥
4	7/16	18:00-20:15	各研究室	がん治療用バイオセラミックス	横井 太史 川下 将一, 島袋 将弥
5	7/18	18:00-20:15	各研究室	骨修復用バイオセラミックス	横井 太史 川下 将一, 島袋 将弥
<b>授業方法</b> バイオセラミックスに関する文献を輪読し、文献の記載内容について参加者全員で議論する。必要に応じて教員による講義を行う。					
<b>授業内容</b> (1) バイオセラミックスの必要性 (2) バイオセラミックス-組織間の接着性の種類 (3) ほぼ生体不活性な結晶性バイオセラミックス (4) 多孔性セラミックス (5) 生体活性ガラスおよび結晶化ガラス (6) 界面反応速度論 (7) 生体活性ガラスおよび結晶化ガラスの臨床応用 (8) リン酸カルシウムセラミックス (9) 複合体 (10) コーティング (11) 骨修復以外の治療への応用					
<b>成績評価の方法</b> 講義への参加状況及び最終プレゼンテーションに基づき、以下の割合を目安に成績評価を行う。					

○講義への参加状況:70%
○最終プレゼンテーション:30%
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> なし。
<b>参考書</b> 教科書・参考書・参考論文等は、科目担当者が指示する。

時間割番号	0361006																																								
科目名	生体機能材料学特論	科目ID	GC—c6407-L																																						
担当教員	松元 亮[MATSUMOTO AKIRA]																																								
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1																																				
実務経験のある教員による授業																																									
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。																																									
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 生体分子・組織に見られる自己組織化、階層的構造化の重要性について概説し、生体材料学への応用例や発展性について議論する。また、分子認識科学を駆使した最新のバイオマテリアル研究について、その基礎から応用までを俯瞰しつつ、最終的には研究戦略を策定する論理思考について習得する。 概要: 上記に関する理解を深め、今後期待される有機生体材料のあり方を思索する。																																									
<b>授業の到達目標</b> 有機系生体材料の基礎から応用までを俯瞰しつつ、その問題点を探り、将来的な生体材料設計の方向性を受講生自らが提案できるようになることを目指す。																																									
<b>授業計画</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/6</td> <td>18:30-20:45</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>ソフトマターとDDS</td> <td>松元 亮</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5/9</td> <td>18:30-20:45</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>有機材料と最先端医療1</td> <td>松元 亮</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5/14</td> <td>18:30-20:45</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>有機材料と最先端医療2</td> <td>松元 亮</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5/21</td> <td>18:30-20:45</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>分子認識化学概論</td> <td>松元 亮</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/29</td> <td>18:30-20:45</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>分子認識化学概論と DDS</td> <td>松元 亮</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	5/6	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	ソフトマターとDDS	松元 亮	2	5/9	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	有機材料と最先端医療1	松元 亮	3	5/14	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	有機材料と最先端医療2	松元 亮	4	5/21	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	分子認識化学概論	松元 亮	5	5/29	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	分子認識化学概論と DDS	松元 亮
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																				
1	5/6	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	ソフトマターとDDS	松元 亮																																				
2	5/9	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	有機材料と最先端医療1	松元 亮																																				
3	5/14	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	有機材料と最先端医療2	松元 亮																																				
4	5/21	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	分子認識化学概論	松元 亮																																				
5	5/29	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	分子認識化学概論と DDS	松元 亮																																				
<b>授業方法</b> ゼミ形式で教員による講義や学生のプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。																																									
<b>成績評価の方法</b> 講義への参加状況(50%)及び講義中の試問等(50%)に基づいて総合的に評価する。																																									
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 事前に生体材料学特論および応用生体材料学特論、あるいはそれと同程度の事前学習をしておくことが望ましい。																																									
<b>教科書</b> Biomaterials Science : An Introduction to Materials in Medicine / edited by Buddy D. Ratner ... [et al.], Ratner, B. D. (Buddy D.), Hoffman, Allan S., Schoen, Frederick J., Lemons, Jack E., Academic Press, 2013																																									
<b>参考書</b> 科目担当者が適宜指示する。																																									

時間割番号	0361007																																								
科目名	医用材料工学特論	科目ID	GC—c6408-L																																						
担当教員	岸田 晶夫, 橋本 良秀[KISHIDA AKIO, HASHIMOTO YOSHIHIDE]																																								
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1																																				
実務経験のある教員による授業																																									
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。																																									
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 医療を革新するデバイスの開発戦略は多岐にわたる。材料に関する様々な考え方に触れることにより、基礎的な知見を具体的なデバイスに応用するまでの能力を習得することを目標とする。 概要: 様々な最先端の医療デバイスおよび再生医療に関する研究内容について最新の研究成果について概説し、その内容について考え方などの討議を行う。																																									
<b>授業の到達目標</b> 医療デバイスの開発には、材料研究だけでなく、応用の形態、法規制など様々なプロセスの理解が必要である。それらを理解して医療デバイスに具現化する方法論を立案できる基盤を形成する。																																									
<b>授業計画</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/6</td> <td>16:00-18:15</td> <td>遠隔授業 (非同期型)</td> <td>バイオマテリアルの設計法</td> <td>岸田 晶夫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5/7</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (非同期型)</td> <td>人工材料と生体材料</td> <td>岸田 晶夫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5/13</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (非同期型)</td> <td>再生医工学材料</td> <td>橋本 良秀</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5/20</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (非同期型)</td> <td>医用材料と生体反応</td> <td>木村 剛</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/27</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (非同期型)</td> <td>医用材料・機器のレギュレーション</td> <td>木村 剛</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	5/6	16:00-18:15	遠隔授業 (非同期型)	バイオマテリアルの設計法	岸田 晶夫	2	5/7	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	人工材料と生体材料	岸田 晶夫	3	5/13	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	再生医工学材料	橋本 良秀	4	5/20	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	医用材料と生体反応	木村 剛	5	5/27	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	医用材料・機器のレギュレーション	木村 剛
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																				
1	5/6	16:00-18:15	遠隔授業 (非同期型)	バイオマテリアルの設計法	岸田 晶夫																																				
2	5/7	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	人工材料と生体材料	岸田 晶夫																																				
3	5/13	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	再生医工学材料	橋本 良秀																																				
4	5/20	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	医用材料と生体反応	木村 剛																																				
5	5/27	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	医用材料・機器のレギュレーション	木村 剛																																				
<b>授業方法</b> ゼミ形式で教員による講義や学生のプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。																																									
<b>成績評価の方法</b> 授業の参加状況(80%)及びレポート(20%)に基づいて総合的に評価を行う。																																									
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 材料学(主として高分子)、物理化学、生化学、免疫学の基礎を身につけておくこと。																																									
<b>参考書</b> バイオマテリアル : その基礎と先端研究への展開 / 田畑泰彦, 塙隆夫編著, 田畑, 泰彦, 塙, 隆夫, 岡野, 光夫, 明石, 満, : 東京化学同人, 2016 Biomaterials science : an introduction to materials in medicine / edited by Buddy D. Ratner ... [et al.], Ratner, B. D. (Buddy D.), Hoffman, Allan S., Schoen, Frederick J., Lemons, Jack E., : Academic Press, 2013																																									

時間割番号	0361008				
科目名	生体情報数理解析論	科目ID	GC—c6429—L		
担当教員	中島 義和, 杉野 貴明, 周 東博, 小野木 真哉[NAKAJIMA Yoshikazu, SUGINO Takaaki, SHUU Touhaku, ONOGI Shinnya]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b> すべての講義はオンライン(Zoom)で行います。					
<b>授業の目的、概要等</b> 生体計測診断にかかる技術の急速な発展にともない, 人工能をはじめとした医療生体情報の統合的解析ならびに数理コンピューティング理論の確立への期待が高まっている. 本講義では, 同分野での研究ならびにシステム開発に必要な数理解析の基礎理論を解説するとともに, 先端動向ならびに具体的な実施例を紹介する.					
<b>授業の到達目標</b> 生体情報のデータ処理ならびに解析手法に関して, 基礎理論を学習するとともに, 先端動向を学ぶ.					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/6	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	医療データの人工知能 解析 1	杉野 貴明
2	5/13	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	生体信号処理と医療福 祉工学への応用 1	周 東博
3	5/20	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	医療データの数理・統計 解析 2	中島 義和
4	5/27	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	医療データの人工知能 解析 2	杉野 貴明
5	6/3	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	医療データの数理・統計 解析 1	小野木 真哉
6	6/10	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	生体信号処理と医療福 祉工学への応用 2	周 東博
<b>授業方法</b> 講義形式で行う.					
<b>授業内容</b> 統計解析, 数理シミュレーション, 人工知能 (AI) 解析, 医用システム開発基礎理論.					
<b>成績評価の方法</b> 講義への参加回数, 質問や意見などの講義への貢献度, ならびにレポートにより, 総合的に評価する.					
<b>成績評価の基準</b> 講義への参加状況(50%)ならびにレポート(50%)に基づいて評価する.					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 統計解析手法やデータ処理手法を数学的に理解するために必要な基礎知識を学習しておくこと. 詳細は初回講義に実施されるガイダンス ならびに各講義回において適宜指示する.					
<b>試験の受験資格</b> 制限なし					

<b>構成ユニット</b> 中島義和, 小野木真哉, 杉野貴明, 周東博
<b>モジュールの単位判定</b> 受講状況ならびにレポート課題のクオリティに基づいて, 統合的に判断する.
<b>教科書</b> 必要に応じて資料を配布する.
<b>参考書</b> 必要に応じて適宜, 資料を配布する.
<b>履修上の注意事項</b> 特になし。
<b>備考</b> 特になし。
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 中島 義和 nakajima.bmi@tmd.ac.jp
<b>オフィスアワー</b> 中島 義和 毎週月曜日 15:00-16:30 駿河台キャンパス 21号館 4階 409A

時間割番号	0361009																																																										
科目名	理研生体分子制御学特論			科目ID	GC—c6190-L																																																						
担当教員	岸田 晶夫, 谷内 一郎, 田中 元雅, 石垣 和慶, 田上 俊輔, 今見 孝志, 泉 正範, 宮坂 信彦, 遠藤 良, 野村 高志, Gailhouste, Luc Nicolas[KISHIDA AKIO, Ichiroh Taniuchi, Motomasa Tanaka, ISHIGAKI Kazuyoshi, Shunsuke Tagami, IMAMI Takashi, IZUMI Masanori, Nobuhiko Miyasaka, Ryo Endoh, NOMURA Takashi, Gailhouste, Luc Nicolas]																																																										
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	2																																																						
実務経験のある教員による授業																																																											
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。																																																											
<b>主な講義場所</b> 別表のとおり																																																											
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 分子細胞病態学、生体内合成化学、分子免疫学、分子神経病態学などの分野で用いられている生体機能分子の探索・創製とこれを用いた高次生命現象の理解のための基礎知識を習得し、医学・生物学への応用研究について理解を深める。 概要: 分子細胞病態学、生体内合成化学、分子免疫学、分子神経病態学に必要な基礎的手法を講義し、生体機能分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。																																																											
<b>授業の到達目標</b> 生体分子制御学は、生体機能を制御するタンパク質・糖・ホルモンなどを対象として、構造生物学、分子免疫学、分子神経病態学の基礎と、医学・生物学への応用を理解する学問分野であり、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となる生体機能分子に着目し、最先端の研究動向について教育する。																																																											
<b>授業計画</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6/20</td> <td>09:45-12:00</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>植物の分子細胞生物学</td> <td>泉 正範</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/20</td> <td>13:00-15:15</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>構造生物学</td> <td>野村 高志</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>15:30-17:45</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>分子神経生物学</td> <td>遠藤 良</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8/27</td> <td>09:45-12:00</td> <td>横浜理研 北研究棟 5F 会議 室</td> <td>生体高分子エンジニアリ ング</td> <td>田上 俊輔</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>8/27</td> <td>13:00-15:15</td> <td>横浜理研 北研究棟 5F 会議 室</td> <td>免疫細胞分化分子制御</td> <td>谷内 一郎</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>8/27</td> <td>15:30-17:45</td> <td>横浜理研 北研究棟 5F 会議 室</td> <td>先端プロテオミクス</td> <td>今見 孝志</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>8/29</td> <td>13:00-15:15</td> <td>和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505</td> <td>分子神経病態学</td> <td>田中 元雅</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8/29</td> <td>15:30-17:45</td> <td>和光理研 脳中央棟 5F セミナ</td> <td>化学感覚の分子神経制 御</td> <td>宮坂 信彦</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	6/20	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	植物の分子細胞生物学	泉 正範	2	6/20	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	構造生物学	野村 高志	3	6/20	15:30-17:45	遠隔授業 (同期型)	分子神経生物学	遠藤 良	4	8/27	09:45-12:00	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	生体高分子エンジニアリ ング	田上 俊輔	5	8/27	13:00-15:15	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	免疫細胞分化分子制御	谷内 一郎	6	8/27	15:30-17:45	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	先端プロテオミクス	今見 孝志	7	8/29	13:00-15:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	分子神経病態学	田中 元雅	8	8/29	15:30-17:45	和光理研 脳中央棟 5F セミナ	化学感覚の分子神経制 御	宮坂 信彦
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																																						
1	6/20	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	植物の分子細胞生物学	泉 正範																																																						
2	6/20	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	構造生物学	野村 高志																																																						
3	6/20	15:30-17:45	遠隔授業 (同期型)	分子神経生物学	遠藤 良																																																						
4	8/27	09:45-12:00	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	生体高分子エンジニアリ ング	田上 俊輔																																																						
5	8/27	13:00-15:15	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	免疫細胞分化分子制御	谷内 一郎																																																						
6	8/27	15:30-17:45	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	先端プロテオミクス	今見 孝志																																																						
7	8/29	13:00-15:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	分子神経病態学	田中 元雅																																																						
8	8/29	15:30-17:45	和光理研 脳中央棟 5F セミナ	化学感覚の分子神経制 御	宮坂 信彦																																																						



			一室 S505		
9	9/5	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	免疫疾患発症の分子制御	石垣 和慶
10	9/5	15:30-17:45	遠隔授業 (同期型)	ノンコーディング RNA と エピジェネティクス	Gailhouste, Luc Nicolas
<b>授業方法</b>					
ゼミ形式で教員による講義や学生のプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
<b>成績評価の方法</b>					
授業の参加状況(40%)及びレポート(60%)に基づいて総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
なし。					
<b>参考書</b>					
Introduction to Glycobiology Third Edition (Maureen E. Taylor and Kurt Drickamer, Oxford University Press)、Essentials of Glycobiology, 2nd edition (Ajit Varki, Richard D Cummings, Jeffrey D Esko, Hudson H Freeze, Pamela Stanley, Carolyn R Bertozzi, Gerald W Hart, and Marilyn E Etzler, Cold Spring Harbor Laboratory Press)、Fundamentals of Protein Structure and Function (Buxbaum and Engelbert, Springer)、Neuroscience: Exploring the Brain 4th Edition (Mark F. Bear, Barry Connors and Mike Paradiso, Wolters Kluwer)					
<b>備考</b>					
科目責任者 理研生体分子制御学分野(谷内)連携教授室					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
谷内 一郎:ichiro.taniuchi@riken.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
谷内 一郎:谷内 一郎:授業内容等に関する質問は、随時、科目担当者に相談すること 科目担当者 理研生体分子制御学分野(谷内)連携教授(随時メールで対応可)					

時間割番号	0361010				
科目名	病態推論特論	科目ID	GC—c6411—L		
担当教員	角 勇樹, 赤座 実穂, 西尾 美和子[SUMI YUKI, AKAZA MIHO, NISHIO Miwako]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1~	単位数	2
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 講師によって異なる					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 検査データから病態を推論するトレーニングを行い, 病態の理解を通して臨床医と議論することができる臨床検査技師を育成する。 概要: 実際の検査所見をもとに、その基本的な解釈方法を身につけ、患者病態を推論する能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b> 検査部の診察端末のデータから、その患者の病態を推論し、鑑別すべき疾患や重症度、さらに必要な検査などを説明できるようになる。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/1	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	虚血性心疾患	角 勇樹
2	10/2	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	急性感染症	角 勇樹
3	10/8	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	神経内科的疾患(1)	赤座 実穂
4	10/9	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	貧血, 血球減少	西尾 美和子
5	10/15	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	不明熱	角 勇樹
6	10/16	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	慢性感染症	角 勇樹
7	10/22	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	生活習慣病	角 勇樹
8	10/23	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	神経内科的疾患(2)	赤座 実穂
9	10/28	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	白血病	西尾 美和子
10	10/30	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	膠原病	角 勇樹
11	11/5	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	アレルギー性疾患	角 勇樹
12	11/6	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	不整脈	角 勇樹
13	11/12	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	悪性腫瘍の化学療法	赤座 実穂
14	11/13	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	悪性リンパ腫	西尾 美和子
15	11/19	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	自己炎症性疾患	角 勇樹
<b>授業方法</b>					

<p>教員が提示する症例について、全体で討議を行って臨床検査医学の知識を深める。</p>
<p><b>授業内容</b>            授業スケジュールに記載。</p>
<p><b>成績評価の方法</b>            討議への参加状況とレポートを参考に、総合的評価を行う。</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b>            一般的な検査データについて、およその基準値と臨床的意義を復習しておくこと。</p>
<p><b>教科書</b>            必要に応じて指示する。</p>
<p><b>参考書</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. この検査データを読めますか？ 検査と技術 40 巻増刊号, 2012, 医学書院</li> <li>2. UpToDate®(本学情報システムからアクセス可)</li> <li>3. <a href="http://www.tmd.ac.jp/gradh/bi/lecture/lab/index.html">http://www.tmd.ac.jp/gradh/bi/lecture/lab/index.html</a></li> </ol>
<p><b>履修上の注意事項</b>            医学系卒業の学生でないと授業内容を十分に理解できない場合があるので、履修登録の際に、シラバスを確認の上、科目責任者へ事前に問い合わせることを推奨します。</p>

時間割番号	0361011				
科目名	高度臨床実践特別演習入門	科目ID	GB—c6412-L		
担当教員	大川 龍之介, 東田 修二, 梶原 道子, 副島 友莉恵, 藤代 瞳[OKAWA RYUNOSUKE, TODA SHUJI, KAJIWARA MICHIKO, SOEJIMA YURIE, FUJISHIRO Hitomi]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業:日本語で行う。					
<b>主な講義場所</b>					
医学部附属病院検査部, 輸血・細胞治療センター, 病理部:3号館16階 生体検査科学研修室および Zoom					
<b>授業の目的、概要等</b>					
<p>医歯学総合研究科と病院が連携して医療人育成の卒業教育に取り組むために、臨床検査技師の資格をもつ大学院学生を対象としたインターンシップであるヘルスケアアシスタント(HCA)制度を設け、非常勤職員として実際に業務に就きながら研修する制度を設けている。本演習は HCA 新規採用申請者のうち、検査部または輸血・細胞治療センター、病理部(細胞診)での業務を希望する学生を対象として、検査部、輸血・細胞治療センターは業務に就く前に4月から5月にかけて、病理部(細胞診)は業務と並行して前期に、必要な知識と技術を身につけるために実施する演習である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病院検査部または輸血・細胞治療センターの業務内容の概略を理解する。</li> <li>2) 検査の技能、結果報告、患者対応、トラブルへの対処法の基本を修得する。</li> <li>3) 検査部または輸血・細胞治療センターの業務の一部を適切に実行できる。</li> <li>4) 病理部での細胞診業務に必要な知識を、細胞検査士資格認定試験問題(筆記、画像)を解き修得する。</li> </ol>					
<b>授業方法</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査部または輸血・細胞治療センターにおいて、講義と演習を行う。</li> <li>・病理部(細胞診)の授業は対面または Zoom で、学生が問題を解説するアクティブラーニング形式で行う。</li> </ul>					
<b>授業内容</b>					
<b>【検査部の場合】</b>					
回数	授業内容	担当教員			
第1回	検査部業務とISO15189の概論	東田修二, 市村直也			
第2回	中央採血室の業務	甲田祐樹			
第3回	生理機能検査の業務	青柳栄子			
第4回	採血手技:患者と採血者にとって安全な採血	甲田祐樹			
第5回	採血の準備と採取検体の取り扱い	甲田祐樹			
第6回	心電図の検査法	青柳栄子			
第7回	心電図の解釈	青柳栄子			
第8回	力量評価	甲田祐樹, 青柳栄子			
※ 力量評価に合格しなかった場合、その業務に従事することはできない。					
<b>【輸血・細胞治療センターの場合】</b>					
回数	授業内容	担当教員			
第1回	センターの業務とISO15189の概論	梶原道子, 大友直樹			
第2回	輸血療法概論	梶原道子, 大友直樹			
第3回	血液製剤管理業務	大友直樹			
第4回	検体受付業務	大友直樹			
第5回	検査業務①(血液型検査, 不規則抗体検査)	大友直樹			
第6回	検査業務②(交差適合試験)	大友直樹			
第7回	検査結果の解釈(製剤の選択を含む)	大友直樹			
第8回	力量評価	梶原道子, 大友直樹			

<p><b>【病理部(細胞診)の場合】</b></p> <p>回数 授業内容 担当教員</p> <p>第1回 婦人科1 副島友莉恵</p> <p>第2回 婦人科2 副島友莉恵</p> <p>第3回 呼吸器 副島友莉恵</p> <p>第4回 消化器 副島友莉恵</p> <p>第5回 体腔液・尿 副島友莉恵</p> <p>第6回 技術 副島友莉恵</p> <p>第7回 総論 副島友莉恵</p> <p>第8回 確認テスト 副島友莉恵</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO15189 に定められている基本的な知識と技能を修得したか、実技試験で確認する。</li> <li>・病理部(細胞診)は講義後の確認テストおよび参加態度で評価する。</li> </ul>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採血、心電図、血液型検査などに関する学部教育の基礎知識を復習しておくこと。</li> <li>・病理部(細胞診)では必ず問題を予習して参加すること。またアトラスを用いた自主学習も行うこと。</li> </ul>
<p><b>参考書</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床検査法提要 (金原出版)</li> <li>2) 免疫検査学(医歯薬出版)の輸血検査学の部分</li> <li>3) 生理機能検査学(医歯薬出版)</li> <li>4) JAMT 技術教本シリーズ 循環機能検査技術教本(日本臨床衛生検査技師会)</li> <li>5) 細胞診を学ぶ人のために(医学書院)</li> <li>6) 細胞診セルフアセスメント(医学書院)</li> </ol>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院内では医療スタッフとしてのマナーを遵守すること。 ・本演習は、合格後にHCAとして勤務することを希望する学生のみを対象とする。 ・病理部での細胞診業務は、細胞検査士資格認定試験受験を目指す学生を対象とし、業務と本演習を並行して行う。</li> </ul>
<p><b>備考</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査技師免許および HCA 採用申請手続き(書式は本学 HP からダウンロードできる、毎年度更新)が必要。</li> <li>・病理部で細胞診以外の業務を希望する場合は本演習の履修は不要。</li> </ul>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>大川 龍之介:ohkawa.alc@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>大川 龍之介:特定の日時を確保できないためメールでアポイントメントを取ってください。</p>

時間割番号	0361012				
科目名	高度臨床実践特別演習 I	科目ID	GB—c6413-S		
担当教員	大川 龍之介, 東田 修二, 梶原 道子, 副島 友莉恵[OKAWA RYUNOSUKE, TODA SHUJI, KAJIWARA MICHIKO, SOEJIMA YURIE]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	2
実務経験のある教員による授業					
英語による授業.日本語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 今後の状況に応じ、休講の可能性がある。					
病院検査部, 病理部, 輸血・細胞治療センター					
<b>授業の目的、概要等</b> 医歯学総合研究科と病院が連携して医療人育成の卒業教育に取り組むために、臨床検査技師の資格をもつ大学院学生を対象としたインターンシップであるヘルスケアアシスタント(HCA)制度を設け、非常勤職員として実際に業務に就きながら研修する制度を設けている。本演習はこの制度を利用した博士1年生を対象とするインターンシップで、本学附属病院の非常勤職員として毎週4時間程度、検査部、病理部、または輸血・細胞治療センターに勤務しながら(有報酬)、臨床検査技師に必要な基本的技能、職場で求められる態度、職業的倫理観などを身につけるとともに、教員との discussion を通して現在の臨床検査の問題点や研究課題を見出すことを目的としている。					
<b>授業の到達目標</b> 1) 病院検査部, 病理部, または輸血・細胞治療センターの業務内容を理解する。 2) 検査の技能, 結果報告, 患者対応, トラブルへの対処を修得する。 3) 検査部, 病理部, または輸血・細胞治療センターの業務の一部を適切に実行できる。 4) 現状の臨床検査の問題点や, 将来へ向けての研究課題などを考察し, 教員と話し合う。					
<b>授業方法</b> HCA として毎週4時間程度, 検査部, 病理部, または輸血・細胞治療センターに勤務し, 体験したこと, 考えたことなどを教員と話し合う。					
<b>授業内容</b> スケジュールは参加者の都合も聞いてうえで別途作成する。  (以下, 詳細) <b>【輸血・細胞治療センター】</b> 各種血液細胞製剤及び再生医療等製品の取扱いや加工・調製について、臨床検査技師がどのように関りを持っているのかを学び、担当教員の指導の下作業手順に沿って実践する。  1. 輸血用血液製剤 1) 新生児・小児症例に対する製剤分割処理 2) 重篤なアレルギー性輸血副反応症例に対する血小板洗浄術 3) 同種クリオプレシピレート作成術 4) 自己生体組織接着剤作成術 5) 自己血の血漿分離及び赤血球液の調製  2. 造血幹細胞 1) 血液型ミスマッチドナーの骨髄細胞処理 2) 末梢血幹細胞採取 3) 細胞凍結処理(CPC 調整室内無菌操作)  3. 再生医療等製品 1) テムセル(間葉系幹細胞)					

- (1) 凍結保存されている製品の解凍
- (2) 生理食塩液による細胞濃度調整及び投与量分取(無菌操作)
- 2) PRP(多血小板血漿)
  - (1) 自己血由来 PRP から炎症性サイトカインと成長因子を濃縮した APS(Autologous Protein Solution)の抽出操作(無菌操作)
- 3) ハートシート(骨格筋由来細胞シート)
  - (1) 血清分離操作(無菌操作)
  - (2) 手術室での血液採取補助
- 4) キムリア(CAR-T 細胞療法)
  - (1) プログラムフリーザーの操作

**【病理部】**

病理部では以下の業務に従事できる。

1. 病理標本作製補助
2. 免疫組織化学染色
3. 細胞診検査

※HCA で細胞診検査実務に1年以上従事することにより、細胞検査士資格認定試験受験を目指すことができる。

細胞診業務は原則受験を目指す学生を対象とする。その他の病理部業務も受入れの人数制限があるため、病理部希望者は事前に形態情報解析学分野 副島(soejima.mp@tmd.ac.jp)まで連絡すること。

**【検査部】**

検査部では以下の業務に従事する。

1. 中央採血室での採血業務

※ 手背採血という高度な技術が必要な部位からの採血は、交代率 3%未満を達成した者から順次トレーニングし実施できる。

2. 生理検査室での心電図業務

**成績評価の方法**

勤務状況および科目責任者との面接による。

**準備学習等についての具体的な指示**

検査部、輸血・細胞治療センターの場合は、あらかじめ臨床実践特別演習入門を受講して試験に合格していることが必要。

**参考書**

- 1) Medical Technology (医歯薬出版) 臨床検査技術の詳しい解説、話題、情報提供などを掲載した月刊誌。
- 2) 臨床検査 (医学書院) 臨床検査技術の詳しい解説、話題、情報提供などを掲載した月刊誌。
- 3) 臨床検査法提要 (金原出版) 臨床検査法全般に関するバイブル。
- 4) 免疫検査学(医歯薬出版) の輸血検査学の部分。
- 5) 生理機能検査学(医歯薬出版)
- 6) JAMT 技術教本シリーズ 循環機能検査技術教本(日本臨床衛生検査技師会)
- 7) JAMT 技術教本シリーズ 輸血・移植検査技術教本

**履修上の注意事項**

病院内では臨床検査技師として責任を持って勤務する。

**備考**

臨床検査技師免許および HCA 採用申請手続き(書式は本学 HP からダウンロードできる、毎年度更新)が必要。労働基準法、最低賃金法、労災保険法が適用される。

**連絡先(メールアドレス)**

大川 龍之介:ohkawa.alc@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

大川 龍之介:特定の日時を確保できないためメールでアポイントメントを取ってください。

時間割番号	0361013				
科目名	高度臨床実践特別演習Ⅱ	科目ID	GB—c6414-S		
担当教員	大川 龍之介, 東田 修二, 梶原 道子, 副島 友莉恵[OKAWA RYUNOSUKE, TODA SHUJI, KAJIWARA MICHIKO, SOEJIMA YURIE]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	2~	単位数	2
実務経験のある教員による授業					
英語による授業.日本語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 病院検査部, 病理部, 輸血・細胞治療センター					
<b>授業の目的、概要等</b> 医歯学総合研究科と病院が連携して医療人育成の卒後教育に取り組むために、臨床検査技師の資格をもつ大学院学生を対象としたインターンシップであるヘルスケアアシスタント(HCA)制度を設け、非常勤職員として実際に業務に就きながら研修する制度を設けている。本演習はこの制度を利用した博士2年生を対象とするインターンシップで、本学附属病院の非常勤職員として毎週4時間程度、検査部、病理部、または輸血・細胞治療センターに勤務しながら(有報酬)、臨床検査技師に必要な基本的技能、職場で求められる態度、職業的倫理観などを身につけるとともに、教員との discussion を通して現在の臨床検査の問題点や研究課題を見出すことを目的としている。1年次の同演習(1)から継続して履修する者が多いと思うが、2年目には異なる部署に(例えば検査部から輸血・細胞治療センターへ)移動してみることも勉強になると思うので、希望者は早めに相談に来てください。					
<b>授業の到達目標</b> 1) 病院検査部, 病理部, または輸血・細胞治療センターの業務内容を理解する。 2) 検査の技能, 結果報告, 患者対応, トラブルへの対処を修得する。 3) 検査部, 病理部, または輸血・細胞治療センターの業務の一部を適切に実行できる。 4) 現状の臨床検査の問題点や, 将来へ向けての研究課題などを考察し, 教員と話し合う。					
<b>授業方法</b> HCAとして毎週4時間程度、検査部、病理部、または輸血・細胞治療センターに勤務し、体験したこと、考えたことなどを教員と話し合う。					
<b>授業内容</b> スケジュールは参加者の都合も聞いたうえで別途作成する。  (以下、詳細) <b>【輸血・細胞治療センター】</b> 各種血液細胞製剤及び再生医療等製品の取扱いや加工・調製について、臨床検査技師がどのように関わりを持っているのかを学び、担当教員の指導の下作業手順に沿って実践する。  1. 輸血用血液製剤 1) 新生児・小児症例に対する製剤分割処理 2) 重篤なアレルギー性輸血副反応症例に対する血小板洗浄術 3) 同種クリオプレシピテート作成術 4) 自己生体組織接着剤作成術 5) 自己血の血漿分離及び赤血球液の調製  2. 造血幹細胞 1) 血液型ミスマッチドナーの骨髄細胞処理 2) 末梢血幹細胞採取 3) 細胞凍結処理(CPC 調整室内無菌操作)  3. 再生医療等製品 1) テムセル(間葉系幹細胞) (1) 凍結保存されている製品の解凍					



<p>(2) 生理食塩液による細胞濃度調整及び投与量分取(無菌操作)</p> <p>2) PRP(多血小板血漿)</p> <p>(1) 自己血由来 PRP から抗炎症性サイトカインと成長因子を濃縮した APS(Autologous Protein Solution)の抽出操作(無菌操作)</p> <p>3) ハートシート(骨格筋由来細胞シート)</p> <p>(1) 血清分離操作(無菌操作)</p> <p>(2) 手術室での血液採取補助</p> <p>4) キムリア(CAR-T 細胞療法)</p> <p>(1) プログラムフリーザーの操作</p> <p><b>【病理部】</b>  病理部では以下の業務に従事できる。</p> <p>1. 病理標本作製補助</p> <p>2. 免疫組織化学染色</p> <p>3. 細胞診検査</p> <p>※HCA で細胞診検査実務に1年以上従事することにより、細胞検査士資格認定試験受験を目指すことができる。細胞診業務は原則受験を目指す学生を対象とする。その他の病理部業務も受入れの人数制限があるため、病理部希望者は事前に形態情報解析学分野 副島(soejima.mp@tmd.ac.jp)まで連絡すること。</p> <p><b>【検査部】</b>  検査部では以下の業務に従事する。</p> <p>1. 中央採血室での採血業務</p> <p>※ 手背採血という高度な技術が必要な部位からの採血は、交代率 3%未満を達成した者から順次トレーニングし実施できる。</p> <p>2. 生理検査室での心電図業務</p>
<p><b>成績評価の方法</b>  勤務状況および科目責任者との面接による。</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b>  2 年次に初めて参加する者、1 年次とは異なる部署を希望する者に対しては必要な研修を行うので、あらかじめ相談に来ること。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>1) Medical Technology (医歯薬出版) 臨床検査技術の詳しい解説、話題、情報提供などを掲載した月刊誌。</p> <p>2) 臨床検査 (医学書院) 臨床検査技術の詳しい解説、話題、情報提供などを掲載した月刊誌。</p> <p>3) 臨床検査法提要 (金原出版) 臨床検査法全般に関するバイブル。</p> <p>4) 免疫検査学(医歯薬出版) の輸血検査学の部分。</p> <p>5) 生理機能検査学(医歯薬出版)</p> <p>6) JAMT 技術教本シリーズ 循環機能検査技術教本(日本臨床衛生検査技師会)</p> <p>7) JAMT 技術教本シリーズ 輸血・移植検査技術教本</p>
<p><b>履修上の注意事項</b>  病院内では臨床検査技師として責任を持って勤務する。</p>
<p><b>備考</b>  臨床検査技師免許および HCA 採用申請手続き(書式は本学 HP からダウンロードできる、毎年度更新)が必要。  労働基準法、最低賃金法、労災保険法が適用される。翌年度に本学に就職が内定した者、就職を希望するものに対しては、例外として9月末で HCA を退職した場合でも単位認定する。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b>  大川 龍之介:ohkawa.alc@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b>  大川 龍之介:特定の日時を確保できないためメールでアポイントメントを取ってください。</p>

時間割番号	0361014				
科目名	疾患予防パブリックヘルス医学概論	科目ID	GC—c8606—L		
担当教員	中村 桂子, 清野 薫子, 岡田 卓也, 秋田 恵一, 伊藤 崇, 森田 彩子, 具 芳明, 石野 智子[NAKAMURA KEIKO, SEINO KAORUKO, OKADA TAKUYA, AKITA KEIICHI, ITO TAKASHI, MORITA AYAOKO, GU Yoshiaki, ISHINO Tomoko]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1~	単位数	2
実務経験のある教員による授業					
全てを英語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
講義室(後日連絡)または ZOOM(Web 遠隔講義システム)で実施する。ZOOM 講義受講に必要な ID 及びパスワードは履修登録者にメールにて通知する。 参加型授業のためリアルタイムでの授業参加を原則とする。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
疾患予防の研究、データサイエンス医学、実装医科学、診療、地域実践、政策領域で国際的にリーダーシップを発揮することを目指す人材が、国際的な疾病状況をふまえた上での疾患予防、データサイエンス医学、実装医科学に関わるパブリックヘルス医学の知識、技術を修得し、疾患予防の幅広い領域の研究教育、実務に携わる基本能力を獲得することを目的とする。「データ駆動グローバルヘルス医科学研究国際人材育成プログラム」(医系)「データサイエンス生命科学国際人材育成プログラム」(生命理工医療科学系)参加学生、医歯学専攻「グローバルヘルスプロフェッショナル(GHP)コース」登録学生の必修科目である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患予防におけるパブリックヘルスの概念を説明できる</li> <li>・データサイエンスの手法による基礎医学、臨床医学、社会医学の研究開発について説明できる</li> <li>・実装科学の理論による医学研究の展開について説明できる</li> <li>・疾患予防の医学研究について説明できる</li> <li>・国際医学研究における倫理的事項を説明できる</li> <li>・疾患予防に関わる国境を越えた課題を説明できる</li> <li>・医学研究の歴史について説明できる</li> <li>・医学教育医学研究におけるリーダーシップについて説明できる</li> </ul>					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	11/5	16:00-19:10	未定	グローバルヘルスにおける実装医科学総論	中村 桂子
2	11/12	08:50-12:00	未定	Lifecouse epidemiology	藤原 武男
3	11/26	16:00-19:10	未定	感染症予防	具 芳明
4	12/3	16:00-19:10	未定	熱帯病予防	石野 智子
5	12/10	16:00-19:10	未定	生活習慣病予防と実装科学	清野 薫子
6	12/17	16:00-19:10	未定	がん予防	岡田 卓也
7	1/14	16:00-19:10	未定	解剖学の歴史と献体	秋田 恵一
8	1/21	16:00-19:10	未定	リーダーシップ	中村 桂子
<b>授業方法</b>					
授業は英語で行う。 講義、グループディスカッション、チームプロジェクトの形式で行う。 外国人学生、日本人学生が同じ授業に参加する。 医歯学、生命理工医療科学の学生が同じ授業で学習する。 同期型授業であり、原則として、授業時間に参加することが必要である。					
<b>授業内容</b>					
別表のとおり					

<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>授業への参加状況、グループワークにおける参加状況、およびレポートに基づいて総合的に評価を行う。</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>授業への参加状況、グループワークにおける参加状況、およびレポートに基づいて総合的に評価を行う。</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>事前に教材を配布された場合は、指示に従い十分な学習を行うこと。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>必要に応じて授業中に提示する。</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>「データ駆動グローバルヘルス医科学研究国際人材育成プログラム」(医学系)の必修科目であり、同プログラムの選考により入学した学生(医系)は、必ず履修が必要です。「データサイエンス生命科学研究国際人材育成プログラム」(生命理工医療科学系)の必修科目であり、同プログラムの選考により入学した学生は、必ず履修が必要です。 博士課程医歯学専攻「グローバルヘルスプロフェSSIONAL (GHP)コース」登録の学生は、必ず履修が必要です。 医歯学(博士課程)、生命理工医療科学(博士課程)、に、その他の一般選考で入学した学生においても、本科目を選択することが可能です。 本科目は同期型授業で、授業時間に参加することが原則であるが、特別な理由があり授業時間に参加できない場合は、録画ビデオを視聴してレポートを提出することで、授業参加とみなされることがある。その場合は、教務第一係(grad01@ml.tmd.ac.jp) に報告し、科目責任者(中村教授:nakamura.ith@tmd.ac.jp)の許可を得る必要がある。レポートの提出期限は2025年1月31日。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>日本人学生、留学生が参加し、疾病予防に関わるテーマについて英語による授業を行います。疾患予防のグローバルリーダー育成、データサイエンス医科学研究国際人材育成、データ駆動グローバルヘルス医科学研究国際人材育成の一環として位置づけています。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>中村 桂子:nakamura.ith@tmd.ac.jp  石野 智子:tishino.vip@tmd.ac.jp  具 芳明:yogu.cid@tmd.ac.jp  森田 彩子:morita.hlth@tmd.ac.jp  秋田 恵一:akita.fana@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>中村 桂子:Office hours:  Please contact Prof. Keiko Nakamura at nakamura.ith@tmd.ac.jp  石野 智子:メールにて事前に連絡ののち、M&amp;D タワーの16階 寄生虫学・熱帯医学分野の教授室にて  具 芳明:毎週月曜日 14-16時 毎週金曜日 14-16時 M&amp;D タワー17階 統合臨床感染症学分野教授室  秋田 恵一:メール等でアポイントメントを取ること。</p>

時間割番号	0361015					
科目名	臨床・遺伝統計学	科目ID	GC—c8608—L			
担当教員	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]					
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	2	
実務経験のある教員による授業						
全て英語で行う						
主な講義場所 遠隔授業(非同期型)						
授業の目的、概要等 授業の目的: 本授業では、疫学、生物医学(臨床、遺伝領域を含む)、その他公衆衛生学に関連した研究に関する生物統計学の概念や基礎的な手法を紹介する。実践的な問題の解決を通じた統計的推論の方法に重点をおく。  概要: 生物統計学は、生物医学、生物学、健康科学データへ適用するための統計学的手法である。また量的研究におけるデータ収集、分析のための重要な技術の一つである。本講義では、基本的な生物統計学の解析手法について、臨床研究、疫学研究、ゲノム研究等の医学データへの応用例を通じて学習する。						
授業の到達目標 a) 生物統計学の基本的な用語を理解し、正しく説明できる。 b) 統計的推定・検定の前提条件や仮定を理解し、特定の状況についてそれぞれの適否を判断できる。 c) 初歩的な統計手法を理解し、いくつかの課題について手計算や統計ソフトを利用し実行でき、図表作成等を実施できる。 d) 統計解析結果を適切な統計表現を用いて記述することができる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/27	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Introduction to Biostatistics	高橋 邦彦	
2	5/27	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Data presentation; Numerical summary measures (1)	安齋 達彦	
3	5/28	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Data presentation; Numerical summary measures (2)	安齋 達彦	
4	5/28	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Probability and Theoretical distributions (1)	安齋 達彦	
5	5/30	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Probability and Theoretical distributions (2)	高橋 邦彦	
6	5/30	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Estimation	高橋 邦彦	
7	5/30	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 1
8	5/30	14:40-16:10	遠隔授業	Laboratory session	高橋 邦彦	Optional 2

			(非同期型)		安齋 達彦	
9	5/31	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Comparing groups – continuous data (1)	高橋 邦彦	
10	5/31	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Comparing groups – continuous data (2)	高橋 邦彦	
11	5/31	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 3
12	5/31	14:40-16:10	遠隔授業 (同期型)	Q&A session (via real-time zoom)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 4
13	6/3	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Comparing groups – categorical data	安齋 達彦	
14	6/3	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Analysis of Variance; Multiple comparison	安齋 達彦	
15	6/3	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 5
16	6/3	14:40-16:10	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 6
17	6/4	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Correlation; linear regression	高橋 邦彦	
18	6/4	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Multivariate analysis (1)	高橋 邦彦	
19	6/4	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 7
20	6/4	14:40-16:10	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 8
21	6/6	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Multivariate analysis (2)	安齋 達彦	
22	6/6	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Multivariate analysis (3)	安齋 達彦	
23	6/6	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 9
24	6/6	14:40-16:10	遠隔授業 (同期型)	Q&A session (via real-time zoom)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	Optional 10
25	6/7	08:50-10:20	遠隔授業	Lecture: Survival analysis	安齋 達彦	

			(非同期型)				
26	6/7	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Genomics data analysis	安齋 達彦		
<b>授業方法</b>							
講義と希望者を対象とした統計演習を行う(非同期型)。オンラインシステムを使用した Q&A など講義内容についての質問ができる方法を設ける予定である。レポート課題を出す。(詳細については後日アナウンス予定)							
<b>授業内容</b>							
授業スケジュール参照							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加状況、宿題、レポートに基づいて評価する。 ・授業への参加状況 50%(60%以上の視聴は必須) ・レポート 50%							
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>							
テキストを配布するため、事前に読んでくれることが望ましい。							
<b>参考書</b>							
Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. Belmont: Brooks/Cole; 2000. Rosner B. Fundamentals of Biostatistics. 8th ed. Brooks/Cole; 2015. Altman DG. Practical Statistics for Medical Research. Chapman & Hall; 1991. Armitage P. Statistical Methods in Medical Research. 4th ed. Blackwell Science Ltd; 2002.							
<b>履修上の注意事項</b>							
履修希望者は、事前に科目責任者より承諾を得ること。							
<b>備考</b>							
コース期間中オンライン Q&A システムが利用でき、希望する場合には Q&A セッション(オプション、2024/5/31 および 6/6 14:40～、zoom)にも参加可能である。 本授業では、STATA 等の統計ソフトを使用する。STATA についてはコース期間中、各自で利用可能である。 対数や指数などの基本的な計算はできることが望ましい。							

時間割番号	0361016					
科目名	先端口腔保健応用学特論	科目ID	GC—c6430—L			
担当教員	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 吉田 直美, 竹内 康雄, 伊藤 奏, 安達 奈穂子, 鈴木 瞳, 日高 玲奈[KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, YOSHIDA Naomi, TAKEUCHI YASUO, ITOU Kanade, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi, NAKAYAMA Rena]					
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	2	
実務経験のある教員による授業						
一部英語で行う、あるいは、留学生が履修登録した場合は英語で行う。 連絡先:学務企画課大学院教務第二係 TEL: 03-5803-4534、Email: grad02@ml.tmd.ac.jp 科目責任者:樺沢勇司 Email: kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp						
<b>主な講義場所</b> 遠隔講義のため自宅						
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的:本科目では口腔保健学研究に必要な基礎的および臨床的な最新の知見について学ぶ。医学、歯学のみならず、理学、工学、検査学(保健学)、社会福祉学をはじめとする関連分野との融合の必要性についても学ぶ。 概要:本特論は、博士課程生命理工医療科学専攻及び医歯学専攻の学生のうち、取得学位に関わらず履修可能である。						
<b>授業の到達目標</b> 講義の2/3以上に参加し、講義内容について理解するとともに、自らの研究テーマを立案することができることを到達目標とする。						
<b>授業計画</b>						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-3	5/6	08:50-14:30	遠隔授業 (非同期型)	口腔保健学概論	最新の知見について、関連する各分野との融合研究について	樺沢 勇司
4	5/20	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	口腔保健学概論	最新の知見について、関連する各分野との融合研究について	樺沢 勇司
5-6	5/27	08:50-12:00	遠隔授業 (非同期型)	口腔保健学1	地域や病院における口腔保健学の応用について	松尾 浩一郎
7-8	6/3	08:50-12:00	遠隔授業 (非同期型)	口腔保健学2	歯科保健医療の最近の動向と研究について	吉田 直美
9-10	6/17	14:30-17:40	遠隔授業 (非同期型)	口腔保健学3	口腔保健学の先進的な臨床研究について	竹内 康雄
11	6/24	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	口腔保健学4	社会疫学、健康格差と口腔保健学について	伊藤 奏
12	6/24	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	口腔保健学5	公衆衛生における口腔保健学について	安達 奈穂子
13	7/1	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	口腔保健学6	歯科衛生学における最近の動向と研究について	鈴木 瞳
14	7/1	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	口腔保健学7	口腔福祉学における最近の動向と研究について	日高 玲奈
15	7/8	18:00-19:30	遠隔授業	まとめ	まとめ、成績評価について	樺沢 勇司

		(同期型)				
<b>授業方法</b>						
ウェブクラスや ZOOM を用いた、遠隔講義を中心とする。						
<b>授業内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔保健学概論,最新の知見について、関連する各分野との融合研究について</li> <li>・地域や病院における口腔保健学の応用について</li> <li>・口腔保健学の先進的な臨床研究について</li> <li>・社会疫学、健康格差と口腔保健学について</li> <li>・公衆衛生における口腔保健学について</li> </ul>						
<b>成績評価の方法</b>						
各講義における、討論、取り組みの熱意、講義後の課題等を総合的に判断して評価する。						
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>						
個別のセミナー、講義等の案内を参照のこと。						
<b>教科書</b>						
各講義担当教員から指示する						
<b>参考書</b>						
各講師により指定される場合がある。						
<b>履修上の注意事項</b>						
遠隔講義が中心であるため、通信環境等の原因で受講困難であった場合には、科目責任者(榊沢)に連絡を必ず行う事。						
<b>連絡先(メールアドレス)</b>						
榊沢 勇司 kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp						
<b>オフィスアワー</b>						
榊沢 勇司:平日 PM5 時以降 可能ならば事前にメール等でご連絡下さい。						
1 号館 8 階 健康支援口腔保健衛生学分野 教授室						



時間割番号	0361017						
科目名	先端口腔保健応用学演習				科目ID	GC—c6431—S	
担当教員	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 吉田 直美, 竹内 康雄, 伊藤 奏, 安達 奈穂子, 日高 玲奈[KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, YOSHIDA Naomi, TAKEUCHI YASUO, ITOU Kanade, ADACHI Naoko, NAKAYAMA Rena]						
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~		単位数	1	
実務経験のある教員による授業							
留学生在が履修登録した場合には英語で行う。							
<b>主な講義場所</b> 東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター他							
<b>授業の目的、概要等</b> 東京医科歯科大学大学院と病院とは医療人育成の卒後教育に取り組むために、歯科衛生士の資格をもつ大学院学生を対象としたインターンシップであるヘルスケアアシスタント(HCA)制度を設け、非常勤職員として実際に業務に就きながら研修する制度を設けている。本演習は HCA 新規採用申請者のうち、オーラルヘルスセンターでの業務を希望する学生を対象として、主に周術期等口腔健康管理を実施するのに必要な知識と技術を身につけるために実施する演習である。							
<b>授業の到達目標</b> 1) オーラルヘルスセンターの業務内容の概略を理解する。 2) 歯科衛生士として求められる、患者対応、トラブルへの対処法の基本を修得する。 3) オーラルヘルスセンターの業務理解し、求められる業務を指導の下で適切に実行できる。							
<b>授業計画</b>							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	6/25	08:50-12:00	その他	周術期における口腔健康管理	周術期における口腔健康管理の概要、本演習についての説明	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 伊藤 奏, 日高 玲奈, 安達 奈穂子, 鈴木 瞳	実習場所:東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター
3-7	6/26	08:50-16:30	その他	周術期における口腔健康管理	周術期における口腔健康管理についての、オーラルヘルスセンターにて研修を行う	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 伊藤 奏, 日高 玲奈, 安達 奈穂子, 鈴木 瞳	実習場所:東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター
8-9	6/27	08:50-12:00	その他	周術期における口腔健康管理	周術期における口腔健康管理についての、オーラルヘルスセンターにて研修を行う	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 伊藤 奏, 日高 玲奈, 安達 奈穂子, 鈴木 瞳	実習場所:東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター
10-17	6/28	08:50-16:00	その他	周術期における口腔健康管理	周術期における口腔健康管理についての、オーラルヘルスセンターにて研修を行う	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 伊藤 奏, 日高 玲奈, 安達 奈穂子, 鈴木 瞳	実習場所:東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター
18-25	7/2	08:50-16:00	その他	周術期における口腔健康管理	周術期における口腔健康管理に	樺沢 勇司,	実習場所:東京医

				健康管理	についての、オーラルヘルスセンターにて研修を行う	松尾 浩一郎 伊藤 奏 日 高 玲奈 安 達 奈穂子 鈴木 瞳	科歯科大学病院 オーラルヘルス センター
26-29	7/3	08:50-16:10	その他	周術期における口腔健康管理	周術期における口腔健康管理についての、オーラルヘルスセンターにて研修を行う	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎 伊藤 奏 日 高 玲奈 安 達 奈穂子, 鈴木 瞳	実習場所:東京医 科歯科大学病院 オーラルヘルス センター
30	7/8	08:50-10:20	その他	周術期における口腔健康管理	まとめ、症例発表を含む	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎 伊藤 奏 日 高 玲奈 安 達 奈穂子, 鈴木 瞳	実習場所:東京医 科歯科大学病院 オーラルヘルス センター

#### 授業方法

オーラルヘルスセンターにおいて、講義と演習を行う。

一部は、症例検討会や ZOOM を用いた、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。

#### 成績評価の方法

症例報告やレポート、講義後の確認テストおよび参加態度で評価する。

#### 準備学習等についての具体的な指示

・周術期等口腔健康管理などに関する学部教育の基礎知識を復習しておくこと。

・事前に周知された、ウェブクラス等にアップロードされた教材について予習・自主学习して参加すること。

#### 教科書

適時、教員より指示する。

#### 参考書

適時教員より指示する。

#### 履修上の注意事項

・病院内では医療スタッフとしてのマナーを遵守すること。 ・本演習は、HCA として勤務することを希望する学生を対象とする。

#### 連絡先(メールアドレス)

樺沢 勇司:kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp

#### オフィスアワー

樺沢 勇司:平日 PM5 時以降 可能ならば事前にメール等でご連絡下さい。

1 号館 8 階 健康支援口腔保健衛生学分野 教授室

時間割番号	0361018					
科目名	先端口腔保健工学特論	科目ID	GC—c6432-L			
担当教員	金澤 学, 大木 明子, 上條 真吾, 岩城 麻衣子, 土田 優美, 池田 正臣, 塩沢 真穂, 宮安 杏奈[KANAZAWA MANABU, OKI MEIKO, KAMIJO SHINGO, IWAKI Maiko, TSUCHIDA Yuumi, IKEDA MASAOMI, SHIOZAWA Maho, MIYAYASU Anna]					
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1	
実務経験のある教員による授業						
留学生在が履修登録した場合は英語で行う						
<b>授業の目的、概要等</b>						
<p>授業目的: 口腔保健工学を支える研究, 技術の多彩で具体的な応用例を学ぶことにより, 幅広い問題解決についての知識を得ることを目的としている。</p> <p>概要: 口腔医療工学分野, 口腔デジタルプロセス学分野, 口腔基礎工学分野の教員が担当し, 口腔保健工学を支える研究・技術について各自の先端的専門分野を基盤に講義する。</p>						
<b>授業の到達目標</b>						
口腔保健工学を支える研究成果・技術について, それぞれの開発・応用・機能及び問題点の各項目について議論し, 先端的な知識を具体的な応用に結びつける戦略について学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	10/4	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンティストリーの臨床	Clinical application of digital density	金澤 学
2	10/11	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンチャー製作法の開発	The cutting edge of digital denture	金澤 学
3	10/25	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	無歯顎補綴における臨床研究	Clinical research for edentulous patients	宮安 杏奈
4	11/4	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	インプラントオーバーデンチャーの研究	Clinical research for implant overdenture	岩城 麻衣子
5	11/8	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	歯科臨床・教育支援用アプリケーションソフトウェアの開発	Development Application Software for Clinical and Educational Support in Dentistry	土田 優美
6	11/15	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	歯科用フェイスナルスキャナの研究	Research of Facial Scanners for Dentistry	土田 優美
7	11/22	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	コンポジットレジンの歯科技工操作	Dental laboratory procedures for indirect resin composite restoration	池田 正臣
8	11/29	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	歯科技工と接着	Dental laboratory work and adhesive materials	池田 正臣
9	12/6	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	3D プリンターを用いた歯科技工	Fabrication process with 3D printing	池田 正臣
10	12/13	16:00-17:00	遠隔授業 (同期型)	歯冠修復物の補修	Repairing the tooth restoration	佐藤 隆明

11	12/20	16:00-17:00	遠隔授業 (同期型)	歯の診断機器	Update the dental diagnostic devices	佐藤 隆明
12	1/10	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	CAD/CAM用レジン材料の着色	Discoloration of resin materials for CAD/CAM	塩沢 真穂
13	1/17	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンティストリ	Digital Dentistry <Conventional method / Digital method>	上條 真吾
14	1/24	16:00-17:00	遠隔授業 (同期型)	顎顔面補綴におけるCAD/CAM技術の利用	CAD/CAM technology for maxillofacial prosthetics	大木 明子
15	1/31	16:00-17:00	遠隔授業 (同期型)	顎顔面補綴に用いられる材料	Materials and digital technology for facial prostheses	大木 明子

#### 授業方法

複数の教員により多岐にわたる講義を行い、学生の質問を中心とした討議を行うことにより学習を深める。

#### 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

#### 準備学習等についての具体的な指示

特になし。教科書・参考書・参考論文等が、事前に連絡される場合があるので、その際には講義の前に確認しておくこと。

#### 参考書

教科書・参考書・参考論文等は、事前に科目担当者が指示する。

#### 備考

受講者数により、授業スケジュールが一部変更する可能性がある。

#### 連絡先(メールアドレス)

金澤 学:m.kanazawa.gerd@tmd.ac.jp

#### オフィスアワー

金澤 学:火水木金 16:00- 18:00  
2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 Lab 1

時間割番号	0361019																																																																			
科目名	硬組織研究・骨形態計測学特論	科目ID	GC—c6433-L																																																																	
担当教員	青木 和広, 野中 希一, 上條 真吾, Masud Khan[AOKI KAZUHIRO, NONAKA Kiichi, KAMIJO SHINGO, MASUD Khan]																																																																			
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1																																																															
実務経験のある教員による授業																																																																				
留学生が履修登録した場合は英語で行う																																																																				
主な講義場所 同期型遠隔授業																																																																				
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 硬組織研究では欠かすことができない骨密度解析、非脱灰切片の作成方法および骨形態計測法についてその理論と実際の研究手法について学び、自分の研究に骨形態計測を応用することを目的とする。  概要: 非脱灰切片の作成や骨形態計測の実際は、マウスやラットというげっ歯類を用いた実習を行う。講義では、再生骨や顎骨の骨形態計測、イヌやサルなどのリモデリング動物も含めた骨形態計測、さらに、最新の骨密度解析装置についても学ぶ。																																																																				
<b>授業の到達目標</b> 1. 硬組織研究における骨形態計測法の役割について説明できる。 2. 非脱灰切片の破骨細胞と骨芽細胞を見分けることができる 3. 海綿骨や皮質骨における骨形態計測が説明できる。 4. モデリング動物とリモデリング動物における骨形態計測について説明できる。 5. 再生骨や顎骨における骨形態計測について説明できる。 6. 骨密度測定装置について説明できる。 7. 自身の研究に骨形態計測が応用できる。																																																																				
<b>授業計画</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>授業内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/16</td> <td>07:20-08:50</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>骨形態計測総論その1</td> <td>硬組織研究における骨形態計測の意義</td> <td>青木 和広</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>07:20-08:50</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>骨形態計測総論その2</td> <td>硬組織研究における骨形態計測の実際</td> <td>青木 和広</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>7/18</td> <td>07:20-08:50</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>骨密度測定 X線学的解析その1</td> <td>骨密度測定の理論と実際 (DXA、pQCT、超音波など)</td> <td>青木 和広 野中 希一</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9/19</td> <td>07:20-08:50</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>骨形態計測各論その1</td> <td>海綿骨の計測演習(主に長管骨の海綿骨部の計測)</td> <td>青木 和広</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/17</td> <td>07:20-08:50</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>骨形態計測各論その2</td> <td>非脱灰切片標本作成(薄切片、研磨切片)</td> <td>青木 和広 Masud Khan</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/14</td> <td>07:20-08:50</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>X線学的解析その2</td> <td>マイクロCT撮影とその実際</td> <td>青木 和広 上條 真吾</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>12/19</td> <td>07:20-08:50</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>骨形態計測各論その3</td> <td>皮質骨の計測および骨再生部位や顎骨の計測</td> <td>青木 和広</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1/16</td> <td>07:20-08:50</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>まとめ</td> <td>履修した学生全員がこの特論で学んだことを発表し、成果をシェアする</td> <td>青木 和広</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	1	5/16	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測総論その1	硬組織研究における骨形態計測の意義	青木 和広	2	6/13	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測総論その2	硬組織研究における骨形態計測の実際	青木 和広	3	7/18	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨密度測定 X線学的解析その1	骨密度測定の理論と実際 (DXA、pQCT、超音波など)	青木 和広 野中 希一	4	9/19	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測各論その1	海綿骨の計測演習(主に長管骨の海綿骨部の計測)	青木 和広	5	10/17	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測各論その2	非脱灰切片標本作成(薄切片、研磨切片)	青木 和広 Masud Khan	6	11/14	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	X線学的解析その2	マイクロCT撮影とその実際	青木 和広 上條 真吾	7	12/19	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測各論その3	皮質骨の計測および骨再生部位や顎骨の計測	青木 和広	8	1/16	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	まとめ	履修した学生全員がこの特論で学んだことを発表し、成果をシェアする	青木 和広
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員																																																														
1	5/16	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測総論その1	硬組織研究における骨形態計測の意義	青木 和広																																																														
2	6/13	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測総論その2	硬組織研究における骨形態計測の実際	青木 和広																																																														
3	7/18	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨密度測定 X線学的解析その1	骨密度測定の理論と実際 (DXA、pQCT、超音波など)	青木 和広 野中 希一																																																														
4	9/19	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測各論その1	海綿骨の計測演習(主に長管骨の海綿骨部の計測)	青木 和広																																																														
5	10/17	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測各論その2	非脱灰切片標本作成(薄切片、研磨切片)	青木 和広 Masud Khan																																																														
6	11/14	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	X線学的解析その2	マイクロCT撮影とその実際	青木 和広 上條 真吾																																																														
7	12/19	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	骨形態計測各論その3	皮質骨の計測および骨再生部位や顎骨の計測	青木 和広																																																														
8	1/16	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	まとめ	履修した学生全員がこの特論で学んだことを発表し、成果をシェアする	青木 和広																																																														
<b>授業方法</b> 対面授業と実習を基本とし、必要に応じて、同期型遠隔授業を行います。 授業方法が変わる場合は、都度連絡いたします。 あらかじめ、作成してある基本事項説明動画は視聴して講義に臨むこと。 また、最後の授業は、一人、5分ほどのプレゼンテーションを行います。																																																																				

<p>事前の準備をお願いします。(評価方法参照)</p>
<p><b>授業内容</b></p> <p>長管骨の骨改造活性を計測する手法と再生骨の骨動態を定量化する手法とは同様な計測はできない。また、長管骨における皮質骨と海綿骨を計測する手法、さらには、顎骨を計測する手法とは異なり、それぞれの骨の特性を理解した計測手法を用いることにより、生理的な変化あるいは介入の効果を定量化できる。特論の講義・演習では、骨形態計測による定量化の限界とその対処法についても学ぶとともに、骨形態計測と合わせて硬組織研究に必須な X 線学的解析、骨密度測定装置についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(青木和広/5 回)骨形態計測学総論・各論/学生発表(最終回)</p> <p>(上條真吾/1 回)X 線学的解析(<math>\mu</math>CT)</p> <p>(野中希一/1 回)骨密度測定装置(DXA, pQCT, 超音波骨密度測定装置)</p> <p>(Masud Khan/1 回)非脱灰切片作成法</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>講義への参加状況及び最終プレゼンテーションに基づき、以下の割合を目安に成績評価を行う。</p> <p>○講義や実習への参加状況:70%(プレゼンテーションを行う最後の授業以外の 7 回分の出席評価点数であり、1 回 10 点を満点として計算します。)</p> <p>○最終プレゼンテーション:30%</p> <p>(どのように習ったことを自分の研究に応用・展開することを考えられたかを発表してもらいます)</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>①事前に資料がアップされる際には、目を通してから授業に臨むこと。</p> <p>②最終回の発表には必ず出席すること。やむを得なく欠席する場合は、授業が始まるまでに担当教員に連絡すること。</p> <p>③発表は 5 分ほどでまとめること。</p> <p>③発表には、1)自身の研究目的を述べ、2)どの部分に関心領域を設定し、3)どのようなパラメーターを計測するのかを述べる。</p> <p>④他分野の学生にも研究目的が分かるように、平易かつ簡潔な発表をこころがける。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>新しい骨形態計測/山本智章編集,遠藤, 直人,山本, 智章:ウイネット, 2014</p> <p>骨形態計測からヒトの骨組織を見る、知る、学ぶ/山本智章, 平野徹, 田中伸哉編集,遠藤, 直人,山本, 智章,平野, 徹,田中, 伸哉:ウイネット, 2019</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>青木 和広:kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>青木 和広:毎週火曜の 17 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野)</p> <p>これ以外はメールで問い合わせること。</p>

時間割番号	0362001				
科目名	先制医歯理工学概論 I	科目ID	GC—c6415-L		
担当教員	石川 欽也, 田中 敏博, 三林 浩二, 田中 博, 中村 桂子, 大川 龍之介, 竹本 暁[ISHIKAWA KINYA, TANAKA TOSHIHIRO, MITSUBAYASHI KOJI, TANAKA Hiroshi, NAKAMURA KEIKO, OKAWA RYUNOSUKE, TAKEMOTO AKIRA]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語授業を別日程で開講している。					
主な講義場所 ZOOM(Web 遠隔講義システム)					
授業の目的、概要等					
【授業目的】 ゲノムなどのオミックス情報、環境要因情報、臨床情報、生活習慣情報、を収集し、がんや生活習慣病などの疾患の因子やメカニズムを発見、予測モデルを立て、個人に指導や介入することで予防を実現する、先制医療のための学問体系である先制医歯理工学の基本的概念を理解すること。					
【概要】 健康な状態から疾患に至るまでの生物学的過程、遺伝要因と環境要因やエピジェネティクスなどとの基本的な関係、オミックスや生体情報などの取得方法の基本的概念、疾患発症リスクの見積もり方法、指導や介入の基本的な方法、倫理や遺伝カウンセリングについて理解する。					
授業の到達目標 先制医歯理工学における現状と課題の体系的な理解と鳥瞰的な視点の獲得を到達目標とする。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	8/1	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	先制医療や個別化医療の概念、健康から病気に至る過程及び指導介入	石川 欽也
2	8/2	15:00-16:30	遠隔授業 (同期型)	オミックスデータに基づく健康管理アルゴリズム構築の基礎	石川 欽也
3	8/6	15:00-16:30	遠隔授業 (同期型)	ビッグデータとAIによる医療	石川 欽也
4	8/8	13:00-14:30	未定	先制医療のためのパイオバンク構築とオミックスプロファイリング、バイオバンク見学	田中 敏博, 永田 有希, 高橋 健太郎
5	8/19	17:30-19:00	遠隔授業 (同期型)	社会環境要因データと疾病予測モデル	中村 桂子
6	8/22	15:00-16:30	遠隔授業 (同期型)	生体情報モニタリングデバイスの基礎	三林 浩二
7	8/23	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	先制医療や個別化医療の概念、健康から病気に至る過程及び指導介入 その2	石川 欽也
8	9/9	15:00-16:30	遠隔授業 (同期型)	リポミクスと生体試料取り扱いのピットフォー	大川 龍之介

				ル	
<b>授業方法</b>					
先制医歯理工学の第一線で活躍する多彩な講師を招聘し、学生参加型の対話型講義を適宜行う。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義への参加 50%、講義時の質疑など 20%、レポート 30%として評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
特になし。					
<b>参考書</b>					
特になし。					
<b>履修上の注意事項</b>					
特になし。					
<b>備考</b>					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
石川 欽也.pico.nuro@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
石川 欽也.毎週火曜日 AM.10:00-PM.2:00 医学部附属病院 16階 B棟 長寿・健康人生推進センター					



時間割番号	0362001E				
科目名	先制医歯理工学概論 I (英語)	科目ID	GC—c6415-L		
担当教員	石川 欽也, 田中 敏博, 田中 博, 大川 龍之介, 中村 桂子, 吉田 雅幸, 竹本 暁[ISHIKAWA KINYA, TANAKA TOSHIHIRO, TANAKA Hiroshi, OKAWA RYUNOSUKE, NAKAMURA KEIKO, YOSHIDA MASAYUKI, TAKEMOTO AKIRA]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全てを英語で行う					
<b>授業の目的、概要等</b>					
【授業目的】 ゲノムなどのオミックス情報、環境要因情報、臨床情報、生活習慣情報、を収集し、がんや生活習慣病などの疾患の因子やメカニズムを発見、予測モデルを立て、個人に指導や介入することで予防を実現する、先制医療のための学問体系である先制医歯理工学の基本的概念を理解すること。					
【概要】 健康な状態から疾患に至るまでの生物学的過程、遺伝要因と環境要因やエピジェネティクスなどとの基本的な関係、オミックスや生体情報などの取得方法の基本的概念、疾患発症リスクの見積もり方法、指導や介入の基本的な方法、倫理や遺伝カウンセリングについて理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
先制医歯理工学における現状と課題の体系的な理解と鳥瞰的な視点の獲得を到達目標とする。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	11/7	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Introduction	石川 欽也
2	11/7	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Concepts of preemptive medicine and individualized medicine, the process from the healthy state to d	石川 欽也
3	11/11	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	The basics to develop the health management algorithm based on the omics data	石川 欽也
4	11/12	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Medicine based on Big Data and AI	石川 欽也
5	11/14	14:00-15:30	遠隔授業 (同期型)	TBA	吉田 雅幸
6	11/20	13:00-14:30	未定	Establishment of biobanks for preemptive medicine and omics profiling, study tour around biobanks	田中 敏博, 永田 有希, 高橋 健太郎
7	11/22	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Pitfalls of sample handling and lipidomics	大川 龍之介
8	11/25	17:30-19:00	遠隔授業 (同期型)	Use of data science and information technology to advance global public health	中村 桂子

9	11/26	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Practical aspects of personalized medicine for common disease	石川 欽也
<b>授業方法</b>					
先制医歯理工学の第一線で活躍する多彩な講師を招聘し、学生参加型の対話型講義を適宜行う。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義への参加 50%、講義時の質疑など 20%、レポート 30%として評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
特になし。					
<b>備考</b>					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
石川 欽也:pico.nuro@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
石川 欽也:毎週火曜日 AM.10:00-PM.2:00 医学部附属病院 16階 B棟 長寿・健康人生推進センター					

時間割番号	0362002			科目ID	GC—c6416-L
科目名	先制医歯理工学概論Ⅱ				
担当教員	石川 欽也[ISHIKAWA KINYA]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全てを英語で行う					
<b>授業の目的、概要等</b>					
【授業目的】 ゲノムなどのオミックス情報、環境要因情報、臨床情報、生活習慣情報、を収集し、がんや生活習慣病などの疾患の因子やメカニズムを発見、予測モデルを立て、個人に指導や介入することで予防を実現する、先制医療のための学問体系である先制医歯理工学の基本的概念を理解すること。					
【概要】 健康な状態から疾患に至るまでの生物学的過程、遺伝要因と環境要因やエピジェネティクスなどの基本的な関係、オミックスや生体情報などの取得方法の基本的概念、疾患発症リスクの見積もり方法、指導や介入の基本的な方法、倫理や遺伝カウンセリングについて理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
先制医歯理工学における現状と課題の体系的な理解と鳥瞰的な視点の獲得を到達目標とする。					
<b>授業方法</b>					
先制医歯理工学の第一線で活躍する多彩な講師を招聘し、学生参加型の対話型講義を適宜行う。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義への参加 50%、講義時の質疑など 20%、レポート 30%として評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
特になし。					
<b>備考</b>					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
石川 欽也:pico.nuro@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
石川 欽也:毎週火曜日 AM.10:00-PM.2:00 医学部附属病院 16階 B棟 長寿・健康人生推進センター					

時間割番号	0362003				
科目名	データサイエンス特論 I	科目ID	GC—c6360—L		
担当教員	竹内 勝之, 小島 寛之[TAKEUCHI Katsuyuki, KOJIMA Hiroyuki]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
同じ内容の英語授業を別日程で開講している。					
<b>主な講義場所</b>					
授業スケジュールを参照					
<b>授業の目的、概要等</b>					
授業目的: データサイエンスを学ぶうえで基礎となる統計学のエッセンスを習得する。 概要: 本講義では難しい数式を用いず、統計学(ネイマン・ピアソン統計学)を解説する。					
<b>授業の到達目標</b>					
統計学の主要な項目について理解すること。					
<b>授業方法</b>					
講義形式で実施する。					
<b>授業内容</b>					
授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義への参加 70%、講義時の質疑 30%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
なし。					
<b>教科書</b>					
完全独習統計学入門/小島寛之:ダイヤモンド社, 2006					
<b>備考</b>					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 統合教育機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	0362003E				
科目名	データサイエンス特論 I (英語)	科目 ID	GC—c6360-L		
担当教員	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]				
開講時期	2024 年度後期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
All classes are taught in English					
<b>主な講義場所</b>					
Online (Zoom)					
<b>授業の目的、概要等</b>					
Course Purpose: Students will acquire the essence of statistics/biostatistics that is necessary to learn data science as its basis.					
Outline: This course gives lectures on the theoretical frameworks of the basic statistics/biostatistics that is the basis of data analysis methods.					
<b>授業の到達目標</b>					
The goal is to have an image of an error (a probabilistic phenomenon) in data, to become to explain the hypothesis testing as a means of evaluating objects of interest in the data, and to be able to interpret the performance of statistical analyses in accordance with the research objectives.					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/24	14:30-16:00	遠隔授業 (同期型)	Concept of statistical inference for data science	高橋 邦彦
2	10/24	16:10-17:40	遠隔授業 (同期型)	Comparing groups – categorical data	安齋 達彦
3	11/7	14:30-16:00	遠隔授業 (同期型)	Comparing groups – continuous data	安齋 達彦
4	11/7	16:10-17:40	遠隔授業 (同期型)	Correlation and regression	高橋 邦彦
5	11/21	14:30-16:00	遠隔授業 (同期型)	Generalized linear model	高橋 邦彦
6	11/21	16:10-17:40	遠隔授業 (同期型)	Survival analysis	安齋 達彦
7	12/5	14:30-16:00	遠隔授業 (同期型)	Classification and prediction	安齋 達彦
8	12/5	16:10-17:40	遠隔授業 (同期型)	Multivariate methods in data science	高橋 邦彦
<b>授業方法</b>					
Lectures on data sciences, mainly statistics/biostatistics.					
<b>成績評価の方法</b>					
Participation (40%) and reports (60%).					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
Those who feel less knowledge about math are encouraged to personally learn it with introductory textbooks on statistics.					

時間割番号	0362004			科目ID	GC—c6370-L
科目名	データサイエンス特論Ⅱ				
担当教員	竹内 勝之, 茂榎 薫, 長谷 武志[TAKEUCHI Katsuyuki, MOGUSHI Kaoru, HASE Takeshi]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
同じ内容の英語授業を別日程で開講している。					
<b>主な講義場所</b>					
授業スケジュールを参照					
<b>授業の目的、概要等</b>					
授業目的: R言語は統計処理や機械学習を用いた解析等に必須のツールである。本科目では、R言語のプログラミング技術を習得し、統計処理や機械学習の手法を学ぶ。					
概要: R言語を用いたデータ解析の実習を通じて、統計処理や機械学習を行う際に必要とされる基礎技術を解説する。					
<b>授業の到達目標</b>					
R言語を用いたプログラミング技術、そして、それに関連する統計処理や機械学習の基礎的な知識を習得し、R言語を用いて基礎的な統計処理や機械学習を用いた解析ができること。					
<b>授業方法</b>					
講義と実習を併用する。土曜日に集中講義を実施する。					
<b>授業内容</b>					
授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義への参加 70%、実習課題 30%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
教科書を指定しないが、参考書を用いるなどして予習することをお勧めする。					
<b>参考書</b>					
RStudio ではじめる R プログラミング入門 / Garrett Golemund 著, 大橋真也 監訳, 長尾高弘 訳: オライリー・ジャパン, 2015					
<b>備考</b>					
本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
竹内 勝之: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
竹内 勝之: 随時。但し事前にメールで予約。					
問合せ先 統合教育機構 竹内勝之 E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	0362004E						
科目名	データサイエンス特論Ⅱ(英語)				科目ID	GC—c6370-L	
担当教員	長谷川 嵩矩[HASEGAWA Takanori]						
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1～		単位数	1	
実務経験のある教員による授業							
Availability in English: All classes are taught in English.							
<b>主な講義場所</b>							
PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.							
<b>授業の目的、概要等</b>							
Course Purpose: R (programming language) is an essential tool for statistical analysis, analysis using machine learning, and other analyses. Students will acquire a programming skill of R and learn methods of statistical analysis and machine learning.							
Outline: This course gives lectures on the basic skills that are necessary to use statistical analysis and machine learning, through practical data analysis using R.							
<b>授業の到達目標</b>							
The goal is that students acquire the basic knowledge of the programming skill of R and statistical analysis and machine learning so that they can analyse data by means of the basic methods of statistical analysis and machine learning using R.							
<b>授業計画</b>							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/7	14:30-16:00	情報検索室	Introduction to Data Science I	1. How to use R for data science and 2. Data Visualization and Comparison	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
2	5/7	16:10-17:40	情報検索室	Introduction to Data Science II	1. How to use R for data science and 2. Data Visualization and Comparison	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
3	5/21	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice I	3. Correlation, and Regression and 4. Survival analysis	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
4	5/21	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice II	3. Correlation, and Regression and 4. Survival analysis	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
5	6/4	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice	4. Survival analysis and 5.	長谷川 嵩矩	PC room 2 in

			室	Ⅲ	Classification and Prediction		Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
6	6/4	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice IV	4. Survival analysis and 5. Classification and Prediction	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
7	6/18	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice V	6. Multivariate methods in data science	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
8	6/18	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice VI	6. Multivariate methods in data science	長谷川 嵩矩	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.

#### 授業方法

The course gives both lectures and practices.

#### 授業内容

1. How to use R for data science
2. Data Visualization and Comparison
3. Correlation and Regression
4. Survival analysis
5. Classification and Prediction
6. Multivariate methods in data science

#### 成績評価の方法

Participation (0%) and assignments (100%)

#### 成績評価の基準

講義ごとにレポートを課し、担当教員が評価する。

#### 準備学習等についての具体的な指示

Students are encouraged to attend "Data Science I".

#### 試験の受験資格

試験は実施しません。毎回、授業の後に課題を出すので、提出してください。

#### 構成ユニット

1. How to use R for data science
2. Data Visualization and Comparison
3. Correlation and Regression
4. Survival analysis
5. Classification and Prediction
6. Multivariate methods in data science

#### モジュールの単位判定

全てのユニットにおける課題を提出・合格すること。授業資料と課題はWEB上に公開されます。



<b>他科目との関連</b> "Data Science I" or equivalent level knowledge is assumed.
<b>備考</b> This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.
<b>連絡先(メールアドレス)</b> t.hasegawa.dsc@tmd.ac.jp
<b>オフィスアワー</b> 事前にご連絡ください

時間割番号	0362013				
科目名	データサイエンス特論Ⅲ	科目ID	GC—c6371-L		
担当教員	竹内 勝之, 下川 朝有, 長谷 武志, 飯田 頼嗣[TAKEUCHI Katsuyuki, SHIMOKAWA Asanao, HASE Takeshi, IIDA Yoritsugu]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
主な講義場所 授業日程の通り					
授業の目的、概要等 目的:Python は機械学習を用いたデータ解析等に必須のツールである。本科目では、Python のプログラミング技術を習得する。 概要:プログラミング初心者を対象に、実習形式で Python のプログラミング技術をマスターする。					
授業の到達目標 Python を用いた基本的なプログラミング技術を習得する。					
授業方法 講義と実習を併用する。土曜日に集中講義を実施する。					
授業内容 授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
成績評価の方法 講義への参加 70%、実習時の質疑 30%					
準備学習等についての具体的な指示 教科書を指定しないが、参考書を用いるなどして予習することをお勧めする。					
参考書 ゼロから学ぶ Python プログラミング : Google Colaboratory でらくらく導入 / 渡辺宙志 著, 渡辺 宙志, 講談社, 2020					
履修上の注意事項 なし。					
備考 本科目は先制医歯理工学コース生の選択必修科目である。コース生以外の履修も席数が許す限り受け入れる。					
連絡先(メールアドレス) 竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 統合教育機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	0362014			科目ID	GC—c6372-L
科目名	データサイエンス特論IV			科目ID	GC—c6372-L
担当教員	竹内 勝之, 小島 寛之[TAKEUCHI Katsuyuki, KOJIMA Hiroyuki]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
授業スケジュールを参照					
<b>授業の目的、概要等</b>					
目的: データサイエンスを学ぶうえで基礎となる統計学のエッセンスを習得する。					
概要: 本講義では難しい数式を用いず、人工知能等のベースとなるベイズ統計学の入門から応用までを解説する。					
<b>授業の到達目標</b>					
ベイズ統計学の主要な項目について理解すること。					
<b>授業方法</b>					
講義形式で実施する。					
<b>授業内容</b>					
授業日程について決定次第履修登録者へアナウンスする。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義への参加 70%、実習時の質疑 30%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
なし。					
<b>教科書</b>					
完全独習ベイズ統計学入門 / 小島寛之: ダイヤモンド社, 2015					
完全独習統計学入門 / 小島寛之: ダイヤモンド社, 2006					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
竹内 勝之: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
竹内 勝之: 随時。但し事前にメールで予約。					
問合せ先 統合教育機構 竹内勝之 E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					

時間割番号	0362005				
科目名	Advanced Human Pathology for Graduate Students			科目ID	GB—c6417-L
担当教員	大川 龍之介, 角 勇樹, 赤座 実穂, 柿沼 晴, 副島 友莉恵[OKAWA RYUNOSUKE, SUMI YUKI, AKAZA MIHO, KAKINUMA SEI, SOEJIMA YURIE]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
Availability in English: All classes are taught only in English.					
<b>授業の目的、概要等</b>					
Course Purpose: Educating the avid students the advanced aspect of human pathology and its research methods to become global academic researchers in the field of pathology and other areas of medical sciences.					
Outline: Pathology is a study to elucidate the mechanism of the disease. It is a fundamental study of all the medical practices and sciences, covering the basic science to clinical medicine. All lectures and discussions are performed in English. Student enrollment is limited to 10.					
<b>授業の到達目標</b>					
In this lecture, we will study the common changes that occur in the development of disease (pathogenesis) and nature of the clinical condition so that the clinical and pathological aspects of disease can be systematically understood. Students will learn how to perform pathological researches.					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/9	16:20-17:50	遠隔授業 (同期型)	Cardiovascular system	大川 龍之介
2	5/16	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Respiratory system	角 勇樹
3	5/23	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Pathophysiology basics	副島 友莉恵
4	5/27	14:40-16:10	遠隔授業 (同期型)	Gastrointestinal system	柿沼 晴
5	5/30	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Infection, cancer, and genetics	副島 友莉恵
6	6/6	14:40-16:10	遠隔授業 (同期型)	Neurologic system	赤座 実穂
7	6/13	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Immune system	副島 友莉恵
8	6/20	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Reproductive system	副島 友莉恵
<b>授業方法</b>					
Students will use the following textbook to study and discuss. They are required to participate, present assigned topics by PowerPoint or other presentation applications, and join the discussion in lectures of pathology.					
<b>授業内容</b>					
The students have to present a few representative disease topics for 5 to 10 min by using PowerPoint files you create beforehand. Then we'll discuss the topic after each presentation.					
<b>成績評価の方法</b>					
Grades are judged by the active participation in the class (50%) and presentation of the assignments (50%). Doctor course students are expected to have more knowledge and able to discuss in more detail than Master Course students.					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
Preliminary study of the representative diseases of each category will be assigned to the students. The schedule of assignment will be given before the first class by email. The students are required to buy the textbook, "Pathophysiology Made Incredibly Easy! 6th ed. (print version)" before the start of the lecture.					

**教科書**

Pathophysiology Made Incredibly Easy! Sixth ed.

Wolters Kluwer; (English Edition) 6th Edition

ISBN-10: 1-4963-9824-6

ISBN-13: 978-1-4963-9824-6

\*Kindle version is also available.

**履修上の注意事項**

Instructed in the lecture

**備考**

Course day and time is subject to change so please check before lessons.

**連絡先(メールアドレス)**

大川 龍之介:ohkawa.alc@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

大川 龍之介:特定の日時を確保できないためメールでアポイントメントを取ってください。

時間割番号	0362006				
科目名	先端バイオセンシングデバイス特論	科目ID	GC—c6418-L		
担当教員	池内 真志, 松元 亮, 飯谷 健太[KEUCHI Masashi, MATSUMOTO AKIRA, IITANI Kennta]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> すべての講義はオンライン(Zoom)で行います。					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的、概要等: 医学・歯学領域でのバイオセンシングに必要な計測デバイス、生化学、認識材料、MEMS、光計測について最新の知識を学び、研究者に不可欠な論理的な思考の習得を目標とする。 概要: 最新のバイオセンシングデバイスおよびその技術について紹介すると共に、医学・歯学領域にて期待される応用の可能性について、議論する。					
<b>授業の到達目標</b> バイオセンサの基礎から医学・歯学領域におけるセンシングデバイスの最新の知見を広く紹介し、受講者の研究の参考になる講義を目指す。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/8	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	気相成分の時空間バイ オ計測	三林 浩二, 飯谷 健太, 小椋 俊彦
2	5/15	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	電子顕微鏡と光学顕微 鏡による細胞の直接観 察と組成分析	小椋 俊彦
3	5/22	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	レーザ技術の医療&バ イオへの応用	Friedrich Daniel Dieter
4	5/29	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	バイオセンシングと同期 した治療デバイス技術	松元 亮
5	6/5	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	トップダウンとボトムアッ プ加工によるバイオ・医 用マイクロデバイス	池内 真志
<b>授業方法</b> 先端バイオセンシングデバイスの知識を講義を通じて習得する。					
<b>成績評価の方法</b> 講義・議論への参加状況(50%)、発表・発言(30%)に加えて、議論内容の理解度等(20%)に基づいて総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 事前学習を行う者は、以下の参考書・文献等を参考にすること。					
<b>参考書</b> Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi: Springer Nature, 2024 「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring: 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2021 Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno, 三林 浩二, Niwa, Osamu. [丹羽修], Ueno, Yuko. [上野祐子]: Elsevier, 2019 代謝センシング = Metabolic sensing: 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2018 生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林 浩二, シーエムシー出版, 2017 スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2015 スマート・ヒューマンセンシング: 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術 / 三林 浩二, シーエムシー出版, 2014					

<p>ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器／三林浩二監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2009</p> <p>Micro Electronic and Mechanical Systems／Kenichi Takahata:IntechOpen, 2009</p> <p>刺激応答性高分子ハンドブック = Stimuli-responsive polymers handbook／宮田隆志 監修,宮田, 隆志,:エヌ・ティー・エス, 2018</p> <p>授業中に資料を適宜、配布する。</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>必要に応じて授業中に連絡する。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>池内 真志:ikeuchi.mech@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>池内 真志:月曜日, 木曜日 10:00-14:00 22 号館 3 階 312 室</p>

時間割番号	0362007																																																				
科目名	医療デバイス・システム機器特論	科目ID	GC—c6419—L																																																		
担当教員	中島 義和, 梶 弘和, 坂内 英夫, 池内 真志, 周 東博, 清水 秀幸[NAKAJIMA Yoshikazu, KAJI Hirokazu, BANNNAI Hideo, IKEUCHI Masashi, SHUU Touhaku, SHIMIZU Hideyuki]																																																				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1																																																
実務経験のある教員による授業																																																					
<p>英語による授業。留学生が履修登録した場合は英語で行う</p> <p>手術支援を目的とした医療デバイス・システムとして、術中画像計測、AI 解析による手術支援システム、手術支援ロボットなどの最新研究を紹介する。</p>																																																					
<p><b>主な講義場所</b></p> <p>すべての講義はオンライン(Zoom)で行います。</p>																																																					
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>医療機器のIoT化、AI化が進む医療機器の中で、特に手術支援に着目したデバイス・システムの研究開発事例を紹介し、同分野の研究開発を推進するための基礎知識を習得する。</p>																																																					
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>本科目では、医療デバイス・システムの研究開発動向や開発事例を通して、今後益々IoT化、AI化やロボット化が進む同分野の研究開発の推進のための基礎知識の習得を目指す。</p>																																																					
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6/24</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>医療への人工知能システム実装</td> <td>中島 義和</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>7/1</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>バイオデリバリーシステム</td> <td>梶 弘和</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>7/8</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>省メモリアルゴリズムとデータ構造</td> <td>坂内 英夫</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>7/22</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>医療デバイス画像データ解析と実臨床への応用</td> <td>清水 秀幸</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/29</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>医療デバイス開発におけるAI解析デザイン</td> <td>周 東博</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>8/5</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>精密治療デバイス・システム</td> <td>池内 真志</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>8/19</td> <td>14:00-16:15</td> <td>遠隔授業 (同期型)</td> <td>画像支援を中心とした手術支援システム</td> <td>中島 義和</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	6/24	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	医療への人工知能システム実装	中島 義和	2	7/1	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	バイオデリバリーシステム	梶 弘和	3	7/8	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	省メモリアルゴリズムとデータ構造	坂内 英夫	4	7/22	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	医療デバイス画像データ解析と実臨床への応用	清水 秀幸	5	7/29	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	医療デバイス開発におけるAI解析デザイン	周 東博	6	8/5	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	精密治療デバイス・システム	池内 真志	7	8/19	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	画像支援を中心とした手術支援システム	中島 義和
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																																
1	6/24	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	医療への人工知能システム実装	中島 義和																																																
2	7/1	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	バイオデリバリーシステム	梶 弘和																																																
3	7/8	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	省メモリアルゴリズムとデータ構造	坂内 英夫																																																
4	7/22	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	医療デバイス画像データ解析と実臨床への応用	清水 秀幸																																																
5	7/29	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	医療デバイス開発におけるAI解析デザイン	周 東博																																																
6	8/5	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	精密治療デバイス・システム	池内 真志																																																
7	8/19	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	画像支援を中心とした手術支援システム	中島 義和																																																
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義形式で行う。</p>																																																					
<p><b>授業内容</b></p> <p>別表に記載。</p>																																																					
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>授業の参加状況(60%)及びレポート(40%)に基づいて総合的に評価を行う。</p>																																																					
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>授業の参加状況(60%)及びレポート(40%)</p>																																																					
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>初回授業のガイダンスならびに各授業において必要に応じて指示する。</p>																																																					
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>制限なし</p>																																																					
<p><b>構成ユニット</b></p>																																																					



中島義和, 梶弘和, 池内真志, 坂内英夫, 清水秀幸, 周 東博
<b>モジュールの単位判定</b> 1 単位
<b>教科書</b> 授業中に資料を適宜、配布する。
<b>参考書</b> 必要に応じて適宜、資料を配布する。
<b>履修上の注意事項</b> 特になし。
<b>備考</b> 特になし。
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 中島 義和 nakajima.bmi@tmd.ac.jp
<b>オフィスアワー</b> 中島 義和 毎週月曜日 15:00-16:30 駿河台キャンパス 21 号館 4 階 409A

時間割番号	0362008				
科目名	ウェアラブル IoT 技術特論	科目ID	GC—c6420—L		
担当教員	三林 浩二, 山口 真澄, 田邊 勇二, 吉岡 克成, 市川 健太, 宇野 雅博[MITSUBAYASHI KOJI, YAMAGUCHI Masumi, TANABE Yuji, YOSHIOKA Katsunari, ICHIKAWA Kennta, UNO Masahiro]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> すべての講義はオンライン(Zoom)で行います。					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 医学・歯学領域でのウェアラブル IoT デバイスに必要な計測デバイス機器、IoT の知識&技術、セキュリティ、エネルギーハーベスティングデバイスについて最新の知識を学び、研究者に不可欠な論理的な思考の習得を目標とする。 概要: 最新のウェアラブル IoT デバイスおよびその技術について紹介すると共に、医学・歯学領域にて期待される応用の可能性について、議論する。					
<b>授業の到達目標</b> ウェアラブルセンサの基礎から医学・歯学領域における IoT デバイスの最新の知見を広く紹介し、受講者の研究の参考になる講義を目指す。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/24	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	ウェアラブルセンサデバイスとエネルギーハーベスティング技術	三林 浩二 市川 健太
2	6/12	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	IoT 社会におけるウェアラブル型生体電極 hitoe の利活用	山口 真澄
3	6/19	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	IoT 向け無線システムの最新動向	宇野 雅博
4	6/26	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	最先端ワイヤレス給電技術のメディカル/IoT 応用	田邊 勇二
5	7/3	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	IoT のセキュリティ	吉岡 克成
<b>授業方法</b> ウェアラブル IoT 技術の知識を講義を通じて習得する。					
<b>成績評価の方法</b> 講義・議論への参加状況(50%)、発表・発言(30%)に加えて、議論内容の理解度等(20%)に基づいて総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 事前学習を行う者は、以下の参考書・文献等を参考にすること。					
<b>参考書</b> Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi: Springer Nature, 2024 「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2021 Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno, 三林 浩二, Niwa, Osamu. [丹羽修], Ueno, Yuko. [上野祐子].: Elsevier, 2019 代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2018 生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林 浩二, シーエムシー出版, 2017 スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2015					

スマート・ヒューマンセンシング：健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術／三林 浩二、シーエムシー出版、2014  
ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器／三林浩二監修、三林 浩二、シーエムシー出版、2009  
ユビキタス・バイオセンシング：健康モニタリング&日常ケアのための計測技術／三林浩二 監修、三林 浩二、シーエムシー出版、2006  
テレワーク社会を支えるリモートセンシング／三林 浩二、三林浩二 監修、シーエムシー出版、2021.4  
授業中に資料を適宜、配布する。

**履修上の注意事項**

必要に応じて授業中に連絡する。

**連絡先(メールアドレス)**

三林 浩二:m.bdi@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

三林 浩二:毎週月曜日 AM.11:00-PM.12:00 21棟(生材研)5階 503B 室

時間割番号	0362009				
科目名	臨床検査法開発学特論	科目ID	GB—c6421-L		
担当教員	星 治, 西尾 美和子, 伊藤 南, 赤座 実穂, 鈴木 喜晴, 齋藤 良一, 大川 龍之介, 三井田 孝[HOSHI OSAMU, NISHIO Miwako, ITO MINAMI, AKAZA MIHO, SUZUKI NOBUHARU, SAITO RYOICHI, OKAWA RYUNOSUKE, MIIDA TAKASHI]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
<p>・英語による授業:全て日本語で行う。</p> <p>・授業日程は仮であり、実際には履修登録後に学生と教員で連絡を取り合い、その都度調整します。</p>					
<b>授業の目的、概要等</b>					
<p>授業目的:主に理工系の学生を対象として、臨床検査最前線(病院検査部)の現状についての基礎知識を習得させ、新しい検査機器の開発につなげる能力を育成することを目的としている。まだ現場経験が少ない生体検査科学系の学生にとっても、問題意識を養うために役立つと思う。</p> <p>概要:現在の最先端検査部における臨床検査の現状と限界を提示するとともに、デバイス開発を含むその打開策の一端を紹介する。疾患名や他の医学用語については、医学部以外の出身者が多いことを想定してわかりやすく解説するつもりであるが、不明の点は授業の途中でも良いので遠慮なく質問して欲しい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
臨床検査の現状と問題点を把握し、その解決に必要な基礎知識を習得するとともに、デバイス開発に向けた研究の方向性を自ら考察して述べることができる。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/22	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	医療における臨床検査の役割	三井田 孝
2	4/23	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	新規デバイス開発への期待	伊藤 南
3	4/24	08:50-10:20	その他	微生物検査の現状と将来展望	齋藤 良一
4	4/25	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	臨床検査法の開発に必要な形態学	星 治
5	5/6	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	生理機能検査の現状と将来展望	赤座 実穂
6	5/7	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	遺伝子検査の現状と将来展望	鈴木 喜晴
7	5/8	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	病院検査部の技術的現状と課題&生化学検査の将来展望	大川 龍之介
8	5/9	15:30-17:00	遠隔授業 (同期型)	血液検査の現状と将来展望	西尾 美和子
<b>授業方法</b>					
ゼミ形式で教員による講義や学生のプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
<b>成績評価の方法</b>					
授業およびディスカッションへの参加状況(70%)及びレポート(30%)に基づいて総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
生化学、免疫学、生理学の基礎を身につけておくことが望ましい。					
<b>参考書</b>					
必要に応じて指示する。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					

星 治: [hoshi.aps@tmd.ac.jp](mailto:hoshi.aps@tmd.ac.jp)

**オフィスアワー**

星 治オフィスアワーは特に定めません。事前にメールで連絡を。

湯島キャンパス3号館16階

時間割番号	0362010				
科目名	疾患分子病態学特論			科目ID	GC—c6422-L
担当教員	佐々木 純子, 瀬川 勝盛, 山野 晃史, 鈴木 啓道, 竹内 純[SASAKI Junnko, SEGAWA Katsumori, YAMANO KOJI, SUZUKI Hiromichi, TAKEUCHI Jun]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業。留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
<p>授業目的: 先制医療の展開に必要な、分子生物学、ゲノム科学、生化学などの基礎的な生命科学を駆使した疾患の分子病態解明の現状を学び、疾患の分子病態の解明や、分子病態に即した予防、治療法の開発についての実践的な取り組み方を学ぶ。</p> <p>概要: 分子生物学、ゲノム科学、生化学などの基礎的な生命科学に基づいた、がんや生活習慣病、神経難病や先天性心疾患の分子病態研究の現状を紹介する。さらに、分子病態に即した予防、治療法の開発についての討議を行う。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
疾患の病態を分子レベルで理解する論理的な思考法を習得するとともに、分子病態の今後のさらなる解明と分子病態に即した疾患の治療法や予防法開発の道筋を理解し、展開する能力を深める。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/6	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	がんの分子病態—リン脂質代謝を中心に—	佐々木 純子
2	5/9	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	コレステロールと疾患	瀬川 勝盛
3	5/10	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	ミトコンドリア品質管理機構	山野 晃史
4	5/16	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	がんゲノム解析の基礎・臨床への応用	鈴木 啓道
5	5/17	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	先天性心疾患発症メカニズム	竹内 純
<b>授業方法</b>					
少人数での講義と質疑応答を行い、最先端の分子病態研究の現状を紹介するとともに、その展望や病態に即した予防、治療法の開発についての双方向的な討議を行う。					
<b>成績評価の方法</b>					
授業への参加状況や、発表・発現等といった参画状況を判断し総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
分子生物学、生化学、免疫学、神経科学の基礎を身につけておくこと。					
<b>参考書</b>					
Mark F. Bear, Barry W. Connors and Michael A. Paradiso, Neuroscience: Exploring the Brain. Lippincott Williams & Wilkins. ギルバート発生生物学(監修:阿形清和・高橋淑子)MEDSI ラングマン人体発生生物学-安田峯生編 MEDSI					
<b>履修上の注意事項</b>					
出席管理は出欠管理システムを利用する。講義開始前10分前~講義開始時刻までに、講義室後方側ドア横の出欠管理システムに学生証をタッチすること。					

時間割番号	0362011				
科目名	先端ケミカルバイオロジー特論	科目ID	GC—c6423-L		
担当教員	玉村 啓和, 花園 祐矢, 藤井 晋也, 辻 耕平, 隅田 有人[TAMAMURA HIROKAZU, HANAZONO Yuuya, FUJII Shinrya, TSUJI Kouhei, SUMIDA YUUTO]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業。留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
授業目的: 生命科学、分析化学、有機化学、材料科学などの分野で用いられているケミカルバイオロジーのための基礎知識を習得し、最新の先端研究について理解を深める。 概要: ケミカルバイオロジー研究に必要な基礎的手法を講義し、最新の先端研究成果をもとに講義ならびに討論をする。					
<b>授業の到達目標</b>					
ケミカルバイオロジーは、化学を用いて生命現象を理解し、制御する学問分野であり、創薬化学やナノテクノロジーといった、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となるケミカルバイオロジーに着目し、最先端の研究動向について教育する。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/8	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	ケミカルバイオロジー先端研究 1	辻 耕平
2	6/15	12:40-14:55	遠隔授業 (同期型)	ケミカルバイオロジー先端研究 2	花園 祐矢
3	6/22	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	ケミカルバイオロジー先端研究 3	藤井 晋也
4	6/29	12:40-14:55	遠隔授業 (同期型)	ケミカルバイオロジー先端研究 4	隅田 有人
5	7/6	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	ケミカルバイオロジー先端研究 5	玉村 啓和
<b>授業方法</b>					
ゼミ形式で教員による講義や演習、履修生によるプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
<b>成績評価の方法</b>					
授業の参加状況(50%)及びケミカルバイオロジー研究に関するプレゼンテーション(50%)に基づいて総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
基礎有機化学の復習、もしくは次項に示した書籍等による予習をしておくが良い。					
<b>参考書</b>					
ベーシック薬学教科書シリーズ 創薬科学・医薬化学: 第2版(橘高敦史編、化学同人)、Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess編、WILEY-VCH)、PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications (Wiley)、生命現象を理解する分子ツール(浜地格、二木史朗編、化学同人)、ケミカルバイオロジー—成功事例から学ぶ研究戦略—(長野哲雄、萩原正敏監訳、丸善)、生体有機化学(橋本祐一、村田道雄編、東京化学同人)、最新 創薬化学—探索研究から開発まで(長瀬博、テクノミック)					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
玉村 啓和 tamamura.mr@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
玉村 啓和: 授業開始1週間前から授業終了1週間後までの毎週月—金の午後3時から午後5時: 科目責任者 メディシナルケミストリー分野(玉村)教室 22 号棟 6 階 603B 室					

時間割番号	0362012				
科目名	生体分子制御学特論	科目ID	GC—c6424—L		
担当教員	岸田 晶夫, 萩原 伸也, 新富 圭史, 渡邊 力也, 安藤 潤, 橋本 理一, 江越 脩祐[KISHIDA AKIO, HAGIHARA Shinya, SHINTOMI Keishi, WATANABE Rikiya, ANDO Jun, HASHIMOTO Riichi, EGOSHI Shusuke]				
開講時期	2024 年度前期	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b> オンラインおよび理化学研究所和光キャンパス					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学などのケミカルバイオロジーに関連する分野で用いられている生体機能分子の探索・創製とこれを用いた高次生命現象の理解のための基礎知識を習得し、医学・生物学への応用研究について理解を深める。 概要: 化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学などのケミカルバイオロジーに関連する分野に必要な基礎的手法を講義し、生体機能分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。					
<b>授業の到達目標</b> 生体分子制御学は、生体機能を制御する低分子有機化合物から高分子タンパク質・ホルモンを対象として、生物有機化学、化学生物学、構造生物学などのケミカルバイオロジーに関連する分野の基礎と、医学・生物学への応用を理解する学問分野であり、様々な分野との複合領域研究が行われている。このような研究分野の鍵となる生体機能分子に着目し、最先端の研究動向について教育する。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/16	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	生体機能の化学制御	萩原 伸也
2	5/23	13:00-15:15	理研生物 科学研究 棟 N310	ゲノム3次元構造の分子メカニズム	新富 圭史
3	5/23	15:30-17:45	理研生物 科学研究 棟 S252	生体分子の1分子生物物理学と応用	渡邊 力也, 安藤 潤
4	5/30	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	機能性分子の生体内合成	橋本 理一
5	6/13	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	ケミカルバイオロジーの 新手法開発	江越 脩祐
<b>授業方法</b> ゼミ形式で教員による講義や学生のプレゼンテーションを行い、全体で討議を行うことにより学習を深める。					
<b>成績評価の方法</b> 授業の参加状況(40%)及びレポート(60%)に基づいて総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> なし					
<b>参考書</b> 最新 創薬化学—探索研究から開発まで(長瀬博、テクノミック)、入門ケミカルバイオロジー(入門ケミカルバイオロジー編集委員会、オーム社)、Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess 編、WILEY-VCH)、PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES—Chemical Biology Techniques and Applications (H. Osada 編、Wiley)					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 萩原 伸也.hagi@riken.jp					
<b>オフィスアワー</b> 萩原 伸也. 萩原 伸也. 授業内容等に関する質問は、開講期間中の毎週火曜日午後3時から午後5時: 科目担当者 理研生体分子制御学分野(萩原)連携教授室					



時間割番号	0362015				
科目名	疫学基礎	科目ID	GC—c6444-L		
担当教員	藤原 武男, 谷 友香子[FUJIWARA Takeo, TANI Yukako]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
<b>主な講義場所</b> アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館)					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的 疫学の基礎を理解する。 概要 疫学の基礎を理解し、臨床研究論文を適切に解釈し執筆するための土台をつくる。					
<b>授業の到達目標</b> 臨床疫学研究を実施するにあたり必要となる疫学の知識を身に着ける。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/8	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	疫学概論	谷 友香子
2	5/15	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	疾患の測定、感度と特 異度	谷 友香子
3	5/22	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	疫学研究のデザイン、 生態学的研究	谷 友香子
4	5/29	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	交絡因子、妥当性と信頼 性	谷 友香子
5	6/5	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	サンプリング、横断研究	谷 友香子
6	6/12	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	コホート研究、ケースコ ントロール研究	谷 友香子
7	6/19	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	ランダム化比較試験、 バイアス	谷 友香子
8	6/26	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Critical Appraisal	谷 友香子
<b>授業方法</b> 科目担当者の講義による。					
<b>授業内容</b> 別表のとおり。					
<b>成績評価の方法</b> 8回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					

**準備学習等についての具体的な指示**

講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。

**参考書**

日本疫学会, はじめて学ぶやさしい疫学 第3版, 南江堂, 2018.

木原正博, 疫学 -医学的研究と実践のサイエンス, メディカルサイエンスインターナショナル, 2010

Gordis L. Epidemiology, 6th edition. Philadelphia: Elsevier; 2018

**履修上の注意事項**

講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。

**連絡先(メールアドレス)**

藤原 武男.fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

時間割番号	0362016				
科目名	生物統計学基礎	科目ID	GC—c6445-L		
担当教員	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
<b>主な講義場所</b> アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館)(オンライン参加も可能)					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的 生物統計学の基礎を復習し理解する。 概要 生物統計学の基本的な解析手法についての復習および理解を深め、臨床疫学研究における適用について学習する。					
<b>授業の到達目標</b> 問題に応じて適切な統計手法を選択, 適用できるとともに, 解析結果を解釈できる。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/7	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	生物統計学概論	高橋 邦彦, 安齋 達彦
2	5/14	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	平均の比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
3	5/21	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	頻度の比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
4	5/28	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	分散分析, 検定の多重 性, 多重比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
5	6/4	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	相関と回帰	高橋 邦彦, 安齋 達彦
6	6/11	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	交絡調整のための多変 量解析1:共分散分析, 重 回帰分析	高橋 邦彦, 安齋 達彦

7	6/18	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	交絡調整のための多変 量解析 2Mantel-Haenszel, ロジ スティック回帰分析	高橋 邦彦, 安齋 達彦	
8	6/25	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	生存時間解析: Kaplan-Meier 法, ログラ ンク検定, Cox 比例ハザ ードモデル	高橋 邦彦, 安齋 達彦	
<b>授業方法</b>						
科目担当者の講義による。						
<b>授業内容</b>						
別表のとおり。						
<b>成績評価の方法</b>						
成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。						
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>						
講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。						
<b>参考書</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・古川俊之(監修), 丹後俊郎(著). 医学への統計学. 第3版. 朝倉書店. 2013.</li> <li>・Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. CRC Press. 2000.</li> </ul>						
<b>連絡先(メールアドレス)</b>						
高橋 邦彦:biostat.dsc@tmd.ac.jp						
<b>オフィスアワー</b>						
高橋 邦彦:平日・随時。ただし事前にメールで日時相談。 M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)						

時間割番号	0362017																																														
科目名	生物統計学応用 I	科目ID	GC—c6446-L																																												
担当教員	高橋 邦彦, 安齋 達彦, 星野 崇宏, 服部 聡, 野間 久史[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko, HOSHINO Takahiro, HATTORI Satoshi, NOMA Hisashi]																																														
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1																																										
実務経験のある教員による授業																																															
全て日本語で行う																																															
<b>主な講義場所</b> アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館) (オンライン参加も可能)																																															
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的 生物統計学の発展的な内容であるベイズ統計学およびメタアナリシスについて理解する。 概要 生物統計学を応用した発展的な課題として、ベイズ統計学およびメタアナリシスの基本的事項と実践について学習する。																																															
<b>授業の到達目標</b> ベイズ統計学を適用した推論、および少数例のメタアナリシスの実践を行うことができるようになる。																																															
<b>授業計画</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9/18</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>ベイズ統計学の基礎1</td> <td>高橋 邦彦</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9/25</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>ベイズ統計学の基礎2</td> <td>安齋 達彦</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/2</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>メタアナリシスの基礎1</td> <td>高橋 邦彦</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/9</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>メタアナリシスの基礎2</td> <td>高橋 邦彦</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/16</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>ベイズアプローチによる 因果効果推定と疫学への応用</td> <td>星野 崇宏</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>10/23</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室</td> <td>空間疫学研究における ベイズ統計学の応用</td> <td>高橋 邦彦</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	9/18	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	ベイズ統計学の基礎1	高橋 邦彦	2	9/25	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	ベイズ統計学の基礎2	安齋 達彦	3	10/2	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	メタアナリシスの基礎1	高橋 邦彦	4	10/9	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	メタアナリシスの基礎2	高橋 邦彦	5	10/16	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	ベイズアプローチによる 因果効果推定と疫学への応用	星野 崇宏	6	10/23	18:00-19:30	アクティブラーニング教室	空間疫学研究における ベイズ統計学の応用	高橋 邦彦
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																										
1	9/18	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	ベイズ統計学の基礎1	高橋 邦彦																																										
2	9/25	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	ベイズ統計学の基礎2	安齋 達彦																																										
3	10/2	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	メタアナリシスの基礎1	高橋 邦彦																																										
4	10/9	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	メタアナリシスの基礎2	高橋 邦彦																																										
5	10/16	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	ベイズアプローチによる 因果効果推定と疫学への応用	星野 崇宏																																										
6	10/23	18:00-19:30	アクティブラーニング教室	空間疫学研究における ベイズ統計学の応用	高橋 邦彦																																										

			遠隔授業 (同期型)		
7	11/6	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	メタアナリシスの実践1: ネットワークメタアナリ シス	野間 久史
8	11/20	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	メタアナリシスの実践2: 診断法のメタアナリシス	服部 聡
<b>授業方法</b> 科目担当者の講義による。					
<b>授業内容</b> 別表のとおり。					
<b>成績評価の方法</b> 成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。					
<b>参考書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Lesaffre E, Lawson AB. Bayesian Biostatistics. Wiley. 2012.</li> <li>・Spiegelhalter DJ, Abrams KR, Myles JP. Bayesian Approaches to Clinical Trials and Health-Care Evaluation. Wiley. 2004.</li> <li>・丹後俊郎, 横山徹爾, 高橋邦彦. 空間疫学への招待. 朝倉書店. 2007.</li> <li>・丹後俊郎. 新版メタアナリシス入門. 朝倉書店. 2016.</li> <li>・Borenstein M, et al. Introduction to Meta-Analysis. 2nd ed. Wiley. 2021.</li> </ul>					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 高橋 邦彦:biostat.dsc@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 高橋 邦彦:平日・随時。ただし事前にメールで日時相談。 M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)					

時間割番号	0362018																																														
科目名	生物統計学応用Ⅱ	科目ID	GC—c6447-L																																												
担当教員	高橋 邦彦, 清水 秀幸, 安齋 達彦, 漆原 尚巳[TAKAHASHI Kunihiro, SHIMIZU Hideyuki, ANZAI Tatsuhiko, URUSHIHARA Hisashi]																																														
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1																																										
実務経験のある教員による授業																																															
全て日本語で行う																																															
<b>主な講義場所</b> アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館) (オンライン参加も可能)																																															
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的 生物統計学の発展的な課題である薬剤疫学及び医療分野における AI の活用について理解する。 概要 生物統計学を応用した発展的な課題として、薬剤疫学および医療分野における AI の活用について、その基本的事項と実践について学習する。																																															
<b>授業の到達目標</b> 薬剤疫学を適用した医薬品のリスク評価および医療分野における AI 分析結果の評価を行うことができるようになる。																																															
<b>授業計画</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9/17</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>薬剤疫学の研究デザインと評価指標(1)</td> <td>高橋 邦彦</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9/24</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>薬剤疫学の研究デザインと評価指標(2)</td> <td>高橋 邦彦</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/1</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>薬剤のリスクマネージメントとシグナル検出</td> <td>安齋 達彦</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/8</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>薬剤疫学研究の実践</td> <td>漆原 尚巳</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/15</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>医療 AI のための基礎 (1)</td> <td>高橋 邦彦, 安齋 達彦</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>10/22</td> <td>18:00-19:30</td> <td>アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)</td> <td>医療 AI のための基礎 (2)</td> <td>高橋 邦彦, 安齋 達彦</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	9/17	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(1)	高橋 邦彦	2	9/24	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(2)	高橋 邦彦	3	10/1	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	薬剤のリスクマネージメントとシグナル検出	安齋 達彦	4	10/8	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	薬剤疫学研究の実践	漆原 尚巳	5	10/15	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	医療 AI のための基礎 (1)	高橋 邦彦, 安齋 達彦	6	10/22	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	医療 AI のための基礎 (2)	高橋 邦彦, 安齋 達彦
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																										
1	9/17	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(1)	高橋 邦彦																																										
2	9/24	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(2)	高橋 邦彦																																										
3	10/1	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	薬剤のリスクマネージメントとシグナル検出	安齋 達彦																																										
4	10/8	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	薬剤疫学研究の実践	漆原 尚巳																																										
5	10/15	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	医療 AI のための基礎 (1)	高橋 邦彦, 安齋 達彦																																										
6	10/22	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)	医療 AI のための基礎 (2)	高橋 邦彦, 安齋 達彦																																										

			ング教室 遠隔授業 (同期型)		
7	11/5	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	医療 AI の実践(1)	清水 秀幸
8	11/12	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)	医療 AI の実践(2)	清水 秀幸
<b>授業方法</b> 科目担当者の講義による。					
<b>授業内容</b> 別表のとおり。					
<b>成績評価の方法</b> 成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。					
<b>参考書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くすりの適正使用協議会. 実例で学ぶ薬剤疫学の第一歩. レーダー出版センター. 2008.</li> <li>・佐藤俊哉, 山口拓洋, 石黒智恵子(編). これからの薬剤疫学. 朝倉書店. 2021.</li> <li>・景山茂, 久保田潔(編). 薬剤疫学の基礎と実践. 改訂第3版. ライフサイエンス出版. 2021.</li> <li>・Naqa I, Murphy M (eds). Machine and Deep Learning in Oncology, Medical Physics and Radiology. Springer. 2022.</li> </ul>					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 高橋 邦彦 biostat.dsc@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 高橋 邦彦: 平日・随時. ただし事前にメールで日時相談。 M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)					



時間割番号	0362019				
科目名	臨床試験方法論基礎	科目ID	GC—c6448-L		
担当教員	平川 晃弘[HIRAKAWA Akihiro]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 対面又は遠隔講義(ZOOM)					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項を学習する。 概要 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項(試験デザイン、ランダム化、盲検化、エンドポイント、解析対象集団、サンプルサイズ設計等)を体系的に学習する。					
<b>授業の到達目標</b> 研究目的や実施可能性を踏まえて、適切な臨床試験をデザインできるようになる。臨床試験の論文からそのエビデンスレベルを読み解けるようになる。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/27	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	臨床研究概論と様々な試験デザイン	平川 晃弘
2	7/2	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	優越性試験と非劣性試験	平川 晃弘
3	7/4	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	ランダム化と盲検化	平川 晃弘
4	7/9	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	連続型・二値型エンドポイントとそのデータ解析法	平川 晃弘
5	7/11	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	時間イベント型(生存時間)エンドポイントとそのデータ解析法	平川 晃弘
6	7/23	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	解析対象集団と欠測データの処理(経時データ解析の基礎を含む)	平川 晃弘
7	7/25	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	サンプルサイズ設計の考え方	平川 晃弘
8	7/30	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	Innovative clinical trial methodology 入門	平川 晃弘
<b>授業方法</b> 科目担当者の講義による。					
<b>授業内容</b> 別表のとおり。					
<b>成績評価の方法</b> 8回のうち5回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 臨床試験方法論の基礎から学習するカリキュラムのため事前学習は必要としないが、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理					

指針やICH E9(臨床試験のための統計的原則)を理解していることが望ましい。

**参考書**

“椿 広計 (編集), 佐藤 俊哉 (編集), 藤田 利治 (編集). これからの臨床試験—医薬品の科学的評価-原理と方法. 朝倉書店  
内田一郎、芹生卓 (編集). (2022) 製薬医学入門:くすりの価値最大化をめざして. メディカル・サイエンス・インターナショナル”

時間割番号	0362020			科目ID	GC—c6449-L
科目名	臨床試験方法論応用			科目ID	GC—c6449-L
担当教員	平川 晃弘, 佐藤 宏征[HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 対面又は/遠隔講義(ZOOM)					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項を学習する。 概要 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項(試験デザイン、ランダム化、盲検化、エンドポイント、解析対象集団、サンプルサイズ設計等)を体系的に学習する。					
<b>授業の到達目標</b> 研究目的や実施可能性を踏まえて、適切な臨床試験をデザインできるようになる。臨床試験の論文からそのエビデンスレベルを読み解けるようになる。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	9/19	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	中間解析と群逐次デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
2	9/26	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	アダプティブ臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
3	10/3	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	ベイズ流臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
4	10/10	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	がん臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
5	10/17	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	マスタープロトコル試験	平川 晃弘 佐藤 宏征
6	10/24	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	診断性能試験(ROC 解析による診断能評価)	平川 晃弘 佐藤 宏征
7	10/31	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	予後・治療効果予測アルゴリズムの構築と検証法	平川 晃弘 佐藤 宏征
8	11/7	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	これからの臨床試験(最近の話題)	平川 晃弘 佐藤 宏征
<b>授業方法</b> 科目担当者の講義による。					
<b>授業内容</b> 別表のとおり。					
<b>成績評価の方法</b> 8 回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 臨床試験方法論(基礎)を必ず受講すること。					
<b>参考書</b> "樗 広計(編集), 佐藤 俊哉(編集), 藤田 利治(編集). これからの臨床試験—医薬品の科学的評価-原理と方法. 朝倉書店					

内田一郎、芹生卓(編集). (2022) 製薬医学入門:くすりの価値最大化をめざして. メディカル・サイエンス・インターナショナル”

**連絡先(メールアドレス)**

平川 晃弘 a-hirakawa.crc@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

平川 晃弘 随時(事前予約)、8号館北4階

時間割番号	0362021				
科目名	口腔疫学基礎			科目ID	GC—c6450-L
担当教員	相田 潤, 松山 祐輔, 木野 志保, 石丸 美穂[AIDA Junn, MATSUYAMA Yuusuke, KINO Shiho, ISHIMARU MIHO]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
主な講義場所 Zoom					
授業の目的、概要等 授業目的 歯科疫学の基礎を理解する。 概要 歯科口腔疾患の疫学の基礎を理解する。国際的なコンテキストを理解して論文がかける土台をつくる。					
授業の到達目標 歯科・口腔保健分野で臨床疫学研究を実施するにあたり、基礎的な素養を身に着ける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	7/1	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	論文のコンテキスト: 歯科の記述疫学やEBMの理解	相田 潤
2	7/3	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	観察研究を口腔保健領域の研究から理解する	相田 潤
3	7/8	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	社会疫学を口腔保健領域の研究から理解する	木野 志保
4	7/10	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	口腔保健分野のリアルワールドデータの解析	石丸 美穂
5	7/22	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	口腔と全身の健康の関連とその批判	相田 潤
6	7/24	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	既存データを利用した歯科疫学研究	松山 祐輔
7	7/29	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	研究デザインを明確にした研究計画の立案	相田 潤
8	7/31	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	研究計画発表	相田 潤
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 8回のうち5回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。					
履修上の注意事項 講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。					
連絡先(メールアドレス) 相田 潤:aida.ohp@tmd.ac.jp					

**オフィスアワー**

相田 潤:健康推進歯学分野 教授 相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10階 健康推進歯学分野 図書室

時間割番号	0362022				
科目名	疫学応用	科目ID	GC—c6451-L		
担当教員	相田 潤, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 松山 祐輔, 木野 志保, 石丸 美穂[AIDA Junn, TANI Yukako, ISUMI Aya, DOI Satomi, MATSUYAMA Yuusuke, KINO Shiho, ISHIMARU MIHO]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
主な講義場所 Zoom、図書館情報検索室 1 (M&D タワー4 階)					
授業の目的、概要等 授業目的 疫学の発展的な内容を理解する。 概要 疫学の発展的な内容を理解するために、統計ソフトを用いた解析の実際や発展的な内容を学習する。					
授業の到達目標 疫学研究を実施するにあたり、発展的な知識や実践的な技術を身に着ける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/4	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	欠損値補完1	相田 潤
2	10/11	18:00-19:30	情報検索 室 1	欠損値補完2	相田 潤
3	10/18	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	媒介分析と Structural Equation Modeling	伊角 彩, 土 井 理美
4	10/21	18:00-19:30	情報検索 室 1	傾向スコアを利用した解 析1	谷 友香子
5	10/25	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	マルチレベル分析	木野 志保
6	10/28	18:00-19:30	情報検索 室 1	傾向スコアを利用した解 析2	谷 友香子
7	11/1	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	因果推論(DAG、IV、 RD、DID など)1	松山 祐輔
8	11/8	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	因果推論(DAG、IV、 RD、DID など)2	木野 志保 石丸 美穂
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 8回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。					
参考書 Szklo M, Nieto FJ. 木原正博, 木原雅子訳. アドバンスト分析疫学. メディカルサイエンスインターナショナル. 2020					
履修上の注意事項 講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。					

**連絡先(メールアドレス)**

相田 潤:aida.ohp@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

相田 潤:健康推進歯学分野 教授 相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10階 健康推進歯学分野 図書室



時間割番号	0362023				
科目名	臨床疫学解析演習	科目ID	GC—c6452-L		
担当教員	藤原 武男, 西村 久明[FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	2~	単位数	1
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
図書館 情報検索室					
<b>授業の目的、概要等</b>					
授業目的					
臨床データの疫学的解析法を習得する。					
概要					
臨床研究のデータ解析で頻用される統計的手法について習得する。学生が解析したいと思っているデータを実際にハンズオンで解析し、リサーチクエスチョンの作成、データクリーニング、欠損値の処理、共変量の選択、Table 1 の作成、多変量解析、Table 2 の作成までを行う。交互作用、傾向スコア法、多重補完法の実際のやり方にも触れる。					
<b>授業の到達目標</b>					
実際のデータを解析し、記述統計をまとめ、多変量解析を行いその結果をまとめることができるようになること。					
<b>授業計画</b>					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/7	18:00-19:30	情報検索室1	2次データを用いたリサーチクエスチョンの立て方	藤原 武男, 西村 久明
2	5/9	18:00-19:30	情報検索室1	説明変数、目的変数、共変量(交絡因子、媒介因子、修飾因子)の決め方	藤原 武男, 西村 久明
3	5/14	18:00-19:30	情報検索室1	データクリーニング、欠損値の考え方、交互作用	藤原 武男, 西村 久明
4	5/16	18:00-19:30	情報検索室1	Table 1 の作成	藤原 武男, 西村 久明
5	5/21	18:00-19:30	情報検索室1	多変量解析(回帰分析、ロジスティック回帰分析)	藤原 武男, 西村 久明
6	5/23	18:00-19:30	情報検索室1	傾向スコア法	藤原 武男, 西村 久明
7	5/28	18:00-19:30	情報検索室1	多重補完法	藤原 武男, 西村 久明
8	5/30	18:00-19:30	情報検索室1	Table2の作成	藤原 武男, 西村 久明
<b>授業方法</b>					
科目担当者の講義による。					
<b>授業内容</b>					
別表の通り					
<b>成績評価の方法</b>					
8 回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(80 点)と参加状況(20 点)を総合して評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
Stataを使います。図書館の情報解析室にインストールしておきますが、自分で購入し自分のPCにインストールしたものを持参することも可能です。自分のデータをなるべく持参するようにしてください。					

**参考書**

浦島充佳. Stata による医療系データ分析入門. 東京図書. 2014

**連絡先(メールアドレス)**

藤原 武男.fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

時間割番号	0363001			科目ID	GB—c6002-S
科目名	センサ医工学演習			科目ID	GB—c6002-S
担当教員	三林 浩二, 飯谷 健太, 市川 健太[MITSUBAYASHI KOJI, IITANI Kennta, ICHIKAWA Kennta]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業:一部英語で行う。					
<b>主な講義場所</b>					
第2 会議室(生体材料工学研究所 22 号館 1 階)					
第3 会議室(生体材料工学研究所 22 号館 8 階)					
<b>授業の目的、概要等</b>					
医療には生体情報を正確に計測する技術が要求され、さらに安全で苦痛の少ない“人に優しい”非侵襲的な計測方法が求められる。講義、演習、研究実習をとおして、生体情報計測の基礎知識と技術の習得、センサ医工学に基づく生体化学計測、バイオセンシングのデバイス開発及び医療応用に向けた研究を実施する。					
<b>授業の到達目標</b>					
センサ医工学に関する基礎技術を学び、研究実習を通してセンサ医工学に基づく生体化学計測、バイオセンシングデバイスの開発及び医療応用研究について研究活動に参加してもらう。担当教員のもとで研究に取り組み、研究活動を通して自ら考えて研究を推進することができるようになることを目標としている。					
<b>授業方法</b>					
センサ医工学の基礎的な研究を受けた後、担当教員の下で研究に参加し、OJT 方式による研究活動を通じた授業を行う。					
<b>授業内容</b>					
センサ医工学の基礎技術を学ぶことを目的とする。研究者や技術開発者から計測技術の実例や問題点およびその解決の経験について説明を聞き、質疑応答を通して問題解決能力を身につける。またコンピュータによるデータ処理の手法を取得する。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義、演習、研究実習への参加状況や発表と研究レポートに基づいて総合的に判断して評価する。 研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
センサ医工学の基礎技術を習得するため、生化学や英語の知識、コンピュータの基本的な使用方法については事前に準備すること。					
<b>参考書</b>					
Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi 三林 浩二: Springer Nature, 2024					
「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2021					
Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno, 三林 浩二, Niwa, Osamu. [丹羽修], Ueno, Yuko. [上野祐子].: Elsevier, 2019					
代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2018					
生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林 浩二, シーエムシー出版, 2017					
スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2015					
スマート・ヒューマンセンシング : 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術 / 三林 浩二, シーエムシー出版, 2014					
ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器 / 三林浩二監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2009					
ユビキタス・バイオセンシング : 健康モニタリング&日常ケアのための計測技術 / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2006					
テレワーク社会を支えるリモートセンシング = Advanced remote sensing for supporting telework / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2021					
授業中に資料を適宜、配布する。					
<b>履修上の注意事項</b>					
必要に応じて授業中に連絡する。					
<b>備考</b>					
特になし					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					

三林 浩二:m.bdi@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

三林 浩二:毎週月曜日 AM.11:00-PM.12:00 21棟(生材研)5階 503B 室

時間割番号	0363033				
科目名	情報医工学演習	科目ID	GB—c6095-S		
担当教員	中島 義和, 小野木 真哉, 杉野 貴明, 周 東博[NAKAJIMA Yoshikazu, ONOGI Shinnya, SUGINO Takaaki, SHUU Touhaku]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b> バイオ情報分野 第5研究室 (生体材料工学研究所 4階)					
<b>授業の目的、概要等</b> 本演習では、バイオ情報に関して、医用工学、生体工学、情報科学/計算機科学、機械工学、電気電子工学などの基礎知識ならびに周辺知識の習得と、実用化されているそれらの具体的なかつ実践的なシステムならびにデバイスの理解を通して、総合的なバイオメディカル理工学の知識と技術を理解し活用できる能力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b> バイオメディカル分野での総合的な理工学の知識や技術の基礎を理解し、当該領域での理工学に関する意識を高める。					
<b>授業方法</b> 受講生はセミナー形式の授業と実験の両方に参加すること。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: この演習では、医療で用いられる生体情報の計測・獲得と、物理法則に基づく統融合、人工知能など知識ベースの解析などに関する一連の研究を通して、当該分野の基礎ならびに周辺知識を学習するとともに、実践的演習を通して俯瞰力ならびに実践力を向上させる。医療現場では、簡易な生体検査に加えて X 線、X 線 CT、MR、超音波、光計測(顕微鏡、内視鏡)など多種多様な画像診断が行われており、これらの検査で取得される情報は高次元かつ多面的である。効率のかつ安全な医療を実現するためには、これら診断情報を時空間で統融合し、解析する必要がある。本演習では、多面的生体情報の物理法則に基づく統融合、ならびに人工知能による解析の実践を通して学習する。さらに、これらの背景にある知識を、ラグランジュ的視点ならびにオイラー的視点の双方からの視点で解析し、理解を深める。 参加可能プログラム: ゼミ形式の講義とし、論文輪講や議論を含む。					
研究実習 目的・概要: 生体・医用情報の高次元・多面的解析と、コンピュータならびにロボットによる手術支援 参加可能プログラム 一連の実習を行う。受講生は、以下の2つのプログラムのうちどちらか一つを選択する。 1) 生体・医用情報の高次元・多面的解析 2) コンピュータならびにロボットによる手術支援 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、実験への参加状況及び外部発表(学会、論文)状況に基づいて、以下の割合を目安に総合的に評価を行う。 ○講義、演習、研究実習への参加状況: 80% ○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等: 20% 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>成績評価の基準</b> ○講義、演習、研究実習への参加状況: 80% ○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等: 20% 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 初回演習授業のガイダンスならびに各演習授業において必要に応じて指示する。					
<b>試験の受験資格</b>					

学生は情報医工学分野を専攻すること
<b>構成ユニット</b> 中島義和, 小野木真哉, 杉野貴明, 周東博
<b>モジュールの単位判定</b> 6 単位
<b>教科書</b> 必要に応じて資料を適宜配布する。
<b>参考書</b> 演習授業中に資料を適宜、配布する。
<b>履修上の注意事項</b> 必要に応じて演習授業中に連絡する。
<b>備考</b> 受講生は、(個人情報を取り除いた)患者の生体情報の処理や、システムの前臨床／臨床試験を行う可能性がある。実施において、必要な倫理審査を受ける可能性がある。

時間割番号	0363034			科目ID	GB—c6096-S
科目名	精密医工学演習			科目ID	GB—c6096-S
担当教員	池内 真志, 石川 大輔[KEUCHI Masashi, ISHIKAWA Daisuke]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修した場合には英語にて行う。					
<b>主な講義場所</b> 精密医工学分野研究室(21 号館 4F)					
<b>授業の目的、概要等</b> 機械工学, 制御工学, 加工学等の工学知識と, 治療介入の対象である生体の分子メカニズムを習得し, 治療系医療機器およびシステム開発に必要な生体・機械・情報のインタラクション・デザイン技術について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b> 医療機器の研究開発を主体的に実施するために必要な, ①基盤的知識(機械工学, 生体医工学, 分子生物学等), ②課題発見能力, ③研究立案能力, ④研究遂行能力を身につける。					
<b>授業方法</b> 装置取扱い方法や工学的知識などの基本的な実習を受けた後, 担当教員指導の下で研究に取り組み演習・実習を行う。またゼミナールにてプレゼンテーション演習および輪講による研究知見の醸成を行う。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: 治療系医療機器および医療情報システム開発のための応用工学, 生命科学, ならびに医療機器の法規制・基準・ガイドライン等の知識の習得を目的に, 文献調査, 最新文献輪講, 学術大会聴講等と発表形式でのディスカッションにより演習を進める。 参加可能プログラム: ゼミ: 毎週火曜日 13:00-15:00 (日時変更の場合は事前に調整する) 輪講・文献調査: 随時  研究実習 目的・概要: 臨床上の課題解決または新たな医療技術創出に繋がる医療機器の開発を目的に, 具体的な医療システム・医療情報解析手法の設計, 試作を通じた研究実習を行う。また研究を実施する上で必要な課題発見, 研究立案, 論文・発表資料の作成方法等について学ぶ。 参加可能プログラム: ゼミ: 毎週木曜日 13:00-15:00 (日時変更の場合は事前に調整する) 開発・解析実習: 随時					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、実験への参加、および外部研究発表の取り組み状況に基づいて、以下の割合を目安に評価を行う。 ○講義、演習、研究実習への参加状況: 80% ○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等: 20% 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 計算機を用いたプログラミングの経験, 若しくは臨床経験があることが望ましい。					
<b>参考書</b> 演習中に適宜指示する。また医用システムに関しては下記参考書を適宜参照されたい。 臨床工学講座 医用治療機器学 第2版, 監修/篠原一彦, 医歯薬出版 ISBN-13: 978-4263734193 機械工学便覧 応用システム編 γ9 医療・福祉・バイオ機器 日本機械学会編 ISBN-13: 978-4-88898-174-3					

時間割番号	0363005			科目ID	GB—c6005—S
科目名	物質医工学演習	科目ID	GB—c6005—S		
担当教員	岸田 晶夫, 橋本 良秀[KISHIDA AKIO, HASHIMOTO YOSHIHIDE]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 実施時に通知する。					
<b>授業の目的、概要等</b> 医療・歯科医療に貢献する「工学」についての理解を深めることを目的とする。「医工学」という用語は広く用いられているが、機械系・情報系を指す場合がほとんどであり、材料系の視点が欠けている。「物質・材料」を中心とした医療・歯科医療のための技術や基礎研究について学習する。					
<b>授業の到達目標</b> 物質・材料についての基礎研究が、医療・歯科医療に貢献するまでに必要な検討要素について俯瞰し、研究目標・研究内容をそれに即した形で評価できる能力を身につける。					
<b>授業方法</b> 研究内容に即した演習と実習を行う。開始時に指導を行うが、その後、自らの考えに従って内容を設定し、実施することが要求される。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: 生体機能および先端医療に貢献する材料について理解を深めることを目的とする。材料からの研究開発の最前線に関する適当な文献を選んで精読して紹介し、その文献について種々の議論を行う。また、研究内容について逐次内容をまとめ、内部(データ検討会・週間レポート)および外部(学会・論文)へ成果を発表する。 参加可能プログラム: 研究室セミナー(データ検討会・雑誌会) 毎週 木曜日・金曜日 9:00-12:00  研究実習 目的・概要: 物質医工学研究に必要な基本的技術(材料合成、特性解析、細胞培養、動物実験など)を習得する。 参加可能プログラム: 実習 随時(月～金:9:00-18:00) ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 研究、演習、実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。 ○演習、研究実習への参加状況(60%以上の参加が必須): 80% ○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等(1回以上が必要): 20% 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 教員から指示があったテキスト(論文・書籍等)について学習しておくこと。					
<b>参考書</b> バイオマテリアル : その基礎と先端研究への展開 / 田畑泰彦, 塙隆夫編著, 田畑, 泰彦, 塙, 隆夫, 岡野, 光夫, 明石, 満, : 東京化学同人, 2016 Biomaterials science : an introduction to materials in medicine / edited by Buddy D. Ratner ... [et al.], Ratner, B. D. (Buddy D.), Hoffman, Allan S., Schoen, Frederick J., Lemons, Jack E., : Academic Press, 2013					
<b>履修上の注意事項</b> 実習は化学および生物学的な実験が主体となるため、演習・研究との時間調整や学習時間の確保など長期間にわたる主体的かつ計画的な取り組みが求められる。教員とよく相談すること。					



時間割番号	0363006				
科目名	薬化学演習	科目ID	GB—c6006—S		
担当教員	影近 弘之、藤井 晋也、石田 良典、増野 弘幸[KAGECHIKA HIROYUKI, FUJII Shinnya, ISHIDA Ryousuke, MASUNO HIROYUKI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業。留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 演習は22号館第2会議室、研究実習は本分野の研究室にて行う。					
<b>授業の目的、概要等</b> 薬化学分野における機能性分子の創製とその応用に関する研究について理解し、専門的な理論と技術をもって、当該分野の研究を推進する能力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b> 自己の研究について客観的な進捗状況や成果の意義を判断でき、今後の指針をたてたり、新たな研究展開を立案したりできるようにする。					
<b>授業方法</b> 演習：研究室のスタッフが個別あるいはセミナー形式で行う。 研究実習：研究室のスタッフの個人指導によって、研究室にて行う。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要：薬化学研究に必要な知識や最新技術の取得を目的に、有機化学、医薬化学、ケミカルバイオロジー分野ならびにその周辺分野の最新の論文を熟読し、解説、紹介、議論を行う。研究の背景や着想に至った経緯、具体的な実験的手法についても学ぶ。 参加可能プログラム：文献セミナー 毎週土曜日 10:00～12:30  研究実習 目的・概要：薬化学研究に必要な有機化学(合成化学、構造化学、物理化学)、医薬化学、ケミカルバイオロジーに関する実験技術を習得する。 参加可能プログラム： 1)合成化学実験 随時 ・生理活性有機化合物の合成と精製 2)構造化学実験 随時 ・有機化合物の構造解析 3)物理化学実験 随時 ・有機化合物の結晶構造、溶液中での構造や動的挙動、各種相互作用の解析 4)医薬化学実験 随時 ・有機化合物の生理活性等の機能解析、生体内分子との相互作用や薬理作用解析 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 演習は、出席・議論への参加(50%)、レポート(50%)に基づき総合的に評価を行う。研究実習は研究内容、レポート等に基づき総合的に評価を行う。 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 有機化学の基礎次項及び有機化学実験に関する技術と注意点を復習しておくこと。					
<b>参考書</b> 有機化合物のスペクトルによる同定法(シルバースタイン他、東京化学同人)、人名反応に学ぶ有機合成戦略(富岡清監訳、化学同人)、Advanced Organic Chemistry (March, Wiley)、化学ラボガイド(渡辺正、朝倉書店)					

時間割番号	0363007				
科目名	生命有機化学演習	科目ID	GB—c6007-S		
担当教員	細谷 孝充, 田口 純平, 隅田 有人[HOSOYA TAKAMITSU, TAGUCHI Junnpei, SUMIDA YUUTO]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 22 号館会議室または生命有機化学分野の研究室。					
<b>授業の目的、概要等</b> 生命科学の推進に役立つ有機化学(とくに有機合成)に関する実践的な知識及び実験技術を習得する。					
<b>授業の到達目標</b> 自己の実験結果について合理的な解釈を行い、次の研究戦略を提案できるようにする。					
<b>授業方法</b> 演習: 当番制の発表とグループ議論により行う。 実験: 実験: 研究室スタッフの個人指導により行う。					
<b>授業内容</b> <b>演習</b> 目的・概要: 有機化学に関する最新の学術論文を読み、その内容を解説、紹介、議論することにより関連分野の知識を深めるとともに、論理構成力を身につけることで論文の書き方の習得を目指す。 参加可能プログラム: 雑誌会 毎週水曜日 18:00~21:00  <b>研究実習</b> 目的・概要: 有機合成化学に関する実験技術を習得する。 参加可能プログラム: 1) 有機合成実験 随時 2) 機器分析実験 随時 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 演習、研究実習への参加状況(80%)、研究報告書の内容及び外部発表(論文、学会)(20%)の状況等に基づいて総合的に評価する。 研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 演習: 紹介する文献に関して事前に詳細な調査を行い、説明用の配布資料を作成する。 研究実習: 実施予定の実験に関して事前に詳細な調査を行う。					
<b>参考書</b> 実験化学講座 第5版(丸善)13-19 巻: 有機化合物の合成 I-VII					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 細谷 孝充: thosoya.cb@tmd.ac.jp 隅田 有人: sumida.yuto@tmd.ac.jp 田口 純平: jtaguchi.cb@tmd.ac.jp					

時間割番号	0363021			科目ID	GB—c6025-S
科目名	メディシナルケミストリー演習				
担当教員	玉村 啓和[TAMAMURA HIROKAZU]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> メディシナルケミストリー分野の研究室(21号館6階)					
<b>授業の目的、概要等</b> 有機化学および生化学を基盤とし、医薬品の創製および基礎研究に関する実験の考案やデータ解釈ができる能力の養成を目指す。					
<b>授業の到達目標</b> 有機化学および生化学を基盤とし、医薬品の創製および基礎研究に関連する自己の研究成果について今後の方針をたてることのできるようになる。					
<b>授業方法</b> 演習: 参加学生に対し、研究室のスタッフが個別あるいはセミナー形式で行う。 研究実習: 研究室のスタッフの個人指導によって、研究室にて行う。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: 有機化学および生化学を基盤とし、医薬品の創製および基礎研究に関する最新の文献情報を行い、実験手法、データ解釈と将来的な展開などに関して討論を行う。 参加可能プログラム: 大学院講義 随時 研究室文献紹介 日時 毎週木曜日 15:00~18:00(詳細は後日通知) 有機化学に関する勉強会 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。  研究実習 目的・概要: 有機化学、ペプチド化学、分子生物学の分野における基礎的な実験技術、データ解析法を習得し、研究テーマの設定から論文発表にいたるまでの各段階で教員との討論を行い、科学に関する理論的思考、解釈が行える技術を習得する。成果は博士論文として発表を行う。 参加可能プログラム: 研究室セミナー 毎週1時間程度(詳細は後日通知) 遺伝子機能を制御する人工酵素の開発に関する研究 ペプチド化学に基づく細胞機能解明に関する研究					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、実験への参加状況(80%)及び研究内容(20%)に基づいて評価を行う。 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 特になし。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> tamamura.mr@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 授業開始1週間前から授業終了1週間後までの毎週月—金の午後3時から午後5時: 科目責任者 メディシナルケミストリー分野(玉村)教授室 22号棟6階 603B室					

時間割番号	0363040				
科目名	ソフトマター医工学演習	科目ID	GB—c6102-S		
担当教員	鳴瀧 彩絵[NARUTAKI Ayae]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
準備学習等についての具体的な指示					

時間割番号	0363009			科目ID	GB—c6010-S
科目名	有機生体材料学演習				
担当教員	松元 亮[MATSUMOTO AKIRA]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業。留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 実施日に通知する。					
<b>授業の目的、概要等</b> 有機材料の基本的な特性を理解した上で次世代バイオマテリアルとしての有機材料の可能性や要求される機能について十分議論できる専門知識と科学的思考力を身につけることを最終目的とする。そのためには、バイオマテリアルとしての応用に啓発された有機材料の基礎研究のあり方についても理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b> バイオマテリアルとしての有機材料の設計法・機能発現に関する着眼点を身につけさせ、自ら進んで問題点の抽出発見および解決方法を提案できることを目指す。					
<b>授業方法</b> 通常の講義形式と輪読形式を行い、相互討論の場をできるだけ設ける。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要:機能性高分子の設計と評価、診断や治療技術への応用に関する論文等を調査し、先端的な研究に目を向けて知識を深めると共に、論理的に研究活動を行えるよう訓練する。また、当該分野の研究に必要な機器や最新技術について学ぶ。 参加可能プログラム:大学院・教室セミナー 11月8日～12月27日 毎週水曜日 16:00～18:00  研究実習 目的・概要:当研究室でこれまでに開発している種々の機能性材料を用いて、新規の DDS やバイオマテリアルとしての機能評価を行う。具体的には、新規マテリアルの合成、新規マテリアルのキャラクタリゼーション、薬物放出挙動の制御、細胞・動物モデルでの評価実験などを行う。 参加可能プログラム:大学院・教室セミナー 11月8日～12月27日 毎週水曜日 16:00～18:00					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加状況(50点)及び研究レポート、研究内容の外部発表(学会、論文等)の状況(50点)に基づいて総合的に評価する。 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 年度ごとに課題分野を更に選定して関連文献を予め準備しておき、その内容を全員が交代で演習の中でパワーポイントにまとめて口頭発表することによって、当該課題について総括的に理解できるようにする。					
<b>教科書</b> Biomaterials Science : An Introduction to Materials in Medicine / edited by Buddy D. Ratner ... [et al.], Ratner, B. D. (Buddy D.), Hoffman, Allan S., Schoen, Frederick J., Lemons, Jack E., Academic Press, 2013					

時間割番号	0363035			科目ID	GB—c6097-S
科目名	診断治療システム医工学演習				
担当教員	梶 弘和[KAJI Hirokazu]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 診断治療システム医工学研究室(21 号館 1 階)					
<b>授業の目的、概要等</b> 診断や治療を目的とした医療デバイス・システム及び関連分野の最新動向を学ぶと共に基礎的知識と技術を習得し、当該分野で自発的に研究を推進できる能力を養うことを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b> 論文精読、実験デザイン、実験結果に対する科学的解釈とディスカッションを通じて、新しい医療デバイス・システムの研究開発を遂行する上での課題解決能力及び戦略的考察能力を習得することを目指す。					
<b>授業方法</b> 演習: 研究室スタッフが、参加学生に対して個別あるいはセミナー形式で行う。 研究実習: 研究室スタッフの指導の下で実際の研究活動に参加する。					
<b>授業内容</b> 診断や治療を目的とした医療デバイス・システムに関する最新の学術論文を精読し、その内容を紹介すると共に議論を重ねることで、当該分野の研究動向を学ぶ。さらに、新しい医療デバイス・システムの研究開発に必要な知識と技術の習得を目指す。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加状況(80%)、及び外部発表(学会、論文)状況(20%)に基づいて総合的に評価する。 研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 特になし。					
<b>参照ホームページ</b> <a href="https://www.tmd.ac.jp/bmc/">https://www.tmd.ac.jp/bmc/</a>					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> kaji.bmc@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 毎週水曜日 1pm-3pm 21 号館 1 階 103B 室 予めメールで予約をすること。					

時間割番号	0363025			科目ID	GB—c6042-S
科目名	セラミックバイオマテリアル演習				
担当教員	横井 太史[YOKOI Taishi]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 無機生体材料学分野研究室					
<b>授業の目的、概要等</b> リン酸カルシウムに代表されるセラミックバイオマテリアルの研究分野における基礎と臨床応用の最近のトピックスについて解説する。専門雑誌から厳選した研究論文を中心に、セラミックバイオマテリアルに関する最新の研究動向を探り、新たなセラミックバイオマテリアルの開発の可能性について議論する。					
<b>授業の到達目標</b> セラミックバイオマテリアルの研究分野における基礎・応用研究の最近のトピックスについて習熟し、自力で課題を見つけ、その解決方法を提案できることを目指す。					
<b>授業方法</b> 基礎知識と技術の修得を目的としているので、小人数制とする。					
<b>授業内容</b> セラミックバイオマテリアルに関する最近の論文を調査し、その論文について議論することにより、セラミックバイオマテリアルに関する知識を深める。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加状況(80 点)及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況(20 点)に基づき、総合的に評価を行う。研究実習については、中間アドバイスの評価をもとに総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 高校レベルの化学や物理を復習しておくことが望ましい。					
<b>参考書</b> セラミックバイオマテリアル／岡崎正之、山下仁大編著；尾坂明義 [ほか] 共著、岡崎、正之、山下、仁大、尾坂、明義、石川、邦夫、大槻、主税、井奥、洪二、中村、美穂(生体材料)、上高原、理暢.;コロナ社, 2009 An Introduction to bioceramics./ editor, Larry L. Hench, Hench, Larry L.; Imperial College Press, 2013					
<b>履修上の注意事項</b> 特になし					
<b>備考</b> 特になし					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> yokoi.taishi.bcr@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 月曜日 PM3:00-PM5:00 21 号館 3 階 301B 室					

時間割番号	0363026			科目ID	GB—c6043-S
科目名	先進バイオ分子医学演習			科目ID	GB—c6043-S
担当教員	影近 弘之, 位高 啓史, 福島 雄大[KAGECHIKA HIROYUKI, ITAKA Keiji, FUKUSHIMA Yuuta]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
医療と生命科学に役立つ有用な mRNA を主とする核酸医薬、細胞運命変換(ダイレクトリプログラミング)技術、新たな mRNA 医薬、ワクチンの開発、再生医療に関連する学術論文を精読・紹介と議論を重ね、分かり易く当該分野の研究に必要な基本、および最新技術の知識と研究推進の能力の素養を習得する。					
<b>主な講義場所</b>					
担当教員が事前に指定する場所(21 号館 3 階、他)					
<b>授業の目的、概要等</b>					
医療と生命科学に役立つ有用な mRNA を主とする核酸医薬、細胞運命変換(ダイレクトリプログラミング)技術、新たな mRNA 医薬・ワクチンの開発の基本、および最新技術の知識、研究推進の能力の素養と技術を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
研究結果に対する科学的解釈とディスカッションを通じて、論文精読、実験のデザイン、医薬品開発の実用化に重要となる問題提起、解決能力および戦略的考察を習得することを目指す。					
<b>授業方法</b>					
演習:参加学生に対し、研究室の指導教員スタッフが個別あるいはセミナー形式で行う。研究実習:研究室のスタッフの個人指導によって、研究室にて行う。					
<b>授業内容</b>					
演習目的・概要:医療と生命科学に役立つ有用な mRNA を主とする核酸医薬、細胞運命変換(ダイレクトリプログラミング)技術、新たな mRNA 医薬、ワクチンの開発、再生医療に関連する学術論文を精読・紹介と議論を重ね、分かり易く当該分野の研究に必要な基本、および最新技術の知識と研究推進の能力習得、文献調査、最新文献輪講と発表形式でのディスカッションにより演習を行う。参加可能プログラム:セミナー:毎週火曜日 17:00-18:00 (日時変更の場合は事前に調整する)輪講・文献調査:随時研究実習目的・概要:mRNA 医薬開発および細胞運命変換技術の技術・知識習得を目的に、具体的な細胞培養・実験動物を用いた RNA 医薬の治療効果の検証、試作を通じた研究実習を行う。また研究を実施する上で必要な課題発見、論文・発表資料の作成方法等について学ぶ。参加可能プログラム:研究セミナー:毎週火曜日 16:00-17:00 研究実習:随時					
<b>成績評価の方法</b>					
成績評価の方法講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の情報発信(論文、学会、研究会) 状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。○講義、演習、研究実習への参加状況:80%○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:20%研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
特になし					
<b>参考書</b>					
Islet Equality 糖尿病における再生医療の最新知見/稲垣暢也,長船健二, 松本征仁, 山口智之:メディカルレビュー社, 2017 ダイレクトリプログラミング = Direct reprogramming: 再生医療の新展開/鈴木淳史 監修鈴木, 淳史, 解剖学:エヌ・ティー・エス, 2020					



時間割番号	0363011				
科目名	分子細胞生物学演習	科目ID	GB—c6012-S		
担当教員	澁谷 浩司, 後藤 利保, 佐藤 淳[SHIBUYA HIROSHI, GOTO TOSHIYASU, SATO ATSUSHI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> プログラムにより異なるので受講前に担当教員に確認すること。					
<b>授業の目的、概要等</b> 脊椎動物の形態形成、器官形成は、さまざまなシグナル分子が時間的空間的に細胞を誘導することにより成立する。また、これら多くのシグナル分子の破綻が疾患の発症にも結びついている。そこで、発生・分化を制御するシグナル分子によるシグナル伝達ネットワークから形態形成、器官形成機構さらには疾患の発症機構の理解を目的とする。					
<b>授業の到達目標</b> 形態形成・組織形成や疾患発症における細胞機能の制御機構を細胞内シグナル伝達の観点から理解し、関連分野を含めた研究の進め方や論文作成を体得することで、本分野を基盤とした様々な分野への発展性等の理解を深めた研究者の育成を目標とする。					
<b>授業方法</b> 大学院生ができる限り参加できるよう少人数での指導を行う。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: 細胞内シグナル伝達等を基盤とした細胞制御機構について形態形成・組織形成および疾患発症機構に焦点をあてて研究論文の講読と作成、問題点の討論を行う。 参加可能プログラム: 分子細胞生物学分野セミナー: 毎週月曜日 13:00~14:00  研究実習 目的・概要: 細胞内シグナル伝達等を基盤とした細胞制御機構について形態形成・組織形成および疾患発症機構に焦点をあてて研究論文の講読と作成、問題点の討論を行う。 参加可能プログラム: 研究グループへの参加 随時 分子細胞生物学実験 随時 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 討議、議論、演習、研究実習への参加状況や、発表・発言等といった参画状況を判断して評価する。加えて、研究内容、各種研究会や学会発表の回数等に基づいて総合的な評価を行う。 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					

時間割番号	0363012				
科目名	発生再生生物学演習	科目ID	GB—c6013-S		
担当教員	仁科 博史, 小藤 智史, 岡本 好海[NISHINA HIROSHI, KOFUJI Satoshi, OKAMOTO Yoshimi]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 全て日本語で行う。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
<p>授業目的: 個の発生を通して、医学生物学的知識を蓄えるだけでなく、まだ解明されていないパラダイムが何であるかを学び、それが明らかされる事で期待されるインパクトを想像することで、サイエンス教育の本質に迫ることを目的とする。</p> <p>概要: 生命の誕生から発達まで、最新の分子生物学、遺伝学のレベルで概説する。また、小児成長における遺伝疾患を系統的に学習し、発生学を基盤とした、将来のSTEM細胞を用いた再生医療への展望を考える。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p>発生・再生・生殖医学に関する基本的知識を学び、最先端の研究戦略を理解する。</p> <p>医学と生物学の両面から、十分な情報を得て、この分野において深い洞察力をつけることを目標とする。</p>					
<b>授業方法</b>					
PowerPoint を用いた講義を中心に行う。					
<b>成績評価の方法</b>					
授業の参加状況(50 点)及び試験(レポート)(50 点)に基づいて総合的に評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
特になし。					
<b>参考書</b>					
<p>「Developmental Biology」 SINAUER 社 Scott F. Gilbert</p> <p>「わかる実験医学シリーズ 発生生物学がわかる」 羊土社 編集/上野直人, 野地澄晴</p>					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
仁科 博史 nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
仁科 博史: 毎週木曜日 AM.10:00-12:00 M&D タワー21 階セミナー室					

時間割番号	0363037			科目ID	GB—c6099—S
科目名	恒常性医学演習				
担当教員	豊島 文子[TOYOSHIMA Fumiko]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
M&D タワ-19 階					
<b>授業の目的、概要等</b>					
幹細胞研究領域における基本的知識及び最新の動向を理解し、実験を行うための基本的手技を習得し、生命科学研究者としての基礎を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
生命科学研究領域における未解決な問題点を見だし、作業仮説を立て、実験を計画し、結果に対する考察と次の実験への計画立案を行えるようになる。研究成果をまとめて、学会での発表や論文発表を行えるようになる。					
<b>授業方法</b>					
演習はセミナー方式で行う。研究実習は個別に指導する。					
<b>授業内容</b>					
演習: 生命化学・医学研究分野の中で学術的意義の高い最新の論文を選択し、総説を参考に研究背景と論文の科学的意義を理解し、研究室セミナーで紹介する。最新技術を学び、自身の研究に生かす方法を議論する。					
研究実習: 1)ライフステージにおける臓器リモデリング機構、2)母体-胎児連関を担う分子機構、3)生理的・社会的ストレスによる恒常性変容機構についてマウスとヒトサンプルを用いて実験を行う。					
<b>成績評価の方法</b>					
演習(研究室セミナー)への参加、研究実習への取り組み、学会発表、論文発表ならびに中間アドバイスに基づき評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
細胞・組織に関する分子生物学、生化学ならびに遺伝子改変マウスの基本的知識を身につけておくこと。					
<b>参考書</b>					
Molecular Biology of the Cell					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
toyoshima.hm@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月一金 AM.10:00-PM.5:00 M&D タワ-19 階					

時間割番号	0363036			科目ID	GB—c6098-S
科目名	先端ナノ医工学演習				
担当教員	内田 智士[UCHIDA SATOSHI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う。					
<b>主な講義場所</b>					
M&D タワー24 階北、先端ナノ医工学教室					
<b>授業の目的、概要等</b>					
核酸医薬、メッセンジャーRNA (mRNA)医薬等の次世代バイオ医薬品の開発は、ナノ Drug Delivery System (DDS)を用いた生体への送達法の構築から、生体内動態、生体反応の解析、ワクチンや難治疾患治療への応用、さらには社会実装まで、数多くの要素からなる。それらを俯瞰しながら、専門知識と技術を身につけ、自身の研究を主体的に遂行する。					
<b>授業の到達目標</b>					
アカデミア、企業といった立場を問わず、分野融合の進む医薬品開発を先導し、その社会実装を担うことができるような人材となること。					
<b>授業内容</b>					
演習 ナノ DDS、核酸医薬、mRNA 医薬に関する基盤研究から医療応用研究に至るまでの幅広い文献を読み、科学的議論を行うことで、知見を深めるとともに、自身の研究に活用する。					
研究実習 ナノ DDS 開発、その生物学的機能評価、ワクチンや疾患治療への応用に関わるプロジェクトを遂行する。主体的に研究を遂行できる能力を養う。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義、演習、実験への参加状況、研究内容、外部発表(学会、論文)に基づいて総合的に評価を行う。 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
背景となる学術分野は問わない。生物学の基礎知識があると好ましい。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
uchida.anme@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
毎週月曜～金曜日 AM10:00-PM6:00, M&D タワー24 階北、先端ナノ医工学教室					

時間割番号	0363015				
科目名	分子構造情報学演習	科目ID	GB—c6017-S		
担当教員	伊藤 暢聡, 沼本 修孝, 花園 祐矢[ITO NOBUTOSHI, NUMOTO NOBUTAKA, HANAZONO Yuuya]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 講義前に担当教員に確認すること。					
<b>授業の目的、概要等</b> タンパク質の発現・精製・結晶化の技術を習得し、X線結晶解析により生体高分子の立体構造解析を行う。また、モデリングなど、構造情報の応用も行う。					
<b>授業の到達目標</b> 生体高分子の立体構造解析をめざした研究を立案・遂行できるようになる。さらに、構造情報を用いたモデリングなどができるようになる。					
<b>授業方法</b> 少人数制として、討論を重視して行う。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: X線結晶解析を中心に生体高分子の立体構造解析の原理を学ぶ。構造生物学の最新の研究や立体構造情報の創薬への応用などについて、文献研究を通して学ぶ。 参加可能プログラム: 教室セミナー 原則 毎週木曜日 16:00~18:00  研究実習 目的・概要: 実際の蛋白質を対象に、試料の大量調製や結晶などを学び、構造決定法やその精密化などの計算的手法も習得する。さらに、得られた構造データの応用方などについても学ぶ。 参加可能プログラム: Progress Report 毎週1時間程度 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、実験への参加状況及び研究内容に基づいて総合的に評価を行う。また、外部発表(学会、論文)の内容等も考慮に入れる。研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 全学のアイソトープ講習会を受講していることが望ましい。					
<b>履修上の注意事項</b> 特になし					
<b>備考</b> 特になし					

時間割番号	0363031			科目ID	GB—c6084-S
科目名	機能分子病態学演習				
担当教員	松田 憲之[MATSUDA Noriyuki]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
基本的に全て日本語で行う。留学生が履修登録を希望する場合は、事前に連絡をして欲しい。					
<b>主な講義場所</b> M&D タワー北、23 階、N2301 号室					
<b>授業の目的、概要等</b> ユビキチン化を含むタンパク質の翻訳後修飾機構や選択的オートファジーなど、細胞内のタンパク質分解やオルガネラ分解の分子基盤を理解する。その上で、それらと深く関連する神経変性疾患(例えばパーキンソン病など)の発症基盤を最新の理論に基づいて議論できる能力を修得する。研究材料は培養細胞を基本に用いるが、必要に応じてマウスやより基本的なモデル生物(酵母や大腸菌)を用いる。					
<b>授業の到達目標</b> 既知の事実に基づいて、神経変性疾患(例えばパーキンソン病など)の発症基盤に関する仮説を新たに設定する。さらに、その仮説を検証するための理論的・技術的解決へ向けて実験を推進できるようにする。					
<b>授業方法</b> 少人数制とし、演習・研究実習ともに討論を通して、タンパク質の翻訳後修飾や選択的オルガネラ分解の視点から神経変性疾患をより深く理解できるようにする。					
<b>授業内容</b> <b>演習</b> 目的・概要:タンパク質の翻訳後修飾や選択的オートファジーなど、細胞内分解を介した品質管理の分子基盤を理解する。その上で、それらと深く関連する神経変性疾患(例えばパーキンソン病など)に関する最新の学術論文を熟読し、その解説や議論を通じて、神経変性疾患の病態に関する知識を習得する。また、当該分野の研究に必要な機器や最新技術について学ぶ。 <b>研究実習</b> 目的・概要:神経変性疾患の発症メカニズムを分子的な基盤で理解するために用いられる幅広い実験技術を学ぶため、分子生物学・細胞生物学・生化学等の様々なアプローチを行う。実験に際しては、病態のメカニズムを理解するための研究課題を設定し、研究計画の立案、問題解決の工夫を通して高度な研究を実践的に行う。研究材料は培養細胞を基本に、必要に応じてマウスやより基本的なモデル生物(酵母や大腸菌)を用いる。最終的に、研究成果をまとめて博士論文の作成及び発表を行う。 参加可能プログラム: 1) 分子生物学実験: 随時 2) 細胞生物学実験: 随時 3) 生化学実験: 随時 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 演習、研究実習への参加状況、参加プログラムにおける発表・発言等の参画・寄与状況、加えて各種研究会議への関与の程度、外部発表(学会発表、論文発表)の回数・内容に基づいて総合的な評価を行う。 研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>成績評価の基準</b> 同上。研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 初回授業のガイダンス並びに各授業において必要に応じて指示する。					
<b>履修上の注意事項</b> 各授業において必要に応じて指示する。					
<b>備考</b> 特になし					

時間割番号	0363017			科目ID	GB-c6019-S
科目名	生体情報薬理学演習				
担当教員	未定				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。専門用語は基本英語。					
<b>主な講義場所</b>					
セミナー室又は分野内の部屋(顕微鏡室、組織解剖学実験室、分子生物学実験室、電気生理学実験室)を使用。実験進捗によってリサーチコアセンター共通機器(フローサイトメーター、今日焦点顕微鏡)を使用する。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
先天性心臓-四肢疾患・成人心臓病発症の理解するためには、責任遺伝子ゲノム周辺のエピゲノム環境による転写制御機構を解明することが必要である。我々のグループは、責任遺伝子 TBX5, SALL1/4, 及び相互作用する新規エピゲノム因子群に着目しながら、疾患発症と形態発生学を勉強する。さらに、大学院期間において、専門的な理論と技術を身につけるだけでなく、世界を舞台とする人物として必要な資質の取得を目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
自己の研究成果について客観的な進捗状況を判断ができ、新規開拓精神と行動力を身につけさせる。					
<b>授業方法</b>					
少人数制とする。受講者との interaction により授業内容を展開する為、日々討論の場を設ける。					
<b>授業内容</b>					
<b>演習</b>					
目的・概要:一つの研究を完成させるためには、研究の立案に始まり、具体的な実験方法の計画、実験の遂行、データの解釈、計画の再検討、発表という一連のステップを一つ一つこなしていかなければならない。実際の研究の場で担当教員との相互的な討論を行うことにより、これら各ステップに習熟し、独立して研究を進めていく能力を養う。エピジェネティックな側面から先天性心疾患および成人心臓病の発症メカニズムを検討し、新たな薬物治療・遺伝子治療戦略の確立を目指す臨床応用を目標とする基礎研究(トランスレーショナルリサーチ)を行う。					
参加可能プログラム:					
大学院講義 随時					
大学院特別講義 年1回					
抄読会 毎週金曜日 17:00-19:00					
データ検討会(スタッフ込み)毎週火曜日 15:00-17:00					
ディスカッション 日々					
※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>研究実習</b>					
目的・概要:現在先天性心疾患・研究において未解明の重要と考えられる以下の研究テーマに関して、実際に実験チームの一員となり、トラブルシューティングを含めて研究の遂行に積極的に参加してもらう。					
参加可能プログラム:随時					
(1)心発生・心疾患発症におけるエピゲノム研究					
(2)ES/iPS 細胞から安定な機能性心筋(心室筋・心房筋・ペースメーカー細胞)の樹立と系譜追跡					
(3)心発生・心疾患発症理解のための哺乳類モデルの作製 (4) 性差疾患発症メカニズム					
(5)哺乳類モデルを用いた心臓再生					
※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b>					
討議、議論、演習、研究実習への参加・意欲及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。					
○討議、議論、演習、研究実習への参加状況:80%					
○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:20%					
研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					

**準備学習等についての具体的な指示**

抄読会で取り扱う最新論文はメールにて通知するので、参加予定日の1週間前までに教員と連絡を取ること。

**教科書**

新先天性心疾患を理解するための臨床心臓発生学／山岸敬幸、白石公編集、山岸、敬幸、白石、公、:メジカルビュー社、2021

Heart development and regeneration / edited by Nadia Rosenthal and Richard P. Harvey / Rosenthal, Nadia, Harvey, Richard P. : Elsevier/Academic Press, 2010

先天性心疾患を理解するための臨床心臓発生学(編集:山岸敬幸・白石公)MEDICAL VIEW

**参考書**

Heart Development and Regeneration volumn 1 and 2 (Nadia Rosenthal & Richard Harvey. ACADEMIC PRESS))

**他科目との関連**

ギルバート発生生物学(監修:阿形清和・高橋淑子)MEDSI



時間割番号	0363032				
科目名	疾患ゲノム機能演習	科目ID	GB—c6085-S		
担当教員	未定				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生在が履修登録した場合は、本人の希望により英語で行うことも可能。					
<b>主な講義場所</b>					
ゲノム機能多様性分野研究室(M&D タワー24F)もしくは zoom 等による遠隔授業を組み合わせで行う。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
神経疾患や筋ジストロフィーなどの遺伝性難病を、ゲノム・トランスクリプトーム解析によって明らかにする手法を学ぶとともに、疾患の分子遺伝学的な病態メカニズムを明らかにする手法を身につける。さらに、最新の研究動向についても学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
分子生物学手法とゲノム解析について、ひと通りの実験手法やデータ解析方法を学ぶ。					
<b>授業方法</b>					
少人数のグループあるいは個別に指導を行う。					
<b>授業内容</b>					
遺伝性疾患に関わるテーマを選び、疾患に関わる分子について公共データや自ら取得したデータを解析し問題設定を行った上で、それを分子生物学手法により実験的に明らかにする。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義・演習・研究実習への参加状況(60%)と研究発表・発言の積極性(40%)を総合的に判断し評価する。加えて、研究内容や研究会議への関与・学会発表の回数などに基づいて総合的な評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
研究内容に応じて必要な学習を指示するので、それに応じて準備を行うこと。					
<b>履修上の注意事項</b>					
分子生物学や分子遺伝学についての基礎的な知識は予め習得しておくことが望ましい。					
<b>備考</b>					
受講前に担当教員に連絡確認すること。					

時間割番号	0363019			科目ID	GB—c6022—S
科目名	環境エピゲノム演習				
担当教員	未定				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b> M&D タワー24 階					
<b>授業の目的、概要等</b> パーソナルゲノム情報を容易に得ることのできる時代が目前にきている。疾患予防や体質改善にゲノム情報の有用な活用方法を学ぶ事は、医学研究あるいはコ・メディカルな業務に携わる者にとって必須な時代となった。本講義では、ヒト形質の多様性がゲノム、エピゲノム、環境因子(生後及び生前の環境)によってどのように生み出されるのかについて学び、科学的根拠に基づき個人個人の疾患のなりやすさを統合的に評価できる能力を養うことを目的とする。さらにゲノム医学における生命倫理についても学び、考察する。また、実習で対象とする DOHaD (Developmental Origin of Health and Disease)の概念と、最新の研究動向について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b> ①疫学統計、遺伝疫学統計の基礎知識と基本的な解析技術を習得する。②遺伝子発現調節機構及びエピジェネティクスについての基本的知識を習得する。③ほ乳類の生殖、発生・成長、世代間の形質の継承についての基本的知識を習得する。④発生発達初期の環境変化が疾患感受性や形質多様性に及ぼす影響について、先行研究の成果に基づいて学習し、未解明の問題点について整理する。					
<b>授業方法</b> 少人数のグループあるいは個別の指導を原則とする。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要:参考書や論文を用いて疫学及び遺伝疫学の概念を学び、質的あるいは量的形質と環境要因・遺伝要因との関連性について明らかにする方法を学ぶ。さらに遺伝と環境の相互作用を評価する方法を学ぶ。形質(疾患形質)にエピゲノム状態が影響を与える事例を対象に、エピゲノム状態と遺伝要因、環境要因との関係を分析し、病因論的な解明を目指す解析方法について学ぶ。 参加可能プログラム: 大学院講義 随時 研究室セミナー 毎週木曜日 10:00 ~ 12:00  研究実習 目的・概要:下記に示す参加可能プロジェクトの中から個別に研究テーマを設定し、指導教員の指導のもと研究プロジェクトを推進する。それぞれのプロジェクトに必要な実験手技(核酸、たんぱく質、培養細胞、実験動物を用いた実験計画とその解析手法)や統計解析の方法を個別に教示する。 参加可能プログラム: 実際の研究プロジェクトへの参加 随時 1. 胎内環境が新生児エピゲノムに及ぼす影響の解析。2. 動物実験による DOHaD 現象メカニズムの解明。3. 非感染性慢性疾患(NCD)あるいはコモンディーズにおける遺伝と環境の相互作用についての研究。4. 非感染性慢性疾患(NCD)あるいはコモンディーズにおける統合的個別化疾患リスク評価についての研究など ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。					
<b>成績評価の基準</b> ○講義、演習、研究実習への参加状況:80% ○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:20% 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					

演習や研究実習に必要な準備学習(参考書や関連論文の自習)をその都度指示するので、十分な準備をすること。

**参考書**

- (1) A statistical approach to genetic epidemiology / Andreas Ziegler and Inke R. König. (Wiley-Blackwell)
- (2) Early life origins of human health and disease / Newnham JP and Ross MG (Karger)
- (3) Epigenetic Epidemiology / Karin B. Michels (Springer)
- (4) Exploring Personal Genomics (Oxford University Press)

**履修上の注意事項**

分子生物学や分子遺伝学についての基礎的な知識は予め習得しておくことが望ましい。

時間割番号	0363024				
科目名	ゲノム機能情報演習	科目ID	GB—c6041—S		
担当教員	二階堂 愛[NIKAIDO Itoshi]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
M & D タワー24F、ゲノム機能科学分野 (2458)					
<b>授業の目的、概要等</b>					
最先端のゲノム実験・データ解析技術のいずれかの知識・技能の習得を目的とする。関連論文の精読・紹介、研究セミナーへの参加・議論、新技術の研究開発を通じてゲノム科学に精通した研究の基礎を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
実験やデータ解析に必要なコントロールを自ら設定し、実験成果についても客観的に判断できるようにする。					
<b>授業方法</b>					
演習ではゲノム科学とバイオインフォマティクスという観点から生命現象をどのように理解するのかを学習する。教科書や最新の文献までを含め講読し議論を行う。実習ではDNAシーケンスやそのデータ解析等の実験を行う。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。					
○講義、演習、研究実習への参加状況:80%					
○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:20%					
研究実習については中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
初回のイントロダクションの際に、必要があれば指示する。					
<b>試験の受験資格</b>					
特になし。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
dritoshi@gmail.com					
<b>オフィスアワー</b>					
毎週月曜日 AM.9:00-PM.10:00 MD タワー24階 2458 (or Zoom)					

時間割番号	0363030			科目ID	GB—c6048-S
科目名	医化学演習				
担当教員	瀬川 勝盛[SEGAWA Katsumori]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b> プログラムにより異なるので受講前に担当教員への確認を要する。					
<b>授業の目的、概要等</b> 細胞がもつ様々な生体物質への恒常性維持機構、感知・応答のメカニズムを理解する。 また、これらのシステムの破綻がどのような疾患を引き起こすのか、どのように臨床に応用されてきたのかを理解する。					
<b>授業の到達目標</b> 細胞のもつ多様な恒常性維持の仕組みを理解し、「現在明らかとなっていない重要な問題は何なのか」を自身で見出すことを目指す。その問題をどのようにすれば解決できるのか、どのような実験が必要となるのかを提案できるようになることを目指す。					
<b>授業方法</b> 演習はセミナー方式で行う。研究実習は個別に指導する。					
<b>授業内容</b> 演習: すべての生命化学・医学研究分野の中で、科学的かつ臨床的に重要な論文を選択し議論する。研究立案、結果の解釈、考察が妥当であるかを議論し、生命科学研究の研究戦略を学ぶ。  実習: 細胞の恒常性維持の分子機構の解明とした生化学実験、分子遺伝学実験の基礎を指導する。					
<b>成績評価の方法</b> 演習: セミナーでの discussion 内容 (100%) に基づいてのみ評価を行う。  実習: 研究室での研究活動評価と中間アドバイス評価に基づき行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 初回授業のガイダンスならびに各授業において必要な場合指示する。					
<b>参考書</b> Molecular biology of the cell/Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John Wilson, Tim Hunt,Johnson, Alexander D.Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-: Garland Science, Taylor and Francis Group, 2015					

時間割番号	0363020				
科目名	理研生体分子制御学演習	科目ID	GB—c6024-S		
担当教員	岸田 晶夫, 谷内 一郎, 石垣 和慶, 田中 元雅, 萩原 伸也, 今見 孝志, 渡邊 力也 [KISHIDA AKIO, Ichiroh Taniuchi, ISHIGAKI Kazuyoshi, Motomasa Tanaka, HAGIHARA Shinya, IMAMI Takashi, WATANABE Rikiya]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 全て英語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
演習は、理研和光研究所の研究本館、脳神経科学研究センター、理研横浜研究所の生命科学研究センターなどにて行う。研究実習は、本分野の理研研究室にて行う。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
化学生物学、分子免疫学・分子神経病態学ならびにその周辺分野における生体分子の役割と制御方法を理解し、専門的な理論と技術を学び、最新技術を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
生体分子制御学研究の背景、着想に至った経緯、実験的手法について学び、自己の研究成果について客観的な進捗状況を判断でき、今後の研究指針をたてることのできるようになる。					
<b>授業方法</b>					
演習は、週1回のセミナーに参加し、最新の論文を熟読し、解説、紹介、議論を行う。研究実習は、予め良くディスカッションして策定した研究計画に基づき、実験を行い、得られた結果について考察し、次の実験計画を策定する。					
<b>授業内容</b>					
演習					
目的・概要: 生体分子制御学研究に必要な知識や最新技術の取得を目的に、化学生物学、分子免疫学、分子神経病態学ならびにその周辺分野の最新の論文を熟読し、解説、紹介、議論を行う。研究の背景や着想に至った経緯、具体的な実験的手法についても学ぶ。					
研究実習					
目的・概要: 生体分子制御学研究に必要な化学生物学、質量分析学、分子細胞病態学、分子免疫学、分子神経病態学、ゲノム科学医療に関する実験技術を習得する。					
参加可能プログラム:					
1) 分子神経病態学実験 随時					
・神経細胞における生体分子の解析による精神・神経変性疾患研究(担当教員: 田中元雅)					
2) 質量分析学 随時					
・プロテオミクスによる遺伝子発現制御の理解と疾患研究					
(担当教員: 今見孝志)					
3) ゲノム科学医療実験 随時					
・ヒト疾患関連 SNP データの NGS データ解析研究 (担当教員: 石垣和慶)					
4) 分子免疫学実験 随時					
・生体分子によるリンパ球分化の制御機構(担当教員: 谷内一郎)					
5) 分子細胞病態学実験 随時					
・植物の生理機能制御を目指した化学遺伝学研究(担当教員: 萩原伸也)					
6) 1 分子生物物理学実験 随時					
・疾患関連因子のデジタルバイオ分析技術研究(担当教員: 渡邊力也)					
※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b>					
出席と議論への参加(40%)、レポート等(60%)に基づき総合的に評価を行う。研究実習は研究内容(40%)、学会等での発表内容(40%)、レポート等(20%)に基づき総合的に評価を行う。					
研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					

<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>演習は、担当する論文とそこに出てくる引用文献まで精読し、結果について自分なりに考察すること。研究実習は、予め策定した実験実施計画に基づき必要となる実験の準備をすること。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>最新 創薬化学 –探索研究から開発まで(長瀬博、テクノミック)、入門ケミカルバイオロジー(入門ケミカルバイオロジー編集委員会、オーム社)、Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess 編、WILEY-VCH)、PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES – Chemical Biology Techniques and Applications (H. Osada 編、Wiley)</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>谷内 一郎 <a href="mailto:sichiro.taniuchi@riken.jp">sichiro.taniuchi@riken.jp</a></p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>谷内 一郎:谷内 一郎:授業内容等に関する質問は、随時、科目担当者に相談すること 科目担当者 理研生体分子制御学分野(谷内)連携教授(随時メールで対応可)</p>

時間割番号	0363022				
科目名	NCC 腫瘍医科学演習			科目ID	GB—c6026-S
担当教員	岸田 晶夫, 鈴木 啓道, 吉見 昭秀, 吉田 健一, 武田 はるな, 小幡 裕希, 吉岡 研一[KISHIDA AKIO, SUZUKI Hiromichi, YOSHIMI Akihide, YOSHIDA Kenichi, TAKEDA Haruna, OBATA Yuuki, YOSHIOKA Ken-ichi]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業. 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 研究グループにより異なるので、担当教員及びスタッフに受講前に確認すること。					
<b>授業の目的、概要等</b> がん研究領域における基本的知識及び最新の動向を理解し、実験を行うための基本的手技を習得し、将来のがん研究者・がん研究専門家としての基礎を身につける。					
<b>授業の到達目標</b> 独自に問題点を見いだし、作業仮説を立て、実験を計画し、結果に対する考察と次の実験への計画立案を行えるようになる。さらには、研究成果をまとめて、学会での発表や論文発表を行えるようになる。					
<b>授業方法</b> 各研究グループ担当の担当教員及びスタッフが、個人指導あるいはセミナー形式によって行う。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: がん研究を行うために必要な知識や技術の習得を目的に、第一線のがん研究者による講義やセミナー、リサーチミーティング、論文抄読会、学会発表等への参加と実践を通じて、将来独立したがん研究者として、がん研究を実践していくための基礎力を養う。 参加可能プログラム: 大学院講義、セミナー、リサーチミーティング、論文抄読会、学会予行など ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。  研究実習 目的・概要: がん研究を行うにあたって必要な遺伝学、遺伝子工学、生化学、細胞生物学、分子生物学、生理学、実験動物、病理学、ゲノム・エピゲノム・プロテオミクス解析、イメージング、次世代シーケンシング、バイオインフォマティクス、機械学習、腫瘍免疫などの実験手法を、各研究グループに所属して、自らの研究テーマを実践していくことで習得する。 参加可能プログラム: 各プロジェクト内の研究グループ(担当教員の研究室を中心に全体で30程度の研究グループ)のいずれかへ参加し実験を行う。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、実験への参加状況や、発表・発言などといった参画状況を判断して評価する。加えて、研究内容、各種研究や研究会議への関与への程度、学会発表の回数及び研究内容等に基づいて総合的に評価を行う。 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> がん・腫瘍に関する遺伝学、分子生物学、生化学などの基本的知識を身につけておくこと。					
<b>備考</b> プログラム参加希望者は、事前に担当教員及びスタッフに連絡し、確認を行うこと。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 鈴木 啓道 hiromics@ncc.go.jp					
<b>オフィスアワー</b> 鈴木 啓道 問合せ先 NCC 腫瘍医科学分野 鈴木 啓道					



時間割番号	0363023			科目ID	GB—c6027-S
科目名	細胞分子医学演習				
担当教員	佐々木 純子[SASAKI Junko]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> プログラムにより異なるが、事前に指定する(M&D タワー内)					
<b>授業の目的、概要等</b> 細胞膜リン脂質の取扱いや解析技術を習得し、様々な細胞応答におけるリン脂質代謝の意義を理解する。					
<b>授業の到達目標</b> 基本的な実験スキルの取得に加えて、論理的、科学的思考を身に着けるとともに、新たな仮説の提案と遂行ができるようになる。					
<b>授業方法</b> 少人数のグループで行う。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: 研究の遂行に必要な脂質生化学、細胞生物学、分子生物学の基礎を学ぶ。また、原著論文を読み、科学的思考を身に着ける。 参加可能プログラム: 研究室セミナー&抄読会 毎週月曜日 午前 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。  研究実習 目的・概要: 本研究部門では、(1)遺伝子改変マウスや疾患モデルマウスを用いて、リン脂質代謝異常に基づく疾患の分子機構を解明するとともに、(2)リン脂質解析技術の開発を通して、(3)膜リン脂質の新たな機能を見出す。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。 ○講義、演習、研究実習への参加状況: 80% ○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等: 20% 研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 日頃から生命現象や病態に興味を持ち、注意して観察する眼を養うこと。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> isjunko.pip@mri.tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 月一金 AM.10:00-PM.5:00 M&D タワー-19 階					

時間割番号	0363027				
科目名	領域創成科学演習	科目ID	GB—c6044-S		
担当教員	檜枝 光憲, 奈良 雅之, 中林 潤, 柳下 和慶, 徳永 伸一 [HIEDA MITSUNORI, NARA MASAYUKI, NAKABAYASHI Junn, YAGISHITA KAZUYOSHI, TOKUNAGA SHINICHI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
<b>授業の目的、概要等</b>					
生命分子スペクトル解析、構造生命科学、AI による病理組織の画像解析、高気圧酸素環境による治癒促進といった様々な学際的な研究領域を対象として、英語の学術論文を精読、内容を紹介するとともに、議論を重ねることで、当該分野の知識を広げるとともに、最新の研究手法についても体得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
生命現象を分子レベルの視点から様々な切り口でとらえ、そこから得られる情報を理解し、各々の研究活動に役に立てることを目標とする。					
<b>授業方法</b>					
研究分野の英語の学術論文を精読、内容を紹介するとともに、議論を重ねることで、当該分野の知識を広げ、最新の研究手法についても体得する。					
<b>成績評価の方法</b>					
成績の評価は、議論などの発言内容や演習に対する態度から総合的に判断する。 研究実習については中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
初回の演習時に必要に応じて指示する。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
檜枝 光憲:hieda.las@tmd.ac.jp 中林 潤:nakab.las@tmd.ac.jp 徳永 伸一:tokunaga.las@tmd.ac.jp 奈良 雅之:nara.las@tmd.ac.jp 柳下 和慶:yagishita.orth@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
檜枝 光憲:毎週水曜日 12:20~13:00 ヒポ 4F 教員研究室 3 中林 潤:月曜~金曜 A.M.10:00 - P.M. 05:00 国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9 徳永 伸一:前期: 火曜 12:20-13:10(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)  後期: 木曜 12:20-13:10(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)  *いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。 上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。  奈良 雅之:毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00(ただし、第 1 水曜日(教授会開催日)は PM.1:00 まで)、毎週木曜日 PM.0:20-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階 柳下 和慶:毎週水曜日 AM.12:20-13:00 管理研究棟 2 階 研究室					

時間割番号	0363028			科目ID	GB-c6045-S
科目名	データ科学アルゴリズム設計・解析演習				
担当教員	坂内 英夫[BANNNAI Hideo]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b> M&D データ科学センター(22 号館 5 階)					
<b>授業の目的、概要等</b> 大規模なデータを効率良く処理するためのアルゴリズムとデータ構造に関する理論と実際について学習し、健康・医療分野の各種データ処理・解析へ応用する能力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b> アルゴリズム理論の基礎知識と実装の基礎技術を習得し、健康・医療分野の各種データを効率的に処理・解析する新しいアルゴリズムの設計・解析・応用に関する研究を展開できる能力を身につける。					
<b>授業方法</b> セミナー形式での発表及び少人数での議論を行う。					
<b>授業内容</b> 演習: 目的・概要: 文字列・系列データ処理(パターン照合・検索、特徴抽出・発見、データ圧縮・圧縮データ処理等)など、各種アルゴリズムに関する最新の論文の内容をゼミ形式で発表し、改善点などについて議論を行うことで研究を自立的に進めるための基礎力を養う。 参加可能プログラム: 研究室ゼミ(輪講・研究討議)  研究実習: 目的・概要: 健康・医療分野の各種データ処理・解析におけるアルゴリズム的課題を見出し、それらに対して新たなアルゴリズムとデータ構造の設計・実装および性能の解析・評価を行う。 参加可能プログラム: 研究室ゼミ(輪講・研究討議)					
<b>成績評価の方法</b> 演習、研究実習への参加状況、発表・発言等の参画状況、及び研究内容の外部発表に基づいて総合的な評価を行う。					
<b>成績評価の基準</b> 参加・参画状況: 80% 外部発表: 20% を目安に総合的に評価する 研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 特になし。					

時間割番号	0363029			科目ID	GB—c6046-S
科目名	AI 技術開発演習				
担当教員	坂内 英夫[BANNNAI Hideo]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う。					
<b>主な講義場所</b>					
AI 技術開発分野研究室(22 号館 5 階)					
<b>授業の目的、概要等</b>					
本演習では、健康・医療分野のバイオメディカルデータ解析に向けた統計モデリングや人工知能の基礎知識を習得する。また、それらの活用による現場の課題解決に向けたメディカルデータ解析に関する実践的な知識・能力を修得することを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
健康・医療分野から出てくる大量・多様なデータ解析に向けた統計モデリングや人工知能技術に関する基礎知識とその活用能力を習得する。					
<b>授業方法</b>					
セミナー形式で、テキスト・論文輪講を行う。					
<b>授業内容</b>					
- 演習					
目的・概要:					
① 多重・多様なバイオメディカルデータから疾患のメカニズム解明などに重要な情報を取り出すための統計科学、マシンラーニング、人工知能に関する様々な基礎知識を学習する。					
② メディカル AI に関する国内外の最新の研究動向を学習する。					
③ 現場での研究者との議論を行うことにより、従来技術の限界・改善点に関して探求する。					
参加可能プログラム: 研究室ゼミ(テキスト輪読・論文抄読や議論)					
- 研究実習					
目的・概要:					
本演習で学習した内容を活用し、健康・医療分野の課題に関して実践的演習・実習を行うとこで、実践能力を向上と自立的に研究を進めていく能力を養う。					
参加可能プログラム: 研究室ゼミ(テキスト輪読・論文抄読や議論)					
<b>成績評価の方法</b>					
発表、演習、研究実習への参加状況と、研究内容の外部発表の状況に基づき、総合的な評価を行う。					
<b>成績評価の基準</b>					
以下の割合を目安にして総合的な評価を行う。					
・発表、議論、研究実習への参加状況: 60%					
・研究内容の外部発表(学会、論文): 40%					
研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
特になし。					
<b>モジュールの単位判定</b>					
6 単位					
<b>教科書</b>					
必要に応じて資料を配布する。					
<b>参考書</b>					
必要に応じて資料を配布する。					

連絡先(メールアドレス)

hdbn.dsc@tmd.ac.jp

時間割番号	0363038				
科目名	分子機構免疫学演習	科目ID	GB—c6100-S		
担当教員	加藤 一希[KATO KAZUKI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
3号館3号館9階トップサイエンスインキュベーションスペース(TSIS) 分子機構免疫学分野					
<b>授業の目的、概要等</b>					
免疫応答における自己・非自己の認識機構に着目した基礎研究・応用研究（創薬研究、CRISPR-Cas を用いたツール開発など）を行い、生化学、構造生物学、細胞生物学に対する高度な知識と実験技術を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
生化学、構造生物学、細胞生物学に対する高度な知識と実験技術を習得している。					
<b>授業方法</b>					
【演習】【研究実習】 研究室内のプロジェクトを担当する。					
<b>授業内容</b>					
【演習】【研究実習】 研究室内で免疫分野関連のテーマについて、実験、考察等を行い、プロジェクトを進める。					
<b>成績評価の方法</b>					
出席 50, 研究態度 40, 研究能力 10 研究実習については、中間アドバイスの評価を 50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
適宜指示する					

時間割番号	0363039				
科目名	計算創薬科学演習	科目ID	GB-c6101-S		
担当教員	石谷 隆一郎[ISHITANI RYUICHIRO]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	6
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b> M&D タワー25F 計算創薬科学分野					
<b>授業の目的、概要等</b> 生体高分子の立体構造を用いた深層学習の応用技術、分子シミュレーション技術の習得を目的とし、関連分野の論文の精読と紹介、研究室セミナーへの参加と議論、新たな技術の研究と開発を行う。					
<b>授業の到達目標</b> 自ら研究課題を設定して問題解決を行い、新たな手法開発や科学的知見の解明を行えるようになることを目標とする。					
<b>授業方法</b> 演習では、教科書や最新の文献の講読し、議論を行うことで、分子シミュレーションや機械学習の背景にある物理学、応用数学、統計学について、構造生物学への応用を念頭に学習する。実習では、実際の立体構造データを用いた解析や手法開発を行う。					
<b>成績評価の基準</b> 講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。 ・ 講義、演習、研究実習への参加状況:80% ・ 研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:20% 研究実習については中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 必要に応じて、最初の導入セッションで指示を行う。					
<b>試験の受験資格</b> 特になし					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> r.ishitani@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 随時(事前連絡をください)M&D タワー25F (内線4175)					

時間割番号	0363113			科目ID	GB—c6100-S
科目名	形態情報解析学演習				
担当教員	星 治[HOSHI OSAMU]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
形態情報解析学分野研究室(3号館7階)					
<b>授業の目的、概要等</b>					
①医学・生物学分野での電子顕微鏡や原子間力顕微鏡など、さまざまな顕微鏡技術による研究方法を理解し、それらの技術を利用した研究を推進する能力を習得する。(担当教員:星 治)					
②疾病の病因・病態を理解し、診断に寄与し得るような分子病理学的検査の理論や方法を修得するとともに、病理学・病理検査学領域の高度専門職業人および教育研究者の養成を目指す。 国際的、臨床指向型研究でリーダーシップを発揮できるよう自立して研究ができる能力を修得する。(担当教員:副島 友莉恵)					
<b>授業の到達目標</b>					
自立して研究する能力を身につける。					
<b>授業方法</b>					
演習:セミナー形式で行う。					
研究実習:スタッフによる個人指導で行う。					
<b>授業内容</b>					
<b>【概要① 担当:星】</b>					
演習					
目的・概要:研究の遂行に必要な組織学の基礎を習得する。また、原著論文を読み、科学的思考を習得する。					
参加可能プログラム:					
研究セミナー 毎週月曜日 午後					
抄読会 随時					
※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
研究実習					
目的・概要:電子顕微鏡をはじめとした、さまざまな顕微鏡技術の基本原理の理解とその応用方法を習得する。					
参加可能プログラム:					
(1)原子間力顕微鏡の医学・生物学分野への応用(2)成長円錐の動態解析 (3)染色体の高次構造解析					
研究への参加は随時可能					
※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>【概要② 担当:副島】</b>					
講義・演習					
目的・概要:研究の遂行に必要な病理学、細胞診断学の基礎から応用を習得する。原著論文を読み、自己の研究について進捗状況や成果の意義を客観的に判断でき、科学的根拠に基づいた議論や新たな研究展開を立案できるようにする。					
参加プログラム:					
研究セミナー 毎週金曜日 午後					
抄読会 随時					
研究実習					
目的・概要:疾病の本態を理解し、病理学・細胞診断学領域における研究方法を修得する。組織材料や培養細胞株を用い、疾病における					



<p>蛋白質や遺伝子の発現変化、進展のメカニズムを解明するとともに、新しい検査法や治療法の開発に向けた研究を行う。</p> <p>参加可能プログラム:</p> <p>(1) 胆管癌の進展に関わる分子病理学的解析および新規治療法の開発</p> <p>(2) 細胞診画像を用いたデジタルコンテンツの作成、AI 画像診断の開発</p> <p>(3) 開発途上国における病理診断・病理技術の発展</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>講義、演習、研究実習への参加状況と、研究内容の外部発表(学会、論文)の状況に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、演習、研究実習への参加状況:60%</li> <li>・研究内容の外部発表(学会、論文):40%</li> </ul>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>電子顕微鏡の基本について学習しておく。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>ロビンス基礎病理学/Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Jon C. Aster 原著,Kumar, Vinay,Abbas, Abul K.,Aster, Jon C.,Robbins, Stanley L. (Stanley Leonard),豊國, 伸哉,高橋, 雅英.:エルゼビア・ジャパン, 2018</p> <p>Cytology : diagnostic principles and clinical correlates/Edmund S. Cibas, Barbara S. Ducatman,Cibas, Edmund S.,Ducatman, Barbara S.,: Elsevier, 2021</p> <p>Histology Michael H.Ross Lippincott Williams and Wilkins</p> <p>電顕入門ガイドブック 日本顕微鏡学会編 学会出版センター</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>形態学的手法に基づく研究に興味を有していることが望ましい。</p>

時間割番号	0363114				
科目名	血液・生体システム解析学演習	科目ID	GB—c6101-S		
担当教員	伊藤 南, 西尾 美和子, 本間 達[ITO MINAMI, NISHIO Miwako, HOMMA SATORU]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 血液・生体システム解析学研究室 1 (3 号館 16 階) 血液・生体システム解析学研究室 2 (3 号館 15 階)					
<b>授業の目的、概要等</b> 臨床検査学を含む幅広い生命科学研究を行うための基本的な考え方や知識を学び、自立して研究を行い学術的研究のリーダーとなるための基礎能力修得を目的とする。①システム神経科学、②医用工学、ないし③血液疾患、④肥満、⑤再生医療学の分子生学的・遺伝学的な研究を通じて、複雑な生体システムのメカニズムを理解しコントロールする、病因や病態を解明し診断・治療に役立てるための実験技術、検査法、専門知識を習得する。					
<b>授業の到達目標</b> ①特別研究を理解し遂行するのに必要な専門知識および技術を修得する。 ②未解決の問題を抽出し、独自の研究開発を推進する。 ③研究の進捗状況や成果の意義を客観的に評価し今後の指針を立てる。 ④国内外の学会への発表、学術誌への論文作製、発表を行う。 ⑤自立して研究し、かつ学術的研究のリーダーとなりえる基礎能力を身に付ける。					
<b>授業方法</b> 演習 目的・概要: 研究の遂行に必要な基礎的な知識を習得する。テキストや原著論文を読み、科学的思考を習得する。 参加可能プログラム: 抄読会 随時  研究実習 目的・概要: 研究活動を通じて、研究に必要な考え方、知識、技術を修得する。研究内容、進捗状況にあわせて、研究室のスタッフが個別に指導する。 参加可能プログラム: 研究への参加は随時可能					
<b>授業内容</b> 各学生の希望に応じて、①システム神経科学、②医用工学、③血液疾患、④肥満、⑤再生医療学の分子生学的・遺伝学的な研究に別れて演習、研究実習を行う(要相談)。  分野における研究テーマ 1. 視覚情報と触覚情報の統合による素材感覚の神経メカニズムの解析 2. 状況に応じた視覚情報の統合と認知のための神経メカニズムの解明 3. 医療支援のための数理モデルを利用した身体情報計測法の開発 4. 脳低温療法のための制御システムの開発 5. 造血器腫瘍を中心とした分子・遺伝子学的異常の解析 6. Epstein-Barr virus による T,NK 細胞腫瘍発症のメカニズム解明と治療法開発 7. ヒト ES/iPS 細胞を用いた褐色脂肪細胞検出法の開発 8. ヒト ES/iPS 細胞を用いた褐色脂肪細胞の活性化メカニズムの解析					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の発表(学会、論文、生体検査科学セミナー)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。					

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講義、演習、研究実習への参加状況:70%</li> <li>○ 研究内容の発表状況等:30%</li> </ul>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>講義・演習中に指示するので、時間を掛けて入念に準備すること。  学部・修士課程で習得した医学・検査学の基礎的知識と実験技術を身に付けておくこと。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>特別研究の内容に合わせて、担当教員が指示する。</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>倫理講習や実験基礎 ID 取得など事前講習などが必要なので、適宜担当教員に確認すること。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>伊藤 南:minami.bse@tmd.ac.jp、  本間 達:hommtec@tmd.ac.jp  西尾 美和子:mnishio.img@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>伊藤 南:3号棟16階 生体機能支援システム学教授室  随時対応しますので、事前にメール等で連絡して下さい。</p>

時間割番号	0363116			科目ID	GB—c6102-S
科目名	生命情報応用学演習				
担当教員	角 勇樹[SUMI YUKI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
3号館16階 呼吸器・神経系解析学研究室					
<b>授業の目的、概要等</b>					
生体検査もしくは公衆衛生、社会疫学から得られる情報を解析する理論および技術について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
1) 医学領域における最新の知識を学び、現在までに解っていること、解っていないことを明らかにできる。					
2) 解っていないことを明らかにするためにどのような研究を行えば良いかを創造し、期待される結果についても考察を行い、研究仮説を立てることができる。					
3) 生体のはたらきを測定、解析する各種の検査法の原理、構造、理論について理解する					
4) 情報の解析法、評価法を修得し、得られた情報と病因・病態との関連を解析する方法論を修得する					
<b>授業方法</b>					
授業形式は、セミナーや講義、外来・入院検査、特殊検査の見学などによる					
<b>授業内容</b>					
演習					
目的・概要: 研究の遂行に必要な基礎知識と理論を習得する。					
参加可能プログラム: 抄読会、講義 随時 (担当教員に確認)					
研究実習					
目的・概要: 呼吸器領域、神経領域における病態の解明を行い、新しい予防・治療法の開発を行う。					
参加可能プログラム:					
(1)呼吸器領域研究					
(2)神経領域研究					
(3)公衆衛生研究					
(4)AI 研究					
研究への参加は随時可能					
※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。					
○講義、演習、研究実習への参加状況: 80%					
○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等: 20%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
コンピューターの使い方、文献検索法、統計処理の仕方、英語論文の読解など基礎的な実力を身につけておく。具体的な事項については随時指示する。					
<b>教科書</b>					
随時指示する					
<b>参考書</b>					
随時指示する					
<b>履修上の注意事項</b>					
目的意識を持ち、積極的に討議に参加すること					

時間割番号	0363112			科目ID	GB—c6047-S
科目名	疾患生理機能解析学演習				
担当教員	柿沼 晴[KAKINUMA SEI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
英語による授業の開講状況: 留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 3号館 15階/16階 疾患生理機能解析学分野研究室 M&D タワー14階 消化器病態学研究室 M&D タワー13階 循環制御内科学研究室 にて演習と実習を行う。					
<b>授業の目的、概要等</b> 分子・細胞レベルから器官までの個々の要素が統合されたシステムとしての生体のはたらきを、解明・解析する手法について学ぶ。特に、消化器・肝胆膵領域を中心とする疾患病態生理学を対象とし、疾患生理学理論と、診断に必要な検査技術とを学ぶ。さらに、幹細胞生物学、分子生物学、再生医学的手法から、新規の病態解明、疾患診断検査法、治療法の開発をめざす研究手法を修得する。					
<b>授業の到達目標</b> (1) 消化器領域疾患、循環器領域疾患における病態生理解明のための、細胞生物学、幹細胞生物学、分子生物学、再生医学的な研究手法について学ぶ (2) 消化器領域、循環器領域における臨床生理検査法、画像診断法の理論と技術とを修得する。 (3) 新規の病態解明、新規の疾患診断検査の開発をめざす研究手法について学ぶ。					
<b>授業方法</b> 演習: 担当教員が個別あるいはセミナー形式で行う 研究実習: 担当教員の指導によって、研究室における研究実習を行う					
<b>授業内容</b> 講義・演習 目的・概要: 疾患生理機能解析学研究の遂行に必要な知識と最新技術の取得とを目的とし、細胞生物学、分子生物学、再生医学の基礎を習得する。また、原著論文を読み、科学的思考を習得する。 参加可能プログラム: 抄読会 毎週月曜日午後 ※プログラムの開催日時については、適宜、担当教員に確認すること。 研究実習 目的・概要: 消化器領域疾患、循環器領域疾患について、遺伝的要因・後天的要因の各々の面から発症メカニズム、病態生理を解明する。細胞生物学、幹細胞生物学、分子生物学、再生医学の面からは特に細胞間・臓器間相互作用を、検査技術学の面からは臨床応用可能なバイオマーカーの確立、新しい生理検査手法の開発、疾患標的分子を利用した治療法の開発等を基軸とする。 参加可能プログラム: (1) ヒト iPS 細胞を利用した疾患病態モデルと分子標的の開発 (2) 消化器疾患、循環器疾患の発生・進展を制御する細胞間相互作用の解析 (3) オルガノイド培養系を用いた消化器疾患モデルの開発 (4) 消化器系組織幹・前駆細胞の恒常性を調節する分子機構の解明 (5) 肝線維化を制御する分子機構の研究 研究への参加は随時可能 ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。 講義、演習、研究実習への参加状況: 70%					

研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:30%
<b>成績評価の基準</b> 研究目標の達成度、研究手法の習得度を、研究実習と論文作成とによって評価する
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 科学的な思考法への理解、基本的な PC software の使用法、文献検索法、統計処理の手法、英語論文の読解など研究遂行の基盤となる技術を身につけておくこと。 具体的な事項については随時指示する。
<b>試験の受験資格</b> 通年で演習・実習に参加し、本学の規定する学位論文への申請基準が満たされうる状態にあること。
<b>モジュールの単位判定</b> 通年の参加・研究進捗状況により単位を認定する
<b>教科書</b> 教科書・参考書は、最新の Review article と原著論文を中心に随時指示する
<b>履修上の注意事項</b> 目的意識を持ち、積極的に演習と実習に参加すること
<b>連絡先(メールアドレス)</b> skakinuma.gast@tmd.ac.jp
<b>オフィスアワー</b> 毎週 月曜または金曜日 9:00-17:00 3号館 16階 疾患生理機能解析学分野教授室 (来室前にメールで予約すること)

時間割番号	0363115			科目ID	GB—c6103-S
科目名	臨床分析・分子生物学演習				
担当教員	大川 龍之介, 鈴木 喜晴[OKAWA RYUNOSUKE, SUZUKI NOBUHARU]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
【大川担当】英語による授業:留学生が履修登録した場合には英語で行う 【鈴木担当】英語による授業:一部英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 【大川担当】演習:3号館16階生体検査科学研修室またはZoomによるオンライン演習;研究実習:3号館16階の本分野の研究室 【鈴木担当】演習:3号館16階生体検査科学研修室;研究実習:3号館16階の本分野の研究室					
<b>授業の目的、概要等</b> 【大川担当】 「粥状動脈硬化性疾患発症リスクを予見可能なリポタンパク関連因子の同定と検査法の確立」という大目的を掲げている。本目的を遂行するために必要な知識や様々な新しい情報を得る能力を養うとともに、本分野の研究に必要な分析技術を高い精度で実施できる技能を養成する。これらの授業を通じて、自ら研究計画を立案し、自ら実験を行い、結果の正しい解釈と妥当な考察を加えて、さらに研究を進めるという一連の活動を実践する。  【鈴木担当】 個体の発生や疾患に関わる様々な生命現象を細胞レベル・分子レベルで学び、そのメカニズムを理解する。そのような基礎的研究、またそれに基づく医療分野への応用研究を最先端の学術論文から学び、分子生命科学の基礎を修得する。					
<b>授業の到達目標</b> 【大川担当】 1) 与えられたテーマに関する最新情報を収集し、そのテーマに関する現状を理解したうえで、求められる新知見を与えるための研究を立案できる。 2) 高い精度のデータを得ることができる。 3) 得られたデータの意味を理解・考察し、他者に伝えることができる。 4) 国内外の学会への発表、学術誌への論文作製を通して自立して研究し、かつ学術的研究のリーダーとなりえる基礎能力を身に付ける。 5) 自らの知識と技術を異なる研究テーマにおいて実践できる創造性を身に付ける。  【鈴木担当】 1) 発生・分化のしくみを細胞レベル・分子レベルで理解する。 2) 病態のしくみを細胞レベル・分子レベルで理解する。 3) 最新の報告から最先端の基礎研究・応用研究を学び、分子生命科学の基礎を修得する。					
<b>授業方法</b> 【大川担当】 1) 自らのテーマに関する英語論文を読み、他者にその内容をプレゼンテーションする。 2) 実験結果を説明し、考察と次のステップの実験についてプレゼンテーションする。 3) 学会発表等を通じて、研究のまとめ方、発表の仕方を習得する。 4) 後輩の指導を通じて自ら学ぶとともに、教育する能力を養成する。 以上、研究は学生が主体的に進め、教員はそれをサポートするというスタンスで臨む。  【鈴木担当】 演習:セミナー形式の抄読会を行う。 研究実習:担当教員が個人指導によって進める。					
<b>授業内容</b> 【大川担当】					

<p><b>演習</b></p> <p>目的・概要:研究の遂行に必要な分析化学の基礎知識と基礎技術を習得する。また、原著論文を読み、科学的思考を習得する。</p> <p>参加可能プログラム:</p> <p>ミーティング 毎週 (曜日は不定)</p> <p>1)抄読会(随時)</p> <p>2)一週間で得られた実験結果の報告会。</p> <p><b>研究実習</b></p> <p>目的・概要:リポタンパクおよびその代謝に関わる物質を中心に、粥状動脈硬化性疾患発症のリスク評価を可能にする物質を同定し、その分析法を構築する。</p> <p>参加可能プログラム:</p> <p>1) 心血管疾患の残存危険度を評価可能なバイオマーカーの開発</p> <p>2) 化学修飾を受けたHDLおよびアポタンパクの機能に関する研究</p> <p>3)コレステロール代謝に関わる赤血球の関与に関する研究</p> <p><b>【鈴木担当】</b></p> <p><b>演習</b></p> <p>目的・概要:発生や疾患に関わる様々な生命現象を細胞レベル・分子レベルで学び、そのメカニズムを理解する。そのような基礎的研究、またそれに基づく医療分野への応用研究を学ぶために、最先端の学術論文を読み、ディスカッションする。</p> <p>参加可能プログラム:抄読会 随時</p> <p><b>研究実習</b></p> <p>目的・概要:個体の発生や疾患に関わる様々な生命現象のメカニズムを細胞レベル・分子レベルで解明するための仮説・実験を組み立て、得られた結果を考察し、仮説が正しかったかどうかを検証する。</p> <p>参加可能プログラム:</p> <p>(1)マウスモデルを用いた髄鞘形成と震えのメカニズムを解明する研究</p> <p>(2)細胞外マトリックスに着目した細胞分化や幹細胞性維持に関する研究</p> <p>研究への参加は随時可能</p> <p>また、二か月に一回程度、臨床分析・分子生物学分野の合同ミーティングを行い、研究内容を発表し、または他の大学院生の研究内容を聴講し、討議する。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p><b>【大川担当】</b></p> <p>講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。</p> <p>○講義、演習、研究実習への参加状況:80%</p> <p>○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:20%</p> <p><b>【鈴木担当】</b></p> <p>演習:自身の発表とディスカッションへの取り組み姿勢等を主に評価する。</p> <p>研究実習:実験への取り組み姿勢と理解度、手技を主に評価する。</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p><b>【大川担当】</b></p> <p>演習:事前に関連文献を自ら検索し、説明できるようにしておくこと;研究実習:得られた実験結果を踏まえて、解決すべき事、次に行うべき実験を計画すること</p> <p><b>【鈴木担当】</b></p> <p>演習:事前に送られる題材文献を読み、説明できるようにしておくこと;研究実習:事前に実験プロトコルを確認し、理解を深めておくこと</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>大川 龍之介:ohkawa.alc@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p>



大川 龍之介:特定の日時を確保できないためメールでアポイントメントを取ってください。

時間割番号	0363117				
科目名	微生物・感染免疫解析学演習	科目ID	GB—c6104-S		
担当教員	齋藤 良一[SAITO RYOICHI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う。					
<b>主な講義場所</b> 演習は 3 号館 15 階大学院講義室等にて、研究実習は 3 号館 8 階分子病原体検査学分野研究室にて行う。					
<b>授業の目的、概要等</b> 病原微生物の病原因子、免疫逃避機構、薬剤耐性機構について分子レベルの最新トピックスを含めて包括的に理解し、微生物学・感染症学領域の研究を遂行する能力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b> 微生物学・感染症学分野の基礎知識と実験手技を修得し、自身の研究に展開する基礎力を身につける。					
<b>授業方法</b> 演習: 当番制の発表とグループ議論により行う。 実験: 担当教員の指導のもとで行う。					
<b>授業内容</b> 演習 目的・概要: 研究の遂行に必要な細菌学・感染症学の基礎や最新技術を習得するため、関連する領域の最新の論文を精読し、文献的考察を交えて議論する。 参加可能プログラム: 1. 研究室セミナー 毎週火曜日 午後 2. 生体検査科学セミナー 随時  研究実習 目的・概要: 下記に示す課題を対象とし、解析に使用される幅広い実験手技や知識を自らの研究テーマをとおして習得する。 参加可能プログラム: 1. 薬剤耐性菌の進化・多様性に関する研究 2. 細菌の環境適応機構に関する研究 3. 環境の微生物叢と薬剤耐性の動態・相互作用に関する研究 4. 感染症起因微生物の迅速同定・遺伝子型別に関する研究					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。 ○講義、演習、研究実習への参加状況: 80% ○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等: 20%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 演習: 研究室セミナーでは細菌学・感染症学に関する最新の学術論文を精読し、説明用の資料を作成する。 実験: 実験計画に関連した文献を事前に精読する。					

時間割番号	0363201			科目ID	GB—c6028-T																																			
科目名	生体検査科学セミナー II																																							
担当教員	鈴木 喜晴, 伊藤 南[SUZUKI NOBUHARU, ITO MINAMI]																																							
開講時期	2024 年度3年通年	対象年次	1~3	単位数	1																																			
実務経験のある教員による授業																																								
発表は全て英語で行う。抄録は日本語で作成する(留学生は英語でよい)。質疑応答は日本語、英語のいずれかで行う。																																								
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的:このセミナーの目的は、臨床検査学の研究を国際的により発展させていく、そのための人材を育成することである。不断に研究の内容や進捗状況を吟味し研究を修正発展させるための機会を設けるだけでなく、専攻横断型かつ学年混合型のセミナーを通じて、学生に科学的・論理的な思考方法を身につけさせ、相互に研究を評価・批判する能力を養わせ、研究発表を通じた研究交流により研究を進展させていく能力を養わせる。さらに、英語による効果的な説明・発表を行うことができる、国際的に活躍できる人材の養成を目指す。併せて、教員が他分野の学生の様子を把握し、研究の進展に必要な助言を与える機会を提供することを目指す。 概要:学会形式による実践的な、専攻全体による横断的な研究指導を行う。生体検査科学系の全大学院生が一堂に会して、分野や学年の枠を超えた発表と討論の場を設ける。毎年、各学生は自分の研究の進捗状況について英語による口頭発表を行い、参加した教員・学生による質疑応答を行う。博士(保健学)の取得を目指す学生は、本セミナーの受講が必修である。生体検査科学セミナー I と合同で実施する。																																								
<b>授業の到達目標</b> ①自分の研究の進捗状況をまとめ、今後の研究の指針をたてる。 ②自分の研究の目的、方法の妥当性、結果の説明、考察などを分かりやすく明快に説明できる。 ③国内外の学会等において英語による効果的な説明・口頭発表ができる。 ④他分野の研究発表について適確な質問やコメントを行い、教育指導の一助を担う。 ⑤他分野との研究交流を深め、研究を進展させる。 ⑥参加者からの評価、コメントを今後の研究発表に役立てる。																																								
<b>授業計画</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>授業内容</th> <th>到達目標・学習方法・その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6/26</td> <td>13:00-17:00</td> <td>保健衛生 学科講義 室1</td> <td>修士課程2年生</td> <td>発表7分、質疑4分</td> <td>プログラムを随時 周知する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9/25</td> <td>13:00-17:00</td> <td>保健衛生 学科講義 室1</td> <td>教員</td> <td>発表20分、質疑5分</td> <td>プログラムを随時 周知する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/23</td> <td>13:00-17:00</td> <td>保健衛生 学科講義 室1</td> <td>修士課程1年生</td> <td>発表6分、質疑4分</td> <td>プログラムを随時 周知する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>12/21</td> <td>09:00-17:00</td> <td>保健衛生 学科講義 室1</td> <td>博士課程</td> <td>(最終学年)発表15分、質疑7分 (その他)発表10分、質疑7分</td> <td>プログラムを随時 周知する</td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	到達目標・学習方法・その他	1	6/26	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室1	修士課程2年生	発表7分、質疑4分	プログラムを随時 周知する	2	9/25	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室1	教員	発表20分、質疑5分	プログラムを随時 周知する	3	10/23	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室1	修士課程1年生	発表6分、質疑4分	プログラムを随時 周知する	4	12/21	09:00-17:00	保健衛生 学科講義 室1	博士課程	(最終学年)発表15分、質疑7分 (その他)発表10分、質疑7分	プログラムを随時 周知する
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	到達目標・学習方法・その他																																		
1	6/26	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室1	修士課程2年生	発表7分、質疑4分	プログラムを随時 周知する																																		
2	9/25	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室1	教員	発表20分、質疑5分	プログラムを随時 周知する																																		
3	10/23	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室1	修士課程1年生	発表6分、質疑4分	プログラムを随時 周知する																																		
4	12/21	09:00-17:00	保健衛生 学科講義 室1	博士課程	(最終学年)発表15分、質疑7分 (その他)発表10分、質疑7分	プログラムを随時 周知する																																		
<b>授業方法</b> セミナーの運営は全て教員が行う。発表者は事前に抄録を提出し、当日はパワーポイント等の発表用ソフトウェアを用いて発表する。その後、参加者による質疑応答を行う。参加者は評価用 Web ページから、発表に対する評価、コメントを作成して提出する。無記名の評価、コメントを発表者と教員にフィードバックする。																																								
<b>授業内容</b> 回数/日時/発表者/備考 第1回/6月26日(水)13:00~17:00/修士課程2年生/発表7分、質疑4分 第2回/9月25日(水)13:00~17:00/教員/発表20分、質疑5分 第3回/10月23日(水)13:00~17:00/修士課程1年生/発表6分、質疑4分																																								

<p>第4回/12月21日(土)9:00~17:00/博士課程/(最終学年)発表15分、質疑7分(その他)発表10分、質疑7分 変更あれば随時周知する。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>①自分の研究について明快地説明できているか、効果的な発表ができているかを評価する(50%)。 ②適確な質疑応答やコメントができているかを評価する(50%)。 ③在籍期間中のセミナーを通じて総合的に評価する。</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>①発表者は指導教員とよく相談して、事前の準備に時間をかけること。 ②抄録には(1)研究の背景、(2)研究の目的、(3)研究の方法、(4)研究結果(進捗状況)、(5)考察と今後の研究の進め方について、順次簡潔に記載する。抄録の書式は指示されたものに従う。 ③他の分野の学生にも分かるように、平易かつ簡潔な発表をこころがける。 ④時間内に効果的な発表ができるように、よく練習してから発表に望む。 ⑤セミナー参加者は、事前に抄録に目を通し、疑問点や想定質問を考えておく。</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>①在籍期間を通じて必修科目とし、年4回のセミナー参加を義務付ける。最終年次に単位を認定する。社会人学生や長期履修者も同様とする。②欠席ないし遅刻する場合は、事前に指導教員の了解を得る。学会発表や就職試験など予定を変更ができないもの、病気休業、外部研修、海外留学などで指導教員が必要と認める場合には欠席を認める。無断での欠席、遅刻、部分的な出席については指導の対象とする。③毎年一回は自分の研究について発表する。指導教員と相談の上、発表を準備する。上記の理由により発表できない場合は、次回のセミナーで発表する。一年を通じて発表できない者は、指導教員とセミナー担当教員と相談して、ビデオ発表やレポート提出等により代替する。④セミナー中は質疑応答への積極的な参加を期待する。座長が質問者を指定することもある。⑤予定、実施方法の詳細ならびに変更については、セミナー担当教員より随時、メールで連絡する。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>状況により、Zoomによる同期型遠隔講義にて実施する。具体的なスケジュールは追って連絡する。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>鈴木 喜晴 nsuzbb@tmd.ac.jp 伊藤 南 minami.bse@tmd.ac.jp、</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>鈴木 喜晴 オフィスアワーは特に定めない 3号館16階 伊藤 南 3号棟16階 生体機能支援システム学教授室 随時対応しますので、事前にメール等で連絡して下さい。</p>

時間割番号	0363301			科目ID	GB—c6086-S
科目名	生涯口腔保健衛生学演習				
担当教員	未定				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
一部英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 口腔保健衛生学基礎実験室(1号館7階718)もしくは zoom 等による遠隔授業を組み合わせで行う。 0363032					
<b>授業の目的、概要等</b> オゾンウルトラファインバブル水を用いた口腔の健康を維持することによる全身状態への影響、がん治療に伴う有害事象の予防法・治療について、科学的に評価する研究を行うための能力を養う。また、英語の学術論文を精読、内容を紹介するとともに議論を行い、当該分野の知識を広げるとともに、研究手法についても体得する。					
<b>授業の到達目標</b> 自己の研究について客観的な進捗状況や成果の意義を判断でき、今後の指針を立てたり、新たな研究展開を立案可能とする。					
<b>授業方法</b> 演習:研究室スタッフが、参加学生に対して個別あるいはセミナー形式で行う。 研究実習:研究室スタッフの指導の下で実際の研究活動に参加する。					
<b>授業内容</b> 目的・概要:ウルトラファインバブルおよび口腔科学研究に必要な知識や最新技術の取得を目的に、細菌学、生理学、医科学分野ならびにその周辺分野の最新の論文を熟読し、解説、紹介、議論を行う。研究の背景や着想に至った経緯、具体的な実験的手法についても学ぶ。 参加可能プログラム:文献セミナー 毎週金曜日 18:00～20:30  研究実習 目的・概要:目的・概要:下記に示す参加可能プロジェクトの中から個別に研究テーマを設定し、指導教員の指導のもと研究プロジェクトを推進する。それぞれのプロジェクトに必要な実験手技(細菌、培養細胞、実験動物を用いた実験計画とその解析手法)や統計解析の方法を個別に教示する。 参加可能プログラム: 実際の研究プロジェクトへの参加 随時 1. オゾンウルトラファインバブル水がエピゲノムに及ぼす影響の解析。 2. 動物実験によるオゾンウルトラファインバブル水の抗酸化作用の解明など  ※日時が明確でないプログラムについては、適宜、担当教員に確認すること。					
<b>成績評価の方法</b> 討議、議論、演習、研究実習への参加状況、参加プログラムにおける発表・発言等の参画・寄与状況、加えて各種研究会議への関与の程度、外部発表(学会発表、論文発表)の回数・内容に基づいて総合的な評価を行う。 研究実習については、中間アドバイスの評価を50%として成績評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 初回授業のガイダンス並びに各授業において必要に応じて指示する。					
<b>教科書</b> 微細気泡の最新技術:エヌ・ティー・エス, 2014					
<b>参考書</b> Ultrafine bubbles/edited by Koichi Terasaka, Kyuichi Yasui, Wataru Kanematsu, Nobuhiro Aya,寺坂 宏一.: Jenny Stanford Publishing Pte. Ltd., 2022					
<b>履修上の注意事項</b> 研究内容に応じて必要な学習を指示するので、それに応じて準備を行うこと。					

備考

特になし。

時間割番号	0363302				
科目名	健康支援口腔保健衛生学演習	科目ID	GB—c6087-S		
担当教員	榊沢 勇司, 伊藤 奏, LIAO SHIN RU [KABASAWA YUJI, ITOU Kanade, LIAO Shin Ru]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 1号館西8階口腔保健学科、あるいは遠隔講義					
<b>授業の目的、概要等</b> 口腔保健により健康の維持・増進を支援するための研究。特に周術期口腔機能管理についての研究や基礎疾患を有する人の口腔ケアに関する研究や、口腔の健康と社会格差についての研究、口腔清掃が全身に与える効果についての基礎研究などについて学び、独自の研究を展開できる基盤となる能力を養うことを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b> ・口腔保健において未解決の問題を抽出できる ・口腔保健の向上のための適切な臨床的手法について習得する ・国内外の学会発表・学術誌への論文作成を行う ・自らの研究を展開し、学術的研究のリーダーとなりえる基礎的能力を習得する					
<b>授業方法</b> 学術的研究を行う上での知識は講義及び論文抄読を通して習得する。 臨床的手法はオーラルヘルスセンター等での臨床の場での演習、実践を中心として習得する。					
<b>授業内容</b> 講義スケジュールも含めて指導教員から直接指示する。					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習、研究実習への参加及び研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に評価を行う。 ○ 講義、演習、研究実習への参加状況:70% ○ 研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:30%					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 講義の中で具体的に指示する					
<b>教科書</b> 講義の中で具体的に指示する。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 榊沢 勇司:kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 榊沢 勇司:平日 PM5 時以降 可能ならば事前にメール等でご連絡下さい。 1号館8階 健康支援口腔保健衛生学分野 教授室					

時間割番号	0363303			科目ID	GB—c6088-S
科目名	口腔疾患予防学演習				
担当教員	未定				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
一部英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 口腔疾患予防学分野の研究室					
<b>授業の目的、概要等</b> 口腔疾患予防の疫学調査 口腔疾患の予防方法の開発・評価 口腔疾患の予防に応用できる物質・製品の開発・評価 歯科衛生に関する研究					
<b>授業の到達目標</b> 口腔疾患予防に関する課題について、研究の立案、方法決定、実施、結果の収集と分析、考察等、博士論文の作成を行い、科学雑誌に投稿し掲載される。					
<b>授業方法</b> オンラインおよび対面授業					
<b>授業内容</b> 研究に関して、実際の指導を行う。					
<b>成績評価の方法</b> 研究過程および博士論文を学術雑誌に投稿、アクセプトの際に評価する。					
<b>成績評価の基準</b> 課題研究に関して、指導に従って実施 B:自ら文献検索および方法等の探索を行い、多くの文献から新たな知見を目指す、A:博士研究の計画を立てて、実施し、データ分析を行い、論文を作成し、投稿、アクセプトを得る。A+:評価の高い科学雑誌の					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 口腔保健、口腔疾患予防に関する知識および関連する文献を検索しておく。					
<b>試験の受験資格</b> 博士研究を実施する					
<b>構成ユニット</b> 教授(品田佳世子)と助教(安達奈穂子)					
<b>モジュールの単位判定</b> 博士研究論文を科学雑誌に投稿、掲載にて達成					
<b>他科目との関連</b> 口腔保健福祉学、口腔保健臨地実習、					



時間割番号	0363304			科目ID	GB—c6089-S
科目名	地域・福祉口腔機能管理学演習				
担当教員	松尾 浩一郎, 日高 玲奈[MATSUO Kouichirou, NAKAYAMA Rena]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
<b>主な講義場所</b>					
1号館8階 地域・福祉口腔機能管理学分野研究室					
<b>授業の目的、概要等</b>					
地域包括ケアシステムにおける医療・介護・生活支援に対する口腔機能管理の役割に関するエビデンスについての理解を深める。また、口腔機能の定量的評価に関する手法とその解析方法を学ぶ。さらに、実臨床への展開もしくは社会実装化を踏まえた研究計画手法を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周術期口腔機能/衛生管理に関する診断治療を理解し説明できる。</li> <li>2. 口腔機能低下に関する診断、治療方法について説明できる。</li> <li>3. 研究成果を学会発表、論文発表などのかたちで発表することができる。</li> </ol>					
<b>授業方法</b>					
研究室、病院、地域コミュニティにて講義と演習を行う					
<b>授業内容</b>					
<p>演習</p> <p>担当教員とともに、地域・福祉口腔機能管理学に関連する研究計画を立案し、計画を遂行する。</p> <p>研究フィールドで用いるデータ採取方法を習得し、データを採取する。</p> <p>得られたデータを分析し研究成果としてまとめる。</p> <p>抄読会に参加し、科学的思考を習得する。</p>					
<b>成績評価の方法</b>					
<p>講義、演習への参加状況:60%</p> <p>研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:40%</p>					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
特になし					
<b>教科書</b>					
随時指示する					
<b>参考書</b>					
理科系の作文技術/木下是雄:中公出版, 1981					
<b>参照ホームページ</b>					
<a href="https://www.ohcw-tmd.com/">https://www.ohcw-tmd.com/</a>					

時間割番号	0363305				
科目名	口腔健康教育学演習	科目ID	GB—c6090-S		
担当教員	吉田 直美, 鈴木 瞳[YOSHIDA Naomi, SUZUKI Hitomi]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
全て日本語で行う					
<b>主な講義場所</b>					
討論、演習は、基本的にはオンライン開催とする。 研究実習は当該分野研究室を中心に行う。					
<b>授業の目的、概要等</b>					
口腔健康教育及び歯科衛生に関する研究について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
口腔健康教育、歯科衛生に関する研究を遂行するために必要な知識や方法に関する理解を深める。					
<b>授業方法</b>					
少人数制とする。					
<b>授業内容</b>					
研究テーマの設定、分析、口腔健康教育手法や評価法の選択など、研究計画を立案、遂行するにあたって不可欠な事項について演習を行う。					
<b>成績評価の方法</b>					
講義、演習、研究実習への参加状況や、発表・発言等といった参画状況を判断して評価する。「研究実習」については研究内容、各種研究や研究会議への関与の程度、学会発表の回数等を加味して総合的な評価を行う。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
テーマを把握したうえで該当する資料や文献を事前によく読んでから参加すること					
<b>参考書</b>					
特になし					
<b>履修上の注意事項</b>					
課題がある際は期日までに提出すること					

時間割番号	0363306			科目ID	GB—c6091-S
科目名	口腔基礎工学演習				
担当教員	青木 和広[AOKI KAZUHIRO]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1～	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
英語による授業: 留学生が履修登録した場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b> 本分野の研究室(2 号館 1 階および 2 階)または遠隔(同期および非同期)にて行う。					
<b>授業の目的、概要等</b> 目的: 工学と生物学の融合研究、基礎から臨床への橋渡し研究を通して、口腔から全身の健康に寄与するための学術基盤を理解する。  概要: 関連論文の精読・紹介、研究セミナーへの参加・議論、新技術の研究開発を通じて口腔基礎工学に精通した研究の基礎を習得する。					
<b>授業の到達目標</b> 1) 口腔基礎工学分野において未解決の問題を抽出する。 2) 学際研究による研究の発展手法を身に付ける。 3) 国内外の学会への発表、学術誌への論文作製、発表を行う。 4) 自立して研究し、かつ学術的研究のリーダーとなりえる基礎能力を身に付ける。					
<b>授業方法</b> 1) 自らのテーマに関する英語論文を読み、他者にその内容をプレゼンテーションする。 2) 実験結果を説明し、考察と次のステップの実験についてプレゼンテーションする。 3) 学会発表等を通じて、研究のまとめ方、発表の仕方を習得する。 4) 修士学生や学部学生など後輩の指導を通じて自ら学ぶとともに、教育する能力を養成する。 以上、研究は学生と教員がお互いなくてはならない関係として進めていく。					
<b>授業内容</b> 講義・演習 目的・概要: 口腔基礎工学研究の遂行に必要な学際研究の手法を習得する。臨床応用を目指した原著論文を読み、自己の研究について進捗状況や成果の意義を客観的に判断でき、科学的根拠に基づいた議論や新たな研究展開を立案できるようにする。 参加プログラム: プログレスミーティングおよび抄読会 毎週木曜日 8 時から(硬組織研究・骨形態計測学特論や口腔保健学セミナーと重なる場合は 7 時 20 分から)  研究実習 目的・概要: 口腔基礎工学分野における研究方法を修得する。動物や組織材料、あるいは培養細胞株を用い、骨形成促進剤の骨形成メカニズムを解明するとともに、臨床応用を目指して骨形成促進剤を含浸させる足場材料の特性を明らかにする研究を行う。 学際研究を展開するために、幸福尺度を加味した臨床データの解析を行う。 参加可能プログラム: 1) BMP-2 と RANKL 結合ペプチド併用による骨形成促進剤の開発 2) 上記シグナル分子に適した骨形成足場材料の比較研究 3) 唾液中の幸福度マーカーの開発 4) 幸福度により変化する口腔内細菌叢、唾液中のがん関連物質の同定					
<b>成績評価の方法</b> 講義、演習への参加状況や、発表・発言等といった参画状況を判断し評価する。加えて、研究内容の外部発表(学会、論文)状況等に基づき、以下の割合を目安に総合的評価を行う。 ○講義、演習、研究実習への参加状況: 80%					

○研究内容の外部発表(学会、論文)状況等:20%

**準備学習等についての具体的な指示**

硬組織研究・骨形態計測学特論および口腔保健学セミナーの参加はやむを得ない場合を除いて出席すること。その基盤の上で、演習を進めていく。

また、毎週木曜日 8時から 8時 50 分までの勉強会にも参加すること。

時間割番号	0363307			科目ID	GB—c6092-S
科目名	口腔デジタルプロセス学演習				
担当教員	金澤 学[KANAZAWA MANABU]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1~	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
留学生がいる場合には英語で行う					
<b>主な講義場所</b> プログラムにより異なるので、受講前に担当教員に確認すること。					
<b>授業の目的、概要等</b> 授業目的: 指導教員を交えた少人数環境における外来診療やセミナー等により、デジタルデンティストリーに関する研究に必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、情報収集能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力を身につける。  概要: 口腔デジタルプロセス学分野や関連分野の外来診療、セミナー、ジャーナルクラブ、プログレスミーティング等に参加し、デジタルデンティストリーに関するの最新知識や技術情報を学び、研究背景・方法および実験技術の基本を理解するなかで、研究に必要な基本能力を獲得する。					
<b>授業の到達目標</b> デジタルデンティストリーに関する研究における、基本的プレゼンテーション能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力等を身につける。					
<b>授業方法</b> 指導教員を交えた少人数環境におけるセミナー等					
<b>授業内容</b> 指導教員の指定する内容					
<b>成績評価の方法</b> 講義、セミナー、演習への参加状況及びその内容によって評価を行う。研究実習については、その研究グループへの貢献度、研究レポート、学会発表の回数や内容等に基づいて評価を行う。					
<b>成績評価の基準</b> 指導教員の指定による。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 指導教員の指定による。					
<b>連絡先(メールアドレス)</b> m.kanazawa.gerd@tmd.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 火水木金 16:00- 18:00 2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 Lab 1					

時間割番号	0363308			科目ID	GB—c6105-S
科目名	口腔医療工学演習				
担当教員	池田 正臣[IKEDA MASAOMI]				
開講時期	2024 年度通年	対象年次	1	単位数	5
実務経験のある教員による授業					
・留学生が履修登録した場合は英語で行う					
<b>授業の目的、概要等</b>					
<p>授業目的: 口腔保健工学を支える基礎研究, 基礎技術の多彩で具体的な応用例を学ぶことにより, 幅広い問題解決についての知識を得ることを目的としている。</p> <p>概要: 口腔医療工学分野, 口腔デジタルプロセス学分野, 口腔基礎工学分野の教員が担当し, 口腔保健工学を支える研究・技術について各自の専門分野を基盤に講義する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
口腔保健工学を支える研究成果・技術について, それぞれの開発・応用・機能及び問題点の各項目について議論し, 基盤的な知識を具体的な応用に結びつける戦略について学ぶ。					
<b>授業方法</b>					
複数の教員により多岐にわたる講義を行い, 学生の質問を中心とした討議を行うことにより学習を深める。					
<b>成績評価の方法</b>					
成績評価は, 提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
特になし。教科書・参考書・参考論文等が, 事前に連絡される場合があるので, その際には講義の前に確認しておくこと。					
<b>参考書</b>					
教科書・参考書・参考論文等は, 事前に科目担当者が指示する。					
<b>備考</b>					
受講者数により, 授業スケジュールが一部変更する可能性がある。					

時間割番号	0363401					
科目名	口腔保健学セミナー			科目ID	GB—c6094—T	
担当教員	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 吉田 直美, 竹内 康雄, 伊藤 奏, 安達 奈穂子, 日高 玲奈, 青木 和広, 土田 優美, 池田 正臣[KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, YOSHIDA Naomi, TAKEUCHI YASUO, ITOU Kanade, ADACHI Naoko, NAKAYAMA Rena, AOKI KAZUHIRO, TSUCHIDA Yuumi, IKEDA MASAOMI]					
開講時期	2024 年度3年通年	対象年次	1~	単位数	1	
実務経験のある教員による授業						
留学生在履修登録した場合は英語で行う						
<b>主な講義場所</b> 遠隔授業(同期型)						
<b>授業の目的、概要等</b> <p>授業目的:このセミナーの目的は、口腔保健学系の研究内容を広く知ることにより、学際的な発想が生まれる土壌と自ら考え解決する能力を養い、人々の幸福に貢献する研究分野の開拓を行える人材の育成を目的とする。</p> <p>概要:口腔保健学系大学院生(修士学生も原則含める)を対象として、分野横断的な発表と討論を行うものである。分野ごとに学生が研究の進捗状況について発表し、それぞれの発表後に不明な点を2~3名の小グループで明らかにしながら、全体の場では各グループからの質問を発表者は受け回答を行う。足りなかったところは、よく調べ1か月のうちに Padlet に記載する。また、頂いたアドバイスに対する研究計画への反映の可能性に対して指導者と議論する。</p> <p>口腔保健学系の学生は、本セミナーの受講は必修である。</p>						
<b>授業の到達目標</b> <p>①自分の研究を専門外の研究者にも分かりやすく説明できる。</p> <p>②研究発表後に不明な点を学生同士でお互い共有できる。</p> <p>③不明な点に対して、発表者にしっかりと伝えることができる。</p> <p>④研究の進捗状況に対するコメントを参考にして、今後の研究立案に反映することができる。</p> <p>⑤分野横断的な共同研究を提案できる。</p>						
<b>授業計画</b>						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	5/9	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	分野横断研究提案その 1	健康支援口腔保健衛生学分野からの発表、質疑応答と振り返り	樺沢 勇司, 青木 和広
2	6/6	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	分野横断研究提案その 2	口腔デジタルプロセス学分野からの発表、質疑応答と振り返り	土田 優美 樺沢 勇司
3	7/11	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	分野横断研究提案その 3	生涯口腔保健衛生学分野からの発表、質疑応答と振り返り	竹内 康雄 樺沢 勇司
4	9/12	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	分野横断研究提案その 4	地域・福祉口腔機能管理学分野からの発表、質疑応答と振り返り	松尾 浩一郎 樺沢 勇司
5	10/10	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	分野横断研究提案その 5	口腔医療学分野からの発表、質疑応答と振り返り	池田 正臣 樺沢 勇司
6	11/7	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	分野横断研究提案その 6	口腔健康教育学分野からの発表、質疑応答と振り返り	吉田 直美 樺沢 勇司
7	12/12	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	分野横断研究提案その 7	口腔疾患予防学分野からの発表、質疑応答と振り返り	安達 奈穂子, 樺沢 勇司
8	1/9	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	分野横断研究提案その 8	口腔基礎工学分野からの発表、質疑応答と振り返り	青木 和広, 樺沢 勇司
<b>授業方法</b> <p>発表者は、パワーポイント等の発表用ソフトウェアを用いて発表する(発表時間 15~20 分)。事前に発表スライドの資料を PDF で参加者に共有できるように準備しておく。各々の発表後に、参加した学生同士で2~3名の小グループを作り、不明な点を出し合い、評価・反映用 Web ページ(Padlet)に記載する。その後、各グループは発表者への質疑応答を行う。</p>						

<p>十分に回答できなかったことに対しても良く調べたことを指導者に報告し、Padlet に記載する。また、発表者は頂いた意見を参考にして、自身の研究立案に反映できるか否かを判断し、その結果を指導者と議論する。</p> <p>共同研究の可能性があれば、その意思を指導者に伝え、積極的に進めていく。</p> <p>なお、日時は仮であり、実施方法の変更等についても随時連絡する。また、分野に博士課程の大学院生がいない場合は、分野の教員が進めている研究内容を発表するなどその都度連絡する。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>参加者としての評価で 80 %</p> <p>発表者としての評価で 20 %</p> <p>参加者は評価シート(Padlet)にグループごとの質問事項を記載</p> <p>発表者は評価シート(Padlet)に記載された質問事項に回答</p> <p>すぐに答えられない場合は、1 か月のうちに Padet に記載する。</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>参加者として</p> <p>①グループとして発表者にコメントや質問ができたかを評価する(5 点 x8 回:40 点)。</p> <p>②セミナーへの参加状況を評価する(出席点は毎回 5 点 x8 回:40 点)</p> <p>なお、①の評価点は、発表者だけでなくグループのメンバー全員に同じ評価点が加算される。</p> <p>興味あることだけでなく、不明な点はすべて質問する姿勢で質問をまとめ、発表者に尋ねること。</p> <p>発表者として</p> <p>③自分の研究についてわかりやすく説明できているかを評価する(10 点)。</p> <p>④質問やコメントに対する学びなおしができ、Padlet に回答を記載できたかを評価する(10 点)</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>①発表者は指導教員とよく相談して、発表前日 17 時半までに研究目的がわかるように出席予定者にメールで連絡すること(書式は問わな い)。また、セミナー1 週間前までに口腔保健学講座全教員と学生(博士課程と修士課程)にリマインドする。</p> <p>②他の分野の学生にも分かるように、平易かつ簡潔な発表をこころがける。</p> <p>③セミナー参加者は、事前に配布される資料から、疑問点や想定質問を考えておく。</p> <p>④3 年生以降は、可能なら英語による発表を準備する。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>日程は仮であり実際はスタッフと履修生とで調整する。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>樺沢 勇司:kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>樺沢 勇司:平日 PM5 時以降 可能ならば事前にメール等でご連絡下さい。</p> <p>1 号館 8 階 健康支援口腔保健衛生学分野 教授室</p>



時間割番号	0364001			科目ID	GB—c6201—L
科目名	生命理工医療科学先端研究特論				
担当教員	影近 弘之[KAGECHIKA HIROYUKI]				
開講時期	2024 年度2年通年	対象年次	1～2	単位数	2
実務経験のある教員による授業					
問い合わせ先:学務企画課大学院教務第二係(Mail: grad02@ml.tmd.ac.jp)					
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>本特論は、医歯学総合研究科生命理工医療科学専攻の全ての学生に対する共通必修科目である。生命理工医療科学研究における専門的かつ最新の知見を含む講演やセミナーに参加することによって、最先端の研究領域についての見識を広めることを目的とする。本特論の講義として該当するセミナー等は以下のとおりとする。</p> <p>1)学内で開催されるセミナー等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院特別講義</li> <li>・大学院セミナー</li> <li>・難研セミナー</li> <li>・生材研セミナー</li> </ul> <p>2)指導教員から推薦を受けたセミナー等(指導教員が学務企画課へ事前に照会すること。)</p> <p>※上記のセミナー等は、以下を条件とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員もしくはその所属分野のスタッフがセミナーに参加し、学生の参加状況等について確認できること。</li> <li>・参加制限なし(誰でも参加可能)、事前登録不要、無料のセミナーであること。</li> </ul> <p>日程、会場等の詳細は決定次第、掲示板及びホームページ等で随時周知する。</p> <p>各セミナーについての URL は、以下を参照のこと。</p> <p>大学院特別講義・大学院セミナー<a href="http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/seminar/index.html">http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/seminar/index.html</a>  (※「がんプロ」「ボードレス」と記載のあるセミナーは対象とならない。)</p> <p>難研セミナー <a href="http://www.tmd.ac.jp/mri/events/index.html">http://www.tmd.ac.jp/mri/events/index.html</a>  生材研セミナー <a href="http://www.tmd.ac.jp/ibb/information/">http://www.tmd.ac.jp/ibb/information/</a></p>					
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>15回以上の出席者が対象になる。</p> <p>学生は、医歯学総合研究科修士課程修了者を除き、初期研究研修に出席することが望ましい。初期研究研修の全ての受講は、本科目の6回分の出席とみなされる。</p> <p>規定回数以上の出席に加えて、生命理工医療科学先端研究特論における積極的な取組姿勢を総合的に勘案して評価する。</p> <p>生命理工医療科学先端研究特論における積極的な取組姿勢の確認は、当該セミナーを主催する分野の教員が行う。</p>					
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>なし。</p>					
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>所定の出席票を必ず使用して、原則として2年次の12月までに聴講をすませること。自らが専攻しようとする専門分野ばかりでなく広範な研究領域のセミナーに参加することが望ましい。出席票の提出期間・提出場所は以下のとおり。【提出期間】2年次11月～12月末日【提出場所】学務企画課大学院教務第二係 なお、長期履修者は提出期間が異なるため、学務企画課大学院教務第二係に確認すること。</p>					
<p><b>備考</b></p> <p>初期研究研修:研究開始に当たり、種々の研究分野における基本的な研究概念や具体的な研究方法の必要知識および研究実施上の注意事項を学習する。詳細は授業明細に記載。</p>					

<b>Lecture No</b>	0360001				
<b>Subject title</b>	Management	<b>Subject ID</b>	GC—c6331—L		
<b>Instructors</b>	竹内 勝之, 板越 正彦, 今村 健, 吉野 宏幸[TAKEUCHI Katsuyuki, ITAGOSHI Masahiko, IMAMURA Kenn, YOSHINO Hiroyuki]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Same classes are offered in English on different schedules.					
<b>Lecture place</b>					
Please check the course schedule.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: Students will acquire a set of basic knowledge and skills of management (project management, career management, business communication, and so on) and will get training so that they apply it to daily medical and research activities.					
Outline: The course provides lectures explaining management skills necessary for students to make success in the medical, research or business world in the future, focusing mainly on project management, career management, and business communication.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will understand the essence of management skills and acquire basic skills so that they apply it to daily medical and research activities.					
<b>Lecture Style</b>					
Lectures on the essence of management skills, and workshops for practical skills.					
<b>Course Outline</b>					
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>Grading System</b>					
Participation (70%) and discussion and attitude (30%).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None.					
<b>Email</b>					
TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
TAKEUCHI Katsuyuki:Weekdays only. Advanced appointments are required.					
Contact to Katsuyuki Takeuchi in Institute of Education (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

<b>Lecture No</b>	0360001E				
<b>Subject title</b>	Management	<b>Subject ID</b>	GC—c6331—L		
<b>Instructors</b>	竹内 勝之, 板越 正彦, 吉野 宏志[TAKEUCHI Katsuyuki, ITAGOSHI Masahiko, YOSHINO Hiroshi]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: All classes are taught in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: Students will acquire a set of basic knowledge and skills of management (project management, career management, business communication, and so on) and will get training so that they apply it to daily medical and research activities.					
Outline: The course provides lectures explaining management skills necessary for students to make success in the medical, research or business world in the future, focusing mainly on project management, career management, and business communication.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will understand the essence of management skills and acquire basic skills so that they apply it to daily medical and research activities.					
<b>Lecture Style</b>					
Lectures on the essence of management skills, and workshops for practical skills.					
<b>Course Outline</b>					
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>Grading System</b>					
Participation (70%) and discussion and attitude (30%).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None.					
<b>Email</b>					
TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
TAKEUCHI Katsuyuki:Weekdays only. Advanced appointments are required.					
Contact to Katsuyuki Takeuchi in Institute of Education (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

<b>Lecture No</b>	0360002				
<b>Subject title</b>	Global Trends		<b>Subject ID</b>	GC—c6341—L	
<b>Instructors</b>	竹内 勝之, 中村 桂子, 岡田 将誌, 小野 雅司, 白神 昇平, 宇賀神 敦, 久保田 宏[TAKEUCHI Katsuyuki, NAKAMURA KEIKO, OKADA Masashi, ONO Masaji, Shohei Shirakami, UGAJIN Atsushi, KUBOTA Hiroshi]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: Same classes are offered in English on different schedules.					
<b>Lecture place</b> Please check the course schedule.					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose : Students will cultivate their minds and international awareness and develop a broader perspective so that they make a global success in the future, by explaining the world situation and the international affairs that are related with life sciences and by providing a series of multilateral discussions in class. Outline: This course gives lectures on the international affairs mainly of science technology, medicine and health care, industry, environment, economy, and politics, in order to equip students with the basic education and the international awareness so that they make success in medicine, research and business in the future.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal is that students enhance their expertise or acquire social understandings that are necessary to develop a new perspective.					
<b>Lecture Style</b> The course provides knowledge necessary to understand international affairs and trends concerning science technology, medicine, health care, and so on, and explains the most advanced topics in various areas in order to develop their global perspectives. It basically provides interactive lectures; however, it also introduces group discussions and other styles, depending on the number of students.					
<b>Course Outline</b> The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>Grading System</b> Participation (70%) and comments in discussions (30%).					
<b>Prerequisite Reading</b> None.					
<b>Email</b> TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b> TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Katsuyuki Takeuchi in Institute of Education (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

<b>Lecture No</b>	0360002E				
<b>Subject title</b>	Global Trends	<b>Subject ID</b>		GC—c6341—L	
<b>Instructors</b>	竹内 勝之[TAKEUCHI Katsuyuki]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Not offered in 2024					
<b>Prerequisite Reading</b>					

<b>Lecture No</b>	0360003				
<b>Subject title</b>	Intellectual Property			<b>Subject ID</b>	GC—c6351—L
<b>Instructors</b>	竹内 勝之, 杉光 一成, 川瀬 真, 平井 佑希[TAKEUCHI Katsuyuki, SUGIMITSU Kazunari, KAWASE Makoto, HIRAI Yuki]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> Please check the course schedule.					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: Students will acquire a basic knowledge of intellectual property necessary to engage in research and business activities. Outline: The course gives lectures on the essence of intellectual property that is required to know in research and business activities, such as patents and copyrights. In addition, it gives case studies of intellectual property strategies in research and business activities so that students develop their understanding of intellectual property.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal is that students acquire a basic knowledge of 'patents' and 'copyrights' and a set of basic skills of the patent search.					
<b>Lecture Style</b> Lectures on the basic knowledge of intellectual property, workshops, and case studies.					
<b>Course Outline</b> The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>Grading System</b> Participation (70%), discussion and attitude (30%)					
<b>Prerequisite Reading</b> None.					
<b>Email</b> TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b> TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Katsuyuki Takeuchi in Institute of Education (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

<b>Lecture No</b>	0360004S				
<b>Subject title</b>	English Conversation and Debate	<b>Subject ID</b>	GC—c6400—L		
<b>Instructors</b>	JEANETTE DENNISSON[JEANETTE DENNISSON]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: Direction, class group work and all communications are in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
English proficiency is essential as a common world language for not only communication but also information dissemination in state-of-the-art medical and dental research. In order to become leaders in the international arena, we will use critical thinking skills to discuss current topics, practice the basic skills required to have conversations, and learn how to debate various topics.					
<b>Course Objective(s)</b>					
At the end of the course, students will have improved skills of:					
1) Discussing current health science and cultural topics with more confidence					
2) Using the Opinion-Reason-Evidence format for expressing ideas more clearly					
3) Understanding and ability to use debate skills					
4) Leading a discussion in English					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	4/22	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Overview of class/Group work & debate basics	JEANETTE DENNISSON
2	5/10	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
3	5/10	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
4	5/17	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
5	5/17	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
6	5/24	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
7	5/24	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
8	6/10	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
9	6/10	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
10	6/14	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
11	6/14	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
12	6/17	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
<b>Lecture Style</b>					
Pre-reading of weekly topic and viewing of online video					
In-class group discussion/debate and listening exercises					
Weekly short essay writing assignments					

**Grading System**

Based on class participation (80%) and writing (20%). Students must attend 2/3 of sessions in order to be eligible to pass this course. Those who do attend at least 8 sessions and do not officially drop the course will receive a failing grade.

**Prerequisite Reading**

Reading materials will be provided by the instructor. All enrollees are expected to read/watch those materials beforehand and be prepared for class discussion and/or debate. Reading, listening or light research will be required before each session.

**Note(s) to Students**

Enrollment is limited to 15 students.

**Email**

dennisson.las@tmd.ac.jp

**Instructor's Contact Information**

Wednesday/Thursday 12:30 - 13:00 PM 管理研究棟3階



<b>Lecture No</b>	0360004F				
<b>Subject title</b>	English Conversation and Debate	<b>Subject ID</b>	GC—c6400—L		
<b>Instructors</b>	JEANETTE DENNISSON[JEANETTE DENNISSON]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: Direction, class group work and all communications are in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
English proficiency is essential as a common world language for not only communication but also information dissemination in state-of-the-art medical and dental research. In order to become leaders in the international arena, we will use critical thinking skills to discuss current topics, practice the basic skills required to have conversations, and learn how to debate various topics.					
<b>Course Objective(s)</b>					
At the end of the course, students will have improved skills of:					
1) Discussing current health science and cultural topics with more confidence					
2) Using the Opinion-Reason-Evidence format for expressing ideas more clearly					
3) Understanding and ability to use debate skills					
4) Leading a discussion in English					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	10/15	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Overview of class/Group work & debate basics	JEANETTE DENNISSON
2	10/22	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
3	11/5	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
4	11/12	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
5	11/19	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
6	11/26	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
7	12/3	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
8	12/10	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
9	1/7	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
10	1/14	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Writing	JEANETTE DENNISSON
11	1/21	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
12	1/28	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Discussion/Listening/Debate	JEANETTE DENNISSON
<b>Lecture Style</b>					
Pre-reading of weekly topic and viewing of online video					
In-class group discussion/debate and listening exercises					
Weekly short essay writing assignments					

**Grading System**

Based on class participation (80%) and writing (20%). Students must attend 2/3 of sessions in order to be eligible to pass this course. Those who do attend at least 8 sessions and do not officially drop the course will receive a failing grade.

**Prerequisite Reading**

Reading materials will be provided by the instructor. All enrollees are expected to read/watch those materials beforehand and be prepared for class discussion and/or debate. Reading, listening or light research will be required before each session.

**Note(s) to Students**

Enrollment is limited to 15 students.

**Email**

dennisson.las@tmd.ac.jp

**Instructor's Contact Information**

Wednesday/Thursday 12:30 – 13:00 PM 管理研究棟3階

<b>Lecture No</b>	0360005				
<b>Subject title</b>	Presentation in English			<b>Subject ID</b>	GC—c6425-L
<b>Instructors</b>					
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
This course is not available in 2024.					
<b>Prerequisite Reading</b>					

<b>Lecture No</b>	0361001				
<b>Subject title</b>	Biomedical Science			<b>Subject ID</b>	GC—c6426-L
<b>Instructors</b>	二階堂 愛, 笹川 洋平, 吉見 昭秀, 後藤 利保, 澁谷 浩司, 清水 幹容, 仁科 博史, 小藤 智史, 松田 憲之, 瀬川 勝盛, 山野 晃史[NIKAIDO Itoshi, SASAGAWA Youhei, YOSHIMI Akihide, GOTO TOSHIYASU, SHIBUYA HIROSHI, SHIMIZU Masahiro, NISHINA HIROSHI, KOFUJI Satoshi, MATSUDA Noriyuki, SEGAWA Katsumori, YAMANO KOJI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	2
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Online (Zoom) or on-demand video lecture					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course purpose: The Bioscience Program offers lectures on several important topics in Molecular Biology, Genetics, Epigenetics, Bioinformatics, Developmental Biology and Engineering, Cell Biology and Biochemistry. The major purpose of the program is to obtain the latest information on these fields of science and to train scientific mind as well as logical thinking skills necessary to become independent researchers.					
Outline: Molecular mechanisms on several fundamental biological phenomena related to embryonic development, cell differentiation and immune system are introduced and several human diseases due to breakdown of normal regulation, such as genomic imprinting diseases, cancers, immunodeficiency and allergy, will be discussed.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Understand useful and critical information from basic to the latest biological sciences and medicine.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/24	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Aberrant RNA splicing in Cancer	YOSHIMI Akihide
2	5/31	13:00-15:15	遠隔授業 (非同期 型)	Single-cell omics sequencing	SASAGAWA Youhei
3	6/7	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	Intercellular Clearance System: Autophagy	YAMANO KOJI
4	6/14	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Cellular signaling in development	SHIBUYA HIROSHI, GOTO TOSHIYASU
5	6/21	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Bioinformatics for single-cell omics data	NIKAIDO Itoshi
6	6/28	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Cellular signaling in diseases	SHIBUYA HIROSHI, SHIMIZU Masahiro
7	7/5	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Molecular mechanisms to suppress the onset of hereditary Parkinson's disease	MATSUDA Noriyuki
8	7/12	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Immune cells and cell death	SEGAWA Katsumori

9	8/23	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Liver formation and diseases	NISHINA HIROSHI
10	8/30	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Cancer metabolism	KOFUJI Satoshi
<b>Lecture Style</b>					
Lecture by the lecturer, discussion with students, and writing reports.					
<b>Grading System</b>					
Attendance to lectures (80 %) and reports (20 %) are evaluated.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Instruct at first lecture if necessary.					
<b>Exam eligibility</b>					
More than 75% of attendance to the lectures					
<b>Reference Materials</b>					
Molecular cell biology/Harvey Lodish ... [et al.],Lodish, Harvey F.,:W.H. Freeman, 2016					
Epigenetics/C. David Allis, Marie-Laure Caparros, Thomas Jenuwein, Danny Reinberg, editors ; Monika Lachner, associate editor,Allis, C. David,Caparros, Marie-Laure,Jenuwein, Thomas,Reinberg, Danny,Lachner, Monika,: Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2015					
エッセンシャル免疫学/ピーター・パーラム著,Parham, Peter,笹月, 健彦,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016					
ゲノム : 生命情報システムとしての理解/T.A. ブラウン著,Brown, T. A. (Terence Austen),石川, 冬木,中山, 潤一,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2018					
"The immune system" (Third edition),Peter Parham, Garland Science					
Molecular Cell Biology Eighth Edition, Harvey Lodish et al, ISBN-13: 978-1-4641-8339-3					
Genome 4, Garland Science, 978-0815345084					
<b>Email</b>					
NIKAIDO Itoshi:ditoshi@gmail.com					
SHIBUYA HIROSHI:shibuya.mcb@mri.tmd.ac.jp					
MATSUDA Noriyuki:nr-matsuda.biom@tmd.ac.jp					
NISHINA HIROSHI:nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp					
SEGAWA Katsumori:segawa.mche@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
NIKAIDO Itoshi:AM:9:00-10:00, Every Monday at 2458, M&D tower (or Zoom)					
SHIBUYA HIROSHI:Every Monday PM.1:00-2:00 Seminar Room, 23rd floor, MD Tower					
MATSUDA Noriyuki:Monday to Friday, from 11:00 AM to 5:00 PM, Room N2301, M&D Tower, the 23rd Floor.					
NISHINA HIROSHI:on Thursdays between 10:00-12:00 noon					
21F, M&D Tower					
SEGAWA Katsumori:Every Friday from 5:00 PM to 6:00 PM M&D Tower 22F_N2206					

<b>Lecture No</b>	0361002				
<b>Subject title</b>	Advanced Biofunctional Molecules			<b>Subject ID</b>	GC—c6427-L
<b>Instructors</b>	影近 弘之, 細谷 孝充, 伊藤 暢聡, 藤井 晋也, 石田 良典, 沼本 修孝, 田口 純平, 増野 弘幸, 馬 悦 [KAGECHIKA HIROYUKI, HOSOYA TAKAMITSU, ITO NOBUTOSHI, FUJII Shinnya, ISHIDA Ryouyusuke, NUMOTO NOBUTAKA, TAGUCHI Junnpei, MASUNO HIROYUKI, MA YUE]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose:Fundamental knowledge and technology on the functional molecules and the recent topics on their applications will be educated.					
Outline: Various topics related to the functional molecules in the fields of medicinal chemistry, chemical biology, and materials sciences will be discussed, including the presentation by the students. There is some experimental practice.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Chemical knowledge and technology is significant in various fields including chemical biology, sensing biology, medicinal chemistry, and materials sciences. This course deals with fundamentals and applications of biofunctional molecules.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	4/27	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	Recent topics on biofunctional molecules1	KAGECHIKA HIROYUKI, HOSOYA TAKAMITSU, FUJII Shinnya, ISHIDA Ryouyusuke, MASUNO HIROYUKI, MA YUE
2	5/11	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	Recent topics on biofunctional molecules2	KAGECHIKA HIROYUKI, ITO NOBUTOSHI, FUJII Shinnya, ISHIDA Ryouyusuke, MASUNO HIROYUKI
3	5/25	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	Recent topics on biofunctional molecules3	KAGECHIKA HIROYUKI, FUJII Shinnya, ISHIDA Ryouyusuke, MASUNO HIROYUKI
4	6/15	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	Recent topics on biofunctional molecules4	KAGECHIKA HIROYUKI,

					FUJII Shinnya, TAGUCHI Junpei, ISHIDA Ryousuke, MASUNO HIROYUKI, MA YUE
5	6/29	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	Recent topics on biofunctional molecules5	KAGECHIKA HIROYUKI, HOSOYA TAKAMITSU, FUJII Shinnya, ISHIDA Ryousuke, MASUNO HIROYUKI
6	7/6	10:00-12:15	遠隔授業 (同期型)	Recent topics on biofunctional molecules6	KAGECHIKA HIROYUKI, FUJII Shinnya, TAGUCHI Junpei, ISHIDA Ryousuke, MASUNO HIROYUKI, MA YUE

#### Lecture Style

This course includes seminar-type lectures, including the presentation by the students.

#### Course Outline

See the table.

#### Grading System

Attendance (50%) and Presentation or Report (50%)

#### Prerequisite Reading

Fundamental organic chemistry and biochemistry should be reviewed. The books listed in #9 are useful for understanding the topics in this course.

#### Reference Materials

The Practice of Medicinal Chemistry (C. G. Wermuth, D. Aldous, P. Raboisson, D. Rognan eds, Academic Press); Chemical Biology (L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess Eds, WILEY-VCH); The Nuclear Receptors FactsBook (Laudet, V & Gronemeyer, H., Academic Press).

<b>Lecture No</b>	0361003				
<b>Subject title</b>	Development of Functional Molecules			<b>Subject ID</b>	GC—c6428-L
<b>Instructors</b>	細谷 孝充, 影近 弘之, 玉村 啓和, 藤井 晋也, 小早川 拓也, 田口 純平, 辻 耕平, 石田 良典, 隅田 有人 [HOSOYA TAKAMITSU, KAGECHIKA HIROYUKI, TAMAMURA HIROKAZU, FUJII Shinnya, KOBAYAKAWA Takuya, TAGUCHI Junnpei, TSUJI Kouhei, ISHIDA Ryouyusuke, SUMIDA YUUTO]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: Fundamental knowledge and recent technology on the development (molecular design, synthesis and functional analysis) of functional molecules will be educated.					
Outline: Logical design, synthesis, and analysis for development of functional molecules will be learned, including the presentation by the students.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Chemical knowledge and technology is significant in various fields including chemical biology, sensing biology, medicinal chemistry, and materials sciences. This course deals with fundamentals on development of functional molecules based on organic chemistry.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/18	15:00-17:15	1F 第2会議室	Development of Functional Molecules1	TAGUCHI Junnpei, SUMIDA YUUTO, HOSOYA TAKAMITSU
2	5/25	15:00-17:15	1F 第2会議室	Development of Functional Molecules2	TAGUCHI Junnpei, SUMIDA YUUTO, HOSOYA TAKAMITSU
3	6/1	15:00-17:15	1F 第2会議室	Development of Functional Molecules3	TAGUCHI Junnpei, SUMIDA YUUTO, HOSOYA TAKAMITSU
4	6/15	15:00-17:15	1F 第2会議室	Development of Functional Molecules4	FUJII Shinnya, ISHIDA Ryouyusuke, KAGECHIKA HIROYUKI
5	6/29	15:00-17:15	1F 第2会議室	Development of Functional Molecules5	TSUJI Kouhei, KOBAYAKAWA Takuya, TAMAMURA HIROKAZU
<b>Lecture Style</b>					



This course includes seminar-type lectures about organic chemistry.
<b>Grading System</b> Attendance (50%) and Presentation (50%)
<b>Prerequisite Reading</b> Fundamental organic chemistry should be reviewed. The books listed in #9 are useful for understanding the topics in this course.
<b>Reference Materials</b> Advanced Organic Chemistry (Francis A. Carey, Richard J. Sundberg, Springer).
<b>Note(s) to Students</b> The schedule of the lecture may be changed.

<b>Lecture No</b>	0361004				
<b>Subject title</b>	Resonstitution Materials Science	<b>Subject ID</b>	GC—c6405-L		
<b>Instructors</b>	岸田 晶夫[KISHIDA AKIO]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Not offered in 2024					
<b>Prerequisite Reading</b>					
<b>Email</b>					
kishida.mbme@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
Basically, available time is 10:00am-5:00pm Monday to Friday. Building No.21, 2nd floor, 201A room.					

<b>Lecture No</b>	0361005				
<b>Subject title</b>	Tissue Regenerative Bioceramic Materials Science			<b>Subject ID</b>	GC—c6406—L
<b>Instructors</b>	川下 将一, 横井 太史, 島袋 将弥[KAWASHITA Masakazu, YOKOI Taishi, SHIMABUKURO Masaya]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Face-to-face lectures will be held in Department of Inorganic Biomaterials, Institute of Biomaterials and Bioengineering, TMDU (Bldg. 21, 3rd floor).					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: Students will understand how bioceramics are designed and manufactured, and understand that bioceramics are clinically applied in various fields based on their structures and properties.					
Outline: Students will read literature on bioceramics in turns, and lectures will be given by staffs in Department of Inorganic Biomaterials as necessary.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will understand that various bioceramics are clinically applied in various fields according to their structures and characteristics.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	6/24	18:00-20:15	各研究室	Introduction to bioceramics	YOKOI Taishi, KAWASHITA Masakazu, SHIMABUKURO Masaya
2	7/1	18:00-20:15	各研究室	Structure of bioceramics	YOKOI Taishi, KAWASHITA Masakazu, SHIMABUKURO Masaya
3	7/10	18:00-20:15	各研究室	Synthesis and processing of bioceramics	YOKOI Taishi, KAWASHITA Masakazu, SHIMABUKURO Masaya
4	7/16	18:00-20:15	各研究室	Bioceramics for cancer therapy	YOKOI Taishi, KAWASHITA Masakazu, SHIMABUKURO Masaya
5	7/18	18:00-20:15	各研究室	Bioceramics for bone repair	YOKOI Taishi, KAWASHITA Masakazu, SHIMABUKURO Masaya
<b>Lecture Style</b>					
Students will read the literature on bioceramics in turns and discuss the contents of the literature. Lectures by teachers will be given as needed.					
<b>Course Outline</b>					

- (1) Need for Bioceramics
- (2) Types of Bioceramic–Tissue Attachments
- (3) Almost–Inert Crystalline Bioceramics
- (4) Porous Ceramics
- (5) Bioactive Glasses and Glass–Ceramics
- (6) Interfacial Reaction Kinetics
- (7) Clinical Applications of Bioactive Glasses and Glass–Ceramics
- (8) Calcium Phosphate Ceramics
- (9) Composites
- (10) Coatings
- (11) Therapeutic Applications

**Grading System**

Grading is based on class participation and quality of final presentation.

Class participation: 70%, Final presentation: 30%.

**Prerequisite Reading**

none

**Reference Materials**

Textbooks, references, and papers are suggested during lectures.

<b>Lecture No</b>	0361006				
<b>Subject title</b>	Organic Biomaterials Science	<b>Subject ID</b>	GC—c6407-L		
<b>Instructors</b>	松元 亮[MATSUMOTO AKIRA]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: To offer lectures on several important aspects in self-organization and hierarchical structuring found in biomolecules and tissues along with their bioengineering applications. The major purpose of the program is to train scientific mind as well as logical thinking required for independent researchers.					
Outline: To deepen our understanding of the above and discuss on the expected future of organic biomaterials.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Introduce useful information on organic biomaterials from basis to possible applications to attendants.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/6	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	Soft matter and DDS	MATSUMOTO AKIRA
2	5/9	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	Organic biomaterials for advanced medicine 1	MATSUMOTO AKIRA
3	5/14	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	Organic biomaterials for advanced medicine 2	MATSUMOTO AKIRA
4	5/21	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	Basis of molecular recognition chemistry	MATSUMOTO AKIRA
5	5/29	18:30-20:45	遠隔授業 (同期型)	Molecular recognition chemistry & DDS	MATSUMOTO AKIRA
<b>Lecture Style</b>					
Lecture, discussion and presentation					
<b>Grading System</b>					
Participation to lectures (50 %) and question during the class (50 %) are evaluated.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Previous credits on Advanced Biomaterials Science and Applied Biomaterials Science or the equal academic level is required (preferable) .					
<b>TextBook</b>					
Biomaterials Science : An Introduction to Materials in Medicine / edited by Buddy D. Ratner ... [et al.], Ratner, B. D. (Buddy D.), Hoffman, Allan S., Schoen, Frederick J., Lemons, Jack E., Academic Press, 2013					
<b>Reference Materials</b>					
Advice appropriately.					

<b>Lecture No</b>	0361007				
<b>Subject title</b>	Medical Materials Engineering	<b>Subject ID</b>	GC—c6408—L		
<b>Instructors</b>	岸田 晶夫, 橋本 良秀[KISHIDA AKIO, HASHIMOTO YOSHIHIDE]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose:This course gives the understanding of the usage of biomaterials in clinical field. Fabrication and design process of medical devices are also lectured					
Outline:This course deals with fundamental characteristics of medical materials and devices. Designing medical devices for realizing novel function and their application are introduced through recent outcome from advanced research field.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The goal of this course is to understand how novel medical devices should be developed.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/6	16:00-18:15	遠隔授業 (非同期型)	Planning for development of biomaterials	KISHIDA AKIO
2	5/7	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	Artificial and Natural biomaterials	KISHIDA AKIO
3	5/13	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	Tissue-engineered materials	HASHIMOTO YOSHIHIDE
4	5/20	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	Biological response for biomaterials	KIMURA TSUYOSHI
5	5/27	14:00-16:15	遠隔授業 (非同期型)	Medical device regulation	KIMURA TSUYOSHI
<b>Lecture Style</b>					
Lecture, discussion and presentation					
<b>Grading System</b>					
Attendance to lectures (80 %) and reports (20 %) are evaluated.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Basic knowledge on Materials, Physio-Chemsitry and immunology is required (preferable) .					
<b>Reference Materials</b>					
バイオマテリアル : その基礎と先端研究への展開/田畑泰彦, 埴隆夫編著,田畑, 泰彦,埴, 隆夫,岡野, 光夫,明石, 満,:東京化学同人, 2016					
Biomaterials science : an introduction to materials in medicine/edited by Buddy D. Ratner ... [et al.],Ratner, B. D. (Buddy D.),Hoffman, Allan S.,Schoen, Frederick J.,Lemons, Jack E.,:Academic Press, 2013					

<b>Lecture No</b>	0361008				
<b>Subject title</b>	Mathematical and numerical methods for biomedical information analysis	<b>Subject ID</b>	GC—c6429-L		
<b>Instructors</b>	中島 義和, 杉野 貴明, 周 東博, 小野木 真哉[NAKAJIMA Yoshikazu, SUGINO Takaaki, SHUU Touhaku, ONOGI Shinnya]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: If an/some international students register this lecture series for credits, this course will be done in English.					
<b>Lecture place</b>					
All lectures are given online (zoom).					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Technologies for biomedical measurement and diagnosis are improved rapidly. It highlights expectation for integrative analyses of biomedical information and establishment of numerical computing theory. The lecture classes will provide principles, which are needed to research and develop systems, and introduce advanced applications.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The students will understand principle methods for biomedical informatics and data processing. In addition, they will learn advanced technologies.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/6	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	Mathematical and statistical analyses for medical data 1	SUGINO Takaaki
2	5/13	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	Biological signal processing and its applications on medical and rehabilitation en	SHUU Touhaku
3	5/20	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	Artificial intelligence analysis for medical data 1	NAKAJIMA Yoshikazu
4	5/27	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	Artificial intelligence analysis for medical data 2	SUGINO Takaaki
5	6/3	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Mathematical and statistical analyses for medical data 2	ONOGI Shinnya
6	6/10	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Biological signal processing and its applications on medical and rehabilitation en	SHUU Touhaku
<b>Lecture Style</b>					
Lecture and discussion					
<b>Course Outline</b>					
The lecture series will introduce statistical analyses, mathematical and numerical simulations and artificial-intelligence (AI) analyses for biomedical information. In addition, it will introduce fundamental methods to develop medical systems, as well.					

<b>Grading System</b>
Class attendance, contribution for the lecture such as question and comments, and report quality will be considered on the assessment.
<b>Grading Rule</b>
The grade will consider class attendance and performance (50%) and reports (50%).
<b>Prerequisite Reading</b>
The students having this lecture will be required to study fundamental knowledge of mathematics to understand statistic analyses and data processing. Details will be introduced at the lecture guidance in the first class. As well, some introductions will be shown when necessary.
<b>Exam eligibility</b>
No restriction.
<b>Composition Unit</b>
Yoshikazu Nakajima, Shinya Onogi, Takaaki Sugino, Dongbo Zhou
<b>Module Unit Judgment</b>
Grading will be done with the comprehensive consideration of lecture attendance and report quality.
<b>TextBook</b>
Handout will be provided if necessary.
<b>Reference Materials</b>
Handouts will be provided if necessary.
<b>Important Course Requirements</b>
Nothing.
<b>Note(s) to Students</b>
Nothing.
<b>Email</b>
NAKAJIMA Yoshikazu:nakajima.bmi@tmd.ac.jp
<b>Instructor's Contact Information</b>
NAKAJIMA Yoshikazu:15:00-16:30 on every Monday at Room 409A on the 4th floor, Building 21, Surugadai campus



<b>Lecture No</b>	0361009				
<b>Subject title</b>	Lecture of RIKEN Molecular and Chemical Somatology			<b>Subject ID</b>	GC—c6190—L
<b>Instructors</b>	岸田 晶夫, 谷内 一郎, 田中 元雅, 石垣 和慶, 田上 俊輔, 今見 孝志, 泉 正範, 宮坂 信彦, 遠藤 良, 野村 高志, Gailhouste, Luc Nicolas[KISHIDA AKIO, Ichiroh Taniuchi, Motomasa Tanaka, ISHIGAKI Kazuyoshi, Shunsuke Tagami, IMAMI Takashi, IZUMI Masanori, Nobuhiko Miyasaka, Ryo Endoh, NOMURA Takashi, Gailhouste, Luc Nicolas]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	2
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When non-Japanese students register this course, English will be used in all of the lectures.					
<b>Lecture place</b>					
Next Page					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose:Students aim to understand the basis of Cellular Pathology, Therapeutic in vivo Synthetic Chemistry, Molecular Immunology,and Molecular Neuropathology, as well as their applications to Medicine and Biology by discussing about a variety of biomolecules, including proteins, sugars, and hormones, which regulate cellular functions.					
Outline:Molecular and Chemical Somatology is an interdisciplinary field for understanding the basis of Cellular Pathology, Therapeutic in vivo Synthetic Chemistry, Molecular Immunology, and Molecular Neuropathology, as well as their applications to Medicine and Biology. Students will learn and discuss about the outlines and/or the latest topics on key biomolecules in each lecture, and are expected to deepen their understanding of various biomolecules.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will learn and discuss about the latest topics from each instructor.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	6/20	09:45-12:00	遠隔授業 (同期型)	Plant molecular cell biology	IZUMI Masanori
2	6/20	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Structural biology	NOMURA Takashi
3	6/20	15:30-17:45	遠隔授業 (同期型)	Molecular Neurobiology	Ryo Endoh
4	8/27	09:45-12:00	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	Biomacromolecular engineering	Shunsuke Tagami
5	8/27	13:00-15:15	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	Immune Molecular Regulation-1	Ichiroh Taniuchi
6	8/27	15:30-17:45	横浜理研 北研究棟 5F 会議 室	Advanced proteomics	IMAMI Takashi
7	8/29	13:00-15:15	和光理研 脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	Molecular Neuropathology	Motomasa Tanaka
8	8/29	15:30-17:45	和光理研	Molecular Basis of	Nobuhiko

			脳中央棟 5F セミナ 一室 S505	Chemical Senses	Miyasaka
9	9/5	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Molecular basis of immune disease onsets	ISHIGAKI Kazuyoshi
10	9/5	15:30-17:45	遠隔授業 (同期型)	Non-coding RNAs and Epigenetics	Gailhouste, Luc Nicolas
<b>Lecture Style</b>					
Lectures by instructors, Presentation by students, and Discussion					
<b>Grading System</b>					
Attendance (40%) and Report (60%)					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None					
<b>Reference Materials</b>					
Introduction to Glycobiology Third Edition (Maureen E. Taylor and Kurt Drickamer, Oxford University Press)、Essentials of Glycobiology, 2nd edition (Ajit Varki, Richard D Cummings, Jeffrey D Esko, Hudson H Freeze, Pamela Stanley, Carolyn R Bertozzi, Gerald W Hart, and Marilyn E Etzler, Cold Spring Harbor Laboratory Press)、Fundamentals of Protein Structure and Function (Buxbaum and Engelbert, Springer)、Neuroscience: Exploring the Brain 4th Edition (Mark F. Bear, Barry Connors and Mike Paradiso, Wolters Kluwer)					

<b>Lecture No</b>	0361010				
<b>Subject title</b>	Clinical Reasoning			<b>Subject ID</b>	GC—c6411—L
<b>Instructors</b>	角 勇樹, 赤座 実穂, 西尾 美和子[SUMI YUKI, AKAZA MIHO, NISHIO Miwako]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	2
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> Depends on the instructor					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: To cultivate the clinical laboratory technologists who can discuss with physicians by exercises of inferring disease conditions from laboratory data. Outline: Students may learn the basic interpretation of laboratory data, and acquire the ability to deduce and comprehend the patient condition from them.					
<b>Course Objective(s)</b> Able to comprehend the patient's condition from the medical charts.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	10/1	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	ischemic heart disease	SUMI YUKI
2	10/2	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	acute infection	SUMI YUKI
3	10/8	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	neurological diseases (1)	AKAZA MIHO
4	10/9	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	anemia, cytopenia	NISHIO Miwako
5	10/15	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	fever of unknown origin	SUMI YUKI
6	10/16	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	chronic infection	SUMI YUKI
7	10/22	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	lifestyle-related diseases	SUMI YUKI
8	10/23	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	neurological diseases (2)	AKAZA MIHO
9	10/28	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	leukemia	NISHIO Miwako
10	10/30	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	connective tissue diseases	SUMI YUKI
11	11/5	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	allergic diseases	SUMI YUKI
12	11/6	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	arrhythmia	SUMI YUKI
13	11/12	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	chemotherapy for malignant diseases	AKAZA MIHO
14	11/13	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	malignant lymphoma	NISHIO Miwako
15	11/19	08:50-10:20	遠隔授業	autoinflammatory	SUMI YUKI

		(同期型)	diseases		
<b>Lecture Style</b>					
Seminar					
<b>Course Outline</b>					
Shown in schedule.					
<b>Grading System</b>					
Participation in the discussion and reports are evaluated.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Review the reference ranges and clinical significance of basic tests.					
<b>TextBook</b>					
Will be presented at each lecture.					
<b>Reference Materials</b>					
UpToDate®(available on line from TMDU web site)					
<b>Important Course Requirements</b>					
If you are not a medical graduate, you may not be able to fully understand the content of the course, so it is recommended that you check the syllabus before registering for the course and contact the person in charge of the course in advance.					

<b>Lecture No</b>	0361011				
<b>Subject title</b>	Introductory Exercises for Medical Technologist Advanced Internship	<b>Subject ID</b>	GB—c6412-L		
<b>Instructors</b>	大川 龍之介, 東田 修二, 梶原 道子, 副島 友莉恵, 藤代 瞳[OKAWA RYUNOSUKE, TODA SHUJI, KAJIWARA MICHIKO, SOEJIMA YURIE, FUJISHIRO Hitomi]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b>					
TMDU Hospital, Pathology: Building 3, 16th floor or Zoom					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Our graduate school, in cooperation with TMDU Medical Hospital, provides Health Care Assistant (HCA) system for students who have a licence of clinical technologist to cultivate medical specialists. This Introductory Exercises are necessary to work as a HCA in Clinical Laboratory or Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy, or Pathology (Cytology).					
<b>Course Objective(s)</b>					
By the end, each student will:					
1) Understand the outline of works operated in Clinical Laboratory or Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy in TMDU Hospital.					
2) Learn specific skills of some clinical tests, how to report the results, how to make contact with patients, and trouble shooting.					
3) Carry out some of the works in Clinical Laboratory or Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy.					
4) Acquire the knowledge for cytology by solving the cytotechnologist qualification examination.					
<b>Lecture Style</b>					
Lecture and practice.					
<b>Course Outline</b>					
<b>【Clinical Laboratory】</b>					
1. operations in Clinical Laboratory, overview of ISO15189 (Tohda, Ichimura)					
2. operations in the blood sampling room (Koda)					
3. operations in the physiological testing room (Aoyagi)					
4. safety blood sampling methods for patients and technologists (Koda)					
5. preparation for blood sampling, handling the collected samples (Koda)					
6. recording electrocardiogram (ECG) (Aoyagi)					
7. reading ECG (Aoyagi)					
8. estimation of the skills (Koda, Aoyagi)					
<b>【Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy】</b>					
1. operations in the Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy, overview of ISO 15189 (Kajiwara, Ohtomo)					
2. Overview of Transfusion Medicine (Kajiwara, Ohtomo)					
3. management of blood products (Ohtomo)					
4. reception of blood samples (Ohtomo)					
5. blood testing (blood group, irregular antibodies) (Ohtomo)					
6. blood testing (cross-match) (Ohtomo)					
7. interpretation of the test results (selection of blood products) (Ohtomo)					
8. estimation of the skills (Kajiwara, Ohtomo)					
<b>【Pathology (Cytology)】</b>					
1. Gynecology 1 (Soejima)					
2. Gynecology 2 (Soejima)					
3. Respiratory (Soejima)					

4. Digestive system (Soejima)
5. Body fluid, urine (Soejima)
6. Techniques (Soejima)
7. General remarks (Soejima)
8. Test (Soejima)

**Grading System**

Knowledge and skill will be assessed at the last lecture.

**Prerequisite Reading**

It is desirable to review basic knowledge about collecting blood, taking electrocardiogram and testing blood type.

In the pathology (cytology) section, students must prepare for the questions and study by themselves using an atlas.

**Reference Materials**

Please refer to the Japanese syllabus.

**Important Course Requirements**

During your lesson in the hospital, take care of your manners as a medical staff.

<b>Lecture No</b>	0361012				
<b>Subject title</b>	Medical Technologist Advanced Internship I	<b>Subject ID</b>	GB—c6413-S		
<b>Instructors</b>	大川 龍之介, 東田 修二, 梶原 道子, 副島 友莉恵[OKAWA RYUNOSUKE, TODA SHUJI, KAJIWARA MICHIKO, SOEJIMA YURIE]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	2
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> TMDU Hospital					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose and Outline: Our graduate school, in cooperation with TMDU Hospital, provides Health Care Assistant (HCA) system for students who have a licence of clinical technologist to cultivate medical specialists. Students are expected to work in the hospital as HCA, register for this internship program, and discuss problems in the current clinical laboratory with professor to find research themes based on the field.					
<b>Course Objective(s)</b> By the end, each student will: 1) Understand the outline of works operated in Clinical Laboratory, Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy, or Pathology in TMDU Hospital. 2) Learn specific skills of some clinical tests, how to report the results, how to make contact with patients, and trouble shooting. 3) Carry out some of the works in Clinical Laboratory, Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy, or Pathology.					
<b>Lecture Style</b> Lecture and practice.					
<b>Course Outline</b> Schedule will be set after meeting with the participants.  【Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy】  This course is designed for students to practice handling of blood cell products and regenerative medicine products in accordance with the operating procedures under the guidance of the instructor.  1. Blood products for transfusion 1) Dividing the blood product into smaller quantities for use in neonatal and pediatric patient. 2) Operation to remove plasma from concentrated platelet products for patients with severe allergic post-transfusion reactions. 3) Preparation of cryoprecipitate (autologous/allogeneic). 4) Preparation of tissue adhesives from autologous plasma. 5) Preparation of plasma and red blood cell products from autologous whole blood.  2. Hematopoietic stem cells 1) Bone marrow cell processing of ABO blood group mismatch donors. 2) Peripheral blood stem cell collection/harvest. 3) Processing of cells for cryopreservation (aseptic operation of in cell processing unit).  3. Regenerative medicine products 1) Human (allogeneic) bone marrow-derived mesenchymal stem cells; TEMCELL* (1) Thawing of cryopreserved products. (2) Preparation of cell concentration and adjustment of dosage.					

2) Platelet-rich plasma (PRP)

Manipulation of the extraction of autologous protein solution (APS), enriched with anti-inflammatory cytokines, growth factors, etc. contained in autologous PRP.

3) Myoblast cell sheet of autologous skeletal muscle; Heart Sheet\*

(1) Assisting blood collection in the surgical operating room.

(2) Serum separation from patient blood (aseptic operation).

4) Chimeric antigen receptor (CAR) T cell therapy; Kymriah\*

Operation of a rate-controlled freezer.

\* Trademark

**【Pathology】**

The pathology department can engage in the following jobs:

1) Assistance in making pathological specimens

2) Immunohistochemistry

3) Cytology

\* By engaging in cytological examination at HCA for one year or more, students can take the cytotechnologist certification examination.

Since there is an acceptable limit number of students, applicants should contact Dr. Soejima (soejima.mp@tmd.ac.jp) in advance.

**【Clinical Laboratory】**

The department of Clinical Laboratory can engage in the following jobs:

1) Blood sampling in the central blood sampling room

\* Blood sampling from the back of the hand can only be performed by those with less than 3% ratio of changes.

2) Electrocardiogram in the physiological testing room

**Grading System**

working attitude and interview.

**Prerequisite Reading**

Course Code 31-3054 is required for Clinical Laboratory, Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy, and Pathology (Cytology).

**Reference Materials**

Please refer to the Japanese syllabus.

**Important Course Requirements**

During your work in the hospital, take care of your manners as a medical staff.



<b>Lecture No</b>	0361013				
<b>Subject title</b>	Medical Technologist Advanced Internship II	<b>Subject ID</b>	GB—c6414—S		
<b>Instructors</b>	大川 龍之介, 東田 修二, 梶原 道子, 副島 友莉恵[OKAWA RYUNOSUKE, TODA SHUJI, KAJIWARA MICHIKO, SOEJIMA YURIE]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	2nd – year	<b>Units</b>	2
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> TMDU Hospital					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose and Outline: Our graduate school, in cooperation with TMDU Hospital, provides Health Care Assistant (HCA) system for students who have a licence of clinical technologist to cultivate medical specialists. Students are expected to work in the hospital as HCA, register for this internship program, and discuss problems in the current clinical laboratory with professor to find research themes based on the field.					
<b>Course Objective(s)</b> By the end, each student will: 1) Understand the outline of works operated in Clinical Laboratory, Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy, or Pathology in TMDU Hospital. 2) Learn specific skills of some clinical tests, how to report the results, how to make contact with patients, and trouble shooting. 3) Carry out some of the works in Clinical Laboratory, Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy, or Pathology.					
<b>Lecture Style</b> Lecture and practice.					
<b>Course Outline</b> Schedule will be set after meeting with the participants.  【Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy】  This course is designed for students to practice handling of blood cell products and regenerative medicine products in accordance with the operating procedures under the guidance of the instructor.  1. Blood products for transfusion 1) Dividing the blood product into smaller quantities for use in neonatal and pediatric patient. 2) Operation to remove plasma from concentrated platelet products for patients with severe allergic post-transfusion reactions. 3) Preparation of cryoprecipitate (autologous/allogeneic). 4) Preparation of tissue adhesives from autologous plasma. 5) Preparation of plasma and red blood cell products from autologous whole blood.  2. Hematopoietic stem cells 1) Bone marrow cell processing of ABO blood group mismatch donors. 2) Peripheral blood stem cell collection/harvest. 3) Processing of cells for cryopreservation (aseptic operation of in cell processing unit).  3. Regenerative medicine products 1) Human (allogeneic) bone marrow-derived mesenchymal stem cells; TEMCELL* (1) Thawing of cryopreserved products. (2) Preparation of cell concentration and adjustment of dosage.					

2) Platelet-rich plasma (PRP)

Manipulation of the extraction of autologous protein solution (APS), enriched with anti-inflammatory cytokines, growth factors, etc. contained in autologous PRP.

3) Myoblast cell sheet of autologous skeletal muscle; Heart Sheet\*

(1) Assisting blood collection in the surgical operating room.

(2) Serum separation from patient blood (aseptic operation).

4) Chimeric antigen receptor (CAR) T cell therapy; Kymriah\*

Operation of a rate-controlled freezer.

\* Trademark

**【Pathology】**

The pathology department can engage in the following jobs:

1) Assistance in making pathological specimens

2) Immunohistochemistry

3) Cytology

\* By engaging in cytological examination at HCA for one year or more, students can take the cytotechnologist certification examination.

Since there is an acceptable limit number of students, applicants should contact Dr. Soejima (soejima.mp@tmd.ac.jp) in advance.

**【Clinical Laboratory】**

The department of Clinical Laboratory can engage in the following jobs:

1) Blood sampling in the central blood sampling room

\* Blood sampling from the back of the hand can only be performed by those with less than 3% ratio of changes.

2) Electrocardiogram in the physiological testing room

**Grading System**

working attitude and interview.

**Prerequisite Reading**

Course Code 31-3054 is required for Clinical Laboratory and Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy, and Pathology (Cytology).

**Reference Materials**

Please refer to the Japanese syllabus.

**Important Course Requirements**

During your work in the hospital, take care of your manners as a medical staff.

<b>Lecture No</b>	0361014				
<b>Subject title</b>	Overview of Public Health Medicine in Disease Prevention			<b>Subject ID</b>	GC—c8606-L
<b>Instructors</b>	中村 桂子, 清野 薫子, 岡田 卓也, 秋田 恵一, 伊藤 崇, 森田 彩子, 具 芳明, 石野 智子[NAKAMURA KEIKO, SEINO KAORUKO, OKADA TAKUYA, AKITA KEIICHI, ITO TAKASHI, MORITA AYAKO, GU Yoshiaki, ISHINO Tomoko]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	2
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Lectures and all communications are in English.					
<b>Lecture place</b>					
The lecture classes will be conducted either in an onsite classroom at Ochanomizu Campus and/or by ZOOM (web remote lecture system). ZOOM ID/PWD will be notified by e-mail from Graduate Education Team 1 to the registered students. Students are required to attend class on time.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
This course offers a general introduction to public health medicine, addressing fundamental topics and basic measures required for a global leader in disease prevention and data science medicine. The course focuses on development of essential knowledge and skills for global disease prevention and implementation science through lectures and discussions based on selected case studies.					
<b>Course Objective(s)</b>					
At the end of the course, participants will be able to:					
1) Describe the roles and responsibilities of public health in disease prevention					
2) Describe development in basic, clinical, and public health research using data science					
3) Describe theory and application of implementation medical science					
4) Describe and apply the basic principles and methods of medical research to disease prevention					
5) Describe the main ethical issues in international medical research					
6) Describe cross-border health issues in relation to globalization					
7) Describe history of medical research					
8) Describe leadership in medical education and medical research					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	11/5	16:00-19:10	未定	Implementation medical science in the context of global health	NAKAMURA KEIKO
2	11/12	08:50-12:00	未定	Health promotion	FUJIWARA Takeo
3	11/26	16:00-19:10	未定	Prevention and control of communicable disease	GU Yoshiaki
4	12/3	16:00-19:10	未定	Prevention and control of tropical disease	ISHINO Tomoko
5	12/10	16:00-19:10	未定	Prevention and control of non-communicable disease and implementation science	SEINO KAORUKO
6	12/17	16:00-19:10	未定	Prevention and control of cancer	OKADA TAKUYA
7	1/14	16:00-19:10	未定	History of Anatomy and Body donation	AKITA KEIICHI
8	1/21	16:00-19:10	未定	Leadership	NAKAMURA

					KEIKO
<b>Lecture Style</b>					
Lectures, group discussions, and team projects. All programs are conducted in English.					
International students and Japanese students attend the same class and use English in the classroom.					
Students from the Medical and Dental Science or Biomedical Science departments are both welcome to the course.					
Attendance on time (synchronous learning) is the default style of attending class.					
<b>Course Outline</b>					
As in the a separate table.					
<b>Grading System</b>					
Grades are based on attendance at lectures, performances during group discussions and team projects as well as on assignments, and levels of attitude, skills, and knowledge.					
<b>Grading Rule</b>					
Grades are based on attendance at lectures, performances during group discussions and team projects as well as on assignments, and levels of attitude, skills, and knowledge.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
When reading materials are distributed or specified in advance, participants are expected to read those materials beforehand.					
<b>Reference Materials</b>					
To be announced before or during individual classes, when relevant.					
<b>Important Course Requirements</b>					
This is a required course for students of the "Data-driven Medical Research Global Health Leader Program (DD-GLP)" or "TMDU Data Life Science Global Leader Program", PhD candidates at departments of Medical and Dental Science who are enrolled in this program through a special selection must attain credits from this course. This is a required course for students of the "Global Health Professional (GHP) Course". PhD candidates at the Departments of Medical and Dental Science who registered for this course must attain credits from this course. PhD candidates of general selection at departments of Medical and Dental Science and Biomedical Science can also participate in this course. Both international and Japanese students participate in the same program provided in English and learn together about public health medicine in disease prevention. The course is a core part of nurturing global leaders in disease prevention and datascience medical research that TMDU provides. When there is a special reason, the student is not able to attend on time, submission of a report after viewing the video of that lecture is offered as a replacement for on-time attendance, subject to reporting to the Graduate Education Team 1 (grad01@ml.tmd.ac.jp) and obtaining confirmation by the chief instructor (Prof. Nakamura: nakamura.ith@tmd.ac.jp). Such reports should be filed by January 31, 2025.					
<b>Note(s) to Students</b>					
Both international and Japanese students participate in the same program provided in English and learn together about public health medicine in disease prevention. The course is a core part of nurturing global leaders in disease prevention and datascience medical research that TMDU provides.					
<b>Email</b>					
NAKAMURA KEIKO:nakamura.ith@tmd.ac.jp					
ISHINO Tomoko:tishino.vip@tmd.ac.jp					
GU Yoshiaki:yogu.cid@tmd.ac.jp					
MORITA AYAKO:morita.hth@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
NAKAMURA KEIKO:Office hours:					
Please contact Prof. Keiko Nakamura at nakamura.ith@tmd.ac.jp					
GU Yoshiaki:Every Monday PM.2:00-4:00, Friday PM.2:00-4:00 M&D tower 17th floor					

<b>Lecture No</b>	0361015					
<b>Subject title</b>	Clinical Biostatistics and Statistical Genetics			<b>Subject ID</b>	GC—c8608—L	
<b>Instructors</b>	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]					
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	2	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>						
All classes are taught in English.						
<b>Lecture place</b>						
Online video						
<b>Course Purpose and Outline</b>						
Course Purpose:						
This course introduces the basic techniques important for analyzing data from epidemiologic, biomedical (including clinical and genetic) and other public health related research. Statistical reasoning will be emphasized through problem solving and practical applications.						
Outline:						
Biostatistics is the application of statistical methods to data in biological, biomedical and health sciences. It is a key technique for the collection, analysis, and presentation of data especially in quantitative studies. This course gives lectures on fundamental biostatistical methods through their applications to data in medical research field including clinical and epidemiological studies.						
<b>Course Objective(s)</b>						
By the end of this course, students will be able to:						
a) Interpret basic statistical terminologies.						
b) Explain assumptions and conditions for basic statistical techniques, and judge which statistical technique to use in a given situation.						
c) Conduct basic statistical techniques both by hand and using a statistical software, and present results using publication quality tables.						
d) Describe results of statistical analysis using standard statistical expressions.						
<b>Lecture plan</b>						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1	5/27	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Introduction to Biostatistics	TAKAHASHI Kunihiko	
2	5/27	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Data presentation; Numerical summary measures (1)	ANZAI Tatsuhiko	
3	5/28	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Data presentation; Numerical summary measures (2)	ANZAI Tatsuhiko	
4	5/28	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Probability and Theoretical distributions (1)	ANZAI Tatsuhiko	
5	5/30	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Probability and Theoretical distributions (2)	TAKAHASHI Kunihiko	
6	5/30	10:30-12:00	遠隔授業	Lecture: Estimation	TAKAHASHI	

			(非同期型)		Kunihiko	
7	5/30	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 1
8	5/30	14:40-16:10	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 2
9	5/31	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Comparing groups – continuous data (1)	TAKAHASHI Kunihiko	
10	5/31	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Comparing groups – continuous data (2)	TAKAHASHI Kunihiko	
11	5/31	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 3
12	5/31	14:40-16:10	遠隔授業 (同期型)	Q&A session (via real-time zoom)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 4
13	6/3	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Comparing groups – categorical data	ANZAI Tatsuhiko	
14	6/3	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Analysis of Variance; Multiple comparison	ANZAI Tatsuhiko	
15	6/3	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 5
16	6/3	14:40-16:10	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 6
17	6/4	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Correlation; linear regression	TAKAHASHI Kunihiko	
18	6/4	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Multivariate analysis (1)	TAKAHASHI Kunihiko	
19	6/4	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 7
20	6/4	14:40-16:10	遠隔授業	Laboratory session	TAKAHASHI	Optional 8

			(非同期型)		Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	
21	6/6	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Multivariate analysis (2)	ANZAI Tatsuhiko	
22	6/6	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Multivariate analysis (3)	ANZAI Tatsuhiko	
23	6/6	13:00-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Laboratory session	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 9
24	6/6	14:40-16:10	遠隔授業 (同期型)	Q&A session (via real-time zoom)	TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko	Optional 10
25	6/7	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Survival analysis	ANZAI Tatsuhiko	
26	6/7	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Lecture: Genomics data analysis	ANZAI Tatsuhiko	

#### Lecture Style

This course will consist of lectures and optional laboratory sessions (online video). Q&A system on webclass and some optional hours will be prepared. There will be some reports. (Details will be announced later.)

#### Course Outline

Refer to the course schedule

#### Grading System

Grades will be based on the following elements:

Participation (Watch online video (Lecture) : 60% or more) 50%

Reports 50%

#### Prerequisite Reading

Reading textbook will be available online at the course webpage. Students are expected to have worked through the materials before attending the corresponding class.

#### Reference Materials

Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. Belmont: Brooks/Cole; 2000.

Rosner B. Fundamentals of Biostatistics. 8th ed. Brooks/Cole; 2015.

Altman DG. Practical Statistics for Medical Research. Chapman & Hall; 1991.

Armitage P. Statistical Methods in Medical Research. 4th ed. Blackwell Science Ltd; 2002.

#### Important Course Requirements

Chief instructor's permission is required before registering to the course.

#### Note(s) to Students

Online Q&A system is available during the course, and a realtime Q&A session (optional, May 31 and June 6, 2024, 14:40-, via zoom) is prepared.

This course uses the Stata and other statistical software. Stata is available for each student during the course.

Students are expected to perform basic algebra, including logarithms and exponentials, by hand or using calculator.

This course is a prerequisite for Biostatistics II.

<b>Lecture No</b>	0361016					
<b>Subject title</b>	Special Lectures for Advanced Oral Healthcare Sciences	<b>Subject ID</b>	GC—c6430—L			
<b>Instructors</b>	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 吉田 直美, 竹内 康雄, 伊藤 奏, 安達 奈穂子, 鈴木 瞳, 日高 玲奈[KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, YOSHIDA Naomi, TAKEUCHI YASUO, ITOU Kanade, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi, NAKAYAMA Rena]					
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	2	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>						
<p>Partial classes are taught in English. When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.</p> <p>Contact: Educational Planning Section, TEL:03-5803-4534, Email: grad02@ml.tmd.ac.jp</p> <p>Yuji Kabasawa Email: kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp</p> <p>Availability in English: Partial classes are taught in English or When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.</p>						
<b>Lecture place</b>						
Mainly Home for remote lectures						
<b>Course Purpose and Outline</b>						
<p>Course Purpose: This course is designed to provide students with the latest basic and clinical knowledge necessary for research in oral health sciences. The course is designed to provide students with the necessary knowledge not only in the fields of medicine and dentistry</p> <p>The course also covers the need for integration with related fields such as science, engineering, laboratory medicine (health science), and social welfare.</p>						
<b>Course Objective(s)</b>						
The goal is for students to attend at least 2/3 of the lectures, understand the content of the lectures, and be able to formulate their own research themes.						
<b>Lecture plan</b>						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff
1-3	5/6	08:50-14:30	遠隔授業 (非同期型)	Introduction to Oral Health Science	Current Knowledge, and Research in Combination with Related Disciplines	KABASAWA YUJI
4	5/20	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	Introduction to Oral Health Science	Current Knowledge, and Research in Combination with Related Disciplines	KABASAWA YUJI
5-6	5/27	08:50-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Oral Health Science 1	Application of Oral Health Science in community and hospital	MATSUO Kouichirou
7-8	6/3	08:50-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Oral Health Science 2	Recent Trends and Research in Oral Health Care	YOSHIDA Naomi
9-10	6/17	14:30-17:40	遠隔授業 (非同期型)	Oral Health Science 3	Advanced Clinical Research in Oral Health Science	TAKEUCHI YASUO
11	6/24	08:50-10:20	遠隔授業 (非同期型)	Oral Health Science 4	Social Epidemiology, Health Disparities and Oral Health Science	ITOU Kanade
12	6/24	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Oral Health Science 5	Oral Health Science in Public Health	ADACHI Naoko
13	7/1	08:50-10:20	遠隔授業	Oral Health Science 6	Recent Trends and Research in	SUZUKI Hitomi



			(非同期型)		Dental Hygiene		
14	7/1	10:30-12:00	遠隔授業 (非同期型)	Oral Health Science 7	Recent Trends and Research in Oral Welfare Studies	NAKAYAMA Rena	
15	7/8	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)	Summary	Summary and grading	KABASAWA YUJI	

**Lecture Style**

The lectures will be given mainly by remote lectures using web classes and ZOOM.

**Course Outline**

The course will focus on the latest findings in oral health science, and fusion research with related fields.

Application of oral health science in community and hospital settings.

Advanced clinical research in oral health

Social epidemiology, health disparities, and oral health studies

Oral health studies in public health

**Grading System**

Students will be evaluated comprehensively based on discussions, enthusiasm of efforts, and post-lecture assignments in each lecture.

**Prerequisite Reading**

Refer to the announcement of each lecture and seminar.

**TextBook**

Assigned by each lecturer.

**Reference Materials**

Assigned by each lecturer.

**Important Course Requirements**

Since most lectures are given remotely, if you have difficulty attending a lecture due to the communication environment, etc., be sure to contact the course instructor (Kabasawa).

<b>Lecture No</b>	0361017						
<b>Subject title</b>	Advanced Oral Healthcare Sciences			<b>Subject ID</b>	GC—c6431—S		
<b>Instructors</b>	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 吉田 直美, 竹内 康雄, 伊藤 奏, 安達 奈穂子, 日高 玲奈[KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, YOSHIDA Naomi, TAKEUCHI YASUO, ITOU Kanade, ADACHI Naoko, NAKAYAMA Rena]						
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1		
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>							
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.							
<b>Lecture place</b> TMDU Hospital, Oral Health Center							
<b>Course Purpose and Outline</b> TMDU Graduate School and Hospital have established the Health Care Assistant (HCA) system, an internship program for graduate students qualified as dental hygienists, to provide training while actually working as part-time employees. This training is designed for students who wish to work at the Oral Health Center among the new HCA applicants, mainly to acquire the knowledge and skills necessary to perform perioperative and other oral health management.							
<b>Course Objective(s)</b> By the end, each student will: 1) To understand the outline of the work of the Oral Health Center. 2) Acquire the basics of patient care and how to deal with problems required of dental hygienists. 3) Understand the duties of an oral health center and perform the required duties appropriately under guidance.							
<b>Lecture plan</b>							
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1-2	6/25	08:50-12:00	その他	Perioperative Oral Health Management	Overview of oral health management in the perioperative period and explanation of this exercise	KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, ITOU Kanade, NAKAYAMA Rena, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi	Practice Location: Oral Health Center, Tokyo Medical and Dental University Hospital
3-7	6/26	08:50-16:30	その他	Perioperative Oral Health Management	Provide training at the Oral Health Center on oral health management in the perioperative period.	KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, ITOU Kanade, NAKAYAMA Rena, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi	Practice Location: Oral Health Center, Tokyo Medical and Dental University Hospital
8-9	6/27	08:50-12:00	その他	Perioperative Oral Health Management	Provide training at the Oral Health Center on oral health management	KABASAWA YUJI,	Practice Location: Oral Health

					in the perioperative period.	MATSUO Kouichirou, ITOU Kanade, NAKAYAMA Rena, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi	Center, Tokyo Medical and Dental University Hospital
10-17	6/28	08:50-16:00	その他	Perioperative Oral Health Management	Provide training at the Oral Health Center on oral health management in the perioperative period.	KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, ITOU Kanade, NAKAYAMA Rena, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi	Practice Location: Oral Health Center, Tokyo Medical and Dental University Hospital
18-25	7/2	08:50-16:00	その他	Perioperative Oral Health Management	Provide training at the Oral Health Center on oral health management in the perioperative period.	KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, ITOU Kanade, NAKAYAMA Rena, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi	Practice Location: Oral Health Center, Tokyo Medical and Dental University Hospital
26-29	7/3	08:50-16:10	その他	Perioperative Oral Health Management	Provide training at the Oral Health Center on oral health management in the perioperative period.	KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, ITOU Kanade, NAKAYAMA Rena, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi	Practice Location: Oral Health Center, Tokyo Medical and Dental University Hospital
30	7/8	08:50-10:20	その他	Perioperative Oral Health Management	Summary, including case presentations	KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, ITOU Kanade, NAKAYAMA Rena, ADACHI Naoko, SUZUKI Hitomi	Practice Location: Oral Health Center, Tokyo Medical and Dental University Hospital
<b>Lecture Style</b>							
Lectures and exercises will be given at the oral health center.							
Some of the lectures and exercises will incorporate active learning, such as case conferences and ZOOM.							
<b>Prerequisite Reading</b>							
<b>Important Course Requirements</b>							

During your lesson in the hospital, take care of your manners as a medical staff.

<b>Lecture No</b>	0361018					
<b>Subject title</b>	Advanced Oral Health Engineering			<b>Subject ID</b>	GC—c6432-L	
<b>Instructors</b>	金澤 学, 大木 明子, 上條 真吾, 岩城 麻衣子, 土田 優美, 池田 正臣, 塩沢 真穂, 宮安 杏奈[KANAZAWA MANABU, OKI MEIKO, KAMIJO SHINGO, IWAKI Maiko, TSUCHIDA Yuumi, IKEDA MASAOMI, SHIOZAWA Maho, MIYAYASU Annna]					
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>						
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.						
<b>Course Purpose and Outline</b>						
Course Purpose:The goal of this course is to understand actual applications of various basic researches and technique supporting oral health engineering, and to obtain knowledge for solving objects in a wide range.						
Outline:Various topics related to various basic researches and technique supporting oral health engineering will introduced through recent textbooks and papers by instructors of Departments of Basic Oral Health Engineering, Oral Biomaterials Development Engineering, and Oral Prosthetic Engineering.						
<b>Course Objective(s)</b>						
Students will acquire the fundamental knowledge regarding basic researches and technique supporting oral health engineering, discuss their development, application, function, and problems, and learn the strategy for promoting fundamental knowledge to specific application.						
<b>Lecture plan</b>						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff
1	10/4	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			KANAZAWA MANABU
2	10/11	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			KANAZAWA MANABU
3	10/25	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			MIYAYASU Annna
4	11/4	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			IWAKI Maiko
5	11/8	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			TSUCHIDA Yuumi
6	11/15	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			TSUCHIDA Yuumi
7	11/22	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			IKEDA MASAOMI
8	11/29	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			IKEDA MASAOMI
9	12/6	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期型)			IKEDA MASAOMI

10	12/13	16:00-17:00	遠隔授業 (同期型)			SATOU Takaaki	
11	12/20	16:00-17:00	遠隔授業 (同期型)			SATOU Takaaki	
12	1/10	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期 型)			SHIOZAWA Maho	
13	1/17	16:00-17:00	遠隔授業 (非同期 型)			KAMIJO SHINGO	
14	1/24	16:00-17:00	遠隔授業 (同期型)			OKI MEIKO	
15	1/31	16:00-17:00	遠隔授業 (同期型)			OKI MEIKO	
<b>Lecture Style</b>							
Several professors give series of lectures in various themes. The students learn the content of the lecture through the question and discussions.							
<b>Grading System</b>							
The grading is comprehensively evaluated based on participation (50%), question and reports (50%).							
<b>Prerequisite Reading</b>							
None. However, there may be reference texts and books announced beforehand so please check before each lesson.							
<b>Reference Materials</b>							
Some references may be introduced by instructors prior to their lectures.							
<b>Note(s) to Students</b>							
Schedule will be changed depending on the number of students.							

<b>Lecture No</b>	0361019					
<b>Subject title</b>	Advanced Bone Histomorphometry in the Hard Tissue Research	<b>Subject ID</b>	GC—c6433-L			
<b>Instructors</b>	青木 和広, 野中 希一, 上條 真吾, Masud Khan[AOKI KAZUHIRO, NONAKA Kiichi, KAMIJO SHINGO, MASUD Khan]					
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>						
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.						
<b>Lecture place</b> Synchronous remote teaching						
<b>Course Purpose and Outline</b> Purpose of the course: To learn the theory and practice of bone mineral density analysis, undecalcified section preparation, and bone histomorphometry, which are indispensable for hard tissue research, and to apply bone morphometry to one's research.  Abstract: The actual preparation of undecalcified sections and bone morphometry will be practiced using rodents, i.e., mice and rats. In the lecture, students will learn bone histomorphometry of jawbone, regenerated bone, bone histomorphometry, including remodeling animals such as dogs and monkeys, and also learn the current analyses of bone densitometry.						
<b>Course Objective(s)</b> 1. To explain the role of bone histomorphometry in hard tissue research. 2. To distinguish between osteoclasts and osteoblasts in the undecalcified sections. 3. To explain bone histomorphometry in trabecular and cortical bone. 4. To explain bone histomorphometry in modeling and remodeling animals. 5. To explain bone histomorphometry in regenerated bone and jawbone. 6. To explain bone densitometry. 7. To be able to apply bone histomorphometry to own research.						
<b>Lecture plan</b>						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff
1	5/16	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Bone Histomorphometry: A Comprehensive Overview Part 1	Significance of Bone Histomorphometry in Hard Tissue Research	AOKI KAZUHIRO
2	6/13	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Bone Histomorphometry: A Comprehensive Overview Part 2	Bone Histomorphometry in Hard Tissue Research	AOKI KAZUHIRO
3	7/18	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	BMD measurement Radiological Analysis: Part 1	Theory and practice of bone densitometry (DXA, pQCT, ultrasound, etc.)	AOKI KAZUHIRO, NONAKA Kiichi
4	9/19	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Bone Histomorphometry: Part 1	Measurement Training of trabecular bone (mainly in the trabecular region of the long bones)	AOKI KAZUHIRO
5	10/17	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Bone Histomorphometry: Part 2	Methods for making undecalcified sections (both thin and grinding sections)	AOKI KAZUHIRO, MASUD Khan
6	11/14	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Radiological Analysis: Part 2	Micro-CT imaging and its practice	AOKI KAZUHIRO, KAMIJO SHINGO

7	12/19	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Bone Histomorphometry: Part 3	Cortical bone measurements and measurements of bone regeneration sites and jaw bones	AOKI KAZUHIRO	
8	1/16	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Summary	All students enrolled in this special course will present what they have learned in this special course and share their results.	AOKI KAZUHIRO	

#### Lecture Style

The course will be based on face-to-face classes and practical training, with synchronous teleclasses as needed.

If the teaching method changes, we will notify you in advance.

Before attending lectures and practical training, students must watch the basic explanation video prepared in advance.

Each student will give around 5 minute presentation in the last class.

Please prepare in advance. (Refer to the evaluation method).

#### Course Outline

The methods for measuring bone remodeling activity in long bone are not similar to those for quantifying bone dynamics in regenerated bone. Also, methods for measuring cortical and trabecular bone in long bones differ from those for measuring jawbone. Physiological changes or effects of interventions can be quantified using measurement methods based on understanding each type of bone. In this advanced course, students will learn the limitations of bone histomorphometry, how to deal with them, and the densitometric bone analyses essential for hard tissue research in combination with bone histomorphometry.

(Omnibus / 8 lectures)

(Kazuhiro Aoki/5 times) Bone Histomorphometry: General and Specific Theories/Student Presentations (final session)

(Shingo Kamijo/1 time) Radiological analyses ( $\mu$  CT)

(Kiichi Nonaka/1 time) Current bone densitometry (DXA, pQCT, ultrasound bone densitometry)

(Masud Khan/1 time) Undecalcified section preparation

#### Grading System

Grading will be based on participation in lectures and the final presentation, with the following percentages as a guide

○Participation in lectures and practical training: 70% (This is the number of attendance evaluation points for the seven classes other than the last class where the presentation is given, with a maximum score of 10 points per class.)

○Final presentation: 30%.

(You will be asked to present how you were able to think about applying and developing what you have learned in your research)

#### Prerequisite Reading

(1) Read through the materials when they are uploaded in advance before coming to class.

(2) Be sure to attend the final presentation. If you have no choice but to be absent, notify the instructor before the class starts.

(3) The presentation should be about 5 minutes in length.

(4) The presentation should include: 1) a description of the purpose of your research, 2) the region of interest, and 3) which parameters you are going to measure.

(4) Try to make your presentation plain and concise so that students from other fields can understand the purpose of your research.

#### Reference Materials

新しい骨形態計測／山本智章編集,遠藤, 直人,山本, 智章.:ウイネット, 2014

骨形態計測からヒトの骨組織を見る、知る、学ぶ／山本智章, 平野徹, 田中伸哉編集,遠藤, 直人,山本, 智章,平野, 徹,田中, 伸哉.:ウイネット, 2019

#### Email

AOKI KAZUHIRO:kazuhiro\_aoki.bhoe@tmd.ac.jp

#### Instructor's Contact Information

AOKI KAZUHIRO:Every Tuesday from 5:00 p.m. to 6:00 p.m., Room 216, 2nd floor, Bldg. 2 (Basic Oral Health Engineering)

Other than this, don't hesitate to contact me by e-mail.



I

<b>Lecture No</b>	0362001				
<b>Subject title</b>	Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine I			<b>Subject ID</b>	GC—c6415-L
<b>Instructors</b>	石川 欽也, 田中 敏博, 三林 浩二, 田中 博, 中村 桂子, 大川 龍之介, 竹本 暁[ISHIKAWA KINYA, TANAKA TOSHIHIRO, MITSUBAYASHI KOJI, TANAKA Hiroshi, NAKAMURA KEIKO, OKAWA RYUNOSUKE, TAKEMOTO AKIRA]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Same classes are offered in English on different schedules.					
<b>Lecture place</b> ZOOM(Web)					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
<b>【Course Purpose】</b> To understand the basic concepts of integrative biomedical sciences for preemptive medicine, a learning system for preemptive medicine that enables prevention of diseases by collecting omics information such as genome information, information about environmental factors, clinical information and lifestyle information, discovering the factors and mechanism involved in diseases including cancer and lifestyle-related diseases, developing the predictive models and instructing/intervening in individuals.					
<b>【Outline】</b> To understand the following topics: the biological process from the healthy state to disease onset, the basic relationship between the genetic factors and environmental factors/epigenetics, the basic concepts regarding acquiring methods of omics and biological information, the method to estimate the risk of developing diseases, the basic method for instruction or intervention, ethics and genetic counseling.					
<b>Course Objective(s)</b> This course will provide a broad-based education that helps to develop a comprehensive overview of the field of Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	8/1	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Concepts of preemptive medicine and individualized medicine, the process from the healthy	ISHIKAWA KINYA
2	8/2	15:00-16:30	遠隔授業 (同期型)	The basics to develop the health management algorithm based on the omics data	ISHIKAWA KINYA
3	8/6	15:00-16:30	遠隔授業 (同期型)	Medicine based on Big Data and AI	ISHIKAWA KINYA
4	8/8	13:00-14:30	未定	Establishment of biobanks for preemptive medicine and omics profiling, study tour around biobanks	TANAKA TOSHIHIRO, NAGATA Yuki, TAKAHASHI Kenntarou
5	8/19	17:30-19:00	遠隔授業 (同期型)	Use of data science and information technology to advance global public health	NAKAMURA KEIKO

6	8/22	15:00-16:30	遠隔授業 (同期型)	The basics of biological information monitoring devices	MITSUBAYAS HI KOJI
7	8/23	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Concepts of preemptive medicine and individualized medicine, the process from the healthy state to	ISHIKAWA KINYA
8	9/9	15:00-16:30	遠隔授業 (同期型)	Pitfalls of sample handling and lipidomics	OKAWA RYUNOSUKE
<b>Lecture Style</b>					
The leading experts in Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine will be invited and the course will focus on student participation and discussion.					
<b>Grading System</b>					
Participation (50%), question and answer (20%), and reports (30%).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None.					
<b>Reference Materials</b>					
None.					
<b>Important Course Requirements</b>					
None.					
<b>Note(s) to Students</b>					
This is compulsory elective course for Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine students. Enrollment will be limited, with priority given to the course students.					
<b>Email</b>					
ISHIKAWA KINYA:pico.nuro@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
ISHIKAWA KINYA:10:00AM-2:00PM, every Tuesday, at The Center for Personalized Medicine for Healthy Aging, 16th Floor, Medical University Hospital					

<b>Lecture No</b>	0362001E				
<b>Subject title</b>	Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine I			<b>Subject ID</b>	GC—c6415—L
<b>Instructors</b>	石川 欽也, 田中 敏博, 田中 博, 大川 龍之介, 中村 桂子, 吉田 雅幸, 竹本 暁[ISHIKAWA KINYA, TANAKA TOSHIHIRO, TANAKA Hiroshi, OKAWA RYUNOSUKE, NAKAMURA KEIKO, YOSHIDA MASAYUKI, TAKEMOTO AKIRA]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Lectures and all communications are in English.					
<b>Course Objective(s)</b>					
This course will provide a broad-based education that helps to develop a comprehensive overview of the field of Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	11/7	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Introduction	ISHIKAWA KINYA
2	11/7	13:00-14:30	遠隔授業	Concepts of preemptive	ISHIKAWA

			(同期型)	medicine and individualized medicine, the process from the healthy	KINYA
3	11/11	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	The basics to develop the health management algorithm based on the omics data	ISHIKAWA KINYA
4	11/12	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Medicine based on Big Data and AI	ISHIKAWA KINYA
5	11/14	14:00-15:30	遠隔授業 (同期型)	TBA	YOSHIDA MASAYUKI
6	11/20	13:00-14:30	未定	Establishment of biobanks for preemptive medicine and omics profiling, study tour around biobanks	TANAKA TOSHIHIRO, NAGATA Yuki, TAKAHASHI Kenntarou
7	11/22	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	Pitfalls of sample handling and lipidomics	OKAWA RYUNOSUKE
8	11/25	17:30-19:00	遠隔授業 (同期型)	Use of data science and information technology to advance global public health	NAKAMURA KEIKO
9	11/26	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Practical aspects of personalized medicine for common disease	ISHIKAWA KINYA

#### Lecture Style

The leading experts in Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine will be invited and the course will focus on student participation and discussion.

#### Grading System

Participation (50%), question and answer (20%), and reports (30%).

#### Prerequisite Reading

None.

#### Note(s) to Students

This is compulsory elective course for Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine students. Enrollment will be limited, with priority given to the course students.

#### Email

ISHIKAWA KINYA:pico.nuro@tmd.ac.jp

#### Instructor's Contact Information

ISHIKAWA KINYA:10:00AM-2:00PM, every Tuesday, at The Center for Personalized Medicine for Healthy Aging, 16th Floor, Medical University Hospital

<b>Lecture No</b>	0362002				
<b>Subject title</b>	Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine II	<b>Subject ID</b>	GC—c6416—L		
<b>Instructors</b>	石川 欽也[ISHIKAWA KINYA]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Lectures and all communications are in English.					
<b>Course Objective(s)</b>					
This course will provide a broad-based education that helps to develop a comprehensive overview of the field of Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine.					
<b>Lecture Style</b>					
The leading experts in Integrative Biomedical Sciences for Preemptive Medicine will be invited and the course will focus on student participation and discussion.					
<b>Grading System</b>					
Participation (50%), question and answer (20%), and reports (30%).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None.					
<b>Note(s) to Students</b>					
This is compulsory elective course for Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine students. Enrollment will be limited, with priority given to the course students.					
<b>Email</b>					
ISHIKAWA KINYA:pico.nuro@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
ISHIKAWA KINYA:10:00AM—2:00PM, every Tuesday, at The Center for Personalized Medicine for Healthy Aging, 16th Floor, Medical University Hospital					

<b>Lecture No</b>	0362003				
<b>Subject title</b>	Data Science I	<b>Subject ID</b>	GC—c6360—L		
<b>Instructors</b>	竹内 勝之, 小島 寛之[TAKEUCHI Katsuyuki, KOJIMA Hiroyuki]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Same classes are offered in English on different schedules.					
<b>Lecture place</b> Please check the course schedule.					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: Students will acquire the essence of statistics that is necessary to learn data science as its basis. Outline: This course gives lectures on the Neyman–Pearson statistics without using difficult formulae.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal is that students acquire the key knowledge of the statistics.					
<b>Lecture Style</b> The course consists of lectures.					
<b>Course Outline</b> The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>Grading System</b> Participation (70%), and discussion (30%)					
<b>Prerequisite Reading</b> None.					
<b>TextBook</b> 完全独習統計学入門／小島寛之:ダイヤモンド社, 2006					
<b>Note(s) to Students</b> This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.					
<b>Email</b> TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b> TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Katsuyuki Takeuchi in Institute of Education (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

<b>Lecture No</b>	0362003E				
<b>Subject title</b>	Data Science I	<b>Subject ID</b>	GC—c6360—L		
<b>Instructors</b>	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]				
<b>Semester</b>	Fall 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in English					
<b>Lecture place</b> Online (Zoom)					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: Students will acquire the essence of statistics/biostatistics that is necessary to learn data science as its basis.  Outline: This course gives lectures on the theoretical frameworks of the basic statistics/biostatistics that is the basis of data analysis methods.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal is to have an image of an error (a probabilistic phenomenon) in data, to become to explain the hypothesis testing as a means of evaluating objects of interest in the data, and to be able to interpret the performance of statistical analyses in accordance with the research objectives.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	10/24	14:30-16:00	遠隔授業 (同期型)	Concept of statistical inference for data science	TAKAHASHI Kunihiko
2	10/24	16:10-17:40	遠隔授業 (同期型)	Comparing groups - categorical data	ANZAI Tatsuhiko
3	11/7	14:30-16:00	遠隔授業 (同期型)	Comparing groups - continuous data	ANZAI Tatsuhiko
4	11/7	16:10-17:40	遠隔授業 (同期型)	Correlation and regression	TAKAHASHI Kunihiko
5	11/21	14:30-16:00	遠隔授業 (同期型)	Generalized linear model	TAKAHASHI Kunihiko
6	11/21	16:10-17:40	遠隔授業 (同期型)	Survival analysis	ANZAI Tatsuhiko
7	12/5	14:30-16:00	遠隔授業 (同期型)	Classification and prediction	ANZAI Tatsuhiko
8	12/5	16:10-17:40	遠隔授業 (同期型)	Multivariate methods in data science	TAKAHASHI Kunihiko
<b>Lecture Style</b> Lectures on data sciences, mainly statistics/biostatistics.					
<b>Grading System</b> Participation (40%) and reports (60%).					
<b>Prerequisite Reading</b> Those who feel less knowledge about math are encouraged to personally learn it with introductory textbooks on statistics.					

<b>Lecture No</b>	0362004				
<b>Subject title</b>	Data Science II	<b>Subject ID</b>	GC—c6370—L		
<b>Instructors</b>	竹内 勝之, 茂櫛 薫, 長谷 武志[TAKEUCHI Katsuyuki, MOGUSHI Kaoru, HASE Takeshi]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Same classes are offered in English on different schedules.					
<b>Lecture place</b>					
Please check the course schedule.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: R (programming language) is an essential tool for statistical analysis, analysis using machine learning, and other analyses. Students will acquire a programming skill of R and learn methods of statistical analysis and machine learning.					
Outline: This course gives lectures on the basic skills that are necessary to use statistical analysis and machine learning, through practical data analysis using R.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The goal is that students acquire the basic knowledge of the programming skill of R and statistical analysis and machine learning so that they can analyse data by means of the basic methods of statistical analysis and machine learning using R.					
<b>Lecture Style</b>					
The course gives both lectures and practices. The course lectures will be held only on Saturday.					
<b>Course Outline</b>					
The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>Grading System</b>					
Participation (70%) and assignments (30%)					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Students are recommended to prepare their classes with Reference Materials.					
<b>Reference Materials</b>					
RStudio ではじめる R プログラミング入門 / Garrett Golemund 著, 大橋真也 監訳, 長尾高弘 訳: オライリー・ジャパン, 2015					
<b>Note(s) to Students</b>					
This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.					
<b>Email</b>					
TAKEUCHI Katsuyuki: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required.					
Contact to Katsuyuki Takeuchi in Institute of Education (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

<b>Lecture No</b>	0362004E						
<b>Subject title</b>	Data Science II			<b>Subject ID</b>	GC—c6370—L		
<b>Instructors</b>	長谷川 嵩矩[HASEGAWA Takanori]						
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year		<b>Units</b>	1	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>							
Availability in English: All classes are taught in English.							
<b>Lecture place</b> PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.							
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: R (programming language) is an essential tool for statistical analysis, analysis using machine learning, and other analyses. Students will acquire a programming skill of R and learn methods of statistical analysis and machine learning.  Outline: This course gives lectures on the basic skills that are necessary to use statistical analysis and machine learning, through practical data analysis using R.							
<b>Course Objective(s)</b> The goal is that students acquire the basic knowledge of the programming skill of R and statistical analysis and machine learning so that they can analyse data by means of the basic methods of statistical analysis and machine learning using R.							
<b>Lecture plan</b>							
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1	5/7	14:30-16:00	情報検索室	Introduction to Data Science I	1. How to use R for data science and 2. Data Visualization and Comparison	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
2	5/7	16:10-17:40	情報検索室	Introduction to Data Science II	1. How to use R for data science and 2. Data Visualization and Comparison	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
3	5/21	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice I	3. Correlation, and Regression and 4. Survival analysis	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
4	5/21	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice II	3. Correlation, and Regression and 4. Survival analysis	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or



							student can access to class materials remotely.
5	6/4	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice III	4. Survival analysis and 5. Classification and Prediction	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
6	6/4	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice IV	4. Survival analysis and 5. Classification and Prediction	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
7	6/18	14:30-16:00	情報検索室	Data science in practice V	6. Multivariate methods in data science	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.
8	6/18	16:10-17:40	情報検索室	Data science in practice VI	6. Multivariate methods in data science	HASEGAWA Takanori	PC room 2 in Library (M&D Tower 4F) and/or student can access to class materials remotely.

#### Lecture Style

The course gives both lectures and practices.

#### Course Outline

1. How to use R for data science
2. Data Visualization and Comparison
3. Correlation and Regression
4. Survival analysis
5. Classification and Prediction
6. Multivariate methods in data science

#### Grading System

Participation (0%) and assignments (100%)

#### Grading Rule

A report will be imposed for each lecture and evaluated by the instructor.

#### Prerequisite Reading

Students are encouraged to attend "Data Science I".

#### Exam eligibility

No tests will be conducted. Please submit the assignments given after each class.

#### Composition Unit

1. How to use R for data science
2. Data Visualization and Comparison
3. Correlation and Regression
4. Survival analysis

5. Classification and Prediction 6. Multivariate methods in data science
<b>Module Unit Judgment</b> Submit and pass assignments for all units. Class materials and assignments will be published on the web.
<b>Relationship With Other Subjects</b> "Data Science I" or equivalent level knowledge is assumed.
<b>Note(s) to Students</b> This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.
<b>Email</b> t.hasegawa.dsc@tmd.ac.jp
<b>Instructor's Contact Information</b> Please contact me in advance.

<b>Lecture No</b>	0362013				
<b>Subject title</b>	Data Science III	<b>Subject ID</b>	GC—c6371—L		
<b>Instructors</b>	竹内 勝之, 下川 朝有, 長谷 武志, 飯田 頼嗣[TAKEUCHI Katsuyuki, SHIMOKAWA Asanao, HASE Takeshi, IIDA Yoritsugu]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> Please check the course schedule.					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: Python is the essential tool for data analyses using the Machine Learning. Students will acquire the Python programming skills in this course. Outline: This course gives the practical training for beginners to master the Python programming skills.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal is that students learn the basic Python programming skills.					
<b>Lecture Style</b> The course consists of lectures and practices. It will be held only on Saturday.					
<b>Course Outline</b> The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>Grading System</b> Participation (70%), and discussion (30%)					
<b>Prerequisite Reading</b> Students are recommended to prepare their classes with Reference Materials.					
<b>Reference Materials</b> ゼロから学ぶ Python プログラミング : Google Colaboratory でらくらく導入 / 渡辺宙志 著, 渡辺 宙志, 講談社, 2020					
<b>Important Course Requirements</b> None					
<b>Note(s) to Students</b> This is a compulsory elective course for students in the Integrative Biomedical Sciences Programs for Preemptive Medicine. Other students can attend this course as long as seats are available, but the course students are given priority over others.					
<b>Email</b> TAKEUCHI Katsuyuki: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b> TAKEUCHI Katsuyuki: Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Katsuyuki Takeuchi in Institute of Education (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

<b>Lecture No</b>	0362014				
<b>Subject title</b>	Data Science IV	<b>Subject ID</b>	GC—c6372-L		
<b>Instructors</b>	竹内 勝之, 小島 寛之[TAKEUCHI Katsuyuki, KOJIMA Hiroyuki]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> Please check the course schedule.					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: Students will acquire the essence of the statistics, which is the basis of learning data science. Outline: This course gives lectures on the Bayesian statistics, which is the basis of the Artificial Intelligence and other technologies, without using difficult formulae.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal is that students acquire the key knowledge of the Bayesian statistics.					
<b>Lecture Style</b> The course consists of lectures.					
<b>Course Outline</b> The course schedule will be announced to the course registrants as soon as it is decided.					
<b>Grading System</b> Participation (70%), and discussion (30%)					
<b>Prerequisite Reading</b> None					
<b>TextBook</b> 完全独習ベイズ統計学入門／小島寛之:ダイヤモンド社, 2015 完全独習統計学入門／小島寛之:ダイヤモンド社, 2006					
<b>Email</b> TAKEUCHI Katsuyuki:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b> TAKEUCHI Katsuyuki:Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Katsuyuki Takeuchi in Institute of Education (E-mail: takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp)					

<b>Lecture No</b>	0362005				
<b>Subject title</b>	Advanced Human Pathology for Graduate Students			<b>Subject ID</b>	GB—c6417-L
<b>Instructors</b>	大川 龍之介, 角 勇樹, 赤座 実穂, 柿沼 晴, 副島 友莉恵[OKAWA RYUNOSUKE, SUMI YUKI, AKAZA MIHO, KAKINUMA SEI, SOEJIMA YURIE]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: All classes are taught only in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: Educating the avid students the advanced aspect of human pathology and its research methods to become global academic researchers in the field of pathology and other areas of medical sciences.					
Outline: Pathology is a study to elucidate the mechanism of the disease. It is a fundamental study of all the medical practices and sciences, covering the basic science to clinical medicine. All lectures and discussions are performed in English. Student enrollment is limited to 10.					
<b>Course Objective(s)</b>					
In this lecture, we will study the common changes that occur in the development of disease (pathogenesis) and nature of the clinical condition so that the clinical and pathological aspects of disease can be systematically understood. Students will learn how to perform pathological researches.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/9	16:20-17:50	遠隔授業 (同期型)	Cardiovascular system	OKAWA RYUNOSUKE
2	5/16	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Respiratory system	SUMI YUKI
3	5/23	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Infection, cancer, and genetics	SOEJIMA YURIE
4	5/27	14:40-16:10	遠隔授業 (同期型)	Gastrointestinal system	KAKINUMA SEI
5	5/30	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Immune system	SOEJIMA YURIE
6	6/6	14:40-16:10	遠隔授業 (同期型)	Neurologic system	AKAZA MIHO
7	6/13	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Pathophysiology basics	SOEJIMA YURIE
8	6/20	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	Reproductive system	SOEJIMA YURIE
<b>Lecture Style</b>					
Students will use the following textbook to study and discuss. They are required to participate, present assigned topics by PowerPoint or other presentation applications, and join the discussion in lectures of pathology.					
<b>Course Outline</b>					
The students have to present a few representative disease topics for 5 to 10 min by using PowerPoint files you create beforehand. Then we'll discuss the topic after each presentation.					
<b>Grading System</b>					
Grades are judged by the active participation in the class (50%) and presentation of the assignments (50%). Doctor course students are expected to have more knowledge and able to discuss in more detail than Master Course students.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Preliminary study of the representative diseases of each category will be assigned to the students. The schedule of assignment will be given before the first class by email. The students are required to buy the textbook, "Pathophysiology Made Incredibly Easy! 6th ed. (print version)"					

before the start of the lecture.

**TextBook**

Pathophysiology Made Incredibly Easy! Sixth ed.

Wolters Kluwer, (English Edition) 6th Edition

ISBN-10: 1-4963-9824-6

ISBN-13: 978-1-4963-9824-6

\*Kindle version is also available.

**Important Course Requirements**

Instructed in the lecture

**Note(s) to Students**

Course day and time is subject to change so please check before lessons.

<b>Lecture No</b>	0362006					
<b>Subject title</b>	Advanced Biosensing Devices			<b>Subject ID</b>	GC—c6418—L	
<b>Instructors</b>	池内 真志, 松元 亮, 飯谷 健太[IKEUCHI Masashi, MATSUMOTO AKIRA, IITANI Kennta]					
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>						
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.						
<b>Lecture place</b> All lectures are given online (zoom).						
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose:This program offers lectures on several important topics in Sensing devices, Biochemistry, Recognition materials, MEMS and Optics for Biosensing in the medicaland dental fields. The major purpose of the program is to obtain the latest information and to train scientific mind as well as logical thinking skills necessary to become independent researchers. Outline:Several types of the advanced biosensing devices and technologies are introduced and some potential applications in the medical and dentalfields will be discussed.						
<b>Course Objective(s)</b> Introduce useful information from the basic biosensors to latest biochemical sensing devices in the medical and dental fields to attendants.						
<b>Lecture plan</b>						
	No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
	1	5/8	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Spatiotemporal Biosensing in the gas phase	MITSUBAYAS HI KOJI, IITANI Kennta, OGURA Toshihiko
	2	5/15	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Direct observation and compositional analysis of cultured cells by electron and optical microscopy	OGURA Toshihiko
	3	5/22	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Laser technology in medical and biological applications	FRIEDRICH Daniel Dieter
	4	5/29	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Biosensing-synchronized therapeutic technologies	MATSUMOTO AKIRA
	5	6/5	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Top-down and bottom-up processing for biomedical microdevice	IKEUCHI Masashi
<b>Lecture Style</b> Lectures on the essence of advanced biosensing devices.						
<b>Grading System</b> Grading is given by taking all activities of the students into account such as participation of lecture class and discussion (50%), quality of discussion and presentation (30%), as well as willingness and understanding of discussion (20%).						
<b>Prerequisite Reading</b> Any students who prepare for this course, they can refer to the following books and paper.						
<b>Reference Materials</b> Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare／edited by Kohji Mitsubayashi:Springer Nature, 2024 「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用／三林浩二 監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2021						

Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications/edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno,三林, 浩二,Niwa, Osamu. [丹羽修],Ueno, Yuko. [上野祐子],:Elsevier, 2019

代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る/三林浩二 監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2018

生体ガス計測と高感度ガスセンシング/ 三林浩二監修/三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2017

スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発/三林浩二監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2015

スマート・ヒューマンセンシング : 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術/三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2014

ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器/三林浩二監修,三林, 浩二,:シーエムシー出版, 2009

Micro Electronic and Mechanical Systems/ Kenichi Takahata:IntechOpen, 2009

刺激応答性高分子ハンドブック = Stimuli-responsive polymers handbook/宮田隆志 監修,宮田, 隆志,:エヌ・ティー・エス, 2018

To be distributed during the lecture.

#### **Important Course Requirements**

To be announced during the lecture.

#### **Email**

IKEUCHI Masashi:ikeuchi.mech@tmd.ac.jp

#### **Instructor's Contact Information**

IKEUCHI Masashi:10:00-14:00 Mon. & Thu. @ Building#22, Room312



<b>Lecture No</b>	0362007				
<b>Subject title</b>	Advanced Medical Device and System			<b>Subject ID</b>	GC—c6419—L
<b>Instructors</b>	中島 義和, 梶 弘和, 坂内 英夫, 池内 真志, 周 東博, 清水 秀幸[NAKAJIMA Yoshikazu, KAJI Hirokazu, BANNNAI Hideo, IKEUCHI Masashi, SHUU Touhaku, SHIMIZU Hideyuki]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
<p>Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.</p> <p>Introduce latest research and development of medical devices and systems such as real time image measurement device, image analysis technology with AI, and assist robot for surgery.</p>					
<b>Lecture place</b>					
All lectures are given online (zoom).					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
The course will introduce the latest research topics and development of medical devices and systems to assist surgery that integrate IoT or AI. The students will acquire the basic knowledge to promote the development of medical devices and systems.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The aim of the course is to understand the basic knowledge to promote the development of medical devices and systems integrated IoT and AI.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	6/24	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	AI implementation in medicine	NAKAJIMA Yoshikazu
2	7/1	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Biodelivery systems	KAJI Hirokazu
3	7/8	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Memory-saving algorithms and data structures	BANNNAI Hideo
4	7/22	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Medical-Device Image Analysis and its Application to Practical Clinic	SHIMIZU Hideyuki
5	7/29	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	AI Analysis and Design for Medical Device Development	SHUU Touhaku
6	8/5	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Precise therapeutic devices and systems	IKEUCHI Masashi
7	8/19	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Computer integrated surgery	NAKAJIMA Yoshikazu
<b>Lecture Style</b>					
Lecture and discussion					
<b>Course Outline</b>					
The details are shown in another table.					
<b>Grading System</b>					
Attendance to lectures (60 %) and reports (40 %) will be evaluated.					
<b>Grading Rule</b>					
Attendance to lectures (60 %) and reports (40 %)					

<b>Prerequisite Reading</b>
Instruction will be done at the first lecture. It will be done in any class if necessary.
<b>Exam eligibility</b>
No restriction.
<b>Composition Unit</b>
Yoshikazu Nakajima, Hirokazu Kaji, Masashi Ikeuchi, Hideo Bannai, Heewon Park, Hideyuki Shimizu, SHUU Touhaku
<b>Module Unit Judgment</b>
1 unit
<b>TextBook</b>
Handout will be provided in each class if necessary.
<b>Reference Materials</b>
Handouts will be provided if necessary.
<b>Important Course Requirements</b>
Nothing.
<b>Note(s) to Students</b>
Nothing.
<b>Email</b>
NAKAJIMA Yoshikazu:nakajima.bmi@tmd.ac.jp
<b>Instructor's Contact Information</b>
NAKAJIMA Yoshikazu:15:00-16:30 on every Monday at Room 409A on the 4th floor, Building 21, Surugadai campus

<b>Lecture No</b>	0362008				
<b>Subject title</b>	Wearable & IoT Devices and Applications			<b>Subject ID</b>	GC—c6420—L
<b>Instructors</b>	三林 浩二, 山口 真澄, 田邊 勇二, 吉岡 克成, 市川 健太, 宇野 雅博[MITSUBAYASHI KOJI, YAMAGUCHI Masumi, TANABE Yuji, YOSHIOKA Katsunari, ICHIKAWA Kennta, UNO Masahiro]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> All lectures are given online (zoom).					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose:The program offers lectures on several important topics in Sensing devices & instruments, IoT technologies & Security and Energy harvesting devices in the medical and dental fields. The major purpose of the program is to obtain the latest information and to train scientific mind as well as logical thinking skills necessary to become independent researchers. Outline:Several types of the advanced wearable IoT devices and technologies are introduced and some potential applications in the medical and dental fields will be discussed.					
<b>Course Objective(s)</b> Introduce useful information from the basic wearable sensors to latest IoT devices in the medical and dental fields to attendants.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/24	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Wearable sensor devices and energy harvesting	MITSUBAYASHI KOJI, ICHIKAWA Kennta
2	6/12	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Utilization of wearable bioelectrode "hitoe" in IoT society	YAMAGUCHI Masumi
3	6/19	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Latest trend of wireless systems for IoT applications	UNO Masahiro
4	6/26	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Cutting edge wireless powering technologies for medical/IoT application	TANABE Yuji
5	7/3	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Security issues in IoT devices	YOSHIOKA Katsunari
<b>Lecture Style</b> Lectures on the essence of wearable IoT technologies.					
<b>Grading System</b> Grading is given by taking all activities of the students into account such as participation of lecture class and discussion (50%), quality of discussion and presentation (30%), as well as willingness and understanding of discussion (20%).					
<b>Prerequisite Reading</b> Any students who prepare for this course, they can refer to the following books and paper.					
<b>Reference Materials</b> Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi : Springer Nature, 2024 「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修, 三林 浩二, シーエムシー出版, 2021 Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno, 三林 浩					

<p>二, Niwa, Osamu. [丹羽修], Ueno, Yuko. [上野祐子].: Elsevier, 2019</p> <p>代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修, 三林, 浩二.: シーエムシー出版, 2018</p> <p>生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林, 浩二.: シーエムシー出版, 2017</p> <p>スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修, 三林, 浩二.: シーエムシー出版, 2015</p> <p>スマート・ヒューマンセンシング : 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術 / 三林, 浩二.: シーエムシー出版, 2014</p> <p>ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器 / 三林浩二監修, 三林, 浩二.: シーエムシー出版, 2009</p> <p>ユビキタス・バイオセンシング : 健康モニタリング&amp;日常ケアのための計測技術 / 三林浩二 監修, 三林, 浩二.: シーエムシー出版, 2006</p> <p>テレワーク社会を支えるリモートセンシング / 三林, 浩二, 三林浩二 監修: シーエムシー出版, 2021.4</p> <p>To be distributed during the lecture.</p>
<p><b>Important Course Requirements</b></p> <p>To be announced during the lecture.</p>
<p><b>Email</b></p> <p>MITSUBAYASHI KOJI: m.bdi@tmd.ac.jp</p>
<p><b>Instructor's Contact Information</b></p> <p>MITSUBAYASHI KOJI: Every Monday morning (11:00 AM to noon) at room No. 503B on 5 fl. at Building 21</p>

<b>Lecture No</b>	0362009				
<b>Subject title</b>	Development of novel technologies for clinical tests			<b>Subject ID</b>	GB—c6421—L
<b>Instructors</b>	星 治, 西尾 美和子, 伊藤 南, 赤座 実穂, 鈴木 喜晴, 齋藤 良一, 大川 龍之介, 三井田 孝[HOSHI OSAMU, NISHIO Miwako, ITO MINAMI, AKAZA MIHO, SUZUKI NOBUHARU, SAITO RYOICHI, OKAWA RYUNOSUKE, MIIDA TAKASHI]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
<p>•Availability in English:All classes are taught in Japanese.</p> <p>•The course schedule is tentative. After the registration of the course, the actual scheudle will be fixed one by one as the instructor and students arrange the schedule together.</p>					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
<p>Course Purpose:To get the basic knowledge required for an extraction of problems to be solved in the clinical laboratories, and to get an ability required for a development of new methods and equipment linked with a solution of the problem.</p> <p>Outline:Actual examinations and those limitations in clinical laboratories are indicated, including a possible breakthrough by means of the development of new methods and equipment.</p>					
<b>Course Objective(s)</b>					
<p>To understand a present status of the technology in the clinical laboratories.</p> <p>To be able to indicate the direction of investigation required for a solution of problems existed in the clinical laboratories.</p>					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	4/22	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Role of biomedical laboratory science in medical care	MIIDA TAKASHI
2	4/23	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Expectations for development of new technology in clinical laboratory	ITO MINAMI
3	4/24	08:50-10:20	その他	Current status and future view for microbiological methods in clinical laboratory	SAITO RYOICHI
4	4/25	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Morphology required for development of novel clinical tests	HOSHI OSAMU
5	5/6	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Present status and future view for physiological examination in clinical	AKAZA MIHO
6	5/7	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Present status and future view for genetic examination in clinical laboratory	SUZUKI NOBUHARU
7	5/8	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	Technological status and limitation in clinical laboratory & future view for biochemical	OKAWA RYUNOSUKE

				examination in clinical laboratory	
8	5/9	15:30-17:00	遠隔授業 (同期型)	Present status and future view for hematology in clinical laboratory	NISHIO Miwako
<b>Lecture Style</b>					
Lecture, presentation and discussion					
<b>Grading System</b>					
Attendance to lectures and discussions (70 %) and reports (30 %) are evaluated.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Basic knowledge on biochemistry, immunology, and physiology is preferably required.					
<b>Reference Materials</b>					
To be announced					
<b>Email</b>					
HOSHI OSAMU:o-hoshi.aps@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
HOSHI OSAMU:Please mail me before you visit my office. Yushima Campus Building3, 16F Professor Hoshi office.					

<b>Lecture No</b>	0362010				
<b>Subject title</b>	Molecular Pathophysiology			<b>Subject ID</b>	GC—c6422-L
<b>Instructors</b>	佐々木 純子, 瀬川 勝盛, 山野 晃史, 鈴木 啓道, 竹内 純[SASAKI Junnko, SEGAWA Katsumori, YAMANO KOJI, SUZUKI Hiromichi, TAKEUCHI Jun]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this course for credits, this course is done in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: The purpose of this course is to obtain an overview of the current progress in the research on molecular pathophysiology of diseases based on the basic biosciences including molecular biology, genome science, and biochemistry, and also a practical approach to the development of prevention and therapies of the diseases.					
Outline: This course offers lectures on the molecular pathophysiology of diseases such as cancer, metabolic diseases, neurological diseases, and congenital diseases based on basic biosciences including molecular biology, genome science, and biochemistry. Developing novel and rational prevention and therapies according to molecular physiology will also be discussed.					
<b>Course Objective(s)</b>					
To obtain an overview of the molecular pathophysiology of cancer, metabolic diseases, autoimmune and neurological diseases, and congenital heart diseases, and to discuss the development of rational prevention and therapies for these diseases. Introduce useful information from the latest biology to basic medicine to attendants.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/6	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Molecular pathophysiology of cancer: Lessons from phospholipids	SASAKI Junnko
2	5/9	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Cholesterol and diseases: from plaques to genes to drugs	SEGAWA Katsumori
3	5/10	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Mechanism for mitochondrial quality control	YAMANO KOJI
4	5/16	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Cancer genome analysis for basic and translational research	SUZUKI Hiromichi
5	5/17	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Molecular pathophysiology of congenital heart diseases	TAKEUCHI Jun
<b>Lecture Style</b>					
Lecture, discussion and presentation					
<b>Grading System</b>					
Participation to lectures is evaluated.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Basic knowledge on molecular biology, biochemistry, neuroscience and immunology is required.					
<b>Reference Materials</b>					
Mark F. Bear, Barry W. Connors and Michael A. Paradiso, Neuroscience: Exploring the Brain. Lippincott Williams & Wilkins.					
Scott F. Gilbert, "Developmental Biology" (10th Edition)					
T.W.Sadler, "Langman's medical embryology"(13th Edition)					

**Important Course Requirements**

•Your attendance will be taken by the attendance system. Please make sure to pass your student ID card over the card reader of system roughly 10 minutes prior to each lecture starts. Usually, the card reader is on the wall by the back door of the lecture room.



<b>Lecture No</b>	0362011				
<b>Subject title</b>	Advanced Chemical Biology			<b>Subject ID</b>	GC—c6423-L
<b>Instructors</b>	玉村 啓和, 花園 祐矢, 藤井 晋也, 辻 耕平, 隅田 有人[TAMAMURA HIROKAZU, HANAZONO Yuuya, FUJII Shinnya, TSUJI Kouhei, SUMIDA YUUTO]				
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose:Fundamental knowledge and technology on the development of chemical biology used in several research fields (life science, analytical chemistry, organic chemistry, material science, etc) and the recent topics on their advanced researches will be educated.					
Outline:Various basic methods required for chemical biology researches will be discussed based on recent advanced results.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Chemical biology is a research field, in which biological phenomena are analyzed and regulated, and is complicatedly correlated to several research fields such as medicinal chemistry and nanotechnologies. This course deals with their up-to-date advanced research tendencies.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	6/8	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Advanced Chemical Biology Research1	TSUJI Kouhei
2	6/15	12:40-14:55	遠隔授業 (同期型)	Advanced Chemical Biology Research2	HANAZONO Yuuya
3	6/22	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Advanced Chemical Biology Research3	FUJII Shinnya
4	6/29	12:40-14:55	遠隔授業 (同期型)	Advanced Chemical Biology Research4	SUMIDA YUUTO
5	7/6	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Advanced Chemical Biology Research5	TAMAMURA HIROKAZU
<b>Lecture Style</b>					
This course includes seminar-type lectures, exercises about organic chemistry, and practices about chemical biology techniques.					
<b>Grading System</b>					
Attendance (50%) and Presentation (50%)					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Fundamental organic chemistry should be reviewed. The books listed in #9 are useful for understanding the topics in this course.					
<b>Reference Materials</b>					
Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess Eds, WILEY-VCH); PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES – Chemical Biology Techniques and Applications (Wiley)					
<b>Email</b>					
TAMAMURA HIROKAZU:tamamura.mr@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
TAMAMURA HIROKAZU:Mon-Fri, 3-5 pm Bldg22, F16, Rm603B					

<b>Lecture No</b>	0362012					
<b>Subject title</b>	Lecture of Molecular and Chemical Somatology			<b>Subject ID</b>	GC—c6424—L	
<b>Instructors</b>	岸田 晶夫, 萩原 伸也, 新富 圭史, 渡邊 力也, 安藤 潤, 橋本 理一, 江越 脩祐[KISHIDA AKIO, HAGIHARA Shinya, SHINTOMI Keishi, WATANABE Rikiya, ANDO Jun, HASHIMOTO Riichi, EGOSHI Shusuke]					
<b>Semester</b>	Spring 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>						
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.						
<b>Lecture place</b> Online or RIKEN Wako campus.						
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: We aim to understand basis of Bioorganic Chemistry, Chemical Biology as well as their applications to Medicine and Biology by dealing with variety of molecules that regulate cellular functions including low molecular organic compounds, proteins, and hormones. Outline: Molecular and Chemical Somatology is an interdisciplinary fields to understand basis of Bioorganic Chemistry, Chemical Biology as well as their applications to Medicine and Biology by dealing with variety of molecules that regulate cellular functions including low molecular organic compounds, proteins, and hormones. Students will hear and discuss about outlines and/or latest topics on discovery, structure, synthesis, biology, and management of these key molecules/factors, and deepen their understanding this new study field.						
<b>Course Objective(s)</b> Students will hear and discuss about latest topics from each instructor.						
<b>Lecture plan</b>						
	No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
	1	5/16	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	Regulation of physiological function with synthetic molecules	HAGIHARA Shinya
	2	5/23	13:00-15:15	理研生物 科学研究 棟 N310	Three-dimensional structure of the genome	SHINTOMI Keishi
	3	5/23	15:30-17:45	理研生物 科学研究 棟 S252	Single molecule biophysics and its application	WATANABE Rikiya, ANDO Jun
	4	5/30	13:00-15:15	遠隔授業 (同期型)	in vivo synthesis of functional molecule	HASHIMOTO Riichi
	5	6/13	14:00-16:15	遠隔授業 (同期型)	Development of Novel Methodologies for Chemical Biology	EGOSHI Shusuke
<b>Lecture Style</b> Lectures by instructors, Presentation by students, and Discussion						
<b>Grading System</b> Attendance (40%) and Report (60%)						
<b>Prerequisite Reading</b> None						
<b>Reference Materials</b> Chemical Biology (L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess Eds., WILEY-VCH), PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications (H. Osada Ed, Wiley)						
<b>Email</b> HAGIHARA Shinya:hagi@riken.jp						
<b>Instructor's Contact Information</b>						

HAGIHARA Shinya:HAGIHARA Shinya:3:00–5:00 pm, every Tuesday to:  
Dr. Shinya Hagihara, Chief Instructor of Molecular and Chemical Somatology

<b>Lecture No</b>	0362015				
<b>Subject title</b>	Epidemiology: Basic			<b>Subject ID</b>	GC—c6444-L
<b>Instructors</b>	藤原 武男, 谷 友香子[FUJIWARA Takeo, TANI Yukako]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> Library Active Learning Room(4th floor of M&D Tower)					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Objectives To understand the fundamentals of epidemiology and learn the basics of properly interpreting and writing clinical research papers.					
<b>Course Objective(s)</b> Acquire the knowledge of epidemiology to conduct clinical epidemiological studies.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/8	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Introduction to Epidemiology	TANI Yukako
2	5/15	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Disease measurement, sensitivity and specificity	TANI Yukako
3	5/22	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Epidemiological study design, ecological studies	TANI Yukako
4	5/29	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	confounding factors, validity and reliability	TANI Yukako
5	6/5	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Sampling, Cross-sectional studies	TANI Yukako
6	6/12	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Cohort and case-control studies	TANI Yukako
7	6/19	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Randomized controlled trials, bias	TANI Yukako
8	6/26	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室	Critical Appraisal	TANI Yukako
<b>Lecture Style</b> Depends on the lectures of the course instructor.					
<b>Course Outline</b> See table.					
<b>Grading System</b> Attendance at least 5 out of 8 sessions is required. Grading will be based on the content of the submitted report (50 points) and participation (50 points).					

**Prerequisite Reading**

It is recommended that students prepare in advance for the lectures of each instructor listed in the lecture outline by referring to the reference books and literature listed below. Also, please note that some classes require students to watch video clips in advance.

**Reference Materials**

日本疫学会. はじめて学ぶやさしい疫学 第3版. 南江堂. 2018.

木原正博. 疫学 -医学的研究と実践のサイエンス. メディカルサイエンスインターナショナル. 2010

Gordis L. Epidemiology. 6th edition. Philadelphia: Elsevier; 2018

**Important Course Requirements**

Attendance at lectures is mandatory. All assigned reports and other materials must be submitted.

**Email**

FUJIWARA Takeo:fujiiwara.hlth@tmd.ac.jp

<b>Lecture No</b>	0362016				
<b>Subject title</b>	Biostatistics: Basic			<b>Subject ID</b>	GC—c6445-L
<b>Instructors</b>	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b>					
Library Active Learning Room(4th floor of M&D Tower)(or via zoom)					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose: This course aims to review fundamentals of biostatistics.					
Outline: This course gives lectures on the basis of biostatistical methods and their application to studies in clinical epidemiology.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The goal is to be able to apply appropriate statistical methods to data and, to be able to interpret the performance of statistical analyses in accordance with the research objectives.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/7	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
2	5/14	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
3	5/21	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
4	5/28	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
5	6/4	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
6	6/11	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI

			遠隔授業 (同期型)		Tatsuhiko
7	6/18	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
8	6/25	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
<b>Lecture Style</b>					
Lectures					
<b>Course Outline</b>					
Refer to the course schedule					
<b>Grading System</b>					
Participation (50%) and report (50%).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Students are expected to have worked thorough the materials in accordance with the topics before attending the class.					
<b>Reference Materials</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・古川俊之(監修), 丹後俊郎(著). 医学への統計学. 第3版. 朝倉書店. 2013.</li> <li>・Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. CRC Press. 2000.</li> </ul>					
<b>Email</b>					
TAKAHASHI Kunihiko:biostat.dsc@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
TAKAHASHI Kunihiko:Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Department of Biostatistics, M&D Data Science Center (E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp).					

<b>Lecture No</b>	0362017				
<b>Subject title</b>	Biostatistics: Advanced I			<b>Subject ID</b>	GC—c6446-L
<b>Instructors</b>	高橋 邦彦, 安齋 達彦, 星野 崇宏, 服部 聡, 野間 久史[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko, HOSHINO Takahiro, HATTORI Satoshi, NOMA Hisashi]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> Library Active Learning Room(4th floor of M&D Tower)(or via zoom)					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: This course aims to develop the knowledge on Bayesian statistics and meta-analysis. Outline: This course gives lectures on fundamentals and applications of Bayesian statistics and meta-analysis as the advanced topics in biostatistics.					
<b>Course Objective(s)</b> The objective of this course is to be able to conduct Bayesian inference and meta-analysis on a small number of studies.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	9/18	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko
2	9/25	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		ANZAI Tatsuhiko
3	10/2	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko
4	10/9	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko
5	10/16	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		HOSHINO Takahiro
6	10/23	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室		TAKAHASHI Kunihiko



			遠隔授業 (同期型)		
7	11/6	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		NOMA Hisashi
8	11/20	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		HATTORI Satoshi
<b>Lecture Style</b>					
Lectures					
<b>Course Outline</b>					
Refer to the course schedule					
<b>Grading System</b>					
Participation (50%) and report (50%).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Students are expected to have worked through the materials in accordance with the topics before attending the class.					
<b>Reference Materials</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Lesaffre E, Lawson AB. Bayesian Biostatistics. Wiley. 2012.</li> <li>• Spiegelhalter DJ, Abrams KR, Myles JP. Bayesian Approaches to Clinical Trials and Health-Care Evaluation. Wiley. 2004.</li> <li>• 丹後俊郎, 横山徹爾, 高橋邦彦. 空間疫学への招待. 朝倉書店. 2007.</li> <li>• 丹後俊郎. 新版メタアナリシス入門. 朝倉書店. 2016.</li> <li>• Borenstein M, et al. Introduction to Meta-Analysis. 2nd ed. Wiley. 2021.</li> </ul>					
<b>Email</b>					
TAKAHASHI Kunihiro: biostat.dsc@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
TAKAHASHI Kunihiro: Weekdays only. Advanced appointments are required.					
Contact to Department of Biostatistics, M&D Data Science Center (E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp).					

<b>Lecture No</b>	0362018				
<b>Subject title</b>	Biostatistics: Advanced II			<b>Subject ID</b>	GC—c6447-L
<b>Instructors</b>	高橋 邦彦, 清水 秀幸, 安齋 達彦, 漆原 尚巳[TAKAHASHI Kunihiko, SHIMIZU Hideyuki, ANZAI Tatsuhiko, URUSHIHARA Hisashi]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> Library Active Learning Room(4th floor of M&D Tower)(or via zoom)					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose: This course aims to develop the knowledge on pharmacoepidemiology and artificial intergence in the medical research as the advanced topics in biostatistics.  Outline: This course gives lectures on fundamentals and applications in pharmacoepidemiology, and artificial intergence in the medical research.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal is to be able to conduct the risk assessment of drug use in pharmacoepidemiology, and to be able to interpret the performance of artificial intergence analysis in the medical research.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	9/17	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko
2	9/24	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko
3	10/1	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		ANZAI Tatsuhiko
4	10/8	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		URUSHIHARA Hisashi
5	10/15	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 遠隔授業 (同期型)		TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
6	10/22	18:00-19:30	アクティ		TAKAHASHI

			ブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)		Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko
7	11/5	18:00-19:30	アクティ ブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)		SHIMZU Hideyuki
8	11/12	18:00-19:30	アクティ ブラーニング教室 遠隔授業 (同期型)		SHIMZU Hideyuki
<b>Lecture Style</b>					
Lectures					
<b>Course Outline</b>					
Refer to the course schedule					
<b>Grading System</b>					
Participation (50%) and report (50%).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Students are expected to have worked through the materials in accordance with the topics before attending the class.					
<b>Reference Materials</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・くすりの適正使用協議会. 実例で学ぶ薬剤疫学の第一歩. レーダー出版センター. 2008.</li> <li>・佐藤俊哉, 山口拓洋, 石黒智恵子(編). これからの薬剤疫学. 朝倉書店. 2021.</li> <li>・景山茂, 久保田潔(編). 薬剤疫学の基礎と実践. 改訂第3版. ライフサイエンス出版. 2021.</li> <li>・Naqa I, Murphy M (eds). Machine and Deep Learning in Oncology, Medical Physics and Radiology. Springer. 2022.</li> <li>・</li> </ul>					
<b>Email</b>					
TAKAHASHI Kunihiko:biostat.dsc@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
TAKAHASHI Kunihiko:Weekdays only. Advanced appointments are required. Contact to Department of Biostatistics, M&D Data Science Center (E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp).					

<b>Lecture No</b>	0362019				
<b>Subject title</b>	Clinical Trial Methodology: Basic			<b>Subject ID</b>	GC—c6448—L
<b>Instructors</b>	平川 晃弘[HIRAKAWA Akihiro]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> in-person or online lesson (by Zoom)					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Objectives To learn the basic concepts of clinical trial methodology and statistical considerations for planning and analyzing clinical trials. Outline To learn the basic concepts of clinical trial methodology and statistical considerations (e.g., study design, randomization, blinding, endpoints, analysis population, sample size calculation).					
<b>Course Objective(s)</b> Be able to design appropriate clinical trials based on research objectives and feasibility. Be able to assess the level of evidence from clinical trial publication.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	6/27	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro
2	7/2	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro
3	7/4	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro
4	7/9	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro
5	7/11	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro
6	7/23	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro
7	7/25	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro
8	7/30	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro
<b>Lecture Style</b> Lectures					
<b>Grading System</b> Attendance at least 5 out of 8 sessions required. Participations (50%) and essay (50%)					
<b>Prerequisite Reading</b> To read the Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects and ICH E9 (Statistical Principles for Clinical Trials).					
<b>Reference Materials</b> “樫 広計 (編集), 佐藤 俊哉 (編集), 藤田 利治 (編集). これからの臨床試験—医薬品の科学的評価-原理と方法. 朝倉書店 内田一郎, 芹生卓 (編集). (2022) 製薬医学入門:くすりの価値最大化をめざして. メディカル・サイエンス・インターナショナル”					

<b>Lecture No</b>	0362020				
<b>Subject title</b>	Clinical Trial Methodology: Advanced			<b>Subject ID</b>	GC—c6449—L
<b>Instructors</b>	平川 晃弘, 佐藤 宏征[HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> in-person or online lesson (by Zoom)					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Objectives To acquire innovative clinical trial designs  Overview To learn group sequential design, adaptive design, Bayesian design, platform studies, along with clinical trial designs in oncology.					
<b>Course Objective(s)</b> Be able to design appropriate clinical trials based on research objectives and feasibility. Be able to assess the level of evidence from clinical trial publication.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	9/19	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki
2	9/26	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki
3	10/3	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki
4	10/10	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki
5	10/17	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki
6	10/24	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki
7	10/31	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro,

					SATOU Hiroyuki
8	11/7	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		HIRAKAWA Akihiro, SATOU Hiroyuki
<b>Lecture Style</b>					
Lectures					
<b>Grading System</b>					
Attendance at least 5 out of 8 sessions required. Participations (50%) and essay (50%)					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Required to participate in course of Clinical Trial Methodology (Basic).					
<b>Reference Materials</b>					
"椿 広計 (編集), 佐藤 俊哉 (編集), 藤田 利治 (編集). これからの臨床試験—医薬品の科学的評価-原理と方法. 朝倉書店 内田一郎, 芹生卓 (編集). (2022) 製薬医学入門:くすりの価値最大化をめざして. メディカル・サイエンス・インターナショナル"					
<b>Email</b>					
HIRAKAWA Akihiro:a-hirakawa.crc@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
HIRAKAWA Akihiro:any time (need an appointment), 4F Building 8 North					

<b>Lecture No</b>	0362021				
<b>Subject title</b>	Oral epidemiology: Basic			<b>Subject ID</b>	GC—c6450—L
<b>Instructors</b>	相田 潤, 松山 祐輔, 木野 志保, 石丸 美穂[AIDA Junn, MATSUYAMA Yuusuke, KINO Shiho, ISHIMARU MIHO]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b>					
Zoom					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Objectives					
To understand the basics of dental epidemiology.					
Overview					
To understand the fundamentals of dental epidemiology. To understand the international context and build a foundation for writing papers.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Acquire basic knowledge in conducting clinical epidemiological research in the field of dentistry and oral health.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	7/1	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		AIDA Junn
2	7/3	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		AIDA Junn
3	7/8	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		KINO Shiho
4	7/10	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		ISHIMARU MIHO
5	7/22	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		AIDA Junn
6	7/24	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		MATSUYAMA Yuusuke
7	7/29	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		AIDA Junn
8	7/31	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		AIDA Junn
<b>Lecture Style</b>					
Depends on the lectures of the course instructor.					
<b>Course Outline</b>					
See table.					
<b>Grading System</b>					
Attendance at least 5 out of 8 sessions is required. Grading will be based on the content of the submitted report (50 points) and participation (50 points).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
It is recommended that students prepare in advance for the lectures of each instructor listed in the lecture outline by referring to the reference books and literature listed below. Also, please note that some classes require the viewing of videos, etc., prior to the lecture.					
<b>Email</b>					
AIDA Junn:aida.ohp@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					

AIDA Junn:Department of Oral Health Promotion, Graduate School of Medical and Dental Sciences. Prof. Aida at  
aida.ohp@tmd.ac.jp

Every Tuesday, 4:30-5:30 PM, Department of Oral Health Promotion, 10th floor, Dental Building North



<b>Lecture No</b>	0362022				
<b>Subject title</b>	Epidemiology; Adcanced			<b>Subject ID</b>	GC—c6451-L
<b>Instructors</b>	相田 潤, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 松山 祐輔, 木野 志保, 石丸 美穂[AIDA Junn, TANI Yukako, ISUMI Aya, DOI Satomi, MATSUYAMA Yuusuke, KINO Shiho, ISHIMARU MIHO]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b> Zoom, Library Information Search Room(4th floor of M&D Tower)					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Objectives To understand the development of epidemiology. Overview In order to understand the advanced contents of epidemiology, students will learn the actual and advanced contents of analysis using statistical software.					
<b>Course Objective(s)</b> Acquire developmental knowledge and practical skills in conducting epidemiological studies.					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	10/4	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		AIDA Junn
2	10/11	18:00-19:30	情報検索 室 1		AIDA Junn
3	10/18	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		ISUMI Aya, DOI Satomi
4	10/21	18:00-19:30	情報検索 室 1		TANI Yukako
5	10/25	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		KINO Shiho
6	10/28	18:00-19:30	情報検索 室 1		TANI Yukako
7	11/1	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		MATSUYAMA Yuusuke
8	11/8	18:00-19:30	遠隔授業 (同期型)		KINO Shiho, ISHIMARU MIHO
<b>Lecture Style</b> Depends on the lectures of the course instructor.					
<b>Course Outline</b> See table.					
<b>Grading System</b> Attendance at least 5 out of 8 sessions is required. Grading will be based on the content of the submitted report (50 points) and participation (50 points).					
<b>Prerequisite Reading</b> It is recommended that students prepare in advance for the lectures of each instructor listed in the lecture outline by referring to the reference books and literature listed below. Also, please note that some classes require the viewing of videos, etc., prior to the lecture.					

**Reference Materials**

Epidemiology: Beyond the Basics 4th edition, Jones & Bartlett Learning

**Important Course Requirements**

Attendance at lectures is mandatory. All assigned reports and other materials must be submitted.

**Email**

AIDA Junn:aida.ohp@tmd.ac.jp

**Instructor's Contact Information**

AIDA Junn:Department of Oral Health Promotion, Graduate School of Medical and Dental Sciences. Prof. Aida at aida.ohp@tmd.ac.jp

Every Tuesday, 4:30–5:30 PM, Department of Oral Health Promotion, 10th floor, Dental Building North

<b>Lecture No</b>	0362023				
<b>Subject title</b>	Statistical Analysis of Clinical Data			<b>Subject ID</b>	GC—c6452-L
<b>Instructors</b>	藤原 武男, 西村 久明[FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	2nd - year	<b>Units</b>	1
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b>					
Library Information Search Room(4th floor of M&D Tower)					
<b>Lecture plan</b>					
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Staff
1	5/7	18:00-19:30	情報検索室 1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
2	5/9	18:00-19:30	情報検索室 1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
3	5/14	18:00-19:30	情報検索室 1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
4	5/16	18:00-19:30	情報検索室 1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
5	5/21	18:00-19:30	情報検索室 1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
6	5/23	18:00-19:30	情報検索室 1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
7	5/28	18:00-19:30	情報検索室 1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
8	5/30	18:00-19:30	情報検索室 1		FUJIWARA Takeo, NISHIMURA Hisaaki
<b>Lecture Style</b>					
Depends on the lectures of the course instructor.					
<b>Course Outline</b>					
See table.					

**Grading System**

Attendance at least 5 out of 8 sessions is required.

Grading will be based on the content of the submitted report (80 points) and participation (20 points).

**Prerequisite Reading****Reference Materials**

浦島充佳. Stata による医療系データ分析入門. 東京図書. 2014

**Email**

FUJIWARA Takeo.fujiwara.hth@tmd.ac.jp

<b>Lecture No</b>	0363001				
<b>Subject title</b>	Biomedical Devices and Instrumentation			<b>Subject ID</b>	GB—c6002—S
<b>Instructors</b>	三林 浩二, 飯谷 健太, 市川 健太[MITSUBAYASHI KOJI, IITANI Kennta, ICHIKAWA Kennta]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: Partial classes are taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Meeting Room 2, Floor 1, Building 22 Meeting Room 3, Floor 8, Building 22					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
In advanced medicine, technologies enabling to accurately measure biological information are highly demanded. The development of “human-friendly” non-invasive measurement methods could release patients from the pain and the risks of sampling. The students will learn the basic knowledge and skills of medical information measurement through the lectures, seminars and practical training. Especially research including medical sensing, the development of bio-sensing devices and their applications to medicine will be carried out based on “sensor and biomedical engineering”					
<b>Course Objective(s)</b>					
The students will learn the basic technology related to advance medical sensing and instrumentation. Through practical training, they will also engage in research activities for medical sensing, the development of sensing devices and their applications to medicine based on “sensor and biomedical engineering”.					
The objective of this course is to help the students be able to think about and conduct a research by themselves throughout the activities with academic researches.					
<b>Lecture Style</b>					
This course is taught in an on-the-job training style. You will attend a research project on advanced medical sensing under the direction of the research staffs.					
<b>Course Outline</b>					
This session is conducted in presentation, discussion and recitation format. You will learn actual medical device development and scientific method of solving problem with guidance by biosensors / bio-instrumentation experts.					
<b>Grading System</b>					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Basic knowledge of biochemistry and bioengineering, English skill, Basic PC skill for research training.					
<b>Reference Materials</b>					
Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / edited by Kohji Mitsubayashi 三林, 浩二: Springer Nature, 2024					
「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用 / 三林浩二 監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2021					
Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related applications / edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno, 三林, 浩二, Niwa, Osamu. [丹羽修], Ueno, Yuko. [上野祐子].: Elsevier, 2019					
代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝を知る / 三林浩二 監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2018					
生体ガス計測と高感度ガスセンシング / 三林浩二監修 / 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2017					
スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 / 三林浩二監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2015					
スマート・ヒューマンセンシング : 健康ビッグデータ時代のためのセンサ・情報・エネルギー技術 / 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2014					
ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器 / 三林浩二監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2009					
ユビキタス・バイオセンシング : 健康モニタリング&日常ケアのための計測技術 / 三林浩二 監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2006					
テレワーク社会を支えるリモートセンシング = Advanced remote sensing for supporting telework / 三林浩二 監修, 三林, 浩二, シーエムシー出版, 2021					
To be distributed during the lecture.					

<b>Important Course Requirements</b> To be announced during the lecture.
<b>Note(s) to Students</b> None
<b>Email</b> MITSUBAYASHI KOJI:m.bdi@tmd.ac.jp
<b>Instructor's Contact Information</b> MITSUBAYASHI KOJI:Every Monday morning (11:00 AM to noon) at room No. 503B on 5 fl. at Building 21

<b>Lecture No</b>	0363033				
<b>Subject title</b>	Biomedical Informatics			<b>Subject ID</b>	GB—c6095—S
<b>Instructors</b>	中島 義和, 小野木 真哉, 杉野 貴明, 周 東博[NAKAJIMA Yoshikazu, ONOGI Shinnya, SUGINO Takaaki, SHUU Touhaku]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: When an/some international students register this lecture series for credits, this course will be done in English.					
<b>Lecture place</b> Lab. Room 2 of Department of Biomedical Information (IBB building 4th floor)					
<b>Course Purpose and Outline</b> This course aims to obtain the principles, peripheral knowledge and techniques of biomedical information and to develop your capability to carry out your research topic. The classes include to study medical engineering, biological engineering, information—and—computer science, mechanical engineering and electro—and—electric engineering and to understand some concrete examples of medical systems and devices.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal of this course is to study the principles and peripheral knowledge, to brush up your skill to carry out your research topic and to encourage your motivation.					
<b>Lecture Style</b> Students should attend both of the seminar style lecture and the practical experiments.					
<b>Course Outline</b> Practice Goals/outline:Studies on Epigenetic Information Stored in Cell Networks in Living Systems This course aims to obtain the principles and peripheral knowledge of biomedical information through studying the research topics addressing on the biomedical—information acquisition and the knowledge—based integration with physical theories and artificial intelligence. In addition, it aims to develop your skill to carry out your research topic and develop your insight to find some novel issues. Various medical imaging modalities such as X—ray, CT, MR, ultrasound and optical imaging have come to give versatile and multi—disciplinary biomedical information. To make clinical processes more effective and safe, these information should be integrated and analyzed in high—dimensional special—and—temporal spaces. This course will provide the study on physical—knowledge—based integration of multidisciplinary biomedical information and its artificial intelligence analysis. In addition, the course will lead your deeply understanding on it with the background knowledge and both of Lagrangian and Eulerian analyses. Available programs:Lecture will be done as a seminar style with paper review and discussion. ※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
Lab Goals/outline:High—dimensional and multi—disciplinary analysis of biomedical information and surgical assistance using computers and robots Students attending this course will study advanced integration of biomedical information, artificial—intelligence (AI) analysis and surgical assistance systems. In addition, they will be trained their skill through a practical topic. This course includes (1) to understand physically—meaning of each biomedical information and (2) to study basic engineering techniques to construct these application systems. Available programs:A series of practical experiment. Students can choose one of the following two programs: 1) High—dimensional and multi—disciplinary analysis of biomedical information 2) Surgical assistance systems using computers and robots ※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b> The score will be determined by their attendance and their achievements in the lecture and the experiments (80%) and conference presentation/publication (20%). The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid—term advice.					
<b>Grading Rule</b>					

<p>the experiments (80%) and conference presentation/publication (20%)</p> <p>The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.</p>
<p><b>Prerequisite Reading</b></p> <p>To be announced at the guidance in the first lecture. Additional information may be announced according to the progress of the course.</p>
<p><b>Exam eligibility</b></p> <p>The students have to be affiliated in the department of biomedical informatics.</p>
<p><b>Composition Unit</b></p> <p>Yoshikazu Nakajima, Shinya Onogi, Takaaki Sugino, Dongbo Zhou</p>
<p><b>Module Unit Judgment</b></p> <p>6 units</p>
<p><b>TextBook</b></p> <p>Handouts will be provided if necessary.</p>
<p><b>Reference Materials</b></p> <p>To be distributed in each topic, if it is needed.</p>
<p><b>Important Course Requirements</b></p> <p>To be announced during the course, if needed.</p>
<p><b>Note(s) to Students</b></p> <p>Students attending the lecture course will be checked on the ethic of their research topics if needed.</p>



<b>Lecture No</b>	0363034				
<b>Subject title</b>	Precision Biomedical Engineering	<b>Subject ID</b>	GB—c6096—S		
<b>Instructors</b>	池内 真志, 石川 大輔[KEUCHI Masashi, ISHIKAWA Daisuke]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> PBME Lab., 4th floor, Building 21					
<b>Course Purpose and Outline</b> This course provides students with engineering knowledge of mechanical engineering, control engineering, and mechanical processing, as well as the molecular mechanisms of living organisms, which are the targets of therapeutic intervention. Next, students will learn the interaction and design techniques between organisms, machines, and information necessary for the development of therapeutic medical devices and systems.					
<b>Course Objective(s)</b> Students will acquire the ability necessary for subjecting the research and development of medical devices on an initiative basis; (1)the basic knowledge of mechanical engineering, biomedical engineering, system biology and etc., (2)ability to discover issues, (3)research planning skills, (4) research conducting skill					
<b>Lecture Style</b> After undergoing basic practical training such as equipment handling method and engineering knowledge, students will conduct research and practice under the guidance of the supervisor. Presentation training and journal lecture meeting will be also held as appropriate.					
<b>Course Outline</b> Practice Goals/outline:For the purpose of acquiring knowledge of applied engineering, biology, laws, standards and guidelines for the development of therapeutic medical equipment and medical information system, students promote the exercises by discussion in literature survey, latest literature lecture and academic event attendance. Available programs: Seminar: Tuesday 13:00–15:00 Journal Club: at any time  Lab Goals/outline:For the purpose of solving clinical problems or developing medical devices leading to the creation of new medical technology, students conduct research practice through designing and prototyping specific medical system / medical information analysis methods. In addition, they will learn about discovering the subjects necessary for conducting the research, research planning, how to prepare the thesis and presentation materials, etc. Available programs: Seminar: Thursday 13:00–15:00 Experiment: at any time					
<b>Grading System</b> The overall grading scheme is based on your participation and the final project. a) Lecture, experimental practice and research training: 80% b) Conference presentation and publication of journal paper of research results: 20% The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b> Recommend to have programing experience or clinical experience					
<b>Reference Materials</b> a) Clinical Engineering Course Medical Therapeutic Instrumentation Second Edition, Ed. Shinohara Kazuhiko, ISHIYAKU SHUPPAN ISBN-13: 978-4263734193					

b) Medical, Welfare and Bio Systems, JSME ISBN-13:978-4-88898-174-3

c) Reference papers will be handled in the lecture.

<b>Lecture No</b>	0363005				
<b>Subject title</b>	Material-Based Medical Engineering	<b>Subject ID</b>	GB—c6005-S		
<b>Instructors</b>	岸田 晶夫, 橋本 良秀[KISHIDA AKIO, HASHIMOTO YOSHIHIDE]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
To be noticed					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
The purpose of this lecture is a better understanding of "engineering" that contribute to medical and dental care. The term "biomedical engineering" is widely used, but mostly the contents of it are the mechanical engineering and/or information systems. Participants learn about the technology and the basic research for the "Materials" for medical and dental care.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Understand the material science for Biomedical use. Learn and master the skills for biomedical researches. Obtaining the ability for planning of biomedical and biomaterial research.					
<b>Lecture Style</b>					
Start-up training is available. Afterwards, students will be asked to do practice by themselves.					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline:The goal of this practice is to obtaining the knowledge of the materials and the devices of advanced medicine. Students will be asked to pick up the up-to-date research topics, to survey research papers and to introduce them to lab member at the lab seminar. Students also asked to present ones research data and results in lab meeting, to make presentation in scientific meeting, and to publish papers in scientific journals.					
Available programs:Lab Seminar Every Thursday and Friday 9:00-12:00					
Lab					
Goals/outline:The goal of this lab is to obtaining skills necessary for the research of students own.					
Contents are; polymer synthesis, material characterization, cell culture and animal experiment.					
Available programs:Skill lab at any time					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b>					
Grading is comprehensively judged from attendance and research achievement.					
Attendance and participation to Practice and Lab(minimum requirement is 60%): 80%					
Presentation in Society Meeting or Publication(minimum requirement is once): 20%					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Learn about the text that was instructed by Lab stuffs (articles, text book, etc.)					
<b>Reference Materials</b>					
バイオマテリアル : その基礎と先端研究への展開/田畑泰彦, 埴隆夫編著,田畑, 泰彦,埴, 隆夫,岡野, 光夫,明石, 満,:東京化学同人, 2016					
Biomaterials science : an introduction to materials in medicine./edited by Buddy D. Ratner ... [et al.],Ratner, B. D. (Buddy D.),Hoffman, Allan S.,Schoen, Frederick J.,Lemons, Jack E.,:Academic Press, 2013					
<b>Important Course Requirements</b>					
Student will be asked to manage themselves, because one should do chemical and biological experiments which takes long time. Consult with lab stuff frequently.					

<b>Lecture No</b>	0363006				
<b>Subject title</b>	Organic and Medicinal Chemistry	<b>Subject ID</b>	GB—c6006—S		
<b>Instructors</b>	影近 弘之, 藤井 晋也, 石田 良典, 増野 弘幸[KAGECHIKA HIROYUKI, FUJII Shinnya, ISHIDA Ryousuke, MASUNO HIROYUKI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Practice: Seminar room at Building 21					
Lab: Laboratories of Organic and Medicinal Chemistry at Institute of Biomaterials and Bioengineering					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
The recent topics about organic chemistry, medicinal chemistry, chemical biology, and related research field will be discussed. Students will learn the background of the topics, process of the research including the detailed experimental techniques in these fields.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will acquire recent knowledge and technique necessary for the research in the field of organic chemistry, medicinal chemistry, and chemical biology.					
<b>Lecture Style</b>					
Participation, discussion and debate with lecturer and other students					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline: Students are expected to understand the fundamentals, recent topics and technology on organic chemistry, chemical biology and medicinal chemistry.					
Available programs: Seminar: Saturday 9:30 – 12:30					
Lab					
Goals/outline: Students participate in our research group, are expected to master the skill of organic synthesis, structure determination, and functional analysis.					
Available programs:					
1) Organic Synthesis and Purification					
2) Structure Determination of Organic Molecules					
3) Analysis of Three-dimensional Structure, Dynamic Behavior and Interactions of Organic Molecules					
4) Analysis of biological function and pharmacological activity					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b>					
Practice: Attendance (50%) and report (50%)					
Lab: Progress of research and report					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Students should review the fundamentals about organic chemistry.					
<b>Reference Materials</b>					
Advanced Organic Chemistry (March, Wiley)					

<b>Lecture No</b>	0363007				
<b>Subject title</b>	Chemical Bioscience	<b>Subject ID</b>	GB—c6007-S		
<b>Instructors</b>	細谷 孝充, 田口 純平, 隅田 有人[HOSOYA TAKAMITSU, TAGUCHI Junnpei, SUMIDA YUUTO]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Conference rooms at Building22 or Department of Chemical Bioscience.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Obtaining an adequate knowledge and acquiring practical and applicable skills of organic chemistry, particularly for organic synthesis, which are useful for promoting bioscience research.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Making a rational interpretation on own experimental results and proposing next research strategy.					
<b>Lecture Style</b>					
Practice: Presentation by the duty student and group discussion on it.					
Lab: Individual guidance provided by staffs.					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline:Reading through a new article on organic chemistry, presenting a description on it, and then making a discussion with all attendance to enhance knowledge of the research field.					
Available programs:Journal Club: Every Wednesday from 18:00 to 21:00.					
Lab					
Goals/outline:To acquire practical skills for organic synthesis.					
Available programs:					
1) Practice of organic synthesis: As occasion demands.					
2) Practice of instrumental analysis: As occasion demands.					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b>					
Evaluation based on attendance on Practice and Lab (80%) as well as progress of research project (20%), including publications and conference presentations.					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Practice: Detailed preliminary surveys for the article and preparation of handouts.					
Lab: Detailed preliminary surveys for planned experiments.					
<b>Reference Materials</b>					
Modern Organic Synthesis in the Laboratory: A Collection of Standard Experimental Procedures (Oxford University Press)					
Advanced Practical Organic Chemistry (CRC Press)					
The Organic Chem Lab Survival Manual: A Student's Guide to Techniques (Wiley)					
<b>Email</b>					
HOSOYA TAKAMITSU:thosoya.cb@tmd.ac.jp					
SUMIDA YUUTO:sumida.yuto@tmd.ac.jp					
TAGUCHI Junnpei:taguchi.cb@tmd.ac.jp					

<b>Lecture No</b>	0363021				
<b>Subject title</b>	Medicinal Chemistry	<b>Subject ID</b>	GB—c6025—S		
<b>Instructors</b>	玉村 啓和[TAMAMURA HIROKAZU]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Lectures in the big seminar room of Institute of Biomaterials and Bioengineering, others in Department of Medicinal Chemistry at Building21.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
The purpose of this lecture is to provide the ability to analyze structures, properties and biological functional molecules. This lecture covers chemistry of functional molecules, structural chemistry, analytical chemistry and molecular recognition.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The ability to analyze structures, properties and biological functional molecules will be acquired. Chemistry of functional molecules, structural chemistry, analytical chemistry and molecular recognition will be understood.					
<b>Lecture Style</b>					
Small group					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline:					
Lecture: Our staffs teach a few students by the text.					
Seminar: Students learn and discuss with our staffs.					
Lab: Our staffs individually teach students.					
Available programs:					
Lectures for the graduate course: as occasion					
Journal Club: Every Thursday from 15:00 to 16:30					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
Lab					
Goals/outline:Research in the lab is mainly focused to two topics; (1) organic chemistry based on peptide chemistry and (2) biological chemistry. Students will learn how to design research, experimental techniques, and analysis methods of research data. Research themes are related to multiple research fields such as molecular biology, chemistry, chemical biology, and synthetic biology.					
Available programs:Lab meeting (progress report): every week, about 1 hour per person (will be announced)					
<b>Grading System</b>					
Practice: Attendance (80%) and report (20%)					
Lab: Progress of research and report					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None.					
<b>Email</b>					
tamamura.mr@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
Mon-Fri, 3-5 pm					
Bldg22, Fl6, Rm603B					

<b>Lecture No</b>	0363040				
<b>Subject title</b>	Soft Matter and Biomedical Engineering	<b>Subject ID</b>		GB—c6102-S	
<b>Instructors</b>	鳴龍 彩絵[NARUTAKI Ayae]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
<b>Prerequisite Reading</b>					

<b>Lecture No</b>	0363009				
<b>Subject title</b>	Organic Biomaterials	<b>Subject ID</b>	GB—c6010—S		
<b>Instructors</b>	松元 亮[MATSUMOTO AKIRA]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> To be announced.					
<b>Course Purpose and Outline</b> To understand the basis of organic biomaterials and discuss a variety of functionality required for advanced biomaterials.					
<b>Course Objective(s)</b> To acquire the ability to find and solve problems in the course of basic studies on organic biomaterials.					
<b>Lecture Style</b> To do either in a didactic manner or in reading references in turns, and to give any opportunity for mutual discussions.					
<b>Course Outline</b> Practice Goals/outline: To research recent studies on biomaterials for learning more about advanced investigation and training logical thinking for the research works. Available programs: Every Wednesday from 16:00 to 18:00 (Nov. 8th – Dec. 27st, 2023)  Lab Goals/outline: To evaluate the functionalities of a variety of biomaterials designed in the laboratory in terms of their final applications. For example, to characterize nano-biomaterials, investigate the properties in drug delivery performance, and evaluate the in vitro and in vivo performances. Available programs: Every Wednesday from 16:00 to 18:00 (Nov. 8th – Dec. 27st, 2023)					
<b>Grading System</b> To evaluate both the participation (the lecture, practice and lab.) and the score of the reports submitted as well as presentation at meetings and papers submitted. The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b> To prepare oral presentation of a certain topics on organic biomaterials with powerpoint files as the topics are to be announced in either lecture or practice.					
<b>TextBook</b> Biomaterials Science : An Introduction to Materials in Medicine / edited by Buddy D. Ratner ... [et al.], Ratner, B. D. (Buddy D.), Hoffman, Allan S., Schoen, Frederick J., Lemons, Jack E., : Academic Press, 2013					



<b>Lecture No</b>	0363035				
<b>Subject title</b>	Diagnostic & Therapeutic Systems Engineering	<b>Subject ID</b>	GB—c6097—S		
<b>Instructors</b>	梶 弘和[KAJI Hirokazu]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Department of Diagnostic & Therapeutic Systems Engineering, 1st floor, Building 21					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Students will learn the latest trends in medical devices and systems for diagnostic and therapeutic purposes and related research fields, as well as acquire fundamental knowledge and skills. In addition, students will aim to develop the ability to independently promote research in the field.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The goal is to acquire the abilities of problem solving and strategic thinking to conduct research and development of novel medical devices and systems, through scientific paper reading, experimental design, and scientific interpretation and discussion of experimental results.					
<b>Lecture Style</b>					
Lectures and practice: laboratory staff will conduct them individually or in a seminar style for students. Research training: students will participate in actual research activities under the guidance of laboratory staff.					
<b>Course Outline</b>					
Students will first peruse the latest scientific papers in medical devices and systems for diagnostic and therapeutic purposes. And by introducing the contents to the lab members and repeating discussions, they will understand the latest trends in the research field. In addition, students will aim to acquire the knowledge and skills necessary for research and development of novel medical devices and systems by actually participating in research activities.					
<b>Grading System</b>					
Comprehensive evaluation will be made based on the status of participation in lectures, practice, and research training (80%), and the status of conference presentation and paper publication (20%). And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
N/A					
<b>Reference URL</b>					
<a href="https://www.tmd.ac.jp/bmc/index-e.html">https://www.tmd.ac.jp/bmc/index-e.html</a>					
<b>Email</b>					
kaji.bmc@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
Every Wednesday 1pm–3pm Room 103B, 1st floor, Building 21 Make a reservation by email in advance.					

<b>Lecture No</b>	0363025				
<b>Subject title</b>	Ceramic Biomaterials	<b>Subject ID</b>	GB—c6042—S		
<b>Instructors</b>	横井 太史[YOKOI Taishi]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Department of Inorganic Biomaterials, Institute of Biomaterials and Bioengineering					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
We will discuss recent topics in basic research and clinical applications in the field of ceramic biomaterials such as calcium phosphates. Focusing on research papers selected from special journals, we will investigate the latest research trends on ceramic biomaterials and discuss the possibility of development of new ceramic biomaterials.					
<b>Course Objective(s)</b>					
To learn about recent topics in fundamental and applied research in the field of ceramic biomaterials, find current problems on your own, and propose solutions for the problems.					
<b>Lecture Style</b>					
All courses are carried out in a small group in order to learn fundamental knowledge and skills about ceramic biomaterials.					
<b>Course Outline</b>					
To search recent research papers on ceramic biomaterials and discuss about the papers in order to develop knowledge on ceramic biomaterials.					
<b>Grading System</b>					
Grades based on participation in lecture, practice and lab (80%) and publication in scientific journals and presentation at conference (20%). Lab: The grading is comprehensively evaluated based on grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
It is desirable to review high-school level chemistry and physics.					
<b>Reference Materials</b>					
セラミックバイオマテリアル／岡崎正之, 山下仁大編著；尾坂明義 [[ほか] 共著, 岡崎, 正之, 山下, 仁大, 尾坂, 明義, 石川, 邦夫, 大槻, 主税, 井奥, 洪二, 中村, 美穂(生体材料), 上高原, 理暢.; コロナ社, 2009 An Introduction to bioceramics./ editor, Larry L. Hench, Hench, Larry L.; Imperial College Press, 2013					
<b>Important Course Requirements</b>					
None					
<b>Note(s) to Students</b>					
None					
<b>Email</b>					
yokoi.taishi.bcr@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
Monday, PM3:00-PM5:00, Building 21, 3rd floor, room 301B					

<b>Lecture No</b>	0363026				
<b>Subject title</b>	Advanced Bio-molecular Design	<b>Subject ID</b>	GB—c6043-S		
<b>Instructors</b>	影近 弘之, 位高 啓史, 福島 雄大[KAGECHIKA HIROYUKI, ITAKA Keiji, FUKUSHIMA Yuuta]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
<p>This course will be a focused study of novel mRNA therapeutics, research techniques, and how these approaches will be used in potential treating human diseases and life science. Topics will include mRNA therapeutics and new techniques including Cell fate conversion (Direct reprogramming by transcription factors) into functional cells, and vaccines with a focus understanding upon recent research papers and comprehensive research technical skills.</p>					
<b>Lecture place</b>					
Place specified by the instructor(3rd floor in Building no.21 and other)					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
<p>The purpose of this course is to learn novel mRNA therapeutics, research techniques, and how these approaches will be used in potential treating human diseases and life science. Topics will include mRNA therapeutics and new techniques including Cell fate conversion (Direct reprogramming by transcription factors) into functional cells, and vaccines.</p>					
<b>Course Objective(s)</b>					
<p>The goal is to learn abilities and skills of research proposal, solving issues and strategic discussion useful for scientific paper reading, experimental design and development of therapeutics.</p>					
<b>Lecture Style</b>					
Seminar or individual styles for students by instructors in seminar room or research lab.					
<b>Course Outline</b>					
<p>Purposes described as above.</p> <p>Time Schedule;</p> <p>Progress Report Seminar; weekly held on Tuesday, Time; 16:00 – 17:00</p> <p>Journal Seminar; weekly held on Tuesday, Time; 17:00 – 18:00</p> <p>Research program will be held as required.</p>					
<b>Grading System</b>					
<p>Grade evaluation; participation in research programs, publishing paper and presentation at external conference, 80% publishing of research paper or presentation in conference, 20% productive activities in research participation including 50% intermediate evaluation.</p>					
<b>Prerequisite Reading</b>					
NA					
<b>Reference Materials</b>					
<p>Islet Equality 糖尿病における再生医療の最新知見／稲垣暢也,長船健二, 松本征仁, 山口智之:メディカルレビュー社, 2017</p> <p>ダイレクトリプログラミング = Direct reprogramming : 再生医療の新展開／鈴木淳史 監修,鈴木, 淳史, 解剖学:エヌ・ティー・エス, 2020</p>					

<b>Lecture No</b>	0363011				
<b>Subject title</b>	Molecular Cell Biology			<b>Subject ID</b>	GB—c6012-S
<b>Instructors</b>	澁谷 浩司, 後藤 利保, 佐藤 淳[SHIBUYA HIROSHI, GOTO TOSHIYASU, SATO ATSUSHI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Since the venue is depended on programs, please confirm the venue to the course instructor before classes.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
The morphogenesis and the organogenesis of the vertebrate are established by various signal molecules deriving cells spatiotemporally. In addition, the failure of these many signal molecules induces the diseases. Therefore, the course purpose is the understanding of the mechanism for morphogenesis, organogenesis and diseases induction by the signal network controlling development and cell differentiation.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Course objectives are encouraging of the researcher who studied such as the developments to various fields based on the research field of the signal transduction regulating the cell function in the morphogenesis, organogenesis and the induction of diseases by mastering how to make the article and how to lead research including the related fields.					
<b>Lecture Style</b>					
Small group instruction is held as possible to allow students to participate frequently in discussions.					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline:This course focuses on the mechanisms of cellular function in morphogenesis and tissue genesis based on the signal transduction pathway. It contains preparation and discussion for reading and writing the related research papers.					
Available programs:Seminar Monday 16:30-17:30					
Lab					
Goals/outline:For understanding the mechanisms of cellular function in morphogenesis and tissue genesis based on the signal transduction pathway, graduate students have actual experiences about research planning, advanced technology and discussion of study.					
Available programs:					
Participation in research group as the occasion demands.					
The experiments of Molecular Cell Biology as the occasion demands.					
The outlines: 1) Analysis of gene expression at the level of nucleic acids and proteins.					
2) Analysis of the interaction of signaling molecules.					
3) Analysis of cell differentiation using the cell culture system.					
4) Analysis of tissue sections by immunohistochemistry.					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b>					
Grading will be undertaken based on lecture/practice participation and performance in our seminar and various meetings.					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None.					

<b>Lecture No</b>	0363012				
<b>Subject title</b>	Developmental and Regenerative Biology		<b>Subject ID</b>	GB—c6013-S	
<b>Instructors</b>	仁科 博史, 小藤 智史, 岡本 好海[NISHINA HIROSHI, KOFUJI Satoshi, OKAMOTO Yoshim]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:All classes are taught in Japanese.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose:It is the mission of these lectures to provide a wide spectrum of knowledge covering recent advanced in developmental and regenerative biology and basic medicine that can be used by students to conduct their own research projects.					
Outline:This course covers the human development from the fertilization to the postnatal maturation with an emphasis on embryonic development. We will discuss how modern molecular and genetic approaches are advancing the fundamentals of perinatal medicine and developmental biology. Special emphasis will be placed on developmental genetic disorders and the prospect of using stem cells in regenerative therapy. An additional objective of the course is to learn about research techniques and their application to currently unresolved issues and envisage new paradigms in medicine.					
<b>Course Objective(s)</b>					
To acquire a wide spectrum of knowledge covering recent advanced in developmental and regenerative biology					
<b>Lecture Style</b>					
Lecture					
<b>Grading System</b>					
Examination(report) and Attendance					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Basic knowledge on molecular biology					
<b>Reference Materials</b>					
Scott F. Gilbert Developmental Biology					
<b>Email</b>					
NISHINA HIROSHI:nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
NISHINA HIROSHI:on Thursdays between 10:00-12:00 noon 21F, M&D Tower					

<b>Lecture No</b>	0363037				
<b>Subject title</b>	Homeostatic Medicine	<b>Subject ID</b>	GB—c6099—S		
<b>Instructors</b>	豊島 文子[TOYOSHIMA Fumiko]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> M&D Tower 19F					
<b>Course Purpose and Outline</b> This course aims to provide you with the basic knowledge and latest trends in stem cell research, basic techniques for biochemical and animal experiments, and the fundamentals of life science research.					
<b>Course Objective(s)</b> This course aims to enable you to identify unsolved problems in life science research, formulate a working hypothesis, design an experiment, discuss the results and plan the next experiment. To be able to summarize research findings and present them in academic conferences and papers.					
<b>Lecture Style</b> Laboratory seminar and one-to-one tuition.					
<b>Course Outline</b> Select a recent paper of high scientific importance in the field of life science and medical research, understand the research background and scientific significance of the paper with reference to a review article, and present the paper in a laboratory seminar. Learn the latest techniques and discuss how they can be applied to your own research.  Experiments will be conducted on 1) organ remodeling mechanisms during life stages, 2) molecular mechanisms responsible for maternal-fetal interactions, and 3) mechanisms of homeostatic alteration by physiological and social stress using mouse and human samples.					
<b>Grading System</b> Evaluation will be based on participation in laboratory seminar, research experiments, presentations in conferences, publication of papers, and interim advice.					
<b>Prerequisite Reading</b> Basic knowledge of molecular biology and biochemistry of cells and tissues as well as genetically engineered mice is required.					
<b>Reference Materials</b> Molecular Biology of the Cell					
<b>Email</b> toyoshima.hm@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b> Mon-Fri, AM.10:00-PM.5:00 M&D Tower 19F					

<b>Lecture No</b>	0363036				
<b>Subject title</b>	Advanced Nanomedical Engineering	<b>Subject ID</b>	GB—c6098-S		
<b>Instructors</b>	内田 智士[UCHIDA SATOSHI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Laboratory at the department of advanced nanomedical engineering (24F north, M&D tower)					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Our department focuses on developing next-generation biopharmaceuticals, including nucleic acid and messenger RNA (mRNA) therapeutics. The development covers a broad research area, including developing nano-drug delivery systems (DDS), biological evaluation, applications to vaccines and disease treatment, and social implementation. Students will get expertise and a comprehensive view of the research fields and design and perform their research.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students are expected to lead in developing next-generation therapeutics in academia or companies after graduation.					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Students will read literature about basic research and therapeutic applications of nano DDS, nucleic acid, and mRNA. They will also discuss the topics to deepen their knowledge and advance their research.					
Lab					
Students will design and perform research in developing nano DDS, evaluating its biological function, and applying it to vaccines and disease treatment.					
<b>Grading System</b>					
Students will be graded on research quality, conference presentation, paper publication, and attendance at a laboratory.					
The grade of the lab will be comprehensively evaluated. Moreover, fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Students with any research background are welcome.					
<b>Email</b>					
uchida.anme@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
10 a.m. to 6 p.m. on Monday to Friday, Advanced Nanomedical Engineering, 24F north, M&D tower					

<b>Lecture No</b>	0363015				
<b>Subject title</b>	Structural Biology		<b>Subject ID</b>	GB—c6017-S	
<b>Instructors</b>	伊藤 暢聡, 沼本 修孝, 花園 祐矢[ITO NOBUTOSHI, NUMOTO NOBUTAKA, HANAZONO Yuuya]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
The venue will change according to the contents. Check with the lectures in advance.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Students will learn the methods to overexpress, purify and crystalize proteins and analyze their 3D structure by X-ray crystallography. Further application of the structure information such as modelling will be also performed.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students are expected to become capable of planning and accomplishing research of the structural analysis of biological macromolecules as well as their further application, such as homology modeling.					
<b>Lecture Style</b>					
Discussion will be done in a small group and active involvement is expected.					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline:The students would learn theoretical basis of the structure determination, mainly X-ray crystallography, of proteins and other biomacromolecules. Recent advances in the field will be also discussed in seminars.					
Available programs:Lab Seminar Thursday 16:00~18:00					
Lab					
Goals/outline:The students will learn lab techniques related to large-scale production, purification and crystallization of protein samples. They will also learn computational methods to determine and refine crystal structures.					
Available programs:Progress Report. As required (approximately one hour per week)					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b>					
Comprehensive assessment based on attendance and achievements. External publications such as conferences and journal papers are also taken into account.					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
It is desirable for students to attend in advance the lecture course for handling radioactive isotopes provided by the University.					
<b>Important Course Requirements</b>					
n/a					
<b>Note(s) to Students</b>					
n/a					



<b>Lecture No</b>	0363031				
<b>Subject title</b>	Biomolecular Pathogenesis	<b>Subject ID</b>	GB—c6084-S		
<b>Instructors</b>	松田 憲之[MATSUDA Noriyuki]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
In principal, all classes are taught in Japanese. If the international student wants to register this subject for credits, please contact the instructor in advance.					
<b>Lecture place</b> M&D tower (North), 23th FL, Room N2301					
<b>Course Purpose and Outline</b> The purpose of this course is to learn how to describe and discuss the recent advances in the neurodegenerative disease upon understanding the molecular mechanisms underlying proteostasis and organellostatis such as ubiquitylation and autophagic degradation. Cultured cells are used as the basic research material, however mice and more basic model organisms (i.e., yeast and E. coli) are used if needed.					
<b>Course Objective(s)</b> Objective of this course is to be able to put forward a novel hypothesis in the pathology of neurodegenerative disease, and to lead the study to address the hypothesis using advanced theory and technology.					
<b>Lecture Style</b> Both practice and activity in the laboratory will be provided to a small number of students so that they can deepen the knowledge on the molecular pathogenesis of neurodegenerative disease through discussion.					
<b>Course Outline</b> Practice Goals/outline: The objective of the practice is to ensure that graduate students develop an extensive knowledge in the field of “the molecular mechanisms underlying neurodegenerative disease” through reading, presenting and discussing the related papers in English.  Lab Goals/outline: Comprehensive understanding of the molecular mechanisms underlying neurodegenerative disease. the higher brain function needs interdisciplinary approach ranged from the molecular biology to the behavioral analysis. The objective is 1) to learn the basic technologies in molecular neuroscience and 2) to design and conduct the biological experiments and discuss the findings. Cultured cells are used as the basic research material, however mice and more basic model organisms (i.e., yeast and E. coli) are used if needed. The students are supposed to prepare their Ph.D thesis by addressing a novel hypothesis which they make based on the previously known facts. Available programs: 1) Molecular biological experiments: as occasion 2) Cell biological experiments: as occasion 3) Biochemical experiments: as occasion ※Contact the instructor in charge for the program that is not specifically scheduled.”					
<b>Grading System</b> The students are evaluated based on the contribution to publication, presentation in the academic meeting, contribution to discussion during programs and the thesis. The grade of Lab will be comprehensively evaluated. The fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Grading Rule</b> The same above. For Lab, 50% will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					

Instructions will be provided at the first lecture, if necessary.

**Important Course Requirements**

Instructions will be provided if necessary.

**Note(s) to Students**

Not applicable

<b>Lecture No</b>	0363017				
<b>Subject title</b>	Bio-informational Pharmacology			<b>Subject ID</b>	GB—c6019-S
<b>Instructors</b>	未定				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English. We use at least the scientific tools and the technical terms in English.					
<b>Lecture place</b>					
It will be mainly held in seminar rooms at 19 floor of M&D tower, which will be announced in advance.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
This course is an introduction to the basic principles of understanding the severity of congenital heart diseases. To address these mechanisms, we are focusing on TBX5, SALL1/4 as known as Genes of Heart-Hand Syndromes, and novel epigenome factors associating with TBX5, SALL1/4. In our group, we will produce a novel concept from the evidence of the experiments and theories as well as peoples needed in the world.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The objective of this course is to develop a working knowledge of cardiac physiology and pharmacology that will assist the students in pursuing fundamental biological questions.					
<b>Lecture Style</b>					
In general, it will be held with few attendances. We will encourage question and discussion to promote interaction between lecturer and attendances.					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline:For understanding cardiac diseases such as congenital heart defects, fatal arrhythmias, sudden cardiac death and gender differences, you will study heart development in mammalian models with the molecular, the physiological techniques and discussion. The goal is to obtain a firm confidence and new idea for the regenerative medicine in future via proceeding to your own research project.					
Available programs:					
Lecture TBA					
Special Lecture TBA					
Seminar TBA					
Journal Club once a week, every Friday 17:00-19:00					
Deep Discussion, every Tuesday 10:00-12:00					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
Lab					
Goals/outline:Using multi-disciplinary approach including molecular, genetic, and electrophysiological techniques, we will study unproven important cardiovascular theme shown below.					
Available programs:					
Participation in a research group as follows;					
(1) Understanding key roles of epigenetic factors in heart development and diseases					
(2) Generating individual/stable cardiomyocytes such as ventricular/atria/pacemaker cells from ES/iPS cells for understanding heart disease					
(3) Generating transgenic mice model for understanding heart development and disease using CRISPR-CAS system					
(4) Understanding the mechanisms of gender heart diseases					
(5) Understanding regenerative mechanisms in mammalian heart					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b>					
It will be given depending on the attendance (80%) and/or presentation in scientific meetings (20 %).					

The grade of Lab (6000) will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.

**Prerequisite Reading**

The Journal Club assumes your prior reading of the pre-assigned journal article.

Contact by e-mail one week prior to the Journal Club.

**TextBook**

新先天性心疾患を理解するための臨床心臓発生学／山岸敬幸, 白石公編集, 山岸, 敬幸, 白石, 公,:メジカルビュー社, 2021

Heart development and regeneration / edited by Nadia Rosenthal and Richard P. Harvey / Rosenthal, Nadia, Harvey, Richard P. ; Elsevier/Academic Press, 2010

Clinical Cardiac Embryology for Understanding Congenital Heart Disease (Hiroyuki Yamagishi / Isao Shiroishi)

**Reference Materials**

Heart Development and Regeneration volumn 1 and 2 (Nadia Rothential & Richard Harvey. ACADEMIC PRESS)

**Relationship With Other Subjects**

Developmental Biology (Scott F. Gilbert) Tenth Edition

<b>Lecture No</b>	0363032				
<b>Subject title</b>	Functional Genomics in Disease	<b>Subject ID</b>	GB—c6085-S		
<b>Instructors</b>	未定				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course can be taught in English upon request.					
<b>Lecture place</b> Either in-person (at M&D Tower 24F) or online.					
<b>Course Purpose and Outline</b> The aim of this class is to understand the pathomechanisms of hereditary intractable diseases such (e.g. neurological diseases, muscular dystrophies) by means of genomic analysis and molecular biology. In addition, students will learn about the latest research trends in this field.					
<b>Course Objective(s)</b> The target of this class is to learn molecular biology and genomic data analysis methods.					
<b>Lecture Style</b> Guidance will be given in small groups or individually.					
<b>Course Outline</b> Students will select a subject related to hereditary diseases, analyze public/in-house data, then experimentally test the hypothesis obtained by the data analysis.					
<b>Grading System</b> Participation (60%) and attitude (40%)					
<b>Prerequisite Reading</b> We will give an instruction each time. Prepare for the class accordingly.					
<b>Important Course Requirements</b> It is recommended to have basic knowledge about molecular biology and molecular genetics in advance.					
<b>Note(s) to Students</b> Please contact the person in charge before taking this course.					

<b>Lecture No</b>	0363019				
<b>Subject title</b>	Epigenetic Epidemiology	<b>Subject ID</b>	GB—c6022—S		
<b>Instructors</b>	未定				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> M&D tower24F					
<b>Course Purpose and Outline</b> Course Purpose and Outline To understand genomics and epigenomics of common metabolic diseases such as hypertension, diabetes, metabolic syndrome, and atherosclerosis by employing human genomic and epigenomic approaches to epidemiology. Environmental influences on epigenetic changes and gene–environment interaction modify sensitivity for these diseases. The overall goal is to improve the genomic literacy skills, to learn bioethics in genome medicine and to understand the fundamentals in the application of genetic (and/or epigenetic) information to preemptive healthcare in the future.					
<b>Course Objective(s)</b> Course Objective(s) To understand (1) the concepts and methods of epidemiology and genetic epidemiology, (2) fundamentals of gene regulation and epigenetics, (3) mammalian development and transgenerational response to early–life experience, (4) the idea of Developmental Origin of Health and Disease (DOHaD) hypothesis and its relevant unsolved questions.					
<b>Lecture Style</b> Lecture Style Lectures will be done in a small group. Practice and lab work will be taught in a one-on-one manner.					
<b>Course Outline</b> Course Outline Practice Goals/outline: The learning objectives are to (1) have a basic understanding of genetic epidemiology and association approaches for searching disease susceptibility genes, (2) be able to study their interaction with environmental factors, (3) be able to analyze the epigenetic states associated with the disease phenotype and their relation to the genetic and environmental factors. reading, current literature related to the relevant topics are critically reviewed and discussed. Available programs: Lecture Indicated by your supervisor In the journal discussions and/or the book Seminar/ Journal Club Every Thursday morning 10 AM to 12 AM Lab Goals/outline:For the assigned research project, the methods for genomic and statistical analysis, epigenetic analysis, gene and protein expression analysis, cell culture and animal experiment will be taught. Available programs: 1. Effects of intrauterine environment on neonate epigenome 2. The molecular mechanisms underpin DOHaD phenomena (animal experiment) 3. Gene–environment interaction in common disease 4. Development of integrated personal disease risk assessment system ※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b> Grading will be done by the attendance and the presentation at the lab meeting and the achievement of the individual research project. Evaluation standard.					
<b>Grading Rule</b> Presentation and participation to the Lecture, lab meeting and lab works : 80 % Research publication (conference etc.): 20% The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid–term advice.					

**Prerequisite Reading****Reference Materials**

- (1) A statistical approach to genetic epidemiology / Andreas Ziegler and Inke R. König. (Wiley-Blackwell)
- (2) Early life origins of human health and disease / Newnham JP and Ross MG (Karger)
- (3) Epigenetic Epidemiology / Karin B. Michels (Springer)
- (4) Exploring Personal Genomics (Oxford University Press)

**Important Course Requirements**

It is desired to have basic knowledge of molecular biology and molecular genetics.

<b>Lecture No</b>	0363024				
<b>Subject title</b>	Functional Genome Informatics	<b>Subject ID</b>	GB—c6041—S		
<b>Instructors</b>	二階堂 愛[NIKAIDO Itoshi]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
2458, Functional genome informatics, 24F, M & D Tower					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
The aim of this course is to acquire and establish the genome science viewpoint over biological phenomena. The basic skill for genomics research, such as single-cell omics, bioinformatics analysis, should also be acquired.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Understand the concept of genome science and bioinformatics. Establish the research skill for basic genomics and bioinformatics analysis.					
<b>Lecture Style</b>					
Interactive lecture, presentation, and discussion in a small group. To get good skills for transcriptome analysis including RNA-seq or bioinformatics analysis.					
<b>Grading System</b>					
The evaluation will be based on the participation in lectures, exercises, and research practices, as well as external presentations or publications: Attendance: eighty percent. Presentation on academic conferences or publication of international scientific journal: 20% And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Instruct at the first lecture, if necessary.					
<b>Exam eligibility</b>					
No requirements					
<b>Email</b>					
dritoshi@gmail.com					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
AM.9:00–10:00, Every Monday at 2458, M&D tower (or Zoom)					



<b>Lecture No</b>	0363030				
<b>Subject title</b>	Medical Chemistry	<b>Subject ID</b>	GB—c6048-S		
<b>Instructors</b>	瀬川 勝盛[SEGAWA Katsumori]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> Please ask instructors about the lecture room before taking the course, as it varies by program.					
<b>Course Purpose and Outline</b> To understand mechanisms for maintaining cellular homeostasis, sensing and response to various biological substances. In addition, we will understand how the disruption of these systems causes diseases and how they have been applied in clinical practice.					
<b>Course Objective(s)</b> To understand the various mechanisms of cellular homeostasis and find the important unsolved questions in the field. The goal is to propose how we solve the questions and what kind of experiments are required.					
<b>Lecture Style</b> Classes will be conducted in seminar format. We will individually supervise research practice.					
<b>Course Outline</b> Class: We will discuss articles of scientific and clinical importance in all areas of life science and medical research. We will discuss the validity of research design, interpretation of results, discussion, and learn research strategies for life science research.  Research: We will supervise the fundamentals of biochemistry and molecular genetics experiments to elucidate the molecular mechanisms of cellular homeostasis.					
<b>Grading System</b> Class: Evaluation will be based on the discussion in the class (100%).  Research: Evaluation will be based on laboratory research activities and the committee's mid-term advising evaluation.					
<b>Prerequisite Reading</b> Instruct at the first class if necessary.					
<b>Reference Materials</b> Molecular biology of the cell/Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John Wilson, Tim Hunt,Johnson, Alexander D,Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-: Garland Science, Taylor and Francis Group, 2015					

<b>Lecture No</b>	0363020				
<b>Subject title</b>	Practice of RIKEN Molecular and Chemical Somatology	<b>Subject ID</b>	GB—c6024-S		
<b>Instructors</b>	岸田 晶夫, 谷内 一郎, 石垣 和慶, 田中 元雅, 萩原 伸也, 今見 孝志, 渡邊 力也 [KISHIDA AKIO, Ichiroh Taniuchi, ISHIGAKI Kazuyoshi, Motomasa Tanaka, HAGIHARA Shinya, IMAMI Takashi, WATANABE Rikiya]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: English will be used in all of the classes.					
<b>Lecture place</b>					
Practice: Main Research bldg. in RIKEN Wako Campus, or RIKEN Center for Brain Science (Wako), RIKEN Center for Integrative Medical Sciences in Riken Yokohama Campus. Research Practice: Each Laboratory in RIKEN					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Students will learn roles of biomolecules, which are involved in Chemical Biology, Molecular Immunology, Molecular Neuropathology, and the latest techniques and theoretical skills for understanding Molecular and Chemical Somatology.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will learn background, history, essential knowledge, and practical protocols, so that they objectively discuss about their results in order to design and perform further experiments.					
<b>Lecture Style</b>					
Practice: Lecture and Laboratory Research Practice: Laboratory					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline: Students will learn essential knowledge and practical protocols required for the studies on Molecular and Chemical Somatology by reading the latest publications and discussing about the contents therein					
Lab					
Goals/outline: Students will learn essential knowledge and practical skills required for research in Molecular and Chemical Somatology.					
Available programs:					
1) Molecular Neuropathology					
•Molecular basis of psychiatric disorders and neurodegenerative diseases (Motomasa Tanaka)					
2) Proteomics					
•Measurement of proteins and protein synthesis through mass spectrometry analyses (Koshi Imami)					
3) human genome medical biology					
•Analysis of NGS data to characterize disease related gene variant (Kazuyoshi Ishigaki)					
4) Molecular Immunology					
•Regulatory mechanisms for lymphocyte development (Ichiro Taniuchi)					
5) Molecular Cellular Pathology					
•Chemical genetics approach for understanding regulation mechanism of physiological function in plants (Shinya Hagihara)					
6) Single molecule Bio-physics					
•Development of novel digital-bio analysis for disease associated molecules (Rikiya Watanabe)					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b>					
Practice: Attendance (40%), Report (60%)					
Research Practice: Outcomes of experiments (40%), Presentations at conferences/meetings(40%), Report (20%)					

The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.

**Prerequisite Reading**

For Practice, carefully read the papers assigned as well as important reference papers cited therein, and learn and discuss how the results were obtained and how the conclusions were drawn. For Research, carefully design and prepare for every experiment based on one's purpose.

**Reference Materials**

Chemical Biology (L. Schreiber, T. Kapoor, G. Weiss Ed, WILEY-VCH), PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES – Chemical Biology Techniques and Applications (H. Osada Ed, Wiley)

<b>Lecture No</b>	0363022				
<b>Subject title</b>	NCC Cancer Science			<b>Subject ID</b>	GB—c6026—S
<b>Instructors</b>	岸田 晶夫, 鈴木 啓道, 吉見 昭秀, 吉田 健一, 武田 はるな, 小幡 裕希, 吉岡 研一[KISHIDA AKIO, SUZUKI Hiromichi, YOSHIMI Akihide, YOSHIDA Kenichi, TAKEDA Haruna, OBATA Yuuki, YOSHIOKA Ken-ichi]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
The venue depends on each research group. Please confirm the instructor and/or staff before the course.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
To conduct her/his research as an independent cancer researcher in the future, students learn knowledge and skills for cancer research, perform her/his experiments, attend lectures and seminars, and practice research and scientific meetings.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The students learn to be able to perform his/her experiments, summarize and discuss the results, make the next experimental plan, and finally report his/her results as the first author in scientific meetings and scientific journals by his/herself.					
<b>Lecture Style</b>					
Tutorial approach in principle. Small group instruction is also held.					
<b>Course Outline</b>					
Students participate in one of 5 major projects.					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Genomic, transcriptomic, epigenomic, and proteomic analysis of cancer and personalized medicine</li> <li>2. Genetic analysis in normal tissue and early carcinogenesis</li> <li>3. Genome instability and their impact on carcinogenesis</li> <li>4. Functions of cancer-associated genes and their alteration and therapeutic targets</li> <li>5. Tumor microenvironment/Cancer stem cells/non-coding RNA/signaling pathway</li> </ol>					
<b>Practice</b>					
Goals/outline: To learn knowledge and skills for cancer research, students attend lectures and seminars, and attend and/or practice research meetings, journal clubs, scientific meetings, etc. These practices will enable students to develop an ability to conduct their studies as an independent cancer researcher in the future.					
Available programs: Lecture, Seminar, Research meeting, Presentation, Journal club					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Lab</b>					
Goals/outline: To obtain good skills to carry out experiments that are required for cancer research, students belong to one of our research groups, and conduct their own studies under the guidance of the instructor and/or staff. Students perform various experiments involved in genetics, gene technology, biochemistry, cellular biology, molecular biology, physiology, experimental animal, pathology, genomic/epigenomic/proteomic analysis, imaging, next generation sequencing, bioinformatics, machine learning, tumor immunology, etc.					
Available programs: To obtain good skills to carry out experiments that are required for cancer research, students belong to one of our research groups, and conduct their own studies under the guidance of the instructor and/or staff. Students perform various experiments involved in genetics, gene technology, biochemistry, cellular biology, molecular biology, physiology, experimental animal, pathology, genomic/epigenomic/proteomic analysis, imaging, next generation sequencing, bioinformatics, machine learning, tumor immunology, etc.					
<b>Grading System</b>					
Lecture/meeting/practice participation and performance					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Basic knowledge of cancer genetics, molecular biology, and biochemistry is required.					

**Reference Materials**

Textbooks, references, and papers are suggested during lectures.

**Note(s) to Students**

Please contact the instructor and/or staff before the course.

<b>Lecture No</b>	0363023				
<b>Subject title</b>	Cellular and Molecular Medicine	<b>Subject ID</b>	GB—c6027—S		
<b>Instructors</b>	佐々木 純子[SASAKI Junnko]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
This course is held in the seminar room (to be determined) in the M&D tower.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Main purpose of this course is to understand the importance of phospholipid metabolism in various cellular responses.					
<b>Course Objective(s)</b>					
In addition to basic experimental skills, students are expected to have logical and scientific thinking and propose and achieve new hypotheses.					
<b>Lecture Style</b>					
Interactive lecture, presentation and discussion in a small group					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Acquire lipid biochemical, cellular biological and molecular biological techniques. Read research articles and develop scientific thinking.					
Seminar &Journal club: every Monday, AM					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
Lab					
Goals/outline:Research projects focusing on 1) the molecular mechanism of several diseases caused by aberrant phospholipid metabolism using mouse models, 2) development of a new method for the analysis of phospholipids and 3) find the novel functions of membrane phospholipids.					
<b>Grading System</b>					
Comprehensive assessment based on attendance and achievement.					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None					
<b>Email</b>					
isjunko.pip@mri.tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
Mon.–Fri. AM.10:00–PM.5:00 M&D Tower 19F					

<b>Lecture No</b>	0363027				
<b>Subject title</b>	Interdisciplinary Sciences		<b>Subject ID</b>	GB—c6044-S	
<b>Instructors</b>	檜枝 光憲, 奈良 雅之, 中林 潤, 柳下 和慶, 徳永 伸一 [HIEDA MITSUNORI, NARA MASAYUKI, NAKABAYASHI Junn, YAGISHITA KAZUYOSHI, TOKUNAGA SHINICHI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
We broaden our knowledge in this field targeting border areas that have not been dealt with in conventional medicine and biology, such as spectral analysis of biomolecules, AI image analysis of pathological tissue and healing promotion by hyperbaric oxygen environment, by carefully reading and discussing English academic papers. Then, learn about the latest research methods in those research fields.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The goal is to grasp biological phenomena from various perspectives of molecular levels and use them for each research activity.					
<b>Lecture Style</b>					
By carefully reading the English academic reports in the research field and introducing the contents, and by repeating discussions, you can broaden your knowledge in the field and acquire the latest research methods.					
<b>Grading System</b>					
Grades are evaluated comprehensively based on the content of statements such as discussions and attitudes toward exercises. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Instruct at the first exercise if necessary.					
<b>Email</b>					
HIEDA MITSUNORI:hieda.las@tmd.ac.jp NAKABAYASHI Junn:nakab.las@tmd.ac.jp TOKUNAGA SHINICHI:tokunaga.las@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b>					
HIEDA MITSUNORI:Wednesday 12:20~13:00 NAKABAYASHI Junn:Mon - Fri A.M. 10:00 - P.M. 05:00 Kohnodai campus 4th floor room9					

<b>Lecture No</b>	0363028				
<b>Subject title</b>	Data Science Algorithm Design and Analysis	<b>Subject ID</b>	GB—c6045-S		
<b>Instructors</b>	坂内 英夫[BANNNAI Hideo]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> M&D Data Science Center (Building 22, 5F)					
<b>Course Purpose and Outline</b> To learn theoretical and practical aspects of designing efficient algorithms and data structures for processing large scale data and applying them to various medical data.					
<b>Course Objective(s)</b> To learn the basics of algorithm theory and implementation techniques, as well as being able to conduct research on the design, analysis, and applications of new algorithms for efficiently processing and analyzing various medical data.					
<b>Lecture Style</b> Presentations at seminars and discussions in a small group.					
<b>Course Outline</b> Practice: Presentation of the latest results in the field of algorithms such as strings and sequential data processing (pattern matching/searching, feature extraction/discovery, compression/compressed processing etc.) at seminars, as well as discussions on how to improve them, in order to develop basic skills to conduct research independently.  Lab: Finding algorithmic issues in the processing/analysis of various medical, and developing/implementing/analyzing/evaluating new algorithms and data structures to address them.					
<b>Grading System</b> Grades will be based on a comprehensive evaluation of attendance and participation in seminars and discussions, as well as research output.					
<b>Grading Rule</b> Attendance, participation 80%, research output: 20%. For Lab, 50% will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b> None.					



<b>Lecture No</b>	0363029				
<b>Subject title</b>	AI Technology Development	<b>Subject ID</b>	GB—c6046—S		
<b>Instructors</b>	坂内 英夫[BANNNAI Hideo]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Lab. Department of AI technology development, M&D Data Science Center (5th floor, Building 22)					
<b>Course Objective(s)</b>					
This course aims to study fundamental knowledge for understanding statistical modeling and artificial intelligence, and encourages students to learn analysis of complex data obtained from medical and healthcare area based on the statistical and AI methodologies.					
<b>Lecture Style</b>					
Reading and discussing papers.					
<b>Course Outline</b>					
– Practice					
Goals•outline:					
Various large scale-omics projects provide huge amounts of complex data, thus effective statistical•AI approaches to analyze the huge amount of complex biomedical data are becoming more and more important. The course covers fundamentals of statistical modeling, machine learning and AI technologies for biomedical data analysis. The cutting-edge trends in research on the technologies will be discussed. The drawback of existing methods and advanced technologies to overcome the drawback will be addressed.					
Available programs: Lab Seminar (reading and discussing papers)					
– Lab					
Goals•outline:					
Students are encouraged to acquire skill for identifying crucial information from complex biomedical data.					
Available programs: Lab Seminar (reading and discussing papers)					
<b>Grading System</b>					
The evaluation is based on attitude and performance in class and academic achievements (publication and presentation at conference).					
<b>Grading Rule</b>					
The evaluation is based on attitude and performance in class assignment and academic achievements (publication and presentation at conference).					
– Attitude and performance in class assignment: 60%					
– Academic achievements: 40%					
For Lab, 50% will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Nothing.					
<b>Module Unit Judgment</b>					
6 units					
<b>TextBook</b>					
Handouts will provide online or paper in class (If needed)					
<b>Reference Materials</b>					
Handouts will provide online or paper in class (If needed)					
<b>Email</b>					
hdbn.dsc@tmd.ac.jp					

<b>Lecture No</b>	0363038				
<b>Subject title</b>	Molecular and Mechanistic Immunology	<b>Subject ID</b>	GB—c6100—S		
<b>Instructors</b>	加藤 一希[KATO KAZUKI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
building3, 9th floor Molecular and Mechanistic Immunology					
<b>Grading System</b>					
For Lab, 50% will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					

<b>Lecture No</b>	0363039				
<b>Subject title</b>	Computational Drug Discovery and Design			<b>Subject ID</b>	GB—c6101—S
<b>Instructors</b>	石谷 隆一郎[ISHITANI RYUICHIRO]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	6
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> M&D Tower 25F					
<b>Course Purpose and Outline</b> The goal is to master the application of deep learning and molecular simulation techniques using the three-dimensional structure of biological macromolecules. The program includes close reading and presentation of papers in related fields, participation in and discussion of laboratory seminars, and research and development of new techniques.					
<b>Course Objective(s)</b> The goal is for students to be able to formulate their own research questions, solve problems, develop new methods, and clarify scientific findings.					
<b>Lecture Style</b> Lectures will introduce students to the physics, applied mathematics, and statistics behind molecular simulation and machine learning, with an eye toward their application to structural biology, through reading and discussion of textbooks and recent literature. In the lab, students will analyze and develop methods using real three-dimensional structural data.					
<b>Grading Rule</b> Evaluation will be based on participation in lectures, exercises, and research training, as well as external presentations (conferences, papers) of research content, with the following percentages as guidelines. Participation in lectures, exercises, and research training: 80% Presentations of research results (conferences, papers): 20% For research practice, 50% of the grade will be based on the mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b> Instructions will be given during the initial introductory session, if necessary.					
<b>Exam eligibility</b> N/A					
<b>Email</b> r.ishitani@tmd.ac.jp					
<b>Instructor's Contact Information</b> M&D Tower 25F (Ext. 4175)					

<b>Lecture No</b>	0363113				
<b>Subject title</b>	Anatomical and Pathological Sciences	<b>Subject ID</b>	GB—c6100—S		
<b>Instructors</b>	星 治[HOSHI OSAMU]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> Research room of Anatomical and Pathological Sciences					
<b>Course Purpose and Outline</b> ① Learning the methodology of analysis of the relationship between anatomical and physiological information in a living body. Acquiring research methods based on electron microscopy and atomic force microscopy. (Instructor: HOSHI OSAMU)  ② We educate the students to be global and clinical-based researchers and study abroad and inside Japan avidly. In this practice, students will acquire theories and methods of pathology and molecular pathology that can elucidate the cause and etiology of diseases. (Instructor: SOEJIMA YURIE)					
<b>Course Objective(s)</b> Acquiring the ability to research on one's own.					
<b>Lecture Style</b> Reading papers and discussion.					
<b>Course Outline</b> 【Outline① Instructor: Hoshi】 Practice Goals/outline: Students are expected to understand the fundamentals, recent topics and technology on cellular biology. Available programs: Seminar : every Monday, PM ※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.  Lab Goals/outline: Students are expected to master the skill of electron microscopic and atomic force microscopic analysis of biological specimens. Available programs: Research projects focusing on 1) application of atomic force microscopy to biological fields, 2) analysis of dynamics of growth cones of neurons and 3) analysis of high-order structure of human chromosomes. ※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.  【Outline② Instructor: Soejima】 Practice Goals/outline: Students are expected to understand the fundamentals and advances of pathology and cytology. Students will learn the background of the topics and the research process, including detailed experimental techniques in these fields. Available programs: Research seminar: every Friday afternoon Journal club: at any time  Lab Goals/outline: Students are expected to master the primary skill in pathology, read research articles related to their research topics, and acquire scientific thinking and writing. Students are expected to investigate the expression of proteins and genes using tissue samples and cell lines, trying to elucidate the molecular mechanisms of disease progression and develop new methods.					

<p>Available programs:</p> <p>Research projects focusing on</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Molecular pathological study of biliary tract cancer and development of a novel therapy</li> <li>2) Creation of digital content using cytological images, AI imaging diagnosis</li> <li>3) Development of pathological diagnosis and pathological technology in developing countries</li> </ol>
<p><b>Grading System</b></p> <p>Attend and discuss at the class: 60%, evaluation of written assignments: 40%</p>
<p><b>Prerequisite Reading</b></p> <p>Histology                      Michael                      H.Ross                      Lippincott                      Williams                      and                      Wilkins</p> <p>Textbooks of electron microscopy</p>
<p><b>Reference Materials</b></p> <p>ロビンズ基礎病理学/Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Jon C. Aster 原著, Kumar, Vinay, Abbas, Abul K., Aster, Jon C., Robbins, Stanley L. (Stanley Leonard), 豊國, 伸哉, 高橋, 雅英.: エルゼビア・ジャパン, 2018</p> <p>Cytology : diagnostic principles and clinical correlates/Edmund S. Cibas, Barbara S. Ducatman, Cibas, Edmund S., Ducatman, Barbara S. : Elsevier, 2021</p> <p>Giving relevant advice</p>
<p><b>Important Course Requirements</b></p> <p>Interest in the research based on morphological technique</p>

<b>Lecture No</b>	0363114				
<b>Subject title</b>	Hematological and Biophysical System Sciences		<b>Subject ID</b>	GB—c6101—S	
<b>Instructors</b>	伊藤 南, 西尾 美和子, 本間 達[ITO MINAMI, NISHIO Miwako, HOMMA SATORU]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Laboratory #1 of Hematological and Biophysical System Sciences (Building #3, 16th Floor)					
Laboratory #2 of Hematological and Biophysical System Sciences (Building #3, 15th Floor)					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
This course is intended to provide fundamental knowledge and skills to accomplish research programs as well as to conduct scientific researches in wide range of life sciences including medical laboratory sciences.					
<b>Course Objective(s)</b>					
1. To obtain fundamental overview of the field related with his/her graduate research.					
2. To obtain ability to develop new research project with significance and originality.					
3. To obtain ability to evaluate significance and current status of the research in a objective manner, and to determine a future direction of the research.					
4. To obtain skills for presenting his/her research project.					
5. To obtain ability to be an independent professional researcher and to be a leading scientist.					
<b>Lecture Style</b>					
Practice					
Goals/outline: Study molecular biology and hematology. Read texts and research articles and acquire scientific way of thinking					
Available programs: Journal Club					
Lab					
Goals/outline:Plan and perform the experiments, discuss results, make presentation of the research					
<b>Course Outline</b>					
After consultation, research practice and laboratory works will be done in one of following courses; (1)systems neuroscience, (2)biomedical engineering, and study of molecular biology and genetics in (3)blood diseases, (4)obesity and (5)regenerative medicine.					
<b>Grading System</b>					
Attend and discuss at the class: 70%					
Presentation at scientific meetings and publication: 30%					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Instructions will be given during the lectures and exercises. Students should take time to prepare carefully as instructed.					
Basic knowledge on medicine and biomedical laboratory sciences and technical skills of biochemical analysis and molecular biology are required.					
<b>Reference Materials</b>					
To be announced.					
<b>Important Course Requirements</b>					
Ask instructors for receiving institutional lectures of the ethics and animal experiments to obtain IDs and institutional permission for research programs in this university.					

<b>Lecture No</b>	0363116				
<b>Subject title</b>	Clinical information Applied Sciences		<b>Subject ID</b>	GB—c6102-S	
<b>Instructors</b>	角 勇樹[SUMI YUKI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English:When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> Research Lab of Respiratory and Nervous System Science (16th floor, Building No.3)					
<b>Course Purpose and Outline</b> To develop an understanding of the theory and techniques for analyzing information obtained from biological tests, public health, and social epidemiology.					
<b>Course Objective(s)</b> 1) Learn the latest knowledge in the field of medicine and be able to clarify what is known and what is not known to date. 2) Students will be able to create research hypotheses by considering what kind of research should be conducted in order to clarify what is not understood, and to consider the expected results. 3) Understand the principles, structures, and theories of various testing methods for measuring and analyzing biological functions. 4) Acquire methods for analyzing and evaluating information, and master methodologies for analyzing the relationship between the information obtained and etiology/pathophysiology.					
<b>Lecture Style</b> Seminars, courses, tests of outpatient and hospitalization, to analyse the test results.					
<b>Course Outline</b> Exercises Objective/Summary: To acquire the basic knowledge and theories necessary for conducting research. Possible participation in the program: Reading abstracts, lectures: as needed (check with the instructor in charge)  Research Practice Objective/Summary: To elucidate pathological conditions in the respiratory and neurological fields, and to develop new preventive and therapeutic methods. Programs available for participation: (1) Respiratory disease research (2) Neurological research (3) Public health research (4) AI research Participation in research is possible at any time. *For programs for which dates and times are not clear, please check with the faculty member in charge as appropriate.					
<b>Grading System</b> Attend and discuss at the class: 80%, evaluation of written assignments or presentation at the conferences: 20%					
<b>Prerequisite Reading</b> Learn fundamental skills such as how to use computers, searching literatures, how to process statistics, and reading English papers. Specific matters are instructed from time to time.					
<b>TextBook</b> Will be instructed at any time.					
<b>Reference Materials</b> Will be instructed at any time.					
<b>Important Course Requirements</b> The students are requested to wish the patient well-being and to learn actively.					

<b>Lecture No</b>	0363112				
<b>Subject title</b>	Clinical and Diagnostic Laboratory Science			<b>Subject ID</b>	GB—c6047-S
<b>Instructors</b>	柿沼 晴[KAKINUMA SEI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Students will learn methods for elucidating and analyzing the function of the biological systems that integrate individual elements from the molecular and cellular levels to the organs. In particular, pathophysiology of diseases, particularly in the fields of digestive and cardiovascular organs, will be focused in this course. Students should learn the theory of pathophysiology of such diseases and the laboratory techniques necessary for diagnosis. In addition, students will learn about research methods for elucidating new pathophysiological problems and developing new diagnostic tests for such diseases from the viewpoint of cell biology, molecular biology, and clinical medicine.					
<b>Course Objective(s)</b>					
(1) To learn about research methods of cell biology, stem cell biology, molecular biology, and regenerative medicine to elucidate pathophysiology in hepatobiliary, intestinal, and cardiovascular diseases.					
(2) To acquire theories and techniques of physiological laboratory examination and diagnostic imaging in the fields of hepatobiliary, intestinal, and cardiovascular system.					
(3) To learn about research methods to elucidate novel pathophysiology and to develop new diagnostic examinations for hepatobiliary, intestinal, and cardiovascular diseases.					
<b>Lecture Style</b>					
Seminars are held individually or in seminar format by the instructor in charge of the course					
Research practice: Research projects are undertaken in the laboratory under the guidance of the faculty member in charge					
<b>Course Outline</b>					
Research Programs:					
(1)Development of novel disease models using human iPS cells to elucidate the pathophysiology					
(2)Analysis of cell-to-cell interaction regulating development and progression of hepatobiliary, intestinal, and cardiovascular diseases					
(3)Development of models for hepatobiliary, intestinal, and pancreatic disease using organoid culture system					
(4)Molecular mechanisms regulating homeostasis of stem/progenitor cells in hepatobiliary, intestinal, and pancreatic tissue					
(5)Research on molecular mechanisms regulating liver fibrosis					
<b>Grading System</b>					
Achievement of Research Programs, 70%					
Presentation of Studies in Annual Meeting of International Academic Societies and Publication of Original Articles, 30%					
<b>Grading Rule</b>					
The achievement level of research objectives and learning level of research methods are evaluated through research practice and the writing of a thesis.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Please master basic techniques necessary to advance your scientific research, such as a process of scientific and logical thinking, comprehension of English scientific articles, and methods of basic PC software usage and literature search, etc.					
Specific matters will be indicated as needed.					
<b>Exam eligibility</b>					
Students must participate in a full year of practical training and be in a position to meet the University's criteria for application for the Doctor's degree.					



<b>Lecture No</b>	0363115				
<b>Subject title</b>	Clinical bioanalysis and molecular biology			<b>Subject ID</b>	GB—c6103-S
<b>Instructors</b>	大川 龍之介, 鈴木 喜晴[OKAWA RYUNOSUKE, SUZUKI NOBUHARU]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
<p>[Ohkawa] Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.</p> <p>[Suzuki] Availability in English: Partial classes are taught in English.</p>					
<b>Lecture place</b>					
<p>[Ohkawa] Practice: Seminar room, Bldg. 3/16F or Online (Zoom); Lab: Laboratory of Department of Clinical bioanalysis and molecular biology, Bldg. 3/16F</p> <p>[Suzuki] Practice: Seminar room, Bldg. 3/16F; Lab: Laboratory of Department of Clinical bioanalysis and molecular biology, Bldg. 3/16F</p>					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
<p>[Ohkawa]</p> <p>The primary aim of our laboratory is “To identify lipoprotein associated factors which are available to prognosticate the developmental risk of atherosclerotic disease, and to develop the assay methods for those factors”. We nurture the talents who have knowledge, ability to collect the new informations, and skills with high precision for realization of the aim. Finally, the students advance the researches through a series of actions, such as planning, carrying out experiments, considering results, and re-planning.</p>					
<p>[Suzuki]</p> <p>Course Purpose</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Perform molecular biological/biochemical experiments to demonstrate a hypothesis</li> <li>2) Learn and master basic techniques and construction of a theory in molecular biology/biochemistry</li> </ol> <p>Outline</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Understand background and questions regarding a focused biological phenomenon</li> <li>2) Make a hypothesis and design experiments to prove it</li> <li>3) Perform the experiments</li> <li>4) Discuss whether the hypothesis is correct or not</li> </ol>					
<b>Course Objective(s)</b>					
<p>[Ohkawa]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) To plan the experiment for own research through the collection of the new informations and the present status of its field.</li> <li>2) To get experimental skills with high precision</li> <li>3) To understand and consider the results obtained from the experiments, and to make a presentation for other people</li> <li>4) To get knowledge as a future leader for academic research through attending meetings and publishing in academic journals</li> <li>5) To apply own creative knowledge and skills for other field of researches</li> </ol>					
<p>[Suzuki]</p> <p>See above</p>					
<b>Lecture Style</b>					
<p>[Ohkawa]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Read academic journals and make presentations</li> <li>2) Make the presentation for the experimental results and the planning of next experiment</li> <li>3) Learn the skills of presentation through a chance to attend a meeting</li> <li>4) Support a research of younger students</li> </ol> <p>The supervisor supports students' independence.</p>					
<p>[Suzuki]</p> <p>Practice: Journal club</p> <p>Lab: Experiments</p>					

## Course Outline

[Ohkawa]

Practice

Goals/outline: Learn basic knowledge and skills for analytical chemistry.

Read the academic journals and enhance an ability to consider

Available programs:

Research meeting, every week

- 1) Journal club (as required)
- 2) Presentation of the results in the most recent experiments

Lab

Goals/outline: To identify lipoprotein associated factors which are available to prognosticate the developmental risk of atherosclerotic disease, and to develop the assay methods for those factors

Available programs: Research projects focusing on 1) Development of a new biomarker to estimate residual risk for cardiovascular disease, 2) Study on the function of chemically modified HDL and apolipoproteins, 3) Impact of erythrocyte on the cholesterol metabolism

※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.

[Suzuki]

Practice

Goals/outline: See above

Available programs: Journal club

Lab

Goals/outline: See above

Available programs: Research projects focusing on 1) the mechanism of myelination and tremors using a mouse model and 2) the mechanism of cell differentiation and stemness through extracellular matrix

All students attend the joint meeting every two months to give their presentations and have a discussion.

## Grading System

[Ohkawa]

Attend and discuss at the class and written assignments: 80%

Presentation in the academic meeting and publication in the academic journal: 20%

[Suzuki]

Practice: Evaluate presentations and discussions

Lab: Evaluate understanding and skills in the experiments

## Prerequisite Reading

[Ohkawa]

Practice: Search the related articles in advance to explain at the practice time

Lab: Based on the obtained experiment results, make a next experimental design to solve the problem

[Suzuki]

Practice: Read and understand articles in advance to explain at the practice time

Lab: Read and understand protocols in advance

<b>Lecture No</b>	0363117				
<b>Subject title</b>	Microbiology and Immunology	<b>Subject ID</b>	GB—c6104—S		
<b>Instructors</b>	齋藤 良一[SAITO RYOICHI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Availability in English: When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
Practice: Mainly graduate school seminar room 1 at 15th floor of Building 3					
Lab: Molecular Microbiology lab at 8th floor of Building 3					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
This course provides the conceptual basis for understanding pathogenic microorganisms and opportunities to apply knowledge gained from lecture, discussion and primary scientific articles to own research.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will obtain the basic knowledge and experimental techniques on the research field of bacteriology or infectious diseases, and enhance skills such as designing experiments, interpreting of data, understanding scientific articles and communicating scientific observations.					
<b>Lecture Style</b>					
Practice: Presentation by the duty student and small-group discussion					
Lab: Carry out experiments with the supervisor					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline: Students will learn basic and cutting-edge knowledge of bacteriology and infectious diseases through lectures and small-group discussions.					
Available programs:					
1. Lab seminar: every Tuesday, AM					
2. Biomedical laboratory sciences seminar: not fixed					
3. Field of applied laboratory science meeting: not fixed					
Lab					
Goals/outline: Students will be able to gain broad experimental techniques and knowledge associated with following research topics.					
Available programs:					
1. Research on the evolution and diversity of multidrug-resistant bacteria					
2. Research on the regulation system of virulence in pathogenic bacteria					
3. Research on environmental microbiome dynamics and interactions for AMR transmission					
4. Development of molecular biological and bacteriological methods for rapid identification and typing of pathogenic bacteria					
<b>Grading System</b>					
Attendance and discussion at the Practice and Lab: 80%, presentation at meetings or publication: 20%					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Reading a number of scientific articles to gain deep understanding of pathogenic microorganisms and experimental techniques is strongly encouraged.					

<b>Lecture No</b>	0363201					
<b>Subject title</b>	Biomedical Laboratory Sciences Seminar II			<b>Subject ID</b>	GB—c6028-T	
<b>Instructors</b>	鈴木 喜晴, 伊藤 南[SUZUKI NOBUHARU, ITO MINAM]					
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st – 3rd year	<b>Units</b>	1	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>						
<b>Course Purpose and Outline</b>						
<p>Our goal is to enforce scientific researches in the Biological Laboratory Sciences community. For the master course, this seminar provides each student with an opportunity to keep asking their own progress and revising their research. Here, for the doctoral course, this seminar encourages students to demand opinions and criticisms from others, and improves their logical way of scientific considerations, by discussing various research topics of other laboratories and by questioning/approving/criticizing with each other. It also encourages students to make an effective presentation in international occasions. On the other hand, it provides a faculty member with an opportunity to see researches and give some necessary advices widely among the Biological Laboratory Sciences Track.</p>						
<b>Course Objective(s)</b>						
<p>This is a joint seminar of the Biological Laboratory Sciences Track and is held with the Biomedical Laboratory Sciences Seminar I. All students and faculty members are required to attend the seminar, expecting supervision across the track and achieving high research activities in the track. All students for the doctoral degree of the health care sciences present a progress report of his/her own research once every year, in a form of meeting sessions. All attendees join discussion and submit a report of comments and evaluations.</p>						
<b>Lecture plan</b>						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Learning objectives* Learning methods* Instructions
1	6/26	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室 1	Master's Program 2nd Grade	7 and 4 minutes	A schedule will be announced.
2	9/25	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室 1	Faculty members	20 and 5 minutes	A schedule will be announced.
3	10/23	13:00-17:00	保健衛生 学科講義 室 1	Master's Program 1st Grade	6 and 4 minutes	A schedule will be announced.
4	12/21	09:00-17:00	保健衛生 学科講義 室 1	Doctoral Program	15 and 7minutes for final-year students 10 and 7 minutes for others	A schedule will be announced.
<b>Lecture Style</b>						
<p>(1) A student is able to consider the progress of his/her own research and to revise his/her research plan.  (2) A student is able to explain the purpose, validity of methods and current results, and following arguments in clear and concise manners.  (3) In scientific meetings, a student is able to give a successful aural explanation/presentation in English.  (4) A student is able to make questions/comments/criticisms for discussing various presentations from different research fields.  (5) Through active discussion, a student is able to have scientific communications with the Biological Laboratory Sciences community, over the border of laboratories and school years.  (6) A students is able to improve his/her own research by using comments and criticisms from other participants.</p>						
<b>Course Outline</b>						
Date/Speaker/Time for presentation and discussion						
#1 6/26(W) 13:00~17:00 Master's program 2nd grade, 7min & 4min						

<p>#2 9/25(W) 13:00~17:00 Faculty members, 20min and 5 min</p> <p>#3 10/23(W) 13:00~17:00 Master's program 1st grade, 6min and 4min</p> <p>#4 12/21(Sa) 9:00~17:00 Doctor's program, 15min and 5min for final-year students and 10min and 5min for others</p> <p>Any changes will be communicated as soon as possible.</p>
<p><b>Grading System</b></p> <p>(1) Performance of presentation (50%).</p> <p>(2) Participation in the seminar as an active attendant (50%).</p> <p>(3) A course credit of the seminar is approved in the last school year, by considering student's performance in all seminars in all school years</p>
<p><b>Prerequisite Reading</b></p> <p>(1) Take sufficient time for making your slides and practicing your talk in English. Your supervisor support your preparation.</p> <p>(2) Your abstract needs to describe background, purpose, methods, results (or current status), interpretation and a future plan of your current study.</p> <p>(3) Make your presentation clear and concise, so that student of other fields are able to understand your talk.</p> <p>(4) Practice your presentation to make it effective and to finish within a given time.</p> <p>(5) Read abstracts and make your list of inquires before the seminar. Chairperson may appoint questioners during the discussion period.</p> <p>(6) Details of the schedule and instructions are sent via e-mail messages.</p>
<p><b>Important Course Requirements</b></p> <p>(1) This is a required subject. Students need to attend all seminars, four times in a school year. This rule is also applied to students of the programs for working-students and those of the long-term programs. (2) When you are late or absent for the seminar, ask your supervisor for a permission and for reporting to the committee of the seminar. (3) Every student needs to give a presentation on his/her own research project once a year. If you are not available, your presentation is postponed to the next seminar. If you are away for the entire season, submit video presentation or substitute reports. (4) Students are recommended to join the discussion actively as an equal researcher. Sometimes, a chairperson may appoint questioners. (5) Further announcements are sent via e mail messages from the committee of the seminar.</p>
<p><b>Note(s) to Students</b></p> <p>In a case, this seminar could be done by the Zoom meeting. Details will be announced.</p>
<p><b>Email</b></p> <p>SUZUKI NOBUHARU:nsuzbb@tmd.ac.jp</p>
<p><b>Instructor's Contact Information</b></p> <p>SUZUKI NOBUHARU:There is no specific time for office hours.; Bldg. 3/16F</p>

<b>Lecture No</b>	0363301				
<b>Subject title</b>	Lifetime Oral Health Care Sciences		<b>Subject ID</b>	GB—c6086-S	
<b>Instructors</b>	未定				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Partial classes are taught in English					
<b>Lecture place</b>					
Either in-person (at Building 1, 7F, 718) or online.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
The purpose of this lecture is a better understanding of preserve of oral health with of Ozone ultrafine bubble water that contributes to medical care and prevents adverse effects caused by cancer treatment.					
The recent topics about dentistry, medical science, and related research field will be discussed. Students will learn the background of the topics, process of the research including the detailed experimental techniques in these fields.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will acquire recent knowledge and technique necessary for the research in the field of dental science, medicinal science, and especially oral health.					
<b>Lecture Style</b>					
Small group instruction is held as possible to allow students to participate frequently in discussions.					
<b>Course Outline</b>					
Practice					
Goals/outline: Students are expected to understand the fundamentals, recent topics and technology on microbiology, physiology medicinal science ultrafine bubble.					
Available programs: Seminar: Friday 18:00~20:30					
Lab					
Goals/outline: For the assigned research project, the methods for microbiological and statistical analysis, epigenetic analysis, gene and protein expression analysis, cell culture and animal experiment will be taught.					
Available programs:					
1. Effects of Ozone ultrafine bubble water on neonate epigenome					
2. The molecular mechanisms regarding antioxidant effects of Ozone ultrafine bubble water (animal experiment)					
etc.					
※Check with the teacher in charge for the program which is not specifically scheduled.					
<b>Grading System</b>					
Grading will be undertaken based on lecture/practice participation and performance in our seminar and various meetings.					
The grade of Lab will be comprehensively evaluated. And the fifty percent of its grade will be evaluated based on the grade of Mid-term advice.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Instruct at the first lecture, if necessary.					
<b>TextBook</b>					
微細気泡の最新技術:エヌ・ティー・エス, 2014					
<b>Reference Materials</b>					
Ultrafine bubbles./edited by Koichi Terasaka, Kyuichi Yasui, Wataru Kanematsu, Nobuhiro Aya,寺坂 宏一.: Jenny Stanford Publishing Pte. Ltd, 2022					
<b>Important Course Requirements</b>					
It is recommended to have basic knowledge about molecular biology and molecular genetics in advance.					

**Note(s) to Students**

None.

<b>Lecture No</b>	0363302				
<b>Subject title</b>	Oral Care for Systemic Health Support		<b>Subject ID</b>	GB—c6087-S	
<b>Instructors</b>	樺沢 勇司, 伊藤 奏, LIAO SHIN RU[KABASAWA YUJI, ITOU Kanade, LIAO Shin Ru]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b> Bldg. 1, West 8F, Department of Oral Health Sciences, or Distance Learning					
<b>Course Purpose and Outline</b> Research to support the maintenance and promotion of health through oral health. In particular, the objective is to learn about research on perioperative oral function management, research on oral care for people with basic diseases, research on oral health and social disparities, and basic research on the effects of oral cleaning on the whole body, and to develop the basic ability to develop original research.					
<b>Course Objective(s)</b> To be able to identify unresolved problems in oral health Learn appropriate clinical methods to improve oral health To be able to present at domestic and international conferences and write articles for academic journals. To acquire the basic skills to develop one's own research and to become a leader in academic research.					
<b>Lecture Style</b> Knowledge for academic research will be acquired through lectures and abstracts of articles. Clinical methods will be acquired mainly through exercises and practice in clinical settings such as oral health centers.					
<b>Course Outline</b> Direct instructions will be given by the supervising professor, including the lecture schedule.					
<b>Grading System</b> The evaluation will be based on participation in lectures, exercises, and research training, as well as external presentations (conferences, papers) of research content, with the following percentages as a guideline Participation in lectures, exercises, and research practice: 70% Status of external presentation of research content (conferences, papers), etc.: 30%					
<b>Prerequisite Reading</b> Specific instructions will be given in the lecture.					
<b>TextBook</b> Specific instructions will be given during the lecture.					



<b>Lecture No</b>	0363303				
<b>Subject title</b>	Preventive Oral Health Care Sciences	<b>Subject ID</b>	GB—c6088-S		
<b>Instructors</b>	未定				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Partial classes are taught in English					
<b>Lecture place</b>					
Laboratory and rooms of Preventive Oral Health Care					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Survey and research of preventive oral health care					
Development and assessment on preventive oral health care strategy					
Development and assessment on preventive oral health care material or goods					
Study of dental hygiene assessment and approach					
<b>Lecture Style</b>					
Online lessons or face-to-face lessons					
<b>Prerequisite Reading</b>					
<b>Exam eligibility</b>					
Conduct Doctor's research					
<b>Composition Unit</b>					
Professor(Kayoko Shinada) and Assistant professor(Naoko Adachi)					
<b>Module Unit Judgment</b>					
Achievement of Doctor's research					

<b>Lecture No</b>	0363304				
<b>Subject title</b>	Oral Health Sciences for Community Welfare		<b>Subject ID</b>	GB—c6089—S	
<b>Instructors</b>	松尾 浩一郎, 日高 玲奈[MATSUO Kouichirou, NAKAYAMA Rena]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
<b>Lecture place</b>					
A research lab of Department of Oral Health Sciences for Community Welfare, 8th floor, Building 1					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
The purpose of the course is: Understanding the evidence in the roles of oral health management associated with medicine, long term care and life support in community-based integrated care system. Learning the procedures of quantitative assessment of oral function and its analysis methods. Lastly, Learning Study design associated with its clinical application or social implementation.					
<b>Course Objective(s)</b>					
1. To be able to understand and explain the evaluation and treatment in perioperative oral function/hygiene management					
2. To be able to explain the assessment and treatment of deteriorated oral function.					
3. To be able to present the study outcome as oral presentation at the conference or paper publication in scientific journals.					
<b>Lecture Style</b>					
Study and practice in the laboratory, hospitals and local community.					
<b>Course Outline</b>					
Design the study protocol related to oral health and community welfare, and conduct the study protocol with instructors.					
Learn the procedures of data acquisition, and acquire the data in the research field.					
Analyze the data and present the study outcome.					
Join the journal club to learn scientific thinking.					
<b>Grading System</b>					
Status of participation on lectures and practice: 60%					
Status of presentation (conference or journals): 40%					
<b>Prerequisite Reading</b>					
none					
<b>TextBook</b>					
To be announced					
<b>Reference Materials</b>					
理科系の作文技術／木下是雄:中公出版, 1981					
<b>Reference URL</b>					
<a href="https://www.ohcw-tmd.com/">https://www.ohcw-tmd.com/</a>					

<b>Lecture No</b>	0363305				
<b>Subject title</b>	Oral Health Care Education	<b>Subject ID</b>	GB—c6090-S		
<b>Instructors</b>	吉田 直美, 鈴木 瞳[YOSHIDA Naomi, SUZUKI Hitomi]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
All classes are taught in Japanese.					
<b>Lecture place</b>					
Web conferencing system					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
To help students understand the research basics concerning oral health education in healthcare professions.					
<b>Course Objective(s)</b>					
The students will understand and acquire basic elements necessary to conduct research in oral health education.					
<b>Lecture Style</b>					
Combination of mini-lectures and practice in small groups.					
<b>Course Outline</b>					
Goals/Outline:					
To experience the process of research planning and practice in order to do the following:					
<ul style="list-style-type: none"> <li>- determine the topic and grasp needs/demands</li> <li>- to set objectives</li> <li>- to evaluate and analyze data.</li> </ul>					
<b>Grading System</b>					
Combination of participation in discussion/practice/research. As for Lab activities, research contents, participation in related research and meetings, presentations at scientific meetings are also considered.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
Prepare the discussion/presentation before joining the class (except for the first session). Designated parts in the textbook or literature are sometimes assigned for the pre-reading.					
<b>Exam eligibility</b>					
<b>Reference Materials</b>					
None					
<b>Important Course Requirements</b>					
Submission of assignments by deadline					

<b>Lecture No</b>	0363306				
<b>Subject title</b>	Basic Oral Health Engineering	<b>Subject ID</b>	GB—c6091—S		
<b>Instructors</b>	青木 和広[AOKI KAZUHIRO]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Lecture place</b>					
The lectures and exercises will be performed in the laboratories of this department (1st and 2nd floors of Building 2) or remotely (synchronous and asynchronous).					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Purpose: To understand the academic foundation on the contribution to systemic health from the oral cavity through research integrating engineering and biology and bridging from basic to clinical research.					
Overview: To acquire the basis of research and to become familiar with basic oral health engineering through intensive reading and introduction of relevant papers, participation/discussion of research seminars, and research and development of new technologies.					
<b>Course Objective(s)</b>					
1) Identify unsolved problems in the field of oral basic engineering.					
2) Acquire research development methods through interdisciplinary research.					
3) Make presentations at domestic and international conferences, and write and present papers in academic journals.					
4) Acquire the basic skills to conduct research independently and to be a leader in academic research.					
<b>Lecture Style</b>					
1) Read an English paper on their own topic and present it to others.					
2) Explain the results of experiments, discuss and present the next step of experiments.					
3) Learn how to summarize and present research through presentations at academic conferences.					
4) Cultivate the ability to learn and educate oneself through mentoring junior students, including master's and undergraduate students.					
As mentioned above, research will be conducted by students and faculty members as an integral part of their relationship with each other.					
<b>Course Outline</b>					
Lectures and Exercises					
Objective/Summary: To acquire the interdisciplinary research methods necessary for conducting basic oral engineering research. To be able to read original papers aimed at clinical application, to be able to objectively judge the progress of one's own research and the significance of the results, and to be able to discuss and plan new research development based on scientific evidence.					
Participation Program:					
Progress meeting and abstract reading every Thursday at 8:00 a.m. (or 7:20 a.m. if there is a conflict with the Advanced Course in Hard Tissue Research and Bone Morphometry or the Seminar in Oral Health Sciences)					
Research Practice					
Purpose and Summary: To master research methods in the field of basic oral engineering. Using animals, tissue materials, or cultured cell lines, conduct research to elucidate the bone formation mechanism of osteogenesis-promoting agents and to clarify the characteristics of scaffold materials impregnated with osteogenesis-promoting agents for clinical application.					
To develop interdisciplinary research, we will analyze clinical data taking into account the well-being scale.					
Possible Participant Programs:					
1) Development of anabolic agents using a combination of BMP-2 and the RANKL-binding peptide.					
2) Comparative study of bone formation scaffold materials suitable for the above signaling molecules					
3) Development of salivary markers of happiness					

4) Identification of cancer-related substances in oral microflora and saliva that change with the level of happiness.

**Grading System**

The evaluation will be based on participation in lectures and exercises, as well as presentations and statements. In addition, the following percentages will be used as a guideline for the overall evaluation based on the status of external presentations (conferences, papers) of research content, etc.

Participation in lectures, exercises, and research training: (80%)

Presentations of research results (at conferences, in papers): (20%)

**Prerequisite Reading**

Attendance at the Advanced Hard Tissue Research and Bone Morphometry and the Oral Health Seminar is required except in unavoidable circumstances. The exercises will be based on this foundation.

Students should also attend study sessions every Thursday from 8:00 to 8:50.

<b>Lecture No</b>	0363307				
<b>Subject title</b>	Digital Dentistry		<b>Subject ID</b>	GB—c6092-S	
<b>Instructors</b>	金澤 学[KANAZAWA MANABU]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Lectures will be conducted in English when foreign students registered.					
<b>Lecture place</b>					
Differs depending on program; check with instructor before attending.					
<b>Grading System</b>					
Participation in class, seminar and practice will be graded comprehensively. In Lab, grading will be done based on contribution for the study group, reports and presentation at academic meetings.					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None					

<b>Lecture No</b>	0363308				
<b>Subject title</b>	Oral Biomedical Engineering	<b>Subject ID</b>	GB—c6105-S		
<b>Instructors</b>	池田 正臣[IKEDA MASAOMI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st year	<b>Units</b>	5
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
/When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.					
<b>Course Purpose and Outline</b>					
Course Purpose:The goal of this course is to understand actual applications of various basic researchs and technique supporting oral health engineering, and to obtain knowledge for solving objects in a wide range.					
Outline:Various topics related to various basic researchs and technique supporting oral health engineering will introduced through recent textbooks and papers by instructors of Departments of Basic Oral Health Engineering, Oral Biomaterials Development Engineering, and Oral Prosthetic Engineering.					
<b>Course Objective(s)</b>					
Students will acquire the fundamental knowledge regarding basic researchs and technique supporting oral health engineering, discuss their development, application, function, and problems, and learn the strategy for promoting fundamental knowledge to specific application.					
<b>Lecture Style</b>					
Several professors give series of lectures in various themes. The students learn the content of the lecture through the question and discussions.					
<b>Grading System</b>					
The grading is comprehensively evaluated based on participation (50%), question and reports (50%).					
<b>Prerequisite Reading</b>					
None. However, there may be reference texts and books announced beforehand so pleasecheck before each lesson.					
<b>Reference Materials</b>					
Some references may be introduced by instructors prior to their lectures.					
<b>Note(s) to Students</b>					
Schedule will be changed depending on the number of students.					

<b>Lecture No</b>	0363401					
<b>Subject title</b>	Oral Health Sciences Seminar			<b>Subject ID</b>	GB—c6094—T	
<b>Instructors</b>	樺沢 勇司, 松尾 浩一郎, 吉田 直美, 竹内 康雄, 伊藤 奏, 安達 奈穂子, 日高 玲奈, 青木 和広, 土田 優美, 池田 正臣[KABASAWA YUJI, MATSUO Kouichirou, YOSHIDA Naomi, TAKEUCHI YASUO, ITOU Kanade, ADACHI Naoko, NAKAYAMA Rena, AOKI KAZUHIRO, TSUCHIDA Yuumi, IKEDA MASAOMI]					
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st - year	<b>Units</b>	1	
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>						
When an international student registers this subject for credits, this course is taught in English.						
<b>Lecture place</b>						
Remote teaching (synchronous)						
<b>Course Purpose and Outline</b>						
Purpose of the Seminar: The purpose of this seminar is to provide students with a broad understanding of research in the field of oral health sciences in order to cultivate the soil for interdisciplinary ideas and the ability to think and solve problems on their own, and to develop human resources capable of pioneering research fields that will contribute to the well-being of people.						
Summary: Graduate students in oral health sciences (including master's students in principle) are invited to present and discuss their research in a cross-disciplinary manner. After each presentation, students present the progress of their research in small groups of two or three, and the presenter takes questions from each group and answers them in the plenary session. The presenters will then take questions from each group and answer them during the plenary session. They will also discuss with their supervisors the possibility of incorporating the advice they received into their research plans.						
Attendance at this seminar is mandatory for all oral health students.						
<b>Course Objective(s)</b>						
(1) To explain one's research to non-specialists in an easy-to-understand manner.						
(2) To be able to share unclear points with other students after the presentation of their research.						
(3) To be able to communicate unclear points to the presenter.						
(4) To be able to refer to comments on the research progress and reflect them in future research planning.						
(5) To be able to propose cross-disciplinary joint research.						
<b>Lecture plan</b>						
No	Date	Time	Room	Lecture theme	Lecture content	Staff
1	5/9	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Cross-disciplinary Research Proposal Part 1	Presentations from the Department of Oral Care for Systemic Health Support, Q&A and Reflection	KABASAWA YUJI, AOKI KAZUHIRO
2	6/6	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Cross-disciplinary Research Proposal Part 2	Presentations from the Department of Digital Dentistry, Q&A and Reflection	TSUCHIDA Yuumi, KABASAWA YUJI
3	7/11	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Cross-disciplinary Research Proposal Part 3	Presentations from the Department of Lifetime Oral Health Care Sciences, Q&A and Reflection	TAKEUCHI YASUO, KABASAWA YUJI
4	9/12	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Cross-disciplinary Research Proposal Part 4	Presentations from the Department of Oral Health Sciences for Community Welfare, Q&A and Reflection	MATSUO Kouichirou, KABASAWA YUJI
5	10/10	07:20-08:50	遠隔授業	Cross-disciplinary	Presentations from the Department	IKEDA



			(同期型)	Research Proposal Part 5	of Oral Medical Engineering, Q&A and Reflection	MASAOMI, KABASAWA YUJI
6	11/7	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Cross-disciplinary Research Proposal Part 6	Presentations from the Department of Oral Health Care Education, Q&A and Reflection	YOSHIDA Naomi, KABASAWA YUJI
7	12/12	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Cross-disciplinary Research Proposal Part 7	Presentations from the Department of Preventive Oral Health Care Science, Q&A and Reflection	ADACHI Naoko, KABASAWA YUJI
8	1/9	07:20-08:50	遠隔授業 (同期型)	Cross-disciplinary Research Proposal Part 8	Presentations from the Department of Basic Oral Health Engineering, Q&A and Reflection	AOKI KAZUHIRO, KABASAWA YUJI

### Lecture Style

Presenters will present using PowerPoint or other presentation software (15-20 minutes presentation time). Prepare the presentation slides in PDF format to be shared with participants in advance. After each presentation, small groups of 2-3 students will be formed among the participating students to discuss any unclear points, which will be listed on the evaluation and reflection web page (Padlet). Each group will then ask and answer questions to the presenter.

They will report to the supervisor that they did a good job of researching what they could not fully answer, and will document their findings on the Padlet. The presenter will also use the feedback he/she receives to determine whether or not it can be reflected in his/her own research proposal, and discuss the results with the supervisor.

If there is a possibility of joint research, the presenter will inform the supervisor of his/her intention to do so and actively pursue it.

Note that the date and time are tentative, and changes in the method of implementation will be communicated as needed. If there is no doctoral graduate student in the department, the faculty member in the department will contact the student to present the research that is being conducted in the department.

### Grading System

80% as a participant

20% as presenter

Participants fill in the evaluation sheet (Padlet) with questions for each small group

Presenters answer the questions on the evaluation sheet (Padlet).

If he/she cannot be answered immediately, he/she will be noted on the Padlet within a month.

### Grading Rule

As a participant

(1) Evaluate whether the participants were able to make comments and ask questions to the presenters as a group (5 points x 8 times: 40 points).

(2) Evaluate their participation in the seminar (attendance points will be given for each session (5 points x 8 times: 40 points).

Note that the same evaluation points for (1) will be given to all members of the group, even if there is a presenter in the group.

Compose questions with an attitude of asking not only what you are interested in but also all points that are unclear and ask the presenter.

As a presenter

(3) Evaluate whether you are able to explain your research in an easy-to-understand manner (10 points).

(4) Evaluate whether you were able to re-learn from the questions and comments received and describe your answers in Padlet (10 points).

### Prerequisite Reading

(1) Presenters should consult carefully with their supervisor and send an e-mail (in any format) to those who plan to attend the seminar by 5:30 p.m. on the day before the presentation so that they know the purpose of the research. Also, remind all faculty members and students (doctoral

course and master's course) of the Department of Oral Health Sciences at least one week before the seminar.

(2) Try to make your presentation plain and concise so that students in other fields can understand it.

(3) Seminar participants should think about questions and possible questions from the materials distributed in advance.

(4) From the third year onward, students should prepare their presentations in English if possible.

**Note(s) to Students**

The schedule is tentative and will be coordinated between staff and students.

<b>Lecture No</b>	0364001				
<b>Subject title</b>	Special Lectures for Advanced Research on Biomedical Sciences and Engineering	<b>Subject ID</b>	GB—c6201—L		
<b>Instructors</b>	影近 弘之[KAGECHIKA HIROYUKI]				
<b>Semester</b>	YearLong 2024	<b>Level</b>	1st – 2nd year	<b>Units</b>	2
<b>Course by the instructor with practical experiences</b>					
Contact: Educational Planning Section (Mail: grad02@ml.tmd.ac.jp)					
<p><b>Course Purpose and Outline</b></p> <p>Course Purpose and Outline</p> <p>All graduate students are required to take this course and are expected to attend the research seminars listed below held in TMDU and also in the affiliated institutes. These seminars should provide students with exposure to forefront research covering a wide range of topic areas from experts in their discipline.</p> <p>The purpose of this course is to develop the student's general understanding of a broad range of their own areas of research together with areas outside of their own areas of research, and the student's ability to successfully carry out research at the graduated courses level. This course is available for students to gain another perspective into their thesis research.</p> <p>1) Graduate School Special Lecture  2) Graduate School Seminar  3) Medical Research Institute (MRI) Seminar  4) Institute of Biomaterials and Bioengineering (IBB) Seminar  5) Seminars recommended by the guidance counselor</p> <p>About the information of the seminar 1) and 2) are distributed to each department by the posters and available on the following URL.</p> <p>1) Graduate School Special Lecture, 2) Graduate School Seminar  ※「がんプロ」「ポータレス」seminars are NOT countable.</p> <p>【URL】 <a href="http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/seminar/index.html">http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/seminar/index.html</a></p> <p>3) Medical Research Institute (MRI) Seminar  【URL】 <a href="http://www.tmd.ac.jp/mri/events/index.html">http://www.tmd.ac.jp/mri/events/index.html</a></p> <p>4) Institute of Biomaterials and Bioengineering (IBB) Seminar  【URL】 <a href="http://www.tmd.ac.jp/ibb/information/">http://www.tmd.ac.jp/ibb/information/</a></p>					
<p><b>Grading System</b></p> <p>Attendance and learning attitude (At least 15 attendances are required)</p> <p>It is desirable that students attend all lectures of Initial Research Training (for international students) with the exception of students who completed the Master's Program of the Graduate School of Tokyo Medical and Dental University.</p> <p>All lectures of Initial Research Training correspond to 6 attendance.</p> <p>In each seminar, student of remarkable excellence (attitude, questions, etc.) is listed, which is used as reference for grading.</p>					
<p><b>Prerequisite Reading</b></p> <p>None.</p>					
<p><b>Important Course Requirements</b></p> <p>You should take over 15 required seminars by December of the second school year. (If you enrolled Graduate school from October, you need to attend over 15 seminars until June of the second grade.) It is preferable to participate in not only the specialized field that you major in but also the seminars in other research areas that you don't. The signature of the guidance counselor for each attendance on the personal attendance sheet is needed. Students should attend all lectures of Initial Research Training with the exception of students who completed the Master's Program of the Graduate School of Tokyo Medical and Dental University. All lectures of Initial Research Training correspond to 6 attendance. Please do the attendancesheet for 6 lines after Initial Research Training. You should submit your attendance sheet to Educational Planning</p>					

Section by the end of December at the second school year.(If you enrolled from October, you should submit your attendance sheet to Educational Planning Section by the end of June of the second grade.) Period of Submission : From November 1, 2021 to December 28, 2021 Submit to : Educational Planning Section For the students who are approved to extend their period of enrollment, please ask Graduate Education Team 2 of Educational Planning Section about the deadline. It is different from the one for students with regular enrollment period.

**Note(s) to Students**

Initial Research Training (for international students)

[Course Description]

Research work should be done in accordance with various rules and regulations including those related to ethics, and those related to handling of toxic substances, radioactive materials and animals. This series of lectures introduce rules and regulations that the students should follow during research work. Also, the students learn how to use libraries and data bases, and how to avoid scientific misconducts.

[Course Schedule]See the URL

## 7. 諸規則

# 東京医科歯科大学大学院学則

平成16年4月1日  
規程第5

号

## 第1章 総則

第1条 東京医科歯科大学大学院（以下「本学大学院」という。）は学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 研究科又は専攻ごとにおける人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、当該研究科において別に定める。

第2条 本学大学院に、次の課程を置く。

(1) 医学又は歯学を履修する博士課程

(2) 修士課程及び後期3年の課程のみの博士課程（以下「後期3年博士課程」という。）

(3) 前期及び後期の区分を設けない博士課程（以下「一貫制博士課程」という。）

第2条の2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を受け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

2 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

## 第2章 組織

第3条 本学大学院に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成16年規程第1号）の定めるところにより、次の研究科を置く。

医歯学総合研究科

保健衛生学研究科

第3条の2 本学大学院に、学外研究機関等の研究者等と連携して大学院教育を行う連携大学院実施のため、連携大学院分野を置くことができる。

2 連携大学院分野については、別に定める。

第4条 医歯学総合研究科に、次の課程、専攻及び講座を置く。

課程	専攻名	講座名
修士課程	医歯理工保健学	

博士課程	医歯学	口腔機能再構築学 顎顔面頸部機能再建学 生体支持組織学 環境社会医歯学 老化制御学 全人的医療開発学 認知行動医学 生体環境応答学 器官システム制御学 先端医療開発学
	東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系	
	東京医科歯科大学・チュロンコン大学国際連携歯学系	
	東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系	
	生命理工医療科学	医用器材学 統合分子疾患科学 生体検査科学 口腔保健学

- 2 医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻に、医療管理政策学コース及びグローバルヘルスリーダー養成コースを置く。
- 3 前項の医療管理政策学コースは、これを次のコースに区分するものとする。
  - (1) 医療管理学コース
  - (2) 医療政策学コース
- 4 前2項に定めるもののほか、医歯学総合研究科に履修上の区分として次のコース又はプログラムを置く。
  - (1) 先制医療学コース
  - (2) 先制医歯理工学コース
  - (3) 臨床疫学プログラム

第5条 保健衛生学研究科に、次の課程、専攻及び講座を置く。

課程	専攻名	講座名
博士課程	看護先進科学	基盤看護開発学 臨床看護開発学 先導的看護システム開発学

- 2 保健衛生学研究科看護先進科学専攻に履修上の区分として、災害看護グローバルリーダー養成コースを置く。

### 第3章 収容定員

第6条 本学大学院の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

#### (1) 医歯学総合研究科

課 程	専 攻 名	入 学 定 員	収 容 定 員
修士課程	医歯理工保健学 (医療管理学コース)	131 (5)	257 (5)
	(医療政策学コース)	(10)	(20)
	(グローバルヘルスリーダー養成コース)	(9)	(18)
博士課程	医歯学	181	724
	東京医科歯科大学・チリ大学 国際連携医学系	3	15
	東京医科歯科大学・チュラロン コーン大学国際連携歯学系	3	15
	東京医科歯科大学・マヒドン 大学国際連携医学系	3	12
	生命理工医療科学	25	75
備考 括弧内の数字は、医療管理政策学コース及びグローバルヘルスリーダー養成コースに係る定員の数を内数で示す。			

#### (2) 保健衛生学研究科

課 程	専 攻 名	入 学 定 員	収 容 定 員
博士課程	看護先進科学	13	65

### 第4章 修業年限等

第7条 本学大学院の標準修業年限は、次のとおりとする。



(1) 医歯学総合研究科

課 程	専 攻 名	標準修業年限
修士課程	医歯理工保健学	2年
	医療管理学コース	1年
	医療政策学コース	2年
	グローバルヘルスリーダー養成コース	2年
博士課程	医歯学	4年
	東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系	5年
	東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系	5年
	東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系	4年
	生命理工医療科学	3年

(2) 保健衛生学研究科

課 程	専 攻 名	標準修業年限
博士課程	看護先進科学	5年

第8条 学生は、指導教員及び研究科長を経て、学長の許可を得た場合には、在学期間を前条各課程の標準修業年限の2倍まで延長することができる。

2 前項の規定にかかわらず、東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻については、在学期間を6年まで延長することができる。

3 前2項の規定にかかわらず、東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻については、在学期間を8年まで延長することができる。

第5章 学年、学期及び休業日

第9条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 前項の規定にかかわらず、学長は本学大学院において必要と認めるときは、学年の始期及び終期を変更することができる。

第10条 学年を分けて、次の学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、学長は本学大学院において必要と認めるときは、各学期の始期及び終期を変更することができる。

第10条の2 授業を行わない日（以下「休業日」という。）は次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
  - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
  - (3) 本学創立記念日
  - (4) 春季休業
  - (5) 夏季休業
  - (6) 冬季休業
- 2 前項の休業日において、特に必要がある場合には、授業を行うことができる。
  - 3 第1項第4号から第6号の期間は、各研究科において別に定める。
  - 4 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

## 第6章 教育課程、授業科目、履修方法及び単位等

第11条 本学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、本学大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。

第11条の2 本学大学院において必要と認めるときは、学校教育法第105条に規定する本学大学院の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成することができる。

- 2 前項に定めるもののほか、特別の課程の編成に関し必要な事項は、別に定める。

第11条の3 本学大学院において教育上の目的を達成するために必要があると認めるときは、第11条の規定にかかわらず、他大学の大学院が開設する授業科目を、本学大学院の教育課程の一部とみなして、それぞれの大学院ごとに同一内容の教育課程を編成することができる。

- 2 前項に規定する教育課程（以下「共同教育課程」という。）を編成する大学院（以下「構成大学院」という。）は、当該共同教育課程を編成し、及び実施するための協議の場を設けるものとする。

第11条の4 本学大学院に、第49条第1項に規定する外国人留学生を主に対象とする特別な教育プログラムを、本学大学院が開設する授業科目の一部を組み合わせ体系的に編成することにより開設することができる。

- 2 前項に定める教育プログラムに関し必要な事項は別に定める。

第11条の5 本学大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

第11条の6 本学大学院の課程において教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第 11 条の 7 学生が教育研究分野の変更を願い出た時は、やむを得ない理由があると研究科長が判断した場合に限り、変更を許可することがある。

第 11 条の 8 本学大学院において開設する授業科目及びその単位数については、別に定める。

第 11 条の 9 1 単位の授業科目を、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、1 単位当たりの授業時間を次の基準により、各研究科教授会の意見を聴いて学長が別に定める。

(1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間の範囲

(2) 実験及び実習については、30 時間から 45 時間の範囲

2 前項の規定にかかわらず、学位論文の作成又は特定の課題についての研究を授業科目により指導する場合においては、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらの学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第 12 条 一年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、三十五週にわたることを原則とする。

第 12 条の 2 各授業科目の授業は、十週又は十五週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合には、この限りでない。

第 12 条の 3 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第 1 項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第 12 条の 4 本学大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第 13 条 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、当該研究科において支障のない場合に限り、その計画的な履修（次項において「長期履修」という。）を認めることがある。

2 長期履修の取扱いに関し必要な事項は、当該研究科が定める。

## 第 7 章 他の研究科又は大学院等における修学及び留学

第14条 学生が、本学大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条に規定する科目等履修生及び特別の課程（履修証明プログラム）履修生として修得した単位を含む。）を本学大学院において教育上有益と認めるときは、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により本学大学院において修得したものとみなすことができる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、15単位を超えないものとする。ただし、第14条の2第1項及び第15条第1項の規定により本学大学院の研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

第14条の2 本学大学院の研究科において教育上有益であると認めるときは、あらかじめ本学大学院の他の研究科と協議の上、学生が当該他の研究科の授業科目を履修すること又は当該他の研究科において研究指導の一部を受けることを認めることがある。

2 前項の規定により履修した他の研究科の授業科目について修得した単位は、15単位を限度として、学生の所属する研究科において履修した単位とみなす。ただし、第14条第1項及び第15条第1項の規定により本学大学院の研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

3 第1項の規定により受けた研究指導は、学生の所属する研究科において受けた研究指導とみなす。

第15条 学生が、他の大学院の授業科目を履修することが教育上有益であると本学大学院の研究科において認めるときは、あらかじめ当該他の大学院と協議の上、学生が当該他の大学院の授業科目を履修することを認めることがある。

2 前項の規定により履修した他の大学院の授業科目について修得した単位は、15単位を限度として、本学大学院の研究科において修得した単位とみなす。ただし、第14条第1項及び第14条の2第1項の規定により本学大学院の研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

第15条の2 本学大学院の共同教育課程に在籍する学生が、他の構成大学院において履修した共同教育課程に係る授業科目について修得した単位は、本学大学院における共同教育課程に係る授業科目の履修により修得したものとみなす。

第16条 学生が他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他の大学院等」という。）において研究指導を受けることが教育上有益であると本学大学院の研究科において認めるときは、別に定めるところにより、あらかじめ、当該他の大学院等と協議の上、学生が当該他の大学院等において研究指導の一部を受けることを認めることがある。ただし、修士課程及び博士（前期）課程の学生にあっては、その期間は1年を超えないものとする。

2 前項の規定により受けた研究指導は、本学大学院の研究科において受けた研究指導とみなす。

3 前項の規定にかかわらず、本学大学院の共同教育課程に在籍する学生が、

他の構成大学院において受けた共同教育課程に係る研究指導は、本学大学院において受けた共同教育課程に係る研究指導とみなす。

- 第17条 学生が外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関等（以下「外国の大学院等」という。）において修学することが教育上有益であると研究科において認めるときは、別に定めるところにより、あらかじめ、当該外国の大学院等と協議のうえ、学生が当該外国の大学院等に留学することを認めることがある。ただし、やむを得ない事情により、当該外国の大学院等とあらかじめ協議を行うことが困難な場合には、留学を認められた後に当該協議を行うことができる。
- 2 前項の規定による許可は、当該研究科委員会の意見を聴いて、学長が決定する。
  - 3 前項の許可を得て留学する期間は、原則1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合には、さらに1年を限度として留学期間の延長を認めることがある。
  - 4 第3項の規定により留学した期間は、在学年数に算入する。ただし、第29条の規定により許可された留学（以下「休学留学」という。）については、この限りではない。
  - 5 留学を許可された学生は、休学留学の場合を除き、留学期間中においても本学の授業料を納付しなければならない。
  - 6 第1項の規定により留学して得た修学の成果は、本学大学院の研究科において修得した単位（第14条の2及び第15条の規定により本学大学院において修得したものとみなす単位数と合わせて15単位を限度とする。）又は受けた研究指導とみなす。
  - 7 前項に係る手続等については、各研究科において定める。
  - 8 第6項の規定は、休学留学の場合、外国の大学等が行なう通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び学生が外国の大学等の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合においても準用する。
  - 9 留学を許可された学生において、次の各号の一に該当したときには、本学と外国の大学等との協議に基づき、教授会等の意見を聴いて学長が留学を取り消すことができる。
    - (1) 外国の大学等が所在する国の情勢や自然災害等により、学修が困難であると認められるとき。
    - (2) 留学生として、外国の大学等の規則に違反し、又はその本分に反する行為が認められるとき。
    - (3) その他留学の趣旨に反する行為があると認められるとき。
  - 10 留学に関する必要な事項は、別に定める。

## 第8章 課程修了の要件等

第18条 各授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が学期末又は学年末に行う。

第19条 各授業科目の成績は、A+、A、B、C、D、Fに分け、A+、A、B、Cを合格とし、D、Fを不合格とする。

2 成績評価に関し必要な事項は別に定める。

第20条 修士課程を修了するためには、本学大学院修士課程に2年（第4条第3項第1

- 号の医療管理学コースにおいては1年)以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、1年以上在学すれば足りるものとする。
- 2 前項の場合において、修士課程の目的に応じ研究科委員会において適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって学位論文の審査に代えることができる。
  - 3 博士課程医歯学専攻を修了するためには、本学大学院博士課程医歯学専攻に4年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、3年以上在学すれば足りるものとする。
  - 4 第4条第1項に規定する外国の大学と連携した教育課程(以下「国際連携教育課程」という。)を編成する専攻(以下「国際連携専攻」という。)を修了するためには、本学大学院博士課程国際連携専攻に第7条第1号に規定する標準修業年限以上在学し、研究科が定めた所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、修了に必要な単位数には、第14条、第14条の2、第15条、第17条第6項及び第8項の規定により修得したものとみなす単位を含まないものとする。
  - 5 削除
  - 6 後期3年博士課程生命理工医療科学専攻を修了するためには、本学大学院後期3年博士課程生命理工医療科学専攻に3年以上在学し、所定の授業科目について20単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程又は博士(前期)課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。
  - 7 一貫制博士課程看護先進科学専攻を修了するためには、本学大学院一貫制博士課程看護先進科学専攻に5年(修士課程又は博士(前期)課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の授業科目について38単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、3年(修士課程又は博士(前期)課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。
  - 8 一貫制博士課程共同災害看護学専攻を修了するためには、本学大学院一貫制博士課程共同災害看護学専攻に5年以上在学し、所定の授業科目について50単位以上(それぞれの構成大学院において共同教育課程に係る授業科目の履修により10単位以上修得する。)修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、修了に必要な単位数には、第14条、第14条の2及び第15条の規定により修得したものとみなす単位を含まないものとする。
  - 9 第7項の規定にかかわらず、標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程又は博士(前期)課程を修了した者及び優れた研究業績を上げ1年以上の在学期間をもって修士課程又は博士(前期)課程を修了した者で、当該研究科

が優れた研究業績を上げたと認めるものの在学期間に関しては、当該課程に修士課程又は博士（前期）課程における在学期間（2年を限度とする。）を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。

第21条 学位論文の審査及び最終試験に関することは、東京医科歯科大学学位規則（平成16年規則第56号。以下「学位規則」という。）に定めるところにより行うものとする。

## 第9章 学位

第22条 本学大学院を修了した者には、次の区分により修士又は博士の学位を授与する。

研究科	課程	専攻	学位
医歯学総合研究科	修士課程	医歯理工保健学（医療管理政策学コース及びグローバルヘルスリーダー養成コースを除く。）	修士（医科学） 修士（歯科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（口腔保健学） 修士（保健学）
		医歯理工保健学（医療管理政策学コース）	修士（医療管理学） 修士（医療政策学）
		医歯理工保健学（グローバルヘルスリーダー養成コース）	修士（グローバル健康医学）
	博士課程	医歯学	博士（医学） 博士（歯学） 博士（数理医科学） 博士（学術）
		東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系	博士（医学）
		東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系	博士（歯学）
		東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系	博士（医学）
		生命理工医療科学	博士（理学） 博士（工学） 博士（保健学） 博士（口腔保健学）

保健衛生学研究科	博士課程	看護先進科学	博士（看護学）
		共同災害看護学	

2 前項に規定するもののほか、一貫制博士課程看護先進科学専攻においては、第20条第1項及び第2項に規定する修士課程の修了に相当する要件を満たした者に対しても、修士(看護学)の学位を授与することができる。

第23条 前条第1項に定めるもののほか、本学大学院学生以外の者が、論文を提出して博士の学位を請求したときは、学位規則の定めるところにより、学位論文の審査及び最終試験に合格し、かつ、大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認された者に対し博士の学位を授与する。

#### 第10章 入学、休学、転学、転専攻、退学、除籍

第24条 入学の時期は、学年の始期とする。ただし、学長が必要と認めるときは、学期の始期に入学させることができる。

第25条 修士課程及び一貫制博士課程看護先進科学専攻に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学（短期大学を除く。）を卒業した者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が三年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設（前号の指定を受けたものに限る。）において課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの



- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの
  - (11) 大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
  - (12) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
  - (13) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
  - (14) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したものに限り。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- 2 博士課程医歯学専攻に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 大学の医学、歯学、薬学又は獣医学（修業年限が6年のものに限り。）を履修する課程を卒業した者
  - (2) 外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了した者
  - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了した者
  - (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了したとされるものに限り。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
  - (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限り。）において、修業年限が5年以上である課程（最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設（前号の指定を受けたものに限り。）において課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
  - (6) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）
  - (7) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者を本学大学院において大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
  - (8) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学、薬学（修業年限が6年のものに限り。）又は獣医学を履修する課程を含むものに限り。）を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの
  - (9) 大学（医学、歯学、薬学（修業年限が6年のものに限り。）又は獣医学）に4年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者

- (10) 外国において学校教育における16年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
  - (11) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
  - (12) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程（最終の過程は、医学、薬学、薬学又は獣医学）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- 3 後期3年博士課程生命理工医療科学専攻に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
  - (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
  - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
  - (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
  - (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
  - (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
  - (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
  - (8) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者
- 4 博士課程国際連携専攻に入学することのできる者は、第2項各号のいずれかに該当し、かつ共同で教育課程を編成した外国の大学院（以下「国際連携大学」という。）の入学資格を満たす者とする。

第26条 入学検定は、人物、学力及び身体について、学長が当該研究科委員会の意見を聴いて行うものとする。ただし、学力検査は試験検定とし、試験の方法は、その都度定める。

第27条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、定められた期日までに本学学生としての本分を守る旨、誓約書に署名し、その他所定の書類を提出するとともに、入学料を納付するものとする。ただし、第41条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請し受理された者にあつては、当該免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

2 学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

3 学長は、入学（再入学及び転入学等を含む。）を許可した者に対し、学生証を交付するものとする。

4 前項に規定するもののほか、学生証に関し必要な事項は別に定める。

第28条 学長は、本学大学院を退学した者が、再入学を願い出たときは、選考の上、当該研究科委員会に意見を聴いて、入学を許可することがある。

2 前項に関し必要な事項は、当該研究科が別に定める。

第29条 学生が病気、留学その他の事由により、3ヶ月以上休学しようとするときは、所定の手続により、学長に願い出て許可を受けなければならない。この場合、学長は当該研究科委員会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第30条 前条による休学者で休学期間中にその事由が消滅したときは、所定の手続により、復学を願出ることができる。この場合、学長は当該研究科委員会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第31条 休学は、1年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、学長は研究科委員会に意見を聴いて、更に1年以内の休学を許可することがある。休学期間は修業年数に算入しない。

第32条 学長は、特に必要と認められたものには、当該研究科委員会に意見を聴いて、休学を命ずることがある。

第33条 学長は、他の大学院に在学する者が、本学大学院に転学を願い出たときは、選考の上、当該研究科委員会に意見を聴いて、転学を許可することがある。

2 前項に関し、必要な事項は、当該研究科委員会が別に定める。

第34条 学生が、他の大学院に転学しようとするときは、その理由を具して学長に願い出て、その許可を受けなければならない。この場合、学長は当該研究科委員会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第34条の2 学長は、第25条第3項のいずれかに該当する者が、本学大学院一貫制博士課程看護先進科学専攻に編入学を願い出たときは、選考の上、当該研究科委員会に意見を聴いて、入学を許可することがある。

2 前項の編入学に関し必要な事項は、当該研究科が別に定める。

第34条の3 学長は、学生が所属研究科内において他の専攻への転専攻を願い出たときは、選考の上、当該研究科委員会の意見を聴いて、転専攻を許可することがある。

2 転専攻に関し必要な事項は、当該研究科が別に定める。

第35条 学生が病気その他の事由で退学しようとするときは、所定の手続により、学長に願出てその許可を受けなければならない。この場合、学長は当該研究科委員会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第36条 学長は学生が次の各号のいずれかに該当するときは、当該研究科委員会の意見を聴いて、除籍する。

- (1) 病気その他の事由で成業の見込がないと認めるとき
- (2) 第7条に定める標準修業年限を超えて在学期間延長又は退学的意思を示さないとき。
- (3) 第29条により休学し、第31条に定める期間内に復学又は退学的意思を示さないとき。
- (4) 死亡又は行方不明となったとき。
- (5) 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかったもの又は半額免除を許可されたものが、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に納付しないとき。
- (6) 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかった者が、納付すべき入学料を徴収猶予の不許可を告知した日から起算して14日以内に納付しないとき。
- (7) 入学料の徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しないとき。
- (8) 授業料を所定の期日までに納入しない者で、督促を受け、なおかつ納入を怠るとき。

2 前項第5号は、第41条第3項の規定により徴収猶予の申請をした者には適用しない。

#### 第11章 入学検定料、入学料及び授業料

第37条 授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第38条 入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第39条 授業料の額は、別に定めるところによるものとし、年額の2分の1ずつを次の2期に分けて納付しなければならない。

前期 5月31日まで

後期 11月30日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学長が第10条第2項に基づき学期の始期及び終期を変更した場合は、納付時期を必要に応じて適宜変更することができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収することができる。
- 4 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収することができる。

第40条 既納の料金はいかなる事由があっても返還しない。

- 2 前条第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、前項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。
- 3 前条第2項及び第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期以前に休学又は退学した場合には、第1項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。
- 4 学生又は学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が風

水害等の災害を受ける等やむを得ない事情があると学長が認めた場合には、授業料、入学料及び検定料について、第1項の規定にかかわらず、返還することができる。

第41条 本学大学院に入学する者であつて経済的理由によつて入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者並びに前記に該当しない者であつても、本学大学院に入学前1年以内において、入学する者の学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくはその者の学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であつて、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することができる。

2 本学大学院に入学する者であつて、経済的理由によつて納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前1年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により入学料の徴収猶予をすることができる。

3 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者のうち、前項に該当する者は、免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請をすることができる。

4 前3項の取扱いについては、別に定める。

第42条 停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第43条 行方不明、その他やむを得ない事由がある者の授業料は、所定の手続により、徴収を猶予することができる。

第44条 死亡、行方不明又は授業料の未納を理由として第36条の規定により除籍された者の未納の授業料は全額を免除することができる。

第45条 授業料の納付期限以前に休学又は退学の許可を受けた者の授業料の全額又はその一部を免除することができる。

2 前項の取扱いについては別に定める。

3 各学期の途中で復学する者のその期の授業料は、復学当月から当該学期末まで月割計算により復学の際徴収する。

第46条 経済的理由によつて授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予をすることができる。

2 前項の取扱いについては別に定める。

第47条 削除

第48条 削除

## 第12章 外国人留学生

第49条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、第25条第1項から第4項の規定により、本学大学院に入学を志願する者があるときは、本学大学院の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 その他外国人留学生については、別に定める。

### 第13章 特別聴講学生、特別研究学生及び短期交流学生

第50条 他の大学院の学生又は外国の大学院等の学生で、本大学院研究科等の授業科目の履修を志願する者があるときは、当該他の大学院又は外国の大学院等と協議して定めるところにより、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生の受入れの時期は、学期の始めとする。ただし、当該特別聴講学生が外国の大学院等の学生で、特別の事情がある場合の受入れの時期は、研究科等においてその都度定めることができる。

3 その他特別聴講学生については、別に定める。

第51条 他の大学院の学生又は外国の大学院等の学生で、本大学院研究科等において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該他の大学院又は外国の大学院等と協議して定めるところにより、特別研究学生として入学を許可することができる。

2 特別研究学生の受入れの時期は、原則として、学期の始めとする。

3 その他特別研究学生については、別に定める。

第52条 この章又は細則に定めるものを除くほか、特別聴講学生及び特別研究学生の取扱いについては、この学則（特別聴講学生又は特別研究学生が外国人である場合には、東京医科歯科大学外国人留学生規則（平成16年規則第182号）を含む。）の大学院学生に関する規定を準用する。

第52条の2 本学以外の国内外の教育施設に学生として在学中である者で、本学の教員から特定の事項について、指導又は助言を受け本学で研究又は研修等を行うことを志願するものがあるときは、短期交流学生として受入を許可することができる。

2 短期交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

### 第14章 科目等履修生及び聴講生

第53条 本学大学院が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

第54条 前条により入学した者には、第18条の規定を準用し、単位を与える。

第55条 その他科目等履修生については、別に定める。

第55条の2 本学大学院が開設する授業科目中、特定の授業科目について聴講を志願する者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

2 その他、聴講生については、別に定める。

## 第15章 大学院研究生

第56条 本学大学院教員の指導を受け、特定の専門事項について研究しようとする者は、選考の上、大学院研究生として入学を許可することがある。

2 その他大学院研究生については、別に定める。

## 第16章 教員組織

第57条 大学院の授業及び研究指導を担当する教員は、当該研究科委員会等の意見を聴いて、学長が命ずる。

## 第17章 国際連携専攻

第58条 本学大学院に国際連携専攻を設けるときは、国際連携大学と教育課程を編成し円滑に実施するため、協議の場に関する事項を別に定める。

2 前項の規定による協議の場は、学長又は学長が指名した者により構成する。

3 国際連携専攻は、第11条第1項の規定にかかわらず、国際連携大学と共同して授業科目（以下「共同開設科目」という。）を開設することができる。

4 前項の共同開設科目を開設した場合、当該国際連携専攻の学生が当該共同開設科目の履修により修得した単位は、5単位を超えない範囲で当該国際連携専攻又は国際連携大学のいずれかにおいて修得した単位とすることができる。ただし、国際連携大学において修得した単位数が同条第7項の規定により国際連携大学において修得することとされている単位数に満たない場合は、共同開設科目の履修により修得した単位を国際連携大学において修得した単位数とすることはできない。

5 国際連携専攻は、国際連携大学において履修した国際連携教育課程に係る授業科目について修得した単位を、当該国際連携教育課程に係る授業科目の履修により修得したものとみなす。

6 国際連携専攻は、学生が国際連携大学において受けた国際連携教育課程に係る研究指導を、当該国際連携教育課程に係るものとみなす。

7 国際連携専攻の修了要件は、第20条第4項に定めるほか、国際連携専攻において国際連携教育課程に係る授業科目の履修により15単位以上を修得するとともに、それぞれの国際連携大学において当該国際連携教育課程に係る授業科目の履修により10単位以上修得する。

8 国際連携専攻については、第29条中「3ヶ月以上」を削り、第34条、第53条、第55条の2及び第56条の規定は適用しない。

第59条 学長は、国際連携専攻の維持に関し相手国の状況（天災、騒乱等）により正常な運営を行うことが出来ないと判断した場合には、国際連携大学の長と協議の上、運営に関し緊急に講ずべき措置について決定する。

## 第18章 雑則

第60条 この学則に定めるもののほか、大学院学生に関し必要な事項については、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）を準用する。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 第8条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科博士課程の平成16年度及び平成17年度の収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収 容 定 員	
		平成16年度	平成17年度
修士課程	医歯科学	75	95
	(医療管理学コース)	(5)	(5)
	(医療政策学コース)	(10)	(20)
博士課程	口腔機能再構築学系	168	168
	顎顔面頸部機能再建学系	120	120
	生体支持組織学系	74	73
	環境社会医歯学系	80	80
	老化制御学系	40	40
	全人的医療開発学系	32	32
	認知行動医学系	80	78
	生体環境応答学系	70	69
	器官システム制御学系先	116	116
	端医療開発学系	84	84
備考 括弧内の数字は、医療管理政策学コースに係る収容定員の数を内数で示す。			

- 3 第8条第3号の規定にかかわらず、生命情報科学教育部の平成16年度及び平成17年度の収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収 容 定 員	
		平成16年度	平成17年度
博士(前期)課程	バイオ情報学	31	32
	高次生命科学	30	30
博士(後期)課程	バイオ情報学	13	20
	高次生命科学	12	18

- 4 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学の大学院に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学の大学院の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学大学院学則（昭和30年学規第1号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この学則の相当規定によりなされた手続そ



の他の行為とみなす。

附 則（平成17年3月23日規程第3号）

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表第2及び別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成18年3月28日規程第2号）

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表第1、別表第2、別表第3及び別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成19年3月29日規程第4号）

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表第1、別表第2、別表第3及び別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年1月16日規程第2号）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第8条第3号の規定にかかわらず、生命情報科学教育部の平成20年度及び平成21年度の収容定員は、次のとおりとする。

区分	専攻名	収容定員	
		平成20年度	平成21年度
博士（前期） 課程	バイオ情報学	37	42
	高次生命科学	39	48
博士（後期） 課程	バイオ情報学	22	23
	高次生命科学	19	20

附 則（平成20年3月26日規程第4号）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成20年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表第1、別表第2、別表第3及び別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月19日規程第5号）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第8条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科修士課程の平成21年度の収容定員は、次のとおりとする。

区 分	専 名	収 容 定 員
		平成21年度

修士課程	医歯科学 (医療管理学コース) (医療政策学コース)	110 (5) (20)
------	----------------------------------	--------------------

3 平成21年3月31日において現に本大学院に在学する者及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学または編入学する者については、改正後の別表第2、別表第3、別表第4及び別表第5の規程にかかわらず、なお従前の例による。

附則（平成22年3月30日規程第4号）

- 1 この学則は平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則（平成22年12月22日規程第11号）

この学則は、平成22年12月22日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

附則（平成23年4月1日規程第2号）

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第8条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科博士課程の平成23年度から平成25年度の収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収 容 定 員		
		平成23年度	平成24年度	平成25年度
博士課程	口腔機能再構築学系	171	174	177
	顎顔面頸部機能再建学系	116	112	108
	生体支持組織学系	69	66	63
	環境社会医歯学系	79	78	77
	老化制御学系	46	52	58
	全人的医療開発学系	33	34	35
	認知行動医学系	74	72	70
	生体環境応答学系	66	64	62
	器官システム制御学系	116	116	116
	先端医療開発学系	86	88	90

3 第21条の規定にかかわらず、平成23年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、なお従前の例による。

附則（平成23年12月16日規程第9号）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附則（平成24年3月30日規程第2号）

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

- 3 改正後の第6条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科修士課程の平成24年度の收容定員、医歯学総合研究科博士課程医歯学系専攻の平成24年度から平成26年度までの收容定員並びに医歯学総合研究科博士課程生命理工学系専攻の平成24年度及び平成25年度の收容定員については、それぞれ次のとおりとする。

(1) 医歯学総合研究科

区 分	専 攻 名	收容定員
		平成24年度
修士課程	医歯理工学	110
	(医療管理学コース)	(5)
	(医療政策学コース)	(10)
備考 括弧内の数字は、医療管理政策学コースに係る收容定員の数を内数で示す。		

区 分	専攻名	収 容 定 員		
		平成24年度	平成25年度	平成26年度
博士課程	医歯学系	189	378	567

区 分	専攻名	収 容 定 員	
		平成24年度	平成25年度
博士課程	生命理工学系	25	50

附 則（平成26年3月31日規程第2号）

- この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 平成26年3月31日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。また、同日に置かれている保健衛生学研究科博士（前期）課程総合保健看護学専攻は、同日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 改正後の第5条の規定にかかわらず、平成26年度及び平成27年度の保健衛生学研究科の課程、専攻及び講座は、次のとおりとする。また、平成28年3月31日に置かれている保健衛生学研究科博士（後期）課程総合保健看護学専攻は、同日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

課 程	専 攻 名	講 座 名
博士課程	看護先進科学	基礎看護開発学 臨床看護開発学 先導的看護システム開発学
	共同災害看護学	

博士(前期・後期)課程	生体検査科学	生命情報解析開発学 分子・遺伝子応用検査学
博士(後期)	総合保健看護学	地域・在宅ケア看護学 看護機能・ケアマネジメント開発学 健康教育開発学

- 4 改正後の第6条第2号の規定にかかわらず、保健衛生学研究科博士(後期)課程総合保健看護学専攻の平成26年度及び平成27年度の入学定員並びに保健衛生学研究科博士課程、博士(前期)課程及び博士(後期)課程の平成26年度から平成29年度までの収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	入学定員	
		平成26年度	平成27年度
博士(後期)課程	総合保健看護学	8	8

区 分	専 攻 名	収容定員			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
博士課程	看護先進科学	13	26	39	52
	共同災害看護学	2 (10)	4 (20)	6 (30)	8 (40)
博士(前期)課程	総合保健看護学	17	-	-	-
	生体検査科学	24	24	24	24
博士(後期)課程	総合保健看護学	24	24	16	8
	生体検査科学	18	18	18	18

備考 括弧内の数字は、共同大学院構成大学全体の収容定員を外数で示す。

- 5 改正後の第22条の規定にかかわらず、保健衛生学研究科博士(後期)課程総合保健看護学専攻を修了した者の学位は、次のとおりとする。

区 分	学 位

保健衛生学 研究科	博士（後期）課程	博士（看護学）
--------------	----------	---------

附 則（平成 27 年 3 月 30 日規則第 52 号）

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 3 月 31 日規程第 5 号）

- この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 平成 28 年 3 月 31 日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 改正後の第 6 条第 1 号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科博士課程医歯学系専攻の平成 28 年度から平成 30 年度までの収容定員については、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収容定員		
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
博士課程	医歯学系	748	740	732

- 改正後の第 6 条第 1 号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科博士課程東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻の平成 28 年度から平成 31 年度までの収容定員及び医歯学総合研究科博士課程東京医科歯科大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻の平成 28 年度から平成 31 年度までの収容定員については、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収容定員			
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
博士課程	東京医科歯科大学・チリ大学 国際連携医学系	3	6	9	12
	東京医科歯科大学・チュラロ ンコン大学国際連携歯学系	3	6	9	12

附 則（平成 28 年 5 月 11 日規程第 8 号）

この学則は、平成 28 年 5 月 11 日から施行し、平成 28 年 5 月 1 日から適用する。

附 則（平成 28 年 12 月 12 日規程第 12 号）

この学則は、平成 28 年 12 月 12 日から施行し、平成 28 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平成 29 年 3 月 31 日規程第 2 号）

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 5 月 1 日規程第 2 号）

- この学則は、平成 30 年 5 月 1 日から施行し、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。
- 平成 30 年 3 月 31 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。また、同日に置かれている医歯学総合研究科修士課程医歯理工学専攻、医歯学総合研究科博士課程医歯学系専攻、医歯学総合研究科博士課程生命理工学系専攻、保健衛生学研究科博士（前期）課程生体検査科学専攻及び博士（後期）課程生体検査科学専攻は、同日に当該専攻に在籍する者が在籍しなくなる

までの間、存続するものとする。

- 3 改正後の第6条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科修士課程医歯理工学専攻の平成30年度の收容定員、医歯学総合研究科博士課程医歯学系専攻の平成30年度から平成32年度までの收容定員並びに医歯学総合研究科博士課程生命理工学系専攻の平成30年度及び平成31年度の收容定員については、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	收容定員
		平成30年度
修 士 課 程	医歯理工学	105
	(医療管理学コース)	(0)
	(医療政策学コース)	(10)
備考 括弧内の数字は、医療管理政策学コースに係る收容定員の数を内数で示す。		

区 分	専攻名	収 容 定 員		
		平成30年度	平成31年 度	平成32年 度
博士課程	医歯学系	551	362	181

区 分	専攻名	収 容 定 員	
		平成30年度	平成31年度
博士課程	生命理工学系	50	25

- 4 改正後の第6条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科修士課程医歯理工保健学専攻の平成30年度の收容定員、医歯学総合研究科博士課程医歯学専攻の平成30年度から平成32年度までの收容定員並びに医歯学総合研究科博士課程生命理工医療科学専攻の平成30年度及び平成31年度の收容定員については、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	收容定員
		平成30年度
修 士 課 程	医歯理工保健学	131
	(医療管理学コース)	(5)
	(医療政策学コース)	(10)
	(グローバルヘルスリーダ-養成コース)	(9)
備考 括弧内の数字は、医療管理政策学コース及びグローバルヘルスリーダ-養成コースに係る收容定員の数を内数で示す。		

区 分	専攻名	収 容 定 員		
		平成30年度	平成31年 度	平成32年 度

			度	度
博士課程	医歯学	181	362	543

区 分	専攻名	収 容 定 員	
		平成30年度	平成31年度
博士課程	生命理工医療科学	25	50

5 改正後の第6条第2号の規定にかかわらず、保健衛生学研究科博士（前期）課程生体検査科学専攻の平成30年度の入学定員並びに保健衛生学研究科博士（後期）課程生体検査科学専攻の平成30年度から平成31年度までの収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収容定員
		平成30年度
博士（前期） 課程	生体検査科学	12

区 分	専攻名	収 容 定 員	
		平成30年度	平成31年度
博士（後期） 課程	生体検査科学	12	6

附 則（平成30年9月13日規程第5号）

この学則は、平成30年9月13日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（平成31年3月31日規程第2号）

この学則は、平成31年3月31日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（令和2年3月31日規程第1号）

1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。

2 改正後の第6条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科博士課程東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻の令和2年度から令和5年度までの収容定員については、次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収容定員			
		令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
博士課程	東京医科歯科 大学・マヒド ン大学国際連 携医学系	3	6	9	12

附 則（令和3年3月31日規程第4号）

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第5条の規定にかかわらず、保健衛生学研究科共同災害看護学専攻は、令和3年3月31日において当該専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 改正後の第6条の規定にかかわらず、保健衛生学研究科共同災害看護学専攻の令和3年度から令和6年度までの収容定員については、次のとおりとする。

年度 区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収容定員	8 (40)	6 (30)	4 (20)	2 (10)

備考 括弧内の数字は、共同大学院構成大学全体の収容定員を概数で示す。

附 則（令和4年3月28日規程第7号）

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和4年7月15日規程第11号）

この学則は、令和5年4月1日から施行する。



# 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程履修内規

〔平成28年1月20日〕  
〔医歯学総合研究科長制定〕

## （趣旨）

第1条 この内規は、東京医科歯科大学大学院学則（平成16年規程第5号。以下「大学院学則」という。）第28条第2項及び東京医科歯科大学大学院履修規則（平成22年規則第42号。以下「履修規則」という。）第6条に基づき、医歯学総合研究科博士課程（国際連携専攻は除く）における開講科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

## （授業科目の区分）

第2条 医歯学総合研究科博士課程の授業科目は、主科目及び副科目とする。

- (1) 主科目は、所属分野が開設する授業科目とする。
- (2) 副科目は、前号以外の授業科目及び共通科目とする。

## （履修届）

第3条 学生は、履修規則別表に定める授業科目の中から、履修しようとする授業科目を所定の期日までに届け出なければならない。

## （追加履修）

第4条 履修科目の追加を行う学生は、各年度当初に定められた期日までに届け出なければならない。

## （履修取消し）

第5条 登録済みの大学院開講科目のうち、履修を継続しない科目については、本人からの届出により取り消すことができる。

- 2 医歯学専攻において履修取消しを行う学生は、原則として、前期開講科目については5月31日までに、後期開講科目、通年開講科目及び複数年開講科目の取消しについては11月30日までに、また、集中講義科目については、当該科目の履修期間内に、別紙「履修登録科目取消願」により研究科長に届け出るものとする。
- 3 生命理工医療科学専攻において履修取消しを行う学生は、原則として、各授業科目の第5回目の講義開始までに、また、集中講義科目については、当該科目の履修期間内に、別紙「履修登録科目取消願」により研究科長に届け出るものとする。
- 4 前2項によらず、科目責任者の判断により履修取消しを認める場合がある。
- 5 第2項及び第3項に定める期日までに履修取消し手続きを行わない場合には、当該授業科目の成績評価を不可とする。

## （授業方法等）

第6条 授業方法、内容及び1年間の授業計画は、履修要項において明示するものとする。

## （成績評価）

第7条 大学院学則第19条に定める授業科目の成績評価は、以下の基準に従って行う。

- (1) 90～100点 当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した 合格
- (2) 80～ 89点 当該科目の到達目標を全て達成した 合格
- (3) 70～ 79点 当該科目の到達目標を概ね達成した 合格
- (4) 60～ 69点 当該科目の到達目標のうち最低限を達成した 合格
- (5) 0～ 59点 当該科目の到達目標を達成していない 不合格

2 前項の成績の評価による学業結果を総合的に判断する指標として、G P A (Grade Point Average)を用いる。

3 G P Aの運用については、東京医科歯科大学大学院G P A制度に関する要項によるものとする。

4 成績評価を行い、合格した科目については、大学院医歯学総合研究科委員会の議を経て、所定の単位を授与する。

5 成績評価について異議がある学生は、所定の期日までに別に定める「成績評価異議申し立て書」を所属する専攻により学務企画課大学院教務第一係又は大学院教務第二係に提出しなければならない。

(再履修)

第8条 不合格の評価を得た科目については、所定の手続きにより再履修できるものとする。

2 再履修した科目の成績については、再履修をした年度の成績をもって評価する。

(再入学の単位認定)

第9条 大学院学則第28条に基づき再入学を許可された者の当該大学院における既修得単位については、履修規則別表に定める科目の一部又は全部を認定する。

(補則)

第10条 この内規に定めるもののほか、医歯学総合研究科博士課程における開講科目の履修に関する必要事項は、大学院医歯学総合研究科委員会において別に定める。

附 則

この内規は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年6月21日)

この内規は、平成30年6月21日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則 (平成31年4月10日)

この内規は、平成31年4月10日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則 (令和3年11月30日)

この内規は、令和3年11月30日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この内規は、令和6年4月1日から施行し、令和6年度入学者から適用する。
- 2 令和6年3月31日において、現に本学に在学する者(以下「在学者」という。)及び令和6年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

様式（第7条関係）

年 月 日

成績評価異議申し立て書

研究科 \_\_\_\_\_

課程・専攻 \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

授 業 科 目 名	担 当 教 員
(問い合わせ内容)	
担当教員への連絡	年 月 日に にて連絡
(教員の回答)	年 月 日
学 生 へ の 連 絡	年 月 日 に連絡
担 当 教 員 か ら 教 務 係 へ の 連 絡	成績訂正：有（訂正後の成績 _____）・無 年 月 日 氏名
教 務 係 確 認 欄	年 月 日

# 東京医科歯科大学学位規則

〔平成16年4月1日〕  
規則第56号

## （目的）

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条の規定に基づき、本学において授与する学位の種類、学位論文の審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

## （学位の種類）

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 本学における学士、修士及び博士の学位には、次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

学士（医学）  
学士（看護学）  
学士（保健学）  
学士（歯学）  
学士（口腔保健学）  
修士（医科学）  
修士（歯科学）  
修士（医療管理学）  
修士（医療政策学）  
修士（グローバル健康医学）  
修士（看護学）  
修士（保健学）  
修士（理学）  
修士（工学）  
修士（口腔保健学）  
博士（医学）  
博士（歯学）  
博士（数理医科学）  
博士（学術）  
博士（看護学）  
博士（保健学）  
博士（理学）  
博士（工学）  
博士（口腔保健学）

## （学位授与の要件）

第3条 学士の学位は、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）の定めるところにより、本学を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は、東京医科歯科大学大学院学則（平成16年規程第5号。以下「大学院学則」という。）の定めるところにより、本学大学院の修士課程を修了した者に授与する。

3 前項に定めるもののほか、修士の学位は、大学院学則第22条第2項の定めるところにより、大

学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻の一貫制博士課程において、修士課程の修了に相当する要件を満たした者にも授与することができる。

- 4 博士の学位は、大学院学則の定めるところにより、本学大学院の博士課程、後期3年博士課程又は一貫制博士課程を修了した者に授与する。
- 5 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本学大学院の行う学位論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士課程、後期3年博士課程又は一貫制博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与する。ただし、博士課程のうち、外国の大学と連携した教育課程を編成する専攻（以下「国際連携専攻」という。）及び一貫制博士課程のうち、共同災害看護学専攻にあつては、この規定は適用しないものとする。

#### （学位論文の提出）

- 第4条 前条第2項、第3項又は第4項の規定により、学位論文の審査を申請する者は、学位に付記する専攻分野の名称を指定して、学位論文に所定の書類を添えて、所属の研究科等の長に提出するものとする。
- 2 前条第5項の規定により、学位を請求する者は、学位に付記する専攻分野の名称を指定して、学位論文に所定の書類を添えて、学長に提出するものとする。
  - 3 前項の提出にあつては、本学の教授又は研究科委員会の構成員である准教授の推薦を必要とする。
  - 4 提出する学位論文は、自著一編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。
  - 5 いったん受理した学位論文（参考として添付された論文を含む。）は、返付しない。

#### （審査料）

- 第5条 第3条第5項の規定により学位を請求する者は、審査料を納付しなければならない。
- 2 前項の審査料の額は、別に定める。
  - 3 既納の審査料は還付しない。

#### （学位論文の審査）

- 第6条 研究科等の長は、第4条第1項の規定により学位論文の審査の申請を受理したときは、研究科委員会等に審査を付託する。
- 2 学長は、第4条第2項の規定により、学位請求の申請を受理したときは、学位に付記する専攻分野の名称に応じ、関係の研究科委員会等に学位論文の審査を付託する。
- 第7条 前条の規定により学位論文の審査を付託された研究科委員会等は、学位論文ごとに本学の専任教員3名以上により構成される審査委員会を設けて審査を行う。ただし、研究科委員会等が必要と認めたときは、連携大学院分野を構成する教員を当該審査委員会を構成する委員に含むことができる。
- 2 前項の審査委員会の委員のうち、修士に係る審査については1名以上を、博士に係る審査については2名以上を教授としなければならない。
  - 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、大学院保健衛生学研究科共同災害看護学専攻（以下「共同災害看護学専攻」という。）にあつては、前条の規定により学位論文審査を付託された研究科委員会等は、学位論文ごとに5名以上により構成される審査委員会を設けて審査を行う。
  - 4 前項の審査委員会の委員は、共同教育課程を構成する全ての大学から選出するものとする。
  - 5 第1項及び第2項の規定にかかわらず、国際連携専攻にあつては、前条の規定により

学位論文審査を付託された研究科委員会等は、共同で教育課程を編成した外国の大学院（以下「国際連携大学」という。）と協議の上、学位論文ごとに構成される合同の審査委員会を設けるものとする。

- 6 前項の審査委員会の委員は、国際連携専攻の専任教員及び学外の学識者（国際連携大学所属教員を除く）から選出するものとする。
- 7 研究科委員会等は、学位論文の審査（最終試験及び試験を含む。）に当たって必要と認めるときは、第1項に定める者のほか、他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院の教員等を審査委員会の委員に委嘱することができる。
- 8 審査委員会は、審査上必要があるときは、学位論文（参考として添付された論文を含む。）の訳文又は標本等の提出を求めることができる。

（最終試験又は試験等）

第8条 審査委員会は、学位論文の審査が終わった後に、当該論文を中心として、これに関連のある科目について最終試験又は試験を行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、共同災害看護学専攻にあっては、別に定める共同災害看護学専攻教育課程連絡協議会が選出する審査委員5名により、学位論文審査が終わった後に、当該論文を中心として、関連のある科目について最終試験又は試験を行う。
- 3 第1項の規定にかかわらず、国際連携専攻にあっては、別に定める国際連携大学との協議の場において選出する審査委員により、学位論文審査が終わった後に、当該論文を中心として、関連のある科目について最終試験を行う。
- 4 前3項の最終試験又は試験の方法は、口頭又は筆答とする。
- 5 審査委員会は、第3条第5項の規定により学位を請求する者については、専攻学術に関し、本学大学院の博士課程又は博士（後期）課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するため、口頭又は筆答による試問（外国語を含む。）を行う。
- 6 本学大学院の博士課程に4年以上在学し、大学院学則第20条第3項に規定する博士課程における所定の単位を修得して退学した者が、本学大学院博士課程入学後10年以内に、第3条第5項の規定により学位を請求するときは、前項の試問を免除する。
- 7 本学大学院の博士（後期）課程に3年以上在学し、大学院学則第20条第4項に規定する博士（後期）課程における所定の単位を修得して退学した者が、本学大学院博士（後期）課程入学後8年以内に、第3条第5項の規定により学位を請求するときは、第4項の諮問を免除する。
- 8 本学大学院博士課程看護先進科学専攻に5年以上在学し、大学院学則第20条第5項に規定する博士課程における所定の単位を修得して退学した者が、本学大学院博士課程入学後12年以内に、第3条第5項の規定により学位を請求するときは、第4項の試問を免除する。

（審査期間）

第9条 審査委員会は、その設置後、修士の学位にあっては3月以内、博士の学位にあっては1年以内に、学位論文の審査並びに最終試験又は試験及び試問を終了しなければならない。ただし、特別の事情があるときは、研究科委員会等の議決によりその期間を延長することができる。

（審査委員会の報告）

第10条 審査委員会は、学位論文の審査並びに最終試験又は試験及び試問を終了したときは、すみやかにその結果を研究科委員会等に報告しなければならない。

（研究科委員会等の審議）

第11条 研究科委員会等は、前条の報告に基づいて、学位授与の可否について審議する。

- 2 前項の審議を行うには、研究科委員会等委員構成員（海外渡航中の者及び休職中の者を除く。）の3分の2以上の出席を必要とする。
- 3 学位を授与できるものと議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

（学長への報告）

- 第12条 研究科委員会等が、学位を授与できるものと議決したとき（第6条第2項の規定により学位論文の審査を付託された者については、学位を授与できるものと議決されなかったときを含む。）は、研究科等の長は、学位論文に学位論文の内容の要旨及び学位論文の審査の要旨並びに最終試験又は試験及び試問の成績を添えて、学長に報告するとともに、意見を述べなければならない。
- 2 研究科委員会等が、第6条第1項の規定により、学位論文の審査を付託された者について、学位を授与できるものと議決したときは、研究科等の長は、前項に定めるもののほか、論文目録及び履歴書を添えて学長に報告するとともに、意見を述べなければならない。

（学位記の授与）

- 第13条 学長は、第3条第1項の規定により、学士の学位を授与すべき者に学士の学位記を授与する。
- 2 学長は、前条の意見を参酌し、修士又は博士の学位の授与の可否について認定のうえ、学位を授与すべき者には、当該学位の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨通知する。

（学位記の様式）

- 第14条 学位記の様式は、別紙様式第1、別紙様式第2-1、別紙様式第2-2、別紙様式第2-3、別紙様式第2-4、別紙様式第3-1、別紙様式第3-2、別紙様式第3-3、別紙様式第3-4、別紙様式第3-5、別紙様式第3-6及び別紙様式第3-7のとおりとする。ただし、別紙様式第3-7については、国際連携大学との協議により、国際連携大学が所在する国の公用語、国際的通用性のある第三国の言語のいずれか又は双方を併記できるものとする。
- 2 大学院学則第4条第4項及び第5条第2項に定めるコース又はプログラムを修了した者の学位記には、当該コース又はプログラムを修了した旨別紙様式2-3、別紙様式第2-4、別紙様式3-4、別紙様式3-5及び別紙様式3-6のとおり付記するものとする。

（博士論文要旨等の公表）

- 第15条 大学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

（博士論文の公表）

- 第16条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。
- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
  - 3 博士の学位を授与された者が行う前二項の規定による公表は、本学がインターネットの利用により行うものとする。

(学位の名称の使用)

第17条 学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、東京医科歯科大学名を付記するものとする。ただし、共同災害看護学専攻に係る学位にあつては、当該共同災害看護学専攻を構成する大学名を、国際連携専攻に係る学位にあつては国際連携大学名を付記するものとする。

(学位授与の取消)

第18条 学位を授与された者が次の各号の一に該当するときは、学長は関係の学部教授会又は研究科委員会等の意見を聴いて、学位の授与を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- (1) 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき
- (2) その名誉を汚す行為があつたとき

- 2 学部教授会において前項の議決を行う場合は、教授会構成員（海外渡航中及び休職中の者を除く。）の3分の2以上の出席を必要とし、かつ無記名投票により出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 3 研究科委員会等において第1項の議決を行う場合は、第11条第2項及び第3項の規定を準用する。

(学位授与の報告)

第19条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、文部科学大臣に報告するものとする。

(その他)

第20条 本規則に定めるもののほか、修士及び博士の学位論文の審査及び試験に関し必要な事項は、各研究科委員会等が別に定める。ただし、国際連携専攻にあつては、国際連携大学と協議し別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学学位規則（昭和50年学規第33号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この規則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附 則（平成19年3月6日規則第3号）抄

(施行期日)

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成22年12月22日規則第80号）

この規則は、平成22年12月22日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

附 則（平成24年3月30日規則第43号）

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成25年5月30日規則第71号）

- 1 この規則は、平成25年5月30日から施行し、平成25年4月1日から適用する。
- 2 改正後の第15条の規定は、この規則の施行の日以降に博士の学位を授与した場合について適用し、同日前に博士の学位を授与した場合については、なお従前の例による。
- 3 改正後の第16条の規定は、この規則の施行の日以降に博士の学位を授与された者に



ついて適用し、同日前に博士の学位を授与された者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年3月31日規則第24号）

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成26年10月30日規則第112号）

この規則は、平成26年10月30日から施行する。

附 則（平成27年3月10日規則第18号）

この規則は、平成27年3月10日から施行する。

附 則（平成27年3月30日規則第53号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月28日規則第63号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成30年9月28日規則第21号）

- 1 この規則は、平成30年9月28日から施行し、平成30年4月1日から適用する。
- 2 平成30年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成31年3月31日規則第35号）

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和3年5月13日規則第64号）

- 1 この規則は、令和3年5月13日から施行し、令和3年4月1日から適用する。
- 2 令和3年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和5年3月23日規則第41号）

- 1 この規則は、令和5年4月1日から施行する。

様式第1 (学士の場合)

卒業証書  
学位記

大学印

本籍 (都道府県名)

氏名

年 月 日生

本学の学則の定めるところにより 学部 学科

正規の試験に合格したことを認める

東京医科歯科大学 学部長 学部長印

右学部長の認定により本学を卒業したことを認め

学士 ( ) の学位を授与する

年 月 日

東京医科歯科大学長

学長印

第 号

様式第2-1 (医歯学総合研究科修士課程修了による修士の場合)

第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日生

本学大学院医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻の修士課程において  
所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので  
修士 ( ) の学位を授与する

年 月 日

東京医科歯科大学 印

様式第2-2 (保健衛生学研究科看護先進科学専攻博士課程において修士課程修了に相当する要件を満たした修士の場合)

第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日生

本学大学院生保健衛生学研究科  
専攻において修士課程の修了に相当する要件を満たしたので  
修士(看護学)の学位を授与する

年 月 日

東京医科歯科大学 印

様式第2-3 (医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻先制医療学コース修了による修士の場合)

第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日生

本学大学院医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻の修士課程において  
所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので  
修士( )の学位を授与する  
先制医療学コースを修了したことを証する

年 月 日

東京医科歯科大学 印

様式第2-4 (医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻臨床疫学プログラム修了による修士の場合)

第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日生

本学大学院医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻の修士課程において  
所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので  
修士 ( ) の学位を授与する

臨床疫学プログラムを修了したことを証する

年 月 日

東京医科歯科大学 印

第 号

年 月 日

本学大学院医歯学総合研究科  
専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審  
査及び最終試験に合格したので博士 ( ) の学位を授与す  
る

氏 名

年 月 日生

学 位 記

様式第3-1 (医歯学総合研究科博士課程修了による博士の場合)

東京医科歯科大学 印

様式第3-2 (保健衛生学研究科看護先進科学専攻博士課程修了  
による博士の場合)

学 位 記

氏 名  
年 月 日生

本学大学院保健衛生学研究科  
専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及  
び最終試験に合格したので博士(看護学)の学位を授与する

年 月 日

東京医科歯科大学 印

第 号

様式第3-3 (論文提出による博士の場合)

学 位 記

氏 名  
年 月 日生

本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格し  
たので博士( )の学位を授与する

年 月 日

東京医科歯科大学 印

第 号

様式第3-4 (保健衛生学研究科災害看護グローバルリーダー養成コース修了による博士の場合)

学位記

氏名  
年 月 日生

本学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので博士(看護学)の学位を授与する  
災害看護グローバルリーダー養成コース (Disaster Nursing Global Leader) を修了したことを証する

年 月 日

東京医科歯科大学 印

第 号

様式第3-5 (医歯学総合研究科博士課程先制医歯理工学コース修了による博士の場合)

学位記

氏名  
年 月 日生

本学大学院医歯学総合研究科  
専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので博士( )の学位を授与する  
先制医歯理工学コースを修了したことを証する

年 月 日

東京医科歯科大学 印

第 号

様式第3―6（医歯学総合研究科博士課程臨床疫学プログラム修了による博士の場合）

学 位 記

氏 名

年 月

日 生

日 生

本学大学院医歯学総合研究科  
専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査  
及び最終試験に合格したので博士（ ）の学位を授与する  
臨床疫学プログラムを修了したことを証する

年 月 日

第 号

東京医科歯科大学 印

様式第3-7 (医歯学総合研究科国際連携専攻課程修了による博士の場合)

学 位 記

東京医科歯科大学及び〇〇〇〇〇〇大学の間で〇〇〇〇年〇〇月〇〇日に締結された協定に基づく国際連携〇〇専攻の博士課程を修了したので博士(〇〇)の学位を以下の者に授与する

氏 名  
生 年 月 日  
学 位 授 与 日

東京医科歯科大学長  
〇〇〇〇〇  
(大学長印又は学長サイン)  
学位記番号

〇〇〇〇〇〇大学長  
〇〇〇〇〇  
(大学長印又は学長サイン)  
学位記番号

用紙の規格及び様式等については、国際連携大学との協議により定める。



# 東京医科歯科大学大学院履修規則

平成22年3月30日  
規則第42号

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学大学院における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学大学院学則(平成16年規程第5号。以下「大学院学則」という。)に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目及び履修)

第2条 本大学院の授業科目及び修得すべき単位数は、別表1に定めるものとする。

2 前項の授業科目及び修得すべき単位数は、各研究科の意見を聴いて学長が定めるものとする。

(授業)

第3条 授業は、講義、演習、実験若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

(1単位当たりの授業時間)

第4条 大学院学則第11条の2に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 医歯学総合研究科

ア 講義及び演習については、15時間から30時間

イ 実験及び実習については、30時間から45時間

(2) 保健衛生学研究科

ア 講義及び演習については、15時間から30時間

イ 実験及び実習については、30時間から45時間

2 前項の授業時間の設定においては、次の事項に配慮しなければならない。

(1) 学習目標を十分に満たすこと

(2) 履修時間及び自主的学修時間の確保

(試験及び単位)

第5条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を取得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を取得することができない。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年4月28日規則第61号)

この規則は、平成23年4月28日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則(平成24年3月12日規則第33号)

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成24年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず

ず、なお従前の例による。

附 則（平成25年3月12日規則第24号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月31日規則第15号）

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月31日規則第24号）

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 改正後の第2条の規定にかかわらず、平成26年度及び平成27年度に保健衛生学研究科博士（後期）課程総合保健看護学専攻に入学する者の授業科目及び履修は次のとおりとする。

#### 大学院保健衛生学研究科博士（後期）課程総合保健看護学専攻

授業科目の名称	単位数
地域・在宅ケア看護学	
地域保健看護学特論	4
在宅ケア看護学特論	4
リプロダクティブヘルス看護学特論	4
精神保健看護学特論	4
看護機能・ケアマネジメント開発学	
生体・生活機能看護学特論	4
小児・家族発達看護学特論	4
先端侵襲緩和ケア看護学特論	4
高齢者看護・ケアシステム開発学特論	4
看護システムマネジメント学特論	4
健康教育開発学	
健康情報分析学特論	4
健康教育学特論	4
国際看護開発学特論	4
特別研究	8

下記に示す修了要件単位を全て修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

- (1) 所属教育研究分野の特論4単位
- (2) 特別研究8単位

附 則（平成27年2月17日規則第11号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年5月18日規則第127号）

この規則は、平成27年5月18日から施行し、平成26年10月1日から適用する。

附 則（平成27年5月18日規則第128号）

- 1 この規則は、平成27年5月18日から施行し、平成27年4月1日から適用する。
- 2 平成27年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成27年11月16日規則第208号）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成28年3月4日規則第5号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月31日規則第62号）

- 1 この規則は平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 29 年 1 月 1 日規則第 9 号）

- 1 この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 29 年 3 月 3 1 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の別表 1（1）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 29 年 3 月 3 0 日規則第 4 9 号）

この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 29 年 3 月 3 1 日規則第 5 5 号）

この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 29 年 6 月 2 1 日規則第 9 7 号）

- 1 この規則は、平成 29 年 6 月 2 1 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 平成 29 年 3 月 3 1 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 30 年 3 月 3 0 日規則第 2 5 号）

- 1 この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 30 年 3 月 3 1 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 31 年 3 月 3 1 日規則第 3 6 号）

- 1 この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 31 年 3 月 3 1 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。ただし、未来がん医療プロフェッショナル養成プラン科目を除く。

附 則（令和 2 年 3 月 3 1 日規則第 2 5 号）

- 1 この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 令和 2 年 3 月 3 1 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の第 2 条第 1 項に規定する別表 1（3）の①及び②は、平成 31 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 3 年 5 月 1 8 日規則第 6 5 号）

- 1 この規則は令和 3 年 5 月 1 8 日から施行し、令和 3 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 令和 3 年 3 月 3 1 日において現に本学大学院に在籍する者（以下「在籍者」という。）及び令和 3 年 4 月 1 日以降に在籍者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、別表 1（6）の次に掲げる科目を除いて、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1（6）がん病態治療学、緩和ケア看護学特論 I、がん薬物療法看護学特論 I、がん薬物療法看護学演習 I、緩和ケア看護学演習 I、災害看護学特論 I、災害看護学演習 I、クリティカルケア看護学特論 I、クリティカルケア看護学演習 I A、クリティカルケア看護学演習 I B、急性・重症患者フィジカルアセスメント、急性・重症患者治療管理論、災害看護学インターンシップ、コンサルテーション論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学

附 則（令和 4 年 3 月 2 8 日規則第 6 1 号）

- 1 この規則は令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 令和 4 年 3 月 3 1 日において現に本学大学院に在籍する者については、次の事項を除き改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

（1）別表 1（2）注第 1 項ただし書、別表 1（5）注第 1 項第 2 号ただし書及び別表 1（6）注第 1 項ただし書

（2）別表 1（1）、（2）及び（8）の次に掲げる科目

別表 1（1）及び（8） ポストコロナ社会における感染症対策

別表 1（2） Essential Expertise for Clinical Dentistry (EECD)

附 則（令和 5 年 3 月 2 8 日規則第 4 2 号）

- 1 この規則は令和 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 令和 5 年 3 月 3 1 日において現に本学大学院に在籍する者については、次の事項を除き改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

（1）別表 1（1）（2）（5）及び（6）の次に掲げる科目

別表 1（1）（2）（5）及び（6）

疫学基礎、生物統計学基礎、生物統計学応用 I、生物統計学応用 II、臨床試験方法論基礎、臨床試験方法論応用、口腔疫学基礎、疫学応用

別表 1 (1) (2) 及び (5)

臨床疫学解析演習

別表 1 (2) 及び (5)

先端口腔保健応用学特論、先端口腔保健応用学演習、先端口腔保健工学特論、  
硬組織研究・骨形態計測学特論

別表 1 (5)

口腔保健学セミナー

(2) 別表 1 (1) 注第 13 項、別表 1 (2) 注第 5 項及び別表 1 (5) 注第 4 項

(3) 別表 1 (8) 注第 1 項※ \* 1

3 令和 5 年 3 月 31 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、  
なお従前の例による。ただし、別表 1 (6) 共通科目 (看護系以外) については、修了要件単位に  
含まない授業科目として履修できるものとする。

附 則 (令和 年 月 日規則第 号)

1 この規則は令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

2 令和 6 年 3 月 31 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、  
なお従前の例による。ただし、次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン科目を除く。

別表 1

(1) 大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工保健学専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
基礎科目	医歯学総合概論*1, *2, *3, *5, *9	1	2
	初期研究研修		
	医歯理工学先端研究特論*1, *2, *3, *5, *9		1
	人体形態学*1, *9		1
	口腔形態学*2, *3		1
	人体機能学*1, *2, *3, *9		1
	病理病態学*1, *2, *4, *9		1
	環境社会医歯学*1, *2, *3, *9		1
	病院実習		1
	口腔保健臨地実習*4		2
	口腔保健工学特論*4		2
専門科目	生化学*9		2
	薬理学		2
	免疫学		2
	発生・再生科学		2
	細胞生物学特論		1
	神経疾患特論		2
	遺伝医学特論*9		2
	口腔保健福祉学		2
	ビッグデータ解析学*8		1
	疾患オミックス情報学特論		1
	機能分子化学*6		2
	ケミカルバイオロジー特論*6		2
	ケミカルバイオロジー技術特論*6		2
	分子構造学特論*6		2
	生体材料学*6		2
	バイオメディカルデバイス理工学 I *6, *8		1
	バイオメディカルデバイス理工学 II *6		1
	応用生体材料学*6		2
	医歯薬産業技術特論*6		1

	バイオメディカルシステム工学Ⅰ*6		1
	バイオメディカルシステム工学Ⅱ*6		1
	英語交渉・ディベート特論		2
	研究倫理・医療倫理学*8,*9		1
	生命工学概論*11		2
	トランスレーショナルリサーチ特論		2
	産学リンク特論		2
	先制医療学実習*8		2
	先制医療学基礎実習*8,*9		1
	保健医療情報学		2
	Basic Human Pathology for Graduate Students		1
	生体検査科学特論Ⅰ*7		2
	生体検査科学特論Ⅱ*7		2
	生体検査科学セミナーⅠ*7		1
	臨床実践特別演習入門		1
	臨床実践特別演習Ⅰ		1
	臨床実践特別演習Ⅱ		1
	医療データ科学概論*8		1
	時間・空間の分子生命科学		1
	疫学基礎*12		1
	生物統計学基礎*12		1
	生物統計学応用Ⅰ*12		1
	生物統計学応用Ⅱ*12		1
	臨床試験方法論基礎*12		1
	臨床試験方法論応用*12		1
	口腔疫学基礎*12		1
	疫学応用*12		1
	臨床疫学解析演習*13		1
演習・実習・研究科目	医科学演習*1,*9		4
	医科学実習*1,*9		4
	歯科学演習*2		4
	歯科学実習*2		4
	口腔保健学演習*3		4
	口腔保健学実習*3		4
	生命工学演習*5		4
	生命工学実習*5		4
	保健学演習*7		4
	保健学実習*7		4
	課題研究	4	
医療管理政策学科目 (医療管理政策学コース)	医療政策概論*9		1
	医療社会政策論		1
	世界の医療制度		1
	医療保険論		2
	医療政策各論		2
	医療産業論		2
	医療経済論		2
	先端医療技術・産学連携		1
	医療機関リスク管理		1
	医療のTQM		1
	医療機能評価		1
	ポストコロナ社会における感染症対策		1

医療制度と法	1
医事紛争と法	1
生命倫理と法	1
診療情報管理学	1
IT時代の医療診断システムとセキュリティ	1
医療思想史	1
世界の文化と医療	1
世界の宗教と死生観	1
病院設計・病院設備	1
衛生工学・汚染管理	1
医療とリーダーシップ	1
戦略と組織	1
財務・会計	1
医療の人間工学	1
人的資源管理	1
医療とコミュニケーション*9	1
医歯学総合概論	2
臨床研究・治験	1
ビッグデータ解析学	1
DPC データ分析概論	1
医歯理工学先端研究特論	1
環境社会医歯学	1
医歯薬産業技術特論	1
医療データ科学概論	1
疫学基礎	1
生物統計学基礎	1
生物統計学応用Ⅰ	1
生物統計学応用Ⅱ	1
臨床試験方法論基礎	1
臨床試験方法論応用	1
口腔疫学基礎	1
疫学応用	1
課題研究	8

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
グローバル健康医学 科目 (グローバルヘルス リーダー養成コース)	疫学Ⅰ*8	2	
	疫学Ⅱ		2
	生物統計Ⅰ*8	2	
	生物統計Ⅱ		2
	基礎医学概論		2
	医療システム	2	
	プラネタリーヘルス	2	
	グローバルヘルス	4	
	母子保健学		2
	医療ビジネス論		2
	行動科学	2	
	環境保健学	2	
	疫学基礎*12		1
	生物統計学基礎*12		1
	生物統計学応用Ⅰ*12		1

	生物統計学応用Ⅱ*12		1
	臨床試験方法論基礎*12		1
	臨床試験方法論応用*12		1
	口腔疫学基礎*12		1
	疫学応用*12		1
	臨床疫学解析演習*13		1
	課題研究Ⅰ	6	
	課題研究Ⅱ	6	
認定遺伝カウンセラ ー受験資格関連科目 (遺伝カウンセリン グコース)	人類遺伝学*9, *10	2	
	臨床遺伝学*9, *10	2	
	研究倫理演習*9, *10	1	
	遺伝カウンセリング学*9, *10	3	
	遺伝カウンセリング実習*9, *10	6	

1 下記に示す修了要件単位を修得すること。

- (1) 修士（医科学）、修士（歯科学）の修得を目指す学生は、基礎科目中、必修科目から8単位、演習・実習・研究科目12単位、その他基礎科目（必修科目は除く。）、専門科目及び医療管理政策学科目並びにグローバル健康医学科目から10単位以上を履修し、合わせて30単位以上。
  - (2) 修士（口腔保健学）の修得を目指す学生は、基礎科目中、必修科目から7単位、基礎科目の選択科目中「病理病態学」及び「口腔保健臨地実習」又は「口腔保健工学特論」から2単位以上、演習・実習・研究科目12単位、その他基礎科目（必修科目は除く。）、専門科目及び医療管理政策学科目並びにグローバル健康医学科目から9単位以上を履修し、合わせて30単位以上。
  - (3) 修士（理学）、修士（工学）の修得を目指す学生は、基礎科目中、必修科目4単位、演習・実習・研究科目12単位、その他基礎科目（必修科目は除く。ただし、選択科目中、人体形態学を履修した者は口腔形態学の履修は不可）、専門科目及び医療管理政策学科目並びにグローバル健康医学科目から14単位以上を履修し、合わせて30単位以上。
  - (4) 修士（保健）の修得を目指す学生は、基礎科目中、必修科目1単位、専門科目中、必修科目7単位、演習・実習・研究科目12単位、その他基礎科目（必修科目を除く。ただし、選択科目中、人体形態学を履修した者は口腔形態学の履修は不可）、専門科目（必修科目は除く。）及び医療管理政策学科目並びにグローバル健康医学科目から10単位以上を履修し、合わせて30単位以上。
  - (5) 修士（医療管理学）、修士（医療政策学）の修得を目指す学生は医療管理政策学科目のうち課題研究8単位及びその他の科目22単位以上を履修し、合わせて30単位以上。
  - (6) 修士（グローバル健康医学）の修得を目指す学生は、グローバル健康医学科目のうち必修科目28単位、選択科目2単位以上を履修し、合わせて30単位以上。
- 2 \*1：修士（医科学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
  - 3 \*2：修士（歯科学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
  - 4 \*3：修士（口腔保健学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
  - 5 \*4：修士（口腔保健学）の修得を目指す学生について、「病理病態学」と「口腔保健臨地実習」もしくは「口腔保健工学特論」を必ず履修すること。
  - 6 \*5：修士（理学）、修士（工学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
  - 7 \*6：修士（工学）の修得を目指す学生について、9科目15単位の中から4単位以上必ず履修すること。
  - 8 \*7：修士（保健学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
  - 9 \*8：先制医療学コースを履修する学生は、医歯理工保健学専攻の修了要件を満たし、先制医療学コース指定科目を全て履修し、単位を修得した場合、先制医療学コースに関する学修成果を認定する。
  - 10 \*9：以下の\*10を含む遺伝カウンセリングコース指定科目を37単位修得した場合、認定遺伝カウンセラーの受験資格を得ることが出来る。
  - 11 \*10：先進倫理医科学分野に所属する学生が選択できる授業科目。
  - 12 \*11：修士（理学）、修士（工学）の修得を目指す学生のうち10月に入学する学生について必修科目とする。
  - 13 \*12及び13：臨床疫学プログラムを履修する学生は、医歯理工保健学専攻の修了要件を満たし、臨床疫学プログラム指定科目から選択科目（\*12）を5単位以上かつ必修科目（\*13）を全て履修

し、単位を修得した場合、臨床疫学プログラムに関する学修成果を認定する。



## (2) 大学院医歯学総合研究科博士課程医歯学専攻

科目区分		授業科目の名称	単位数	
			必修	選択
専攻共通科目		初期研究研修*2		1
		医歯学総合特論（大学院セミナー）*2		2
		医歯学先端研究特論（大学院特別講義）		4
		医歯学総合研究科コース特論*2		6
		包括臨床演習		8
		Essential Expertise for Clinical Dentistry (EECD)		1
		疾患予防パブリックヘルス医学概論*2		2
		マネジメント特論*1		1
		国際動向特論*1		1
		知的財産特論*1		1
		英語ディベート特論*1		1
		英語プレゼンテーション特論*1		1
		疾患生命科学特論		2
		先端機能分子特論		1
		機能分子開発技術特論		1
		機能再建材料学特論		1
		組織再生材料学特論		1
		生体機能材料学特論		1
		医用材料工学特論		1
		生体情報数理解析論		1
		理研生体分子制御学特論		2
		先端口腔保健応用学特論		2
		先端口腔保健応用学演習		1
		先端口腔保健工学特論		1
		硬組織研究・骨形態計測学特論		1
		実践疫学		2
		アドバンス生物統計学		2
		公衆衛生のための医学・生物学		2
		医療システム・マネジメント		2
		プラネタリーヘルス		2
		グローバルヘルス		4
		母子保健		2
ヘルスケアビジネス		2		
行動科学		2		
環境保健		2		
先制医歯理工学科目	共通科目	先制医歯理工学概論Ⅰ		1
		先制医歯理工学概論Ⅱ		1
		データサイエンス特論Ⅰ		1
		データサイエンス特論Ⅱ		1
		データサイエンス特論Ⅲ		1
		データサイエンス特論Ⅳ		1
	臨床統計・バイオインフォマティクス専門科目	疫学		2
		臨床・遺伝統計学		2
	先進医療デバイス IoT 学専門科目	先端バイオセンシングデバイス特論		1
		医療デバイス・システム機器特論		1
ウェアラブル IoT 技術特論			1	
疾患生命創薬科学	疾患分子病態学特論		1	

	専門科目	先端ケミカルバイオロジー特論		1
		生体分子制御学特論		1
臨床疫学科目		疫学基礎*3		1
		生物統計学基礎*3		1
		生物統計学応用Ⅰ*3		1
		生物統計学応用Ⅱ*3		1
		臨床試験方法論基礎*3		1
		臨床試験方法論応用*3		1
		口腔疫学基礎*3		1
		疫学応用*3		1
		臨床疫学解析演習*4		1
次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン科目		がんの生物学・解剖学・病理学		1
		がんゲノム治療学演習		1
		低侵襲がん治療Ⅰ		1
		低侵襲がん治療Ⅱ		1
		臓器別がん		1
		小児・希少がん		1
		臨床腫瘍学		1
		がんゲノム医療		1
		造血器腫瘍		1
		腫瘍放射線生物学特論		1
		放射線診断学・核医学特論		1
		腫瘍放射線治療学特論		1
		がん化学療法特論		1
		緩和ケア・緩和医療学		1
		がん病理診断学		1
		口腔がん・がん口腔支持療法		1
		腫瘍循環器		1
		がんゲノム医療実習		4
		造血器腫瘍実践演習		2
		がん病理診断演習		1
	腫瘍循環器実践演習		2	
口腔病理学分野科目		口腔病理学特論	6	※
		口腔病理学演習	4	
		研究実習	8	
細菌感染制御学分野科目		細菌感染制御学特論	6	※
		細菌感染制御学演習	4	
		研究実習	8	
分子免疫学分野科目		分子免疫学特論	6	※
		分子免疫学演習	4	
		研究実習	8	
先端材料評価学分野科目		先端材料評価学特論	6	※
		先端材料評価学演習	4	
		研究実習	8	
歯科放射線診断・治療学分野科目		歯科放射線診断・治療学特論	6	※
		歯科放射線診断・治療学演習	4	
		研究実習	8	
顎口腔腫瘍外科学分野科目		顎口腔腫瘍外科学特論	6	※
		顎口腔腫瘍外科学演習	4	
		研究実習	8	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野科目	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学特論	6	※
	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学演習	4	
	研究実習	8	
小児歯科学・障害者歯科学分野科目	小児歯科学・障害者歯科学特論	6	※
	小児歯科学・障害者歯科学演習	4	
	研究実習	8	
咬合機能矯正学分野科目	咬合機能矯正学特論	6	※
	咬合機能矯正学演習	4	
	研究実習	8	
う蝕制御学分野科目	う蝕制御学特論	6	※
	う蝕制御学演習	4	
	研究実習	8	
咬合機能健康科学分野科目	咬合機能健康科学特論	6	※
	咬合機能健康科学演習	4	
	研究実習	8	
歯髄生物学分野科目	歯髄生物学特論	6	※
	歯髄生物学演習	4	
	研究実習	8	
生体補綴歯科学分野科目	生体補綴歯科学特論	6	※
	生体補綴歯科学演習	4	
	研究実習	8	
口腔再生再建学分野科目	口腔再生再建学特論	6	※
	口腔再生再建学演習	4	
	研究実習	8	
形成・再建外科学分野科目	形成・再建外科学特論	6	※
	形成・再建外科学演習	4	
	研究実習	8	
頭頸部外科学分野科目	頭頸部外科学特論	6	※
	頭頸部外科学演習	4	
	研究実習	8	
腫瘍放射線治療学分野科目	腫瘍放射線治療学特論	6	※
	腫瘍放射線治療学演習	4	
	研究実習	8	
口腔顎顔面解剖学分野科目	口腔顎顔面解剖学特論	6	※
	口腔顎顔面解剖学演習	4	
	研究実習	8	
認知神経生物学分野科目	認知神経生物学特論	6	※
	認知神経生物学演習	4	
	研究実習	8	
分子発生・口腔組織学分野科目	分子発生・口腔組織学特論	6	※
	分子発生・口腔組織学演習	4	
	研究実習	8	
分子細胞機能学分野科目	分子細胞機能学特論	6	※
	分子細胞機能学演習	4	
	研究実習	8	
顎顔面外科学分野科目	顎顔面外科学特論	6	※
	顎顔面外科学演習	4	
	研究実習	8	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
顎顔面矯正学分野科目	顎顔面矯正学特論	6	※
	顎顔面矯正学演習	4	
	研究実習	8	
生体組織再建外科学分野科目	生体組織再建外科学特論	6	※
	生体組織再建外科学演習	4	
	研究実習	8	
細胞生物学分野科目	細胞生物学特論	6	※
	細胞生物学演習	4	
	研究実習	8	
病態代謝解析学分野科目	病態代謝解析学特論	6	※
	病態代謝解析学演習	4	
	研究実習	8	
運動器外科学分野科目	運動器外科学特論	6	※
	運動器外科学演習	4	
	研究実習	8	
病態生化学分野科目	病態生化学特論	6	※
	病態生化学演習	4	
	研究実習	8	
分子情報伝達学分野科目	分子情報伝達学特論	6	※
	分子情報伝達学演習	4	
	研究実習	8	
歯周病学分野科目 (歯周病学担当)	歯周病学Ⅰ特論	6	※
	歯周病学Ⅰ演習	4	
	研究実習	8	
歯周病学分野科目 (歯周光線治療学担当)	歯周病学Ⅱ特論	6	※
	歯周病学Ⅱ演習	4	
	研究実習	8	
生体情報継承学分野科目	生体情報継承学特論	6	※
	生体情報継承学演習	4	
	研究実習	8	
無機生体材料学分野科目	無機生体材料学特論	6	※
	無機生体材料学演習	4	
	研究実習	8	
公衆衛生学分野科目	公衆衛生学特論	6	※
	公衆衛生学演習	4	
	研究実習	8	
寄生虫学・熱帯医学分野科目	寄生虫学・熱帯医学特論	6	※
	寄生虫学・熱帯医学演習	4	
	研究実習	8	
法医学分野科目	法医学特論	6	※
	法医学演習	4	
	研究実習	8	
政策科学分野科目	政策科学特論	6	※
	政策科学演習	4	
	研究実習	8	
分子疫学分野科目	分子疫学特論	6	※
	分子疫学演習	4	
	研究実習	8	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
医療政策情報学分野科目	医療政策情報学特論	6	※
	医療政策情報学演習	4	
	研究実習	8	
先進倫理医科学分野科目	先進倫理医科学特論	6	※
	先進倫理医科学演習	4	
	研究実習	8	
法歯学分野科目	法歯学特論	6	※
	法歯学演習	4	
	研究実習	8	
医療経済学分野科目	医療経済学特論	6	※
	医療経済学演習	4	
	研究実習	8	
歯学教育開発学分野科目	歯学教育開発学特論	6	※
	歯学教育開発学演習	4	
	研究実習	8	
健康推進歯学分野科目	健康推進歯学特論	6	※
	健康推進歯学演習	4	
	研究実習	8	
歯学教育システム評価学分野科目	歯学教育システム評価学特論	6	※
	歯学教育システム評価学演習	4	
	研究実習	8	
教育メディア開発学分野科目	教育メディア開発学特論	6	※
	教育メディア開発学演習	4	
	研究実習	8	
保険医療管理学分野科目	保険医療管理学特論	6	※
	保険医療管理学演習	4	
	研究実習	8	
国際保健医療事業開発学分野科目	国際保健医療事業開発学特論	6	※
	国際保健医療事業開発学演習	4	
	研究実習	8	
臨床統計学分野科目	臨床統計学特論	6	※
	臨床統計学演習	4	
	研究実習	8	
感染症健康危機管理学分野科目	感染症健康危機管理学特論	6	※
	感染症健康危機管理学演習	4	
	研究実習	8	
医療安全管理学分野科目	医療安全管理学特論	6	※
	医療安全管理学演習	4	
	研究実習	8	
リハビリテーション医学分野科目	リハビリテーション医学特論	6	※
	リハビリテーション医学演習	4	
	研究実習	8	
高齢者歯科学分野科目	高齢者歯科学特論	6	※
	高齢者歯科学演習	4	
	研究実習	8	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
摂食嚥下リハビリテーション学分野科目	摂食嚥下リハビリテーション学特論	6	※
	摂食嚥下リハビリテーション学演習	4	
	研究実習	8	
臨床検査医学分野科目	臨床検査医学特論	6	※
	臨床検査医学演習	4	
	研究実習	8	
生体集中管理学分野科目	生体集中管理学特論	6	※
	生体集中管理学演習	4	
	研究実習	8	
臨床医学教育開発学分野科目	臨床医学教育開発学特論	6	※
	臨床医学教育開発学演習	4	
	研究実習	8	
救急災害医学分野科目	救急災害医学特論	6	※
	救急災害医学演習	4	
	研究実習	8	
臨床腫瘍学分野科目 (腫瘍内科学・緩和医療学担当)	臨床腫瘍学Ⅰ特論	6	※
	臨床腫瘍学Ⅰ演習	4	
	研究実習Ⅰ	8	
臨床腫瘍学分野科目 (がんゲノム治療学担当)	臨床腫瘍学Ⅱ特論	6	※
	臨床腫瘍学Ⅱ演習	4	
	研究実習Ⅱ	8	
総合診療歯科学分野科目	総合診療歯科学特論	6	※
	総合診療歯科学演習	4	
	研究実習	8	
歯科心身医学分野科目	歯科心身医学特論	6	※
	歯科心身医学演習	4	
	研究実習	8	
総合診療医学分野科目	総合診療医学特論	6	※
	総合診療医学演習	4	
	研究実習	8	
統合臨床感染症学分野科目	統合臨床感染症学特論	6	※
	統合臨床感染症学演習	4	
	研究実習	8	
神経機能形態学分野科目	神経機能形態学特論	6	※
	神経機能形態学演習	4	
	研究実習	8	
システム神経生理学分野科目	システム神経生理学特論	6	※
	システム神経生理学演習	4	
	研究実習	8	
分子神経科学分野科目	分子神経科学特論	6	※
	分子神経科学演習	4	
	研究実習	8	
神経病理学分野科目	神経病理学特論	6	※
	神経病理学演習	4	
	研究実習	8	
眼科学分野科目	眼科学特論	6	※
	眼科学演習	4	
	研究実習	8	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
耳鼻咽喉科学分野科目	耳鼻咽喉科学特論	6	※
	耳鼻咽喉科学演習	4	
	研究実習	8	
脳神経病態学分野科目	脳神経病態学特論	6	※
	脳神経病態学演習	4	
	研究実習	8	
精神行動医科学分野科目(精神行動医科学担当)	精神行動医科学Ⅰ特論	6	※
	精神行動医科学Ⅰ演習	4	
	研究実習	8	
精神行動医科学分野科目(犯罪精神医科学担当)	精神行動医科学Ⅱ特論	6	※
	精神行動医科学Ⅱ演習	4	
	研究実習	8	
精神行動医科学分野科目(リエゾン精神医学 - 精神腫瘍学担当)	精神行動医科学Ⅲ特論	6	※
	精神行動医科学Ⅲ演習	4	
	研究実習	8	
脳神経機能外科学分野科目	脳神経機能外科学特論	6	※
	脳神経機能外科学演習	4	
	研究実習	8	
血管内治療学分野科目	血管内治療学特論	6	※
	血管内治療学演習	4	
	研究実習	8	
NCNP脳機能病態学分野科目	NCNP脳機能病態学特論	6	※
	NCNP脳機能病態学演習	4	
	研究実習	8	
免疫学分野科目	免疫学特論	6	※
	免疫学演習	4	
	研究実習	8	
ウイルス制御学分野科目	ウイルス制御学特論	6	※
	ウイルス制御学演習	4	
	研究実習	8	
生体防御学分野科目	生体防御学特論	6	※
	生体防御学演習	4	
	研究実習	8	
環境生物学分野科目	環境生物学特論	6	※
	環境生物学演習	4	
	研究実習	8	
免疫制御学分野科目	免疫制御学特論	6	※
	免疫制御学演習	4	
	研究実習	8	
脂質生物学分野科目	脂質生物学特論	6	※
	脂質生物学演習	4	
	脂質生物学研究実習	8	
発生発達病態学分野科目	発生発達病態学特論	6	※
	発生発達病態学演習	4	
	研究実習	8	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
膠原病・リウマチ内科学分野科目	膠原病・リウマチ内科学特論	6	※
	膠原病・リウマチ内科学演習	4	
	研究実習	8	
皮膚科学分野科目	皮膚科学特論	6	※
	皮膚科学演習	4	
	研究実習	8	
NCCHD成育医学分野科目	NCCHD成育医学特論	6	※
	NCCHD成育医学演習	4	
	研究実習	8	
ハイリスク感染症研究マネジメント学分野科目	ハイリスク感染症研究マネジメント学特論	6	※
	ハイリスク感染症研究マネジメント学演習	4	
	研究実習	8	
人体病理学分野科目	人体病理学特論	6	※
	人体病理学演習	4	
	研究実習	8	
細胞生理学分野科目	細胞生理学特論	6	※
	細胞生理学演習	4	
	研究実習	8	
分子細胞循環器学分野科目	分子細胞循環器学特論	6	※
	分子細胞循環器学演習	4	
	研究実習	8	
幹細胞制御分野科目	幹細胞制御特論	6	※
	幹細胞制御演習	4	
	研究実習	8	
統合呼吸器病学分野科目	統合呼吸器病学特論	6	※
	統合呼吸器病学演習	4	
	研究実習	8	
消化器病態学分野科目	消化器病態学特論	6	※
	消化器病態学演習	4	
	研究実習	8	
総合外科学分野科目 (総合外科学担当)	総合外科学Ⅰ特論	6	※
	総合外科学Ⅰ演習	4	
	研究実習Ⅰ	8	
総合外科学分野科目 (小児外科学担当)	総合外科学Ⅱ特論	6	※
	統合外科学Ⅱ演習	4	
	研究実習Ⅱ	8	
循環制御内科学分野科目	循環制御内科学特論	6	※
	循環制御内科学演習	4	
	研究実習	8	
心肺統御麻酔学分野科目 (心肺統御麻酔学担当)	心肺統御麻酔学Ⅰ特論	6	※
	心肺統御麻酔学Ⅰ演習	4	
	研究実習Ⅰ	8	
心肺統御麻酔学分野科目 (周産期・小児麻酔学担当)	心肺統御麻酔学Ⅱ特論	6	※
	心肺統御麻酔学Ⅱ演習	4	
	研究実習Ⅱ	8	



科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
心臓血管外科学分野科目 (心臓血管外科学担当)	心臓血管外科学Ⅰ特論	6	※
	心臓血管外科学Ⅰ演習	4	
	研究実習Ⅰ	8	
心臓血管外科学分野科目 (末梢血管外科学担当)	心臓血管外科学Ⅱ特論	6	※
	心臓血管外科学Ⅱ演習	4	
	研究実習Ⅱ	8	
腎臓内科学分野科目	腎臓内科学特論	6	※
	腎臓内科学演習	4	
	研究実習	8	
生殖機能協関学分野科目	生殖機能協関学特論	6	※
	生殖機能協関学演習	4	
	研究実習	8	
腎泌尿器外科学分野科目	腎泌尿器外科学特論	6	※
	腎泌尿器外科学演習	4	
	研究実習	8	
消化管外科学分野科目	消化管外科学特論	6	※
	消化管外科学演習	4	
	研究実習	8	
呼吸器外科学分野科目	呼吸器外科学特論	6	※
	呼吸器外科学演習	4	
	研究実習	8	
都医学研疾患分子生物学分野科目	都医学研疾患分子生物学特論	6	※
	都医学研疾患分子生物学演習	4	
	研究実習	8	
臨床解剖学分野科目	臨床解剖学特論	6	※
	臨床解剖学演習	4	
	研究実習	8	
システム発生・再生医学分野科目	システム発生・再生医学特論	6	※
	システム発生・再生医学演習	4	
	研究実習	8	
包括病理学分野科目	包括病理学特論	6	※
	包括病理学演習	4	
	研究実習	8	
分子腫瘍医学分野科目	分子腫瘍医学特論	6	※
	分子腫瘍医学演習	4	
	研究実習	8	
診断病理学分野科目	診断病理学特論	6	※
	診断病理学演習	4	
	研究実習	8	
疾患モデル動物解析学分野科目	疾患モデル動物解析学特論	6	※
	疾患モデル動物解析学演習	4	
	研究実習	8	
先端計測開発医学分野科目	先端計測開発医学特論	6	※
	先端計測開発医学演習	4	
	研究実習	8	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
生命機能医学分野科目	生命機能医学特論	6	※
	生命機能医学演習	4	
	研究実習	8	
遺伝子応用医学分野科目	遺伝子応用医学特論	6	※
	遺伝子応用医学演習	4	
	研究実習	8	
血液内科学分野科目	血液内科学特論	6	※
	血液内科学演習	4	
	研究実習	8	
分子内分泌代謝学分野科目	分子内分泌代謝学特論	6	※
	分子内分泌代謝学演習	4	
	研究実習	8	
肝胆膵外科学分野科目	肝胆膵外科学特論	6	※
	肝胆膵外科学演習	4	
	研究実習	8	
整形外科学分野科目	整形外科学特論	6	※
	整形外科学演習	4	
	研究実習	8	
画像診断・核医学分野科目	画像診断・核医学特論	6	※
	画像診断・核医学演習	4	
	研究実習	8	
ゲノム機能多様性分野科目	ゲノム機能多様性特論	6	※
	ゲノム機能多様性演習	4	
	研究実習	8	
疾患多様性遺伝学分野科目	疾患多様性遺伝学特論	6	※
	疾患多様性遺伝学演習	4	
	研究実習	8	
応用再生医学分野科目	応用再生医学特論	6	※
	応用再生医学演習	4	
	研究実習	8	
計算システム生物学分野科目	計算システム生物学特論	6	※
	計算システム生物学演習	4	
	研究実習	8	
先端バイオマテリアル分野科目	先端バイオマテリアル特論	6	※
	先端バイオマテリアル演習	4	
	研究実習	8	
JFCR腫瘍制御学分野科目	JFCR腫瘍制御学特論	6	※
	JFCR腫瘍制御学演習	4	
	研究実習	8	
ゲノム健康医療学分野科目	ゲノム健康医療学特論	6	※
	ゲノム健康医療学演習	4	
	研究実習	8	
器官発生・創生学分野科目	器官発生・創生学特論	6	※
	器官発生・創生学演習	4	
	研究実習	8	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
統合データ科学分野科目	統合データ科学特論	6	※
	統合データ科学演習	4	
	研究実習	8	
生物統計学分野科目	生物統計学特論	6	※
	生物統計学演習	4	
	研究実習	8	
AI システム医科学分野科目	AI システム医科学特論	6	※
	AI システム医科学演習	4	
	研究実習	8	
神経免疫学分野科目	神経免疫学特論	6	※
	神経免疫学演習	4	
	研究実習	8	

1 下記に示す修了要件単位を修得すること。

所属教育研究分野が開設する授業科目（特論、演習、研究実習）18単位、所属教育研究分野以外が開設する特論（※）及び専攻共通科目、先制医歯理工学科目、並びに（9）未来がん医療プロフェッショナル養成プラン科目から12単位以上。ただし、教育研究分野の改組等に伴う所属異動の場合には、異動前の所属教育研究分野が開設する授業科目の履修をもって、所属教育研究分野が開設する授業科目の履修とみなす。

- 2 臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムを履修する学生は、医歯学専攻の修了要件を満たし、臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム指定科目（専攻共通科目（\*1及び2）、所属教育研究分野以外が開設する特論（※）、先制医歯理工学科目共通科目、臨床統計・バイオインフォマティクス専門科目、先進医療デバイスIoT学専門科目及び疾患生命創薬科学専門科目から合わせて12単位以上（ただし、専攻共通科目（\*1）から1単位以上、先制医歯理工学科目共通科目から1単位以上、臨床統計・バイオインフォマティクス専門科目から2単位以上））を全て履修し、単位を修得した場合、臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムに関する学習成果を認定する。
- 3 次世代がん医療を担う多職種人材養成プランの授業科目を履修する学生は、医歯学専攻の修了要件を満たし、次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン授業科目から6単位以上履修し、単位を修得した場合、次世代がん医療を担う多職種人材養成プランに関する学習成果を認定する。
- 4 臨床疫学プログラムを履修する学生は、医歯学専攻の修了要件を満たし、臨床疫学プログラム指定科目（臨床疫学科目から選択科目（\*3）を5単位以上かつ必修科目（\*4））を全て履修し、単位を修得した場合、臨床疫学プログラムに関する学修成果を認定する。

## (3) 大学院医歯学総合研究科国際連携専攻

## ①東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻

科目区分		授業科目の名称	開設大学	単位数	
				必修	選択
共通科目群	一般教養科目	癌のゲノムとバイオ情報工学	チリ大学		3
		英語での科学論文ディスカッション	チリ大学		3
		学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル	チリ大学		4
		生物統計学	チリ大学		2
		生体医科学研究の倫理	チリ大学		3
		初期研究研修	東京医科歯科大学	1	
	基礎科目	細胞生理学	チリ大学		5
		癌に関わる細胞及び分子生物学	チリ大学		5
		システム生理学	チリ大学		5
		免疫学入門	チリ大学		4
		基礎薬理学	チリ大学		4
		分子微生物学	チリ大学		4
		臨床研究の方法論の基礎	チリ大学		3
		細胞・分子生物学	チリ大学		5
		ビッグデータ解析学	東京医科歯科大学		1
		総合外科学研究概論	東京医科歯科大学		4
	消化管外科学研究概論	東京医科歯科大学		4	
	応用科目	細胞・分子生物学上級	チリ大学		3
		器官系統特殊生理病理学	チリ大学		4
		細胞分子免疫学	チリ大学		3
		遺伝医学	チリ大学		4
		人類生化学	チリ大学		5
		生体医科学における細胞シグナル伝達	チリ大学		3
		診断・臨床研究への応用分子生物学	チリ大学		3
		疫学	チリ大学		2
		バイオインフォマティクス1	チリ大学		2
		バイオインフォマティクス2	チリ大学		2
		機能分子化学	東京医科歯科大学		2
		疾患予防パブリックヘルス医学概論	東京医科歯科大学		2
		臨床腫瘍学研究特論	東京医科歯科大学		4
研究演習		基礎研究演習	チリ大学	15	
	臨床研究演習	チリ大学	15		
文献ゼミナール	文献ゼミナール	チリ大学	3		
専門科目群	上部消化管外科	上部消化管外科臨床基礎	チリ大学		20
		上部消化管外科臨床応用	チリ大学		27
		上部消化管外科臨床基礎	東京医科歯科大学		20
		上部消化管外科臨床応用Ⅰ	東京医科歯科大学		35
		上部消化管外科臨床応用Ⅱ	東京医科歯科大学		8
	大腸肛門外科	大腸肛門外科臨床基礎	チリ大学		20
		大腸肛門外科臨床応用	チリ大学		27
		大腸肛門外科臨床基礎	東京医科歯科大学		20
		大腸肛門外科臨床基礎	東京医科歯科大学		20
		大腸肛門外科臨床基礎	東京医科歯科大学		20

	大腸肛門外科臨床応用 I	東京医科歯科大学		35
	大腸肛門外科臨床応用 II	東京医科歯科大学		8
胃腸病内科	胃腸病内科臨床基礎	チリ大学		20
	胃腸病内科臨床応用	チリ大学		27
	胃腸病内科臨床基礎	東京医科歯科大学		20
	胃腸病内科臨床応用 I	東京医科歯科大学		35
	胃腸病内科臨床応用 II	東京医科歯科大学		8
特別研究	特別研究	チリ大学	56	
	特別研究	東京医科歯科大学	56	

下記の 1 から 4 に示す修了要件を全て満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

- 1 共通科目群のうち、必修科目である一般教養科目の初期研究研修（1 単位）、研究演習 2 科目（30 単位）及び文献ゼミナール 1 科目（3 単位）を修得すること。
- 2 共通科目群のうち、選択科目である一般教養科目 1 科目（3 単位）以上、基礎科目 3 科目（9 単位）以上、応用科目 3 科目（6 単位）以上を修得すること。
- 3 専門科目群のうち、「上部消化管外科」、「大腸肛門外科」、「胃腸病内科」の 3 分野から 1 分野を選択し、学生の医師資格に応じて選択した分野の指定科目（55 単位）（※）を修得すること。

※指定科目については以下のとおり

- (1) チリ国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎（チリ大学）、臨床応用（チリ大学）及び臨床応用 II（東京医科歯科大学）の 3 科目。
  - (2) 日本国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎（東京医科歯科大学）、臨床応用 I（東京医科歯科大学）の 2 科目。
- 4 必修科目である特別研究を 2 科目（112 単位）修得すること。

②東京医科歯科大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻

科目 区分	授業科目の名称	開設大学	単位数	
			必修	選択
科 基 目 礎	歯科矯正学総論	チュラロンコン大学	1	
	歯科矯正学基礎	チュラロンコン大学	2	
	基礎歯科矯正学セミナー	チュラロンコン大学	1	
	骨生物学	チュラロンコン大学		2
専 門 科 目	論文・博士論文セミナー	チュラロンコン大学	24	
	咬合機能矯正学特論	東京医科歯科大学		6
	咬合機能矯正学研究実習	東京医科歯科大学		8
	咬合機能矯正学実験・論文作成	東京医科歯科大学		10
	顎顔面矯正学特論	東京医科歯科大学		6
	顎顔面矯正学研究実習	東京医科歯科大学		8
	顎顔面矯正学実験・論文作成	東京医科歯科大学		10
臨 床 科 目	歯科矯正学技法	チュラロンコン大学	3	
	包括的治療手順	チュラロンコン大学	2	
	上級歯科矯正学セミナー	チュラロンコン大学	1	
	矯正演習	チュラロンコン大学	1	
	矯正臨床トレーニング1	チュラロンコン大学	2	
	矯正臨床トレーニング2	チュラロンコン大学	1	
	矯正臨床トレーニング3	チュラロンコン大学	4	
	上級矯正臨床トレーニング1	チュラロンコン大学	1	
	上級矯正臨床トレーニング2	チュラロンコン大学	3	
	上級矯正臨床トレーニング3	チュラロンコン大学	1	
	歯科矯正学における写真とコンピューター	チュラロンコン大学		1
	歯科矯正学教育実習	チュラロンコン大学		1
	歯学研究提案書作成	チュラロンコン大学		1
	歯学研究報告書作成	チュラロンコン大学		1

下記の1から3に示す修了要件を全て満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

- 1 基礎科目、専門科目、臨床科目のうち、必修科目である47単位を修得すること。
- 2 専門科目のうち、咬合機能矯正学の授業科目である咬合機能矯正学特論（6単位）、咬合機能矯正学研究実習（8単位）、咬合機能矯正学実験・論文作成（10単位）の組合せ、または顎顔面矯正学の授業科目である顎顔面矯正学特論（6単位）、顎顔面矯正学研究実習（8単位）、顎顔面矯正学実験・論文作成（10単位）の組合せ、どちらかを選択し24単位を修得すること。  
なお、咬合機能矯正学の授業科目と顎顔面矯正学の授業科目とを併せた組み合わせはできない。
- 3 臨床科目のうち、歯科矯正学における写真とコンピューター（1単位）、歯科矯正学教育実習（1単位）、アカデミック・ライティング（1単位）の3科目のうち1科目（1単位）以上を修得すること。

③東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻

科目区分	授業科目の名称	開設大学	単位数	
			必修	選択
臨床基幹科目	臨床基幹科目Ⅰ(TMDU)	東京医科歯科大学	5	2
	臨床基幹科目Ⅰ(MU)	マヒドン大学		2
	臨床基幹科目Ⅱ	東京医科歯科大学・マヒドン大学		
医科学関連専門科目	疾患予防パブリックヘルス医学概論	東京医科歯科大学		2
	疫学	東京医科歯科大学		2
	臨床・遺伝統計学	東京医科歯科大学		2
	生物医学研究法	マヒドン大学		2
	生物医学統計概論	マヒドン大学		2
がん医療専門科目	がん生物学・解剖学・病理特論	東京医科歯科大学		1
	低侵襲がん治療Ⅰ	東京医科歯科大学		1
	低侵襲がん治療Ⅱ	東京医科歯科大学		1
	臓器別がん	東京医科歯科大学		1
	小児・希少がん	東京医科歯科大学		1
	臨床腫瘍学	東京医科歯科大学		1
	がんゲノム	東京医科歯科大学		1
	緩和ケア・緩和医療学	東京医科歯科大学		1
	がんの生物学とがんの免疫学概論	マヒドン大学		1
	幹細胞治療学概論	マヒドン大学		1
	標準検査学概論	マヒドン大学		1
	がんの画像診断学概論	マヒドン大学		1
	泌尿器科ロボット支援手術	マヒドン大学		1
	基礎鏡視下手術概論	マヒドン大学		1
	消化器癌における学際的内視鏡診断学	マヒドン大学		1
周術期患者管理学概論	マヒドン大学		1	
婦人科がん治療学概論	マヒドン大学		1	
研究基幹科目	外科系専門分野	総合外科学特論	東京医科歯科大学	4
		消化管外科学特論	東京医科歯科大学	4
		肝胆膵外科学特論(TMDU)	東京医科歯科大学	4
		頭頸部外科学特論	東京医科歯科大学	4
		腎泌尿器外科学特論(TMDU)	東京医科歯科大学	4
		婦人科腫瘍学特論(TMDU)	東京医科歯科大学	4
		上部消化管外科学特論	マヒドン大学	4
		下部消化管外科学特論	マヒドン大学	4
		肝胆膵外科学特論(MU)	マヒドン大学	4
		血管外科学特論	マヒドン大学	4
		頭頸部・乳腺外科学特論	マヒドン大学	4
		泌尿器外科学特論(MU)	マヒドン大学	4
		婦人科腫瘍学特論(MU)	マヒドン大学	4
研究基幹科目	外科系関連医科学分野	幹細胞制御特論	東京医科歯科大学	4
		臨床解剖学特論	東京医科歯科大学	4
		発生再生生物学特論	東京医科歯科大学	4
		バイオメカニクス特論	東京医科歯科大学	4
		臨床腫瘍学特論	東京医科歯科大学	4

	システム薬理学特論	マヒドン大学		4
	幹細胞科学特論	マヒドン大学		4
研究実践と論文作成	研究実践と論文作成(TMDU)	東京医科歯科大学	24	
	研究実践と論文作成(MU)	マヒドン大学	24	

下記の 1 から 6 に示す修了要件を全て満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

- 1 臨床基幹科目群から、選択科目である「臨床基幹科目Ⅰ（2単位）」を東京医科歯科大学、又はマヒドン大学で修得すること。
- 2 共同開設科目である「臨床基幹科目Ⅱ（5単位）」を、学生の移動に合わせて本学及びマヒドン大学で修得すること。
- 3 臨床統計・情報医科学関連専門科目群から、選択科目 4 単位以上修得すること。
- 4 がん医療専門科目群から、選択科目 5 単位以上履修すること。
- 5 研究基幹科目群から、選択科目である外科系専門分野の科目 8 単位、又は外科系専門分野の科目 4 単位と外科関連医科学分野の科目 4 単位を修得すること。
- 6 必修科目である「研究実践と論文作成（24 単位）（TMDU）、（MU）」を両大学で履修し、合計 48 単位修得すること。

（4）削除



(5) 大学院医歯学総合研究科後期3年博士課程生命理工医療科学専攻

科目区分		授業科目の名称	単位数	
			必修	選択
一般科目		マネジメント特論*1,*2		1
		国際動向特論*1,*2		1
		知的財産特論*1,*2		1
		英語ディベート特論*1,*2		1
		英語プレゼンテーション特論*1,*2		1
専門科目		疾患生命科学特論*1,*2		2
		先端機能分子特論*1,*2		1
		機能分子開発技術特論*1,*2		1
		機能再建材料学特論*1,*2		1
		組織再生材料学特論*1,*2		1
		生体機能材料学特論*1,*2		1
		医用材料工学特論*1,*2		1
		生体情報数理解析論*1,*2		1
		理研生体分子制御学特論*1,*2		2
		病態推論特論*1,*2		2
		高度臨床実践特別演習入門*1,*2		1
		高度臨床実践特別演習Ⅰ*1,*2		2
		高度臨床実践特別演習Ⅱ*1,*2		2
		疾患予防パブリックヘルス医学概論*1,*2		2
		臨床・遺伝統計学		2
		先端口腔保健応用学特論		2
		先端口腔保健応用学演習		1
	先端口腔保健工学特論		1	
	硬組織研究・骨形態計測学特論		1	
先制医歯理工学科目	共通科目	先制医歯理工学概論Ⅰ*1,*2		1
		先制医歯理工学概論Ⅱ*1,*2		1
		データサイエンス特論Ⅰ*1,*2		1
		データサイエンス特論Ⅱ*1,*2		1
		データサイエンス特論Ⅲ*1,*2		1
		データサイエンス特論Ⅳ*1,*2		1
		Advanced Human Pathology for Graduate Students*1,*2		1
	先進医療デバイスIoT学専門科目	先端バイオセンシングデバイス特論*1		1
		医療デバイス・システム機器特論*1		1
		ウェアラブルIoT技術特論*1		1
		臨床検査法開発学特論*1		1
	疾患生命創薬科学専門科目	疾患分子病態学特論*2		1
		先端ケミカルバイオロジー特論*2		1
生体分子制御学特論*2			1	
臨床疫学科目	疫学基礎*3		1	
	生物統計学基礎*3		1	
	生物統計学応用Ⅰ*3		1	
	生物統計学応用Ⅱ*3		1	
	臨床試験方法論基礎*3		1	
	臨床試験方法論応用*3		1	
	口腔疫学基礎*3		1	
	疫学応用*3		1	
	臨床疫学解析演習*3		1	
演習科目	センサ医工学演習		6	

情報医工学演習	6	
精密医工学演習	6	
物質医工学演習	6	
薬化学演習	6	
生命有機化学演習	6	
ソフトマター医工学演習	6	
有機生体材料学演習	6	
診断治療システム医工学演習	6	
セラミックバイオマテリアル演習	6	
先進バイオ分子医学演習	6	
分子細胞生物学演習	6	
発生再生生物学演習	6	
先端ナノ医工学演習	6	
分子構造情報演習	6	
機能分子病態学演習	6	
生体情報薬理学演習	6	
疾患ゲノム機能演習	6	
環境エピゲノム演習	6	
ゲノム機能情報演習	6	
医化学演習	6	
恒常性医学演習	6	
計算創薬科学演習	6	
理研生体分子制御学演習	6	
メディシナルケミストリー演習	6	
NCC腫瘍医科学演習	6	
細胞分子医学演習	6	
領域創成科学演習	6	
データ科学アルゴリズム設計・解析演習	6	
AI 技術開発演習	6	
分子機構免疫学演習	6	
形態情報解析学演習	5	
血液・生体システム解析学演習	5	
生命情報応用学演習	5	
疾患生理機能解析学演習	5	
臨床分析・分子生物学演習	5	
微生物・感染免疫解析学演習	5	
生体検査科学セミナーⅡ	1	
生涯口腔保健衛生学演習	5	
健康支援口腔保健衛生学演習	5	
口腔疾患予防学演習	5	
地域・福祉口腔機能管理学演習	5	
口腔健康教育学演習	5	
口腔基礎工学演習	5	
口腔デジタルプロセス学演習	5	
口腔医療工学演習	5	
口腔保健学セミナー	1	
生命理工医療科学先端研究特論	2	
必修科目	研究実習	6

1 下記に示す修了要件単位を修得すること。

(1) 一般科目、先制医歯理工学科目及び専門科目から6単位以上（ただし、一般科目は1単位以上を必ず履修する。）

- (2) 所属教育研究分野が開設する演習科目6単位（ただし、演習科目が5単位の場合、生体検査科学講座に所属する学生は併せて生体検査科学セミナーⅡ1単位、口腔保健学講座に所属する学生は併せて口腔保健学セミナー1単位を履修する。）ただし、教育研究分野の改組等に伴う所属異動の場合には、異動前の所属教育研究分野が開設する授業科目の履修をもって、所属教育研究分野が開設する授業科目の履修とみなす。
- (3) 必修科目8単位
- 2 \*1: 先進医療デバイス IoT 学プログラムを履修する学生は、生命理工医療科学専攻の修了要件を満たし、先進医療デバイス IoT 学プログラム指定科目（一般科目、専門科目、先制医歯理工学科目共通科目及び先制医歯理工学科目先進医療デバイス IoT 学専門科目から合わせて6単位以上（ただし、一般科目から1単位以上、先制医歯理工学科目共通科目から1単位以上、先制医歯理工学科目先進医療デバイス IoT 学専門科目から3単位以上））を全て履修し、単位を修得した場合、先進医療デバイス IoT 学プログラムに関する学習成果を認定する。
- 3 \*2: 疾患生命創薬科学プログラムを履修する学生は、生命理工医療科学専攻の修了要件を満たし、疾患生命創薬科学プログラム指定科目（一般科目、専門科目、先制医歯理工学科目共通科目及び先制医歯理工学科目疾患生命創薬科学専門科目から合わせて6単位以上（ただし、一般科目から1単位以上、先制医歯理工学科目共通科目から1単位以上、先制医歯理工学科目疾患生命創薬科学専門科目から1単位以上））を全て履修し、単位を取得した場合、疾患生命創薬科学プログラムに関する学習成果を認定する。
- 4 \*3 及び 4: 臨床疫学プログラム (Clinical Epidemiology Program) を履修する学生は、生命理工医療科学専攻の修了要件を満たし、臨床疫学プログラム指定科目（臨床疫学科目から選択科目 (\*3) を5単位以上かつ必修科目 (\*4)）を全て履修し、単位を修得した場合、臨床疫学プログラム (Clinical Epidemiology Program) に関する学修成果を認定する。

(6) 大学院保健衛生学研究科一貫制博士課程看護先進科学専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数
基盤看護開発学	ヘルスサービスリサーチ看護学特論Ⅰ	2
	ヘルスサービスリサーチ看護学演習Ⅰ	2
	ヘルスサービスリサーチ看護学特論Ⅱ	4
	公衆衛生看護学特論Ⅰ	2
	公衆衛生看護学演習Ⅰ	2
	公衆衛生看護学特論Ⅱ	4
臨床看護開発学	成人看護学特論Ⅰ	2
	成人看護学演習Ⅰ	2
	成人看護学特論Ⅱ	4
	精神保健看護学特論Ⅰ	2
	精神保健看護学演習Ⅰ	2
	精神保健看護学特論Ⅱ	4
	小児・家族発達看護学特論Ⅰ	2
	小児・家族発達看護学演習Ⅰ	2
	小児・家族発達看護学特論Ⅱ	4
	リプロダクティブヘルス看護学特論Ⅰ	2
	リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅰ	2
	リプロダクティブヘルス看護学特論Ⅱ	4
	在宅・緩和ケア看護学特論Ⅰ	2
	在宅・緩和ケア看護学演習Ⅰ	2
在宅・緩和ケア看護学特論Ⅱ	4	
先導的看護システム開発学	国際看護開発学特論Ⅰ	2
	国際看護開発学演習Ⅰ	2
	国際看護開発学特論Ⅱ	4
	看護管理・高齢社会看護学特論Ⅰ	2
	看護管理・高齢社会看護学演習Ⅰ	2
	看護管理・高齢社会看護学特論Ⅱ	4
	災害看護学特論Ⅰ*1	2
	災害看護学演習Ⅰ*1	2
	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	2
	クリティカルケア看護学演習ⅠA	2
	クリティカルケア看護学演習ⅠB	2
	急性・重症患者フィジカルアセスメント	2
	急性・重症患者治療管理論	2
	災害看護学インターンシップ*1	2
	クリティカルケア高度実践実習A	3
	クリティカルケア高度実践実習B	4
	クリティカルケア高度実践実習C	3
	災害看護学特論Ⅱ*1	4
クリティカルケア看護学特論Ⅱ	4	
必修科目	看護学研究法特論	2
	看護理論	1
	特別研究Ⅰ	4
	特別研究Ⅱ	4
	特別研究Ⅲ	4
共通科目 (看護系)	看護管理学特論	1
	看護政策学特論	1
	家族看護学特論	2

共通科目 (看護系)		看護情報統計学特論	2
		看護教育学特論	2
		国際看護研究方法論	2
		看護倫理	1
		コンサルテーション論	1
		フィジカルアセスメント	2
		臨床薬理学	2
		病態生理学	2
		インディペンデントスタディA	2
		インディペンデントスタディB	2
共通科目 (看護系以外)	データサイ エンス人材 育成プログ ラム科目	マネジメント特論	1
		知的財産特論	1
		データサイエンス特論Ⅰ	1
		データサイエンス特論Ⅱ	1
		データサイエンス特論Ⅲ	1
		データサイエンス特論Ⅳ	1
	グローバル 健康医学 科目	疫学Ⅰ	2
		疫学Ⅱ	2
		医療システム	2
		プラネタリーヘルス	2
		グローバルヘルス	4
		母子保健学	2
		行動科学	2
環境保健学		2	
臨床疫学 科目	疫学基礎	1	
	生物統計学基礎	1	
	生物統計学応用Ⅰ	1	
	生物統計学応用Ⅱ	1	
	臨床試験方法論基礎	1	
	臨床試験方法論応用	1	
	口腔疫学基礎	1	
	疫学応用	1	
	生命理工学概論（英語）	1	

1 大学院保健衛生学研究科委員会が別に定めるクオリファイングエグザミネーションを原則として受審し、下記に示す修了要件単位を全て修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、教育研究分野の改組等に伴う所属異動の場合には、異動前の所属教育研究分野が開設する授業科目の履修をもって、所属教育研究分野が開設する授業科目の履修とみなす。

- (1) 所属教育研究分野の特論Ⅰより2単位
- (2) 所属教育研究分野の演習Ⅰ又はⅠA又はⅠBより2単位
- (3) 所属教育研究分野の特論Ⅱ 4単位
- (4) 看護学研究法特論2単位、看護理論1単位、特別研究Ⅰ 4単位、特別研究Ⅱ 4単位及び特別研究Ⅲ 4単位
- (5) (1)～(4)を除く授業科目より15単位以上（ただし、共通科目（看護系）は7単位以上修得することとする。）

2 災害看護グローバルリーダー養成コースを履修する学生は、看護先進科学専攻の修了要件及び下記に示す要件を全て満たした場合、災害看護グローバルリーダー養成コースに関する学修成果を認定する。

- (1) 災害看護グローバルリーダー養成コース指定科目（\*1）を全て履修し、単位を修得する。
- (2) 本学、高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学災害看護コンソーシアムの単位互換制度により、本学以外の4大学で開講するコンソーシアム科目を8単位以上履修し、単位を修得する。
- (3) 災害看護学領域に関連する学位論文を提出し、博士論文の審査及び最終試験に合格する。

(7) 大学院保健衛生学研究科一貫制博士課程共同災害看護学専攻

科目 区分	授業科目の名称	開設大学	単位数	
			必修	選択
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	東京医科歯科大学		2
	理論看護学	千葉大学		1
	危機管理論	兵庫県立大学		1
	環境防災学Ⅰ	高知県立大学		1
	環境防災学Ⅱ	千葉大学		1
	グローバルヘルス	東京医科歯科大学		1
	災害法制度と政策論	東京医科歯科大学		1
	専門職連携実践論	千葉大学		1
	災害時専門職連携演習(災害 IP 演習)	千葉大学		1
	災害医療学	日本赤十字看護大学		2
	災害心理学	兵庫県立大学		1
	災害と文化	千葉大学		1
	災害社会福祉学	高知県立大学		1
	Professional writing	高知県立大学		1
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	東京医科歯科大学		1
Program writing ( Program proposal writing skill)	兵庫県立大学		1	
災害看護学に関する科目群	災害看護学総論	兵庫県立大学		2
	災害看護活動論Ⅰ(急性期)	東京医科歯科大学		2
	災害看護活動論Ⅱ(亜急性期)	日本赤十字看護大学		2
	災害看護活動論Ⅲ(復旧・復興)	千葉大学		2
	災害看護活動論Ⅳ(備え)	高知県立大学		2
	災害看護グローバルコーディネーション論	日本赤十字看護大学		2
	災害看護リーダーシップ・管理論	高知県立大学		2
	災害看護倫理	兵庫県立大学		1
	災害看護理論構築	兵庫県立大学		2
	インターンシップⅠ	5大学(共同指導)		5
	インターンシップⅡ	5大学(共同指導)		5
	災害看護ゼミナールA	高知県立大学		2
	災害看護ゼミナールB	兵庫県立大学		2
	災害看護ゼミナールC	東京医科歯科大学		2
	災害看護ゼミナールD	千葉大学		2
	災害看護ゼミナールE	日本赤十字看護大学		2
	インディペンデントスタディⅠ	各大学		1
	インディペンデントスタディⅡ	各大学		1
	インディペンデントスタディⅢ	各大学		1
	インディペンデントスタディⅣ	各大学		1
インディペンデントスタディⅤ	各大学		1	
災害看護学研究支援科目群	災害看護研究ゼミナール	5大学(共同指導)		5
	実践課題研究	5大学(共同指導)	5	
	災害看護研究デベロップメント	5大学(共同指導)	5	

博士論文	5 大学（共同指導）	5	
------	------------	---	--

下記の(1)及び(2)に示す修了要件を全て満たし、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

(1) 次の①～④を全て修得する。

- ① 必修科目 15 単位
- ② 「災害看護学の基盤を支える科目群」より 6 単位以上
- ③ 「災害看護学の専門科目群」より 10 単位以上
- ④ 「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」のいずれか 1 科目以上を履修

(2) 本学、高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学及び日本赤十字看護大学が開設している授業科目よりそれぞれ 10 単位以上修得する。

注 1) 「インディペンデント学修科目群」の「インディペンデントスタディⅠ」～「インディペンデントスタディⅤ」は、各大学が開講する「インディペンデントスタディ」を最大 5 科目まで履修可能とし、履修する順に「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・・・」として扱う。

注 2) 「災害看護学の専門科目群」の「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」および、「災害看護学研究支援科目群」の授業科目は、本学、高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学及び日本赤十字看護大学のそれぞれ 1 単位分として扱う。

(8) 大学院共通履修科目

授業科目の名称	単位数
ポストコロナ社会における感染症対策 *1	1
ジョブ型研究インターンシップ *2*3*4	1

これらの科目は、本学大学院に開設するものとし、本学大学院に在学する学生であれば履修できるものとする。

※\*1 別表1(8)のうちポストコロナ社会における感染症対策を修了要件に含まれる選択科目または必修科目として履修する学生又は履修して単位を付与された学生を除く。

※\*2 別表1(8)のうちジョブ型研究インターンシップについては修士課程に所属する学生を除く。

※\*3 別表1(8)のうちジョブ型研究インターンシップについては保健衛生学研究科博士課程1・2年次の学生を除く。

※\*4 別表1(8)のうちジョブ型研究インターンシップについてはJST次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援を受けている学生を対象とする。



**東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科委員会博士（理学・工学）  
に係る学位論文審査及び試験内規**

〔平成24年4月1日  
大学院医歯学総合研究科長制定〕

（趣旨）

第1条 この内規は、東京医科歯科大学学位規則（平成16年規則第56号）第20条の規定に基づき、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科（以下「本研究科」という。）における博士（理学・工学）の学位論文の審査及び試験に関し必要な事項を定める。

（学位論文提出の資格）

第2条 学位論文提出の資格を有する者は、次の各号の一つに該当するものとする。

- (1) 本研究科に在学する学生で、東京医科歯科大学大学院学則（平成16年規程第5号。以下「大学院学則」という。）第2条第1項第2号に規定する博士課程に2年以上在学し、原則として、大学院学則第20条第6項に規定する所定の単位中20単位以上を修得した者。
- (2) 次のいずれかに該当する者で、人格識見に非難すべき点のない者。
  - ア 本研究科の博士課程において、所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者
  - イ 大学院の修士課程を修了した後、4年以上の研究歴（うち2年以上は本学における研究歴）を有する者
  - ウ 大学を卒業した後、6年以上の研究歴（うち2年以上は本学における研究歴）を有する者

2 前項第2号イ及びウの研究歴とは、次の各号に該当するものとする。

- (1) 大学の専任職員として研究に従事した期間
- (2) 大学院を退学した者の場合は大学院に在学した期間、又は専攻科（全日制の研究生及び専攻生等を含む。）に在学した期間
- (3) 「科学研究費補助金取扱規定(昭和40年3月30日文部省告示第110号)」第2条で定める「研究機関」(大学を除く。)において専任職員として研究に従事した期間
- (4) 本学が前各号と同等以上と認める、本学で受託研究員、外国人研究者、技術職員として研究に従事した期間
- (5) その他、教育戦略会議及び研究推進協議会において前各号と同等以上と認めた期間

第3条 大学院学則第20条第6項ただし書についての取扱いは別に定める。

（予備審査）

第4条 学位論文提出の資格を有する者は、予備審査を申請することができる。

- 2 予備審査は、本研究科生命理工医療科学研究科運営委員会（以下「研究科運営委員会」という。）が選出する3名以上の教員により、書面によって行う。
- 3 予備審査の詳細は別に定める。

(学位論文)

第5条 学位論文は thesis 形式とし、英文または和文による単著の原著論文1編とする。

(学位論文に添付する書類並びに審査料)

第6条 学位論文に添付する書類は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

- (1) 本学大学院学生(第2条第1項第1号該当者をいう。以下同じ。)の場合
    - イ 申請書(別紙様式1)
    - ロ 履歴書(別紙様式3)
    - ハ 学位論文要旨(4千字以内)
    - ニ 審査委員候補者記入表(別紙様式6)
  - (2) 学位論文提出による学位請求者(第2条第1項第2号該当者をいう。以下同じ。)の場合
    - イ 申請書(別紙様式2)
    - ロ 履歴書(別紙様式3)
    - ハ 卒業証明書 ただし、第2条第2項ア該当者は不要。
    - ニ 研究歴証明書(別紙様式4) ただし、第2条第2項ア該当者は不要。修士課程又は博士課程の修了者等は、それを証明する書類をもってその間の研究歴証明書にかえることができる。
    - ホ 学位論文要旨(4千字以内)
    - ヘ 推薦教員からの推薦状(別紙様式5)
    - ト 審査委員候補者記入表(別紙様式6)
- 2 学位論文提出による学位請求者は、第1項第2号に定める書類のほか、審査料として5万7千円を学位論文提出と同時に納付しなければならない。

(資格等審査)

第7条 学位論文を提出しようとする者は、研究科運営委員会が設置する学位に係る専門事項を審議する委員会において、学位論文提出の資格及び論文形式等について、事前に審査を受けるものとする。

- 2 前項の場合において、本学以外(外国を含む。)の研究機関等において研究に従事した期間又は第2条第2項第4号の期間を研究歴とする者は、当該期間に係る在籍証明書又は在職証明書及び業績一覧(別紙様式7)等を、前条第1項第2号の書類に加え提出するものとする。

(審査委員会)

第8条 審査委員会は、研究科運営委員会が選出した主査1名及び副査2名により構成する。

- 2 主査は、本研究科の教授又は准教授の中から選出する。ただし、指導教員は主査となることができない。
- 3 副査は、博士の学位を有する本学の教授、准教授、専任講師及び連携大学院分野を構成する教員の中から選出するものとし、1名以上を本学の専任教員とする。ただし、指導教員は副査となることができない。
- 4 主査又は副査のうち2名以上は本学の教授又は連携教授とする。

- 5 主査又は副査のうち1名以上は研究科運営委員会の構成員から選出する。
- 6 必要があるときは、第1項に定める者のほか、副査2名以内を加えることができる。
- 7 審査委員会は、学位論文の審査を行う。
- 8 審査は、学位申請者と審査委員会委員が一堂に会して、原則、公開で行う。
- 9 審査委員会が必要と認めた場合には、学位論文の訳文および標本等の提出を求めることができるほか、その他の者の出席を求め質疑を行うことができる。

(最終試験)

- 第9条 審査委員会は、本大学院学生に係る学位論文の審査を終了した後、学位論文を中心として、これに関連ある科目について、口頭または筆答による最終試験を行う。
- 2 最終試験の期日、科目および問題等最終試験の方法は、審査委員会が決定する。

(試験及び試問)

- 第10条 審査委員会は、学位論文提出による学位請求者に係る学位論文の審査を終了した後、学位論文を中心として、これに関連ある科目について口頭又は筆答による試験を行い、更に専攻学術に関し、本大学院の課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するため、口頭又は筆答による試問を行う。なお、試問においては、研究科委員会において特別の事由があると認められた場合を除き、外国語を課すものとする。
- 2 試験の期日、科目及び問題等試験の方法並びに試問の期日等の方法は、審査委員会が決定する。

(審査委員会の報告)

- 第11条 審査委員会は、研究科運営委員会において審査委員会が設置された後1年以内に、学位論文の審査並びに最終試験を行い、審査報告書を研究科長に提出するものとする。
- 2 審査報告書には、次の各号に掲げる書類を添付するものとする。
    - (1) 学位論文の内容の要旨(4千字以内)
    - (2) 学位論文の審査の要旨(2千字以内)
    - (3) 最終試験の結果の要旨
  - 3 前項第3号の最終試験の結果の要旨には、最終試験の方法と結論の要旨を記載するものとする。

(研究科運営委員会の審議)

- 第12条 研究科長は、前条の報告を受けた後、研究科運営委員会を開催し、学位授与の可否について審議するものとする。
- 2 研究科長は、研究科運営委員会開催日の7日以前に、次の各号に掲げる書類を研究科運営委員会構成員に配布するものとする。
    - (1) 学位論文要旨
    - (2) 学位論文の審査の要旨(担当者氏名を記載したもの)
    - (3) 最終試験の結果の要旨(担当者氏名を記載したもの)
    - (4) 履歴書
    - (5) 学位論文
  - 3 第1項の審議を行うには、研究科運営委員会構成員(海外渡航中の委員及び休職中の

委員を除く。)の3分の2以上の出席を必要とする。

- 4 学位を授与できるものと議決するには、無記名投票により出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(適宜の処置)

- 第13条 学位の審査に関し、この内規を適用し得ない場合は、研究科運営委員会の議を経て、適宜の処置をとるものとする。

附 則

この内規は平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成24年12月5日制定)

この内規は、平成24年12月5日から施行する。

附 則(平成25年3月6日制定)

この内規は、平成25年3月6日から施行する。

附 則(平成26年4月9日制定)

この内規は、平成26年4月9日から施行する。

附 則(平成26年9月10日制定)

この内規は、平成26年10月30日から施行する。

附 則(平成27年9月9日制定)

この内規は、平成27年9月9日から施行する。

附 則(平成28年9月26日制定)

この内規は、平成28年10月1日から施行する。

附 則(令和4年6月22日制定)

この内規は、令和4年6月22日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

年 月 日

主指導教員印	副指導教員印

大学院医歯学総合研究科長 殿

年度入学 大学院医歯学総合研究科生命理工医療科学専攻

氏名 \_\_\_\_\_ 印 (※)

(※)本人が自署しない場合は、記名押印してください。

## 学位論文審査申請書

わたくしは、このたび博士( )に係る学位論文の審査を受けたいので、学位規則第4条第1項により、学位論文及び所定の書類を添えて提出いたします。

・学位論文題名(英文の場合和文訳を併記して下さい)

年 月 日

推薦教員印

東京医科歯科大学長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 印 (※)

(※)本人が自署しない場合は、記名押印してください。

## 学位請求申請書

わたくしは、このたび博士( )の学位を請求いたしたいので、貴学学位規則第4条第2項により、学位論文に所定の書類を添えて提出いたします。

・学位論文題名

別紙様式 3

履 歴 書

氏 名	ふりがな	男 女
生年月日	年 月 日生	
本 籍 (都道府県名)		
現 住 所	〒  Tel :	

学歴

職歴

研究歴

# 研究歴証明書

氏 名

年 月 日生

上記の者は、下記のとおり  
において研究を行ったことを証明いたします。

## 記

1 研究題名

1 研究期間

年 カ月間

年 月 日

(研究機関名・所属部署)

(職名・氏名)





年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

東京医科歯科大学  
(所属部署)  
(推薦教員名)

⑩

## 推 薦 状

この度、  
が本学学位規則第4条第2項の規定により学位請求を行うにあたり、提出する論文が学位授与に値すると思しますので推薦申し上げます。

なお、同人は、履歴書のとおり、  
年以上(うち当教室において 年 ヶ月)の研究歴を有するもので、人格識見について私が保証いたします。

(甲・乙)

年 月 日

# 審 査 委 員 候 補 者 記 入 表

申請者氏名 \_\_\_\_\_

分 野 名	氏 名

※原則として5名以上あいうえお順に記入願います。

主指導教員又は推薦教員氏名： \_\_\_\_\_ 印

副指導教員氏名： \_\_\_\_\_ 印

## 業 績 一 覧

年 月 日現在  
氏名：

論文等の表題(著者名) 学会、研究会発表(発表者名) 受賞等	発行、発表、受賞 年月日 (巻・号・頁)	発表雑誌等又は 発表、授与学会 等の名称	論文・学会発表・ 受賞等の内容の 概要
※それぞれ発表年代順に記入する。			
[原著]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[総説]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[著書]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[学会・研究会等での講演、発表]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[受賞]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[その他]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

- 注) 1. 著者名は、論文に記載されている順に全著者名を記入し、本人の氏名に下線を引くこと、また原著、総説の場合については、発表雑誌の査読制度の有無を記載した上で、Corresponding Author の氏名の前に※印を付し、筆頭著者が複数いる場合にはその旨を記載すること。
2. 学会・研究会等での発表を記入する際には発表者全員を記入し、本人の氏名に下線を引くこと。
3. 学会・研究会等での講演を記入する際には一般、又は招待の別を記入すること。

# 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科委員会博士

## (保健学) に係る学位論文審査及び試験内規

( 令和元年6月20日  
研究科長制定 )

(趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学学位規則（平成16年規則第56号）第20条の規定に基づき、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科（以下「本研究科」という。）における博士（保健学）の学位論文の審査及び試験に関し必要な事項を定める。

(学位論文提出の資格)

第2条 学位論文提出の資格を有する者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 本研究科生命理工医療科学専攻に在学する学生で、大学院学則第2条第1項第2号に規定する博士課程に2年以上在学し、大学院学則第20条第6項に規定する所定の単位中原則として17単位以上を修得した者
- (2) 次表に示す研究歴を満たした者で、人格識見に非難すべき点のない者

最終学歴	研究歴等			
大学院前期課程修了	学部4年	前期課程 2年	研究歴5年	
大学院後期課程修了	学部4年	前期課程 2年	後期課程 3年	研究歴 2年
大学院博士課程修了 (医・歯学系)	学部6年		博士4年	研究歴 2年
学部(4年制)卒業	学部4年	研究歴8年		
学部(6年制)卒業	学部6年		研究歴6年	
備考：学部卒業後本研究科において2年以上の研究歴を要する。				

2 前項第2号の研究歴とは、次の各号に該当するものとする。

- (1) 大学の専任職員として研究に従事した期間
- (2) 大学院を退学した者の場合は大学院に在学した期間、又は専攻科（全日制の研究生及び専攻生等を含む。）に在学した期間

- (3) 「科学研究費補助金取扱規定(昭和40年3月30日文科省告示第110号)」第2条で定める「研究機関」(大学を除く。)において専任職員として研究に従事した期間
- (4) 本学が前各号と同等以上と認める次に掲げる期間
  - ア 本学で受託研究員又は外国人研究者として研究に従事した期間
  - イ 本学の技術職員として勤務し研究に従事した期間
- (5) その他、教育戦略会議及び研究推進協議会において前各号と同等以上と認められた期間

(学位論文)

第3条 学位論文は、「緒言、対象／方法、結果、考察」の内容を含む英文で作成された原著論文とする。共著の場合は、次の各号の全てを満たさなければならない。

- (1) 筆頭著者であること。
  - (2) 指導教員又は推薦教員から、論文作成にあたり申請者が主要な役割を果たしたことを認めた証明書(別紙様式9)が提出されたこと。
  - (3) 共著者全員から、学位論文に使用することに同意した同意書(別紙様式10)が提出されたこと。
- 2 学位論文の提出は、査読制度のある学術雑誌に投稿し、原則として公表されたものにより行うこととする。ただし、第2条第1項第1号に該当する者にあつては、掲載証明書を添付した場合は、当該証明を受けた時点の論文の写しにより行うことができるものとする。

(学位論文に添付する書類並びに審査料)

第4条 学位論文に添付する書類は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

- (1) 本研究科博士課程学生(第2条第1項第1号該当者をいう。以下同じ。)の場合
  - ア 申請書(別紙様式1)
  - イ 履歴書(別紙様式3)
  - ウ 論文目録(別紙様式5)
  - エ 学位論文要旨(4千字以内)
  - オ 審査委員候補者記入表(別紙様式7)
- (2) 学位論文提出による学位請求者(第2条第1項第2号該当者をいう。以下同じ。)の場合
  - ア 申請書(別紙様式2)
  - イ 履歴書(別紙様式3)
  - ウ 卒業証明書
  - エ 研究歴証明書(別紙様式4)。ただし、修士課程等の修了者は、それを証明する書類をもってその間の研究歴証明書にかえることができる。
  - オ 論文目録(別紙様式5)

- カ 学位論文要旨（4千字以内）
  - キ 推薦教員からの推薦状（別紙様式6）
  - ク 審査委員候補者記入表（別紙様式7）
- 2 学位論文提出による学位請求者は、第1項第2号に定める書類のほか、審査料として5万7千円を学位論文提出と同時に納付しなければならない。

（資格等審査）

- 第5条 学位論文を提出しようとする者は、生命理工医療科学研究科運営委員会学位に関する委員（以下「学位に関する委員会」）において、学位論文提出の資格及び論文形式等について、事前に審査を受けるものとする。
- 2 前項の場合において、本学以外（外国を含む。）の研究機関において研究に従事した期間又は第2条第2項第4号の期間を研究歴とする者は、当該期間に係る在籍証明書又は在職証明書及び業績一覧（別紙様式8）等を、前条第1項第2号の書類に加え提出するものとする。

（学位論文審査の順序）

- 第6条 学位論文審査の順序は、受理の順序による。

（審査委員会）

- 第7条 審査委員会は、主査1名及び副査2名により構成する。
- 2 主査は、本研究科の教授の中から選出する。ただし、主指導教員、副指導教員、推薦教員及び当該学位論文の共著者は主査となることができない。
- 3 副査は、博士の学位を有する本学の教授、准教授、専任講師及び連携大学院分野を構成する教員の中から選出するものとし、1名以上を本学の教授又は連携教授とする。ただし、主指導教員、副指導教員、学位論文提出者と同じ分野に所属する教員及び当該学位論文の共著者は副査となることができない。
- 4 主査又は副査のうち1名以上は本研究科生命理工医療科学研究科運営委員会（以下「研究科運営委員会」という。）の構成員から選出する。
- 5 必要があるときは、第1項に定める者のほか、副査2名以内を加えることができる。
- 6 研究科運営委員会は、学位に関する委員会で選出された審査委員候補者について審議し、審査委員会を設置する。
- 7 審査委員会は、学位論文の審査を行う。
- 8 前項の審査は、学位論文提出者及び審査委員会委員が一堂に会して、公開で行う。
- 9 審査委員会が必要と認めた場合には、学位論文の訳文及び標本等の提出を求めることができるほか、委員以外の者の出席を求め質疑を行うことができる。

（最終試験）

- 第8条 審査委員会は、本大学院学生に係る学位論文の審査を終了した後、学位論文を中心として、これに関連ある科目について、口頭又は筆答による最終試験を行う。

2 最終試験の期日、科目及び問題等最終試験の方法は、審査委員会が決定する。

(試験及び試問)

第9条 審査委員会は、学位論文提出による学位請求者に係る学位論文の審査を終了した後、学位論文を中心として、これに関連ある科目について口頭又は筆答による試験を行い、更に専攻学術に関し、本大学院の課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するため、口頭又は筆答による試問を行う。なお、試問においては、研究科委員会において特別の事由があると認められた場合を除き、外国語を課すものとする。

2 試験の期日、科目及び問題等試験の方法は、審査委員会が決定する。

(審査委員会の報告)

第10条 審査委員会は、研究科運営委員会において審査委員会設置後1年以内に、学位論文の審査並びに最終試験又は試験及び試問を行い、審査報告書を研究科長に提出するものとする。

2 審査報告書には、次の各号に掲げる書類を添付するものとする。

- (1) 学位論文の内容の要旨(4千字以内)
- (2) 学位論文の審査の要旨(2千字以内)
- (3) 最終試験又は試験及び試問の結果の要旨

3 前項第3号の最終試験の結果の要旨には、最終試験の方法と結論の要旨を記載するものとし、試験及び試問の結果の要旨には、試験及び試問の方法と結論の要旨を記載するものとする。

(研究科委員会の審議)

第11条 研究科長は、前条の審査報告を受けた後、研究科運営委員会を開催し、学位授与の可否について審議するものとする。

2 研究科長は、研究科運営委員会開催日の7日以前に、次の各号に掲げる書類を研究科運営委員会委員に配付するものとする。

- (1) 学位論文の内容の要旨
- (2) 学位論文の審査の要旨(担当者名を記載したもの)
- (3) 最終試験又は試験及び試問の結果の要旨(担当者名を記載したもの)
- (4) 履歴書
- (5) 論文目録
- (6) 学位論文

3 第1項の審議を行うには、研究科運営委員会委員(海外渡航中の委員及び休職中の委員を除く)の3分の2以上の出席を必要とする。

4 学位を授与できるものと議決するには、無記名投票により出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

5 研究科運営委員会における審査は、第3条第2項により提出された論文をもって行うことを原則とする。ただし、掲載証明書及び誓約書(別紙様式11)の提出が

あった場合に限り、採択された投稿論文をもって行なうことができる。

(修業年限の特例)

第 12 条 大学院学則第 20 条第 6 項ただし書についての取り扱いは、別に定める。

(適宜の処置)

第 13 条 学位論文の審査並びに試験等に関し、この内規を適用し得ない場合は、研究科委員会の議を経て、適宜の処置をとるものとする。

附 則

この内規は、令和元年 6 月 20 日から施行し、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

附 則 (令和 5 年 2 月 10 日制定)

この内規は、令和 5 年 2 月 10 日から施行する。



別紙様式1

年 月 日

医歯学総合研究科長 殿

年度入学 大学院医歯学総合研究科

学専攻

分野

氏 名

⑩(※)

(※)本人が自署しない場合は、記名押印してください。

学 位 論 文 審 査 申 請 書

わたくしは、このたび博士( )学)に係る学位論文の審査を受けたいので、学位規則第4条第1項により、学位論文に所定の書類を添えて提出いたします。

別紙様式2

年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

氏 名 印(※)

(※)本人が自署しない場合は、記名押印してください。

学 位 請 求 申 請 書

私は、このたび貴学学位規則第4条第2項により、学位論文を提出し、博士( )の  
学位を請求いたしたいので、所定の書類を添え申請いたします。

別紙様式3

## 履 歴 書

氏 名	ふりがな	男 女
生年月日	年 月 日生	
本 籍 (都道府県名)		
現 住 所	〒  Tel:	

学 歴

職 歴

研 究 歴

別紙様式4

# 研究歴証明書

氏名

年 月 日生

上記の者は、下記のとおり  
において研究を行ったことを証明いたします。

## 記

1 研究題名

1 研究期間

年 カ月間

年 月 日

(研究機関名・所属部署)

(職名・氏名)

印

別紙様式5

(表面)

論 文 目 録

学位論文

題名

---

(裏面)

参考論文

題名

年 月 日

氏名：

別紙様式6

年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

東京医科歯科大学  
(所属部署)

(推薦教員名)

印

## 推 薦 状

この度、  
が本学学位規則第4条第2項の規定により学位請求を行うにあたり、提出する論文が学位授与に値すると思いますので推薦申し上げます。

なお、同人は、履歴書のとおり 年以上の研究歴を有するもので、人格識見について私が保証いたします。

## 審 査 委 員 候 補 者

申請者氏名 : \_\_\_\_\_

主査候補者	分 野 名	氏 名

※主査候補者 1 名には、✓を付してください。

※原則として 4 名以上、あいうえお順に記入願います。

※審査委員会 甲：主指導教員、副指導教員及び当該論文の共著者は審査委員になることができない。  
乙：推薦教員及び共著者は審査委員になることはできない。

指導教員（分野長）・推薦教員 氏名： \_\_\_\_\_ 印（・共著者である ・共著者でない）

# 業 績 一 覧

年 月 日現在

氏名：

論文等の表題（著者名） 学会、研究会発表（発表者名） 受賞等	発行、発表、受賞 年月日 (巻・号・頁)	発表雑誌等又は 発表、授与学会 等の名称	論文・学会発表・ 受賞等の内容の 概要
※それぞれ発表年代順に記入する。			
[原著]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[総説]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[著書]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[学会・研究会等での講演、発表]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[受賞]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
[その他]			
1.			
2.			
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

- 注) 1. 著者名は、論文に記載されている順に全著者名を記入し、本人の氏名に下線を引くこと、また原著、総説の場合については、発表雑誌の査読制度の有無を記載した上で、**Corresponding Author**の氏名の前に※印を付し、筆頭著者が複数いる場合にはその旨を記載すること。
2. 学会・研究会等での発表を記入する際には発表者、全員を記入し、本人の氏名に下線を引くこと。
3. 学会・研究会等での講演を記入する際には一般、又は招待の別を記入すること。



# 証 明 書

年 月 日

大学院医歯学総合研究科長 殿

指導教員(分野長)又は推薦教員:

\_\_\_\_\_ ㊟

論文題目

「

」

発表(投稿)雑誌名

年 月 日 巻 号に発表・発表予定

論文提出者 \_\_\_\_\_ は、上記論文の共同研究において、主要な役割を果たしたことを証明します。

# 同意書

年 月 日

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科長 殿

論文提出者氏名(自署):

共著者所属氏名(自署捺印):

印

印

印

印

印

論文題目

「

」

発表(投稿)雑誌名

年 月 日 巻 号に発表・発表予定

上記論文を が、東京医科歯科大学博士( )の学位申請の  
主論文として提出することに異議ありません。

# 誓 約 書

年 月 日

大学院医歯学総合研究科長 殿

学位論文審査申請者： \_\_\_\_\_ 印

私は、研究科運営委員会における学位論文の最終審査時に掲載された学位申請論文の写しを提出することが出来ません。

つきましては、採択された論文原稿を用いて学位論文の最終審査を受けたくよろしくお取り計らい願います。

なお、学位論文が掲載され次第、速やかに当該写し2部を提出することをここに誓約いたします。

私は、上記のことに同意し、責任を持って申請者に掲載された学位論文の写しを提出させることをここに誓約いたします。

指 導 教 員(分野長)： \_\_\_\_\_ 印

# 東京医科歯科大学大学院学位論文審査基準

平成27年2月17日  
制 定

## 1. (趣旨)

東京医科歯科大学学位規則(平成16年規則第56号)第20条の規定に基づき、東京医科歯科大学(以下「本学」という。)大学院医歯学総合研究科並びに大学院保健衛生学研究科における修士および博士の学位論文審査基準について定める。

## 2. (修士課程)

修士課程における学位論文審査では、本学学位授与の方針(ディプロマポリシー)等を踏まえ、論文の内容が、以下の要件を満たし、当該領域において、十分な研究能力を修得しているかという観点で審査する。

### 1) 研究目的の適切性

当該研究領域に関する基礎的な知識を有し、先行研究を十分に検討した上で、意義のある研究目的が適切に設定されているか。

### 2) 研究方法・倫理観

研究計画、研究方法が適切な実証性を備えているか。また、高い倫理観を持ち研究や実験を行っているか。

### 3) 考察

得られた研究データ・結果を正しく評価し、適切な考察がなされたうえで、論理一貫性をもって記述できているか。

## 3. (博士課程)

博士課程における学位論文審査では、本学学位授与の方針(ディプロマポリシー)等を踏まえ、論文の内容が、以下の要件を満たし、当該領域において、自立した研究者として高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を修得しているかという観点で審査する。

### 1) 研究目的の先駆性・独創性

当該研究領域に関する多面的かつ専門的な知識を有し、先行研究を十分に検討した上で、先駆的又は独創的な発想に基づき研究目的が設定されているか。

### 2) 社会的意義

当該研究領域の発展に寄与し、人類の健康と福祉への貢献に繋がる研究内容であるか。

### 3) 研究方法・倫理観

研究計画、研究方法が幅広い視野に基づき策定されたものであり、高い論証性を備えているか。また、高い倫理観を持ち研究や実験を行っているか。

### 4) 考察・今後の発展性

得られた研究データ・結果を正しく評価し、適切かつ十分な考察がなされたうえで、論理一貫性をもって記述できているか。また今後の学問的発展性があるか。

## 附 則

この基準は、平成27年2月17日から施行する。

### 附 則 (令和2年3月31日制定)

1 この基準は、令和2年4月1日から施行する。

2 令和2年3月31日において現に本学大学院に在学するものについては、改正後の基準にかかわらず、なお従前の例による。

# 東京医科歯科大学大学院GPA制度に関する要項

平成24年3月12日  
制 定

(目的)

第1条 この要項は、東京医科歯科大学大学院におけるGPA (Grade Point Average) 制度の運用について必要な事項を定める。

(定義および計算方法)

第2条 この要項において、GPAとは、個々の学生の学修到達度をはかる数値で、大学院学則第19条に基づき次の計算式によって評価(0~100点の整数の評点)したうえで、履修した科目1単位あたりの成績平均点を求めたものをいう。

$$GP = (\text{科目の評価} - 55) \times 0.1$$

ただし、科目の評価が59点以下の場合は、GP = 0.0 とする

2 GPA対象授業科目は、次の各号を除く授業科目とする。

- (1) 0~100点の整数による学修の評価を行わない科目
- (2) 修了要件に算入しない科目
- (3) GPAへの算入が適当でないと認められる科目

3 第1項の計算において、「単位数」には不合格(59点以下)となった科目の単位を含むが、履修取消とした科目の単位は含まない。

4 GPAの計算値は四捨五入して小数第2位まで求めるものとする。

(学修の評価、GP及び評価基準)

第3条 成績評価、Grade Point (GP) 及び評価基準は、次のとおりとする。

評点	GP	評価基準
90~100	3.5~4.5	当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した
80~89	2.5~3.4	当該科目の到達目標を全て達成した
70~79	1.5~2.4	当該科目の到達目標を概ね達成した
60~69	0.5~1.4	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した
0~59	0.0	当該科目の到達目標を達成していない

(GPAの種類及び計算方法)

第4条 GPAは、対象期間に応じて「学期GPA」、「年度GPA」及び「通算GPA」に区分して算出するものとする。

(GPA計算期日)

第5条 GPAの計算は、学期、学年ごとに所定の期日までに確定した成績に基づいて行う。

(成績証明書への記載)

第6条 成績証明書への記載は、通算GPAを使用する。

(その他)

第7条 この要項に定めるもののほか、GPA制度の実施に関して必要な事項は、各研究科において、別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成24年3月12日から施行し、平成23年4月1日から適用する。
- 2 東京医科歯科大学大学院に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学大学院の在学者となったものについては、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成27年6月11日制定)

この要項は、平成27年6月11日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則 (平成30年9月6日制定)

- 1 この要項は、平成30年9月6日から施行し、平成30年4月1日から適用する。
- 2 平成29年度以前入学者で、平成30年4月1日時点で本学に在籍する者の成績評価については、秀をA<sup>+</sup>、優をA、良をB、可をC、不可をDとする。
- 3 平成29年度以前入学者で、平成30年4月1日時点で本学に在籍しない者のGPについては、秀を4.0、優を3.5、良を3.0、可を2.0、不可を1.0とみなす。

附 則

- 1 この要項は、令和6年4月1日から施行し、令和6年度入学者から適用する。
- 2 令和6年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び令和6年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この要項にかかわらず、なお従前の例による。

# 東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ

平成20年2月8日  
申 合 せ

## 1. 目的

この申合せは、東京医科歯科大学学則（以下「学則」という。）第58条の規定に基づく学生の懲戒に関し、基本的な考え方、手続、標準その他の必要な事項を定めることにより、その適正及び公正を図ることを目的とする。

## 2. 基本的な考え方

- (1) 学生に対する懲戒は、大学の規律、秩序を維持し、教育目的を達成するため、一定の事由の発生を要件として、学生に対して制裁を課すものである。
- (2) 懲戒は、懲戒対象行為の態様、結果、影響等を総合的に検討し、教育的配慮を加えたうえで行うものとする。
- (3) 懲戒の取扱いについては、刑事訴追の有無を処分決定の絶対的な基準とはしないものとする。

## 3. 懲戒の種類

懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

### (1) 退学

退学は、学生の身分を失わせることである。

### (2) 停学

- ① 停学は、一定の期間登校を禁止することである。
- ② 停学は、無期停学及び有期停学とする。
- ③ 有期停学の期間は6か月未満とする。
- ④ 停学期間は、在学年限に含め、修業年限には含めないものとする。ただし、短期間（1か月以内）の場合には、在学年限及び修業年限に含めることができる。
- ⑤ 無期停学は、原則として6か月を経過した後でなければ解除することができない。
- ⑥ 停学期間には、学則第9条の「休業日」を含むものとする。

### (3) 訓告

訓告は、懲戒対象行為について、注意を与え、将来にわたってそのようなことがないように戒めることである。

## 4. 謹慎

学生の当該行為が懲戒に該当することが明白であり、かつ、停学以上の懲戒がなされることが確実である場合は、部局長（医学部長、歯学部長又は教養部長をいう。以下同じ。）は、当該学生に懲戒決定前に謹慎を命ずることができる。この場合、謹慎の期間は特に定めないが、この間は当該学生の登校を禁止する。

なお、謹慎の期間はその全部又は一部を停学期間に通算することができる。

## 5. 停学期間中の措置

- (1) 停学期間中の学生に対して当該部局は、面談等により、更正に向けた指導を適宜行うものとする。
- (2) 前項に規定する面談等は、必要に応じカウンセラー等の専門家の協力を得て行うことができるものとする。
- (3) 停学期間中の休学の願い出は、受理しないものとする。

## 6. 懲戒の手続

### (1) 調査委員会の設置

- ① 学部長は、懲戒に相当すると思われる学生の行為（以下「事案」という。）を知ったときは、直ちに学長に報告するとともに、当該学生が所属する学部教授会の議を経て、当該学部教授会の構成員で組織する調査委員会を設置するものとする。

なお、調査委員会には、事案により当該学部教授会の構成員以外の者を加えることができる。

- ② 調査委員会は、当該事案について、調査及び事実の確認を行い、懲戒に関する事実認定の報告書（様式1）を作成するものとする。

### (2) 事情聴取等

- ① 調査委員会は、調査に当たり当該学生に対し事情聴取を行うものとする。ただし、学生が心身の故障、身柄の拘束、その他の事由により直接事情聴取を受けることができないときは、これに替えて文書による質問、照会等により事情聴取することができる。

- ② 調査委員会は、当該学生に口頭又は文書により弁明する機会を与えるものとする。

### (3) 調査等の結果の報告

調査委員会は、懲戒に関する事実認定の報告書を学部長に提出するものとする。

### (4) 教授会審議

学部長は、調査委員会の報告に基づき、当該学部教授会において、懲戒の要否及び種類・程度を審議し、その結果を学長に報告するものとする。

### (5) 懲戒の決定

- ① 学長は、学部長の報告に基づき、懲戒の要否及び種類・程度を決定するものとする。

- ② 前号の決定に関し、特に必要と学長が認めた場合は懲戒委員会を設置し、事実の確認及び処分量定について諮問することができる。

- ③ 前号の懲戒委員会については、国立大学法人東京医科歯科大学懲戒委員会等規則第2条を準用する。

### (6) 懲戒通知書の交付等

学部長は、学長の命により当該学生に対し懲戒通知書（様式2）を交付するものとする。

### (7) 懲戒処分の告知及び告示

学長は、懲戒処分を決定したときは、通知書の交付をもって当該学生及び保証人に告知し、教育研究評議会に報告し、当該学生の所属、懲戒の種類及び事由を告示する。

### (8) 懲戒に関する記録

懲戒処分を行ったときは、学籍簿の「特記事項」に記載するものとする。

### (9) 退学願いの不受理

学部長は、懲戒の手続中の学生から自主退学の願い出があった場合は、これを受理しないものとする。

### (10) その他

二つ以上の部局に関わる事案があるときは、当該部局長は相互に連絡協議するものとする。



## 7. 不服が申立てられた場合の手続

- (1) 懲戒を受けた学生は、その処分について、事実誤認、新事実の発見、処分の種類または内容等について異議がある場合には、懲戒通知書を受領した日の翌日から起算して14日以内に、学長に対し書面をもって不服申立てをすることができる。ただし、不服申立てにより懲戒の効力は停止しない。
- (2) 学長は懲戒を受けた学生から不服申立てがあった場合には、学部長に再審議を行わせることができる。
- (3) 学部長は、当該学部教授会に再審議をする旨を報告の上、新たな構成員で組織される調査委員会に再調査等を行わせるものとする。
- (4) 学長は、再調査等の結果に基づく処分内容を当該学生に通知しなければならない。

## 8. 無期停学の解除

- (1) 学部長は、無期停学処分を受けた学生について、指導教員等と協議し、その反省の程度及び学習意欲等を総合的に判断して、その処分を解除することが適当であると思われるときは、当該学部教授会の議を経て、学長に申出るものとする。
- (2) 学長は、学部長の申出に基づき、無期停学の解除を決定するものとする。
- (3) 学部長は、学長の命により当該学生に対し停学解除通知書（様式3）を交付するものとする。

## 9. 試験の無効等

- (1) 試験の無効  
試験における不正行為を行った学生が受験した当該科目の試験は無効とする。
- (2) 停学期間中の受験及び履修手続  
停学期間中の受験は認めない。ただし、履修手続は可能とする。

## 10. 懲戒の標準は、別表のとおりとする。

### 11. 科目等履修生等の懲戒

この申合せの規定は、学則第10章及び第12章に規定する科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生並びに大学院研究生の懲戒について準用する。

### 12. 大学院学生の懲戒

大学院学生の懲戒については、この申合せの規定を準用する。この場合において、以下のよう  
に字句を読み替えるものとする。

- (1) 「学部教授会」を「研究科運営委員会等」
- (2) 「学部長」、「部局長（医学部長、歯学部長、教養部長をいう。以下同じ。）」及び部局長を「研究科長等」
- (3) 「試験」を「試験（単位認定を目的とした定期試験をいう。）」
- (4) 様式2中、「東京医科歯科大学学則第58条」を「東京医科歯科大学大学院学則第60条の規定により準用する東京医科歯科大学学則第58条」

なお、この申合せにおける「大学院学生」には、大学院学則（平成16年4月1日規程第5号）第12章から第14章までに規定する聴講生、特別聴講学生及び特別研究学生、科目等履修生を含むものとする。」

### 13. 守秘義務

学生の懲戒等に関する事項に関わった職員は、事実上知りえた情報を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

14. この申合せの改廃は、学生支援・保健管理機構運営委員会において行う。

附 則

この申合せは、平成20年2月8日から施行する。

附 則（平成24年2月24日制定）

- 1 この申合せは、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この申合せの施行日において本学に専攻生として在籍する者の取扱いについては、平成24年9月30日まで、なお従前の例による。

附 則（平成28年10月21日制定）

この申合せは、平成28年10月21日から施行する。

附 則（平成30年2月20日制定）

この申合せは、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成30年12月13日制定）

この申合せは、平成30年12月13日から施行し、平成30年11月30日から適用する。

附 則（令和5年5月11日制定）

この申合せは、令和5年5月11日から施行する。

別表

懲戒の標準

・懲戒対象行為の標準的な例及び懲戒の種類は次の表のとおりとする。

懲戒対象行為の標準的な例	懲戒の種類
<p>1. 試験における不正行為</p> <p>(1) 代理（替玉）受験を行った場合又は行わせた場合</p> <p>(2) 許可されていないノート及び参考書等を参照した場合</p> <p>(3) 答案を交換した場合</p> <p>(4) その他、試験において不正行為を行った場合</p> <p>2. その他の懲戒対象行為</p> <p>(1) 殺人、傷害、強盗、放火、誘拐、窃盗、痴漢等の犯罪</p> <p>① 殺人、傷害、強盗、強姦、放火、誘拐等の犯罪を行った場合</p> <p>② 窃盗、詐欺、恐喝等の犯罪を行った場合</p> <p>③ 痴漢（のぞき見、盗撮等を含む）を行った場合</p> <p>(2) 交通事故・交通法規違反</p> <p>① 人身事故を伴う交通事故を起こした場合であって、次のいずれかに該当する場合であること</p> <p>（ア）ひき逃げ行為をしたとき</p> <p>（イ）その原因行為が飲酒運転、無免許運転、暴走運転等悪質なとき</p> <p>（ウ）被害者を死に至らしめたとき（過失がない場合を除く）</p> <p>② 飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の重大な交通法規違反を犯した場合</p> <p>(3) ハラスメント等行為</p> <p>性的関係の強要、飲酒の強要、いじめや嫌がらせ、ストーカー行為を行った場合</p> <p>(4) 社会的モラルを問われる行為</p> <p>① 未成年者の飲酒</p> <p>② 未成年者に飲酒を勧めた場合・容認した場合</p> <p>③ 喧嘩、酩酊、喧騒等により、警察等に通報されるなど迷惑をかける行為</p> <p>④ その他本学の名誉・信用を失墜させる行為</p> <p>(5) 薬物犯罪</p> <p>違法薬物の売買又はその仲介、違法薬物の自己使用等を行った場合</p> <p>(6) 個人情報の漏えい</p> <p>授業又は実習・研修等で知り得た、教職員、学生及び患者の個人情報を漏らした場合</p> <p>① 情報の漏えいが故意の場合</p> <p>② 情報の漏えいが過失の場合</p> <p>(7) コンピュータ等の不正行為コンピュータ及びコンピュータネットワークの不正使用等並びにこれらを利用した不正行為</p> <p>(8) 本学の教育・研究活動を妨げる不正行為</p> <p>① 研究成果作成の際に論文やデータの捏造を行った場合</p> <p>② 剽窃を行った場合</p> <p>③ 知的財産を喪失させる行為又は妨げる行為を行った場合</p>	<p>退学 停学 停学 停学又は訓告</p> <p>退学 退学又は停学 停学又は訓告</p> <p>退学又は停学</p> <p>退学、停学又は訓告</p> <p>退学、停学又は訓告</p> <p>停学又は訓告 停学又は訓告 停学又は訓告</p> <p>停学又は訓告</p> <p>退学又は停学</p> <p>退学又は停学 停学又は訓告</p> <p>退学、停学又は訓告</p> <p>退学、停学又は訓告 停学又は訓告 退学又は停学</p>

④ 学生の学修、研究及び正当な活動並びに教職員の業務を暴力、威力等の不当な手段によって妨害した場合	退学又は停学
<p>3. 再犯学生の懲戒</p> <p>過去に懲戒を受けた学生が、再び懲戒対象行為を行った場合は、より「悪質性」が高いものとみなし、各標準を超える重い懲戒を行うことがある。</p>	

備考

- ・「標準的な例」に掲げられていない行為についても、懲戒の対象となる場合がある。
- ・「懲戒の種類」に掲げられていない種類の懲戒が課せられる場合もある。



様式 2

懲戒通知書

学 部 名 \_\_\_\_\_ 学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_

東京医科歯科大学学則第 58 条の規定により、下記のとおり懲戒する。

記

1. 懲戒の種類
  
2. 停学の期間（停学の場合）
  
3. 処分理由

交付日付                      年        月        日

東京医科歯科大学長

印

この処分についての不服申立ては、東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ 6. により、この説明を受領した日の翌日から起算して 14 日以内に、学長に対し書面をもってすることができる。

様式3

停学解除通知書

学 部 名 \_\_\_\_\_ 学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_

東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ7の規定により、

年 月 日付けで停学を解除する。

年 月 日

東京医科歯科大学長

印

様式 4

## 告 示

東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せに基づき、次のとおり懲戒処分を行った。

1. 懲戒処分となった学生の学部等

(学部の場合は学科まで記載。大学院の場合は専攻まで記載。)

2. 処分内容

(退学の場合)

退 学

(停学の場合)

停 学 (有期停学の場合は期間)

(例： 年 月 日 ～ 年 月 日)

(訓告の場合)

訓 告

3. 処分理由

年 月 日

国立大学法人

東京医科歯科大学長

印



## 8. 学生周知事項

### 1) 連絡・通知

大学からの連絡・通知は掲示板への掲示又は大学のホームページ（トップページ → 「在学生の方」又は「教育研究組織等」）により行います。

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う授業の休講・試験の延長を決定した場合は、大学のホームページ（トップページ → 「学生生活」お知らせ欄）に掲載します。

掲示板は 6 号館前大学院掲示板、1 号館西 1 階学務企画課前及び 5 号館 3 階学生支援事務室前です。見落としがないように十分注意して下さい。

学生への個別連絡は電話、電子メール又は郵送にて行います。

大学から緊急に連絡する必要があるが生じても連絡が取れないことがないように入学時と連絡先が変更になった際は、忘れずに届出てください。

### 2) 学生証

学生証は、本学の学生である旨を証明し、学内で名札として使用するとともに、IC カードとして学内出入口の解錠、出席登録等としても在学中使用しますので、紛失・破損等のないよう大切に取り扱いして下さい。

また、通学定期券の購入時等に提示を求められたときに提示できるよう、常に携帯するようして下さい。

#### (1) 再交付

学生証を紛失又は破損等した場合は、速やかに学務企画課に申し出て、再交付の手続きをとって下さい。また、再交付を行う場合は、再交付にかかる費用を負担することとなりますので注意して下さい。

#### (2) 返却

修了、退学、除籍となった場合は、直ちに学生証を学務企画課に返却して下さい。なお、返却ができない場合は、再交付にかかる費用と同額を負担することとなりますので注意して下さい。

#### (3) 有効期限の更新

在学期間延長や長期履修により有効期間が経過した場合は、学生証の有効期限の更新が必要となりますので、学務企画課（TEL 5803-5074）に申し出てください。

### 3) 証明書等

証明書等は、学務企画課で発行するものと、自動発行機で発行するものがあります。

発行場所	種類	受付時間	問い合わせ先
自動発行機 5号館4階 学生談話室	在学証明書（和文）	8:30-21:00 (発行には学生証が必要)	学務企画課企画調査係 TEL: 5803-5074
	学生旅客運賃割引証（学割）		
学務企画課※ 1号館西1階	在学証明書（英文）	8:30-17:15	学務企画課大学院教務 第一係・第二係 TEL: 5803-4676・4534
	成績証明書（和文・英文）		
	修了見込証明書【修士・博士(前期)】 (和文・英文)		
	その他諸証明書（和文・英文）		
学務企画課※ 1号館西1階	修了見込証明書【博士・博士(後期)】 (和文・英文)	8:30-17:15	学務企画課企画調査係 TEL: 5803-5074

※学務企画課発行の証明書の手続きについて

学務企画課発行の証明書を希望する場合は、「証明書交付願」を各窓口に提出して請求すること。なお、交付には和文で数日、英文で一週間程度を要する。

※修了生の証明書発行は、学務企画課で行っている。(発行している証明書:「修了証明書」「成績証明書」「単位修得証明書」「在学期間証明書」「学位授与証明書」等。)

#### 郵送での申込みについて

自動発行機以外で発行している証明書に関しては、郵送で申込みすることができる。その際は、「証明書交付願」と返信用封筒に切手貼付のうえ、請求すること。なお、郵送料が不足する場合は、郵便局からの請求に基づき支払うこと。

#### 申込み先

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45  
東京医科歯科大学 学務企画課

## 4) 学生旅客運賃割引証(学割証)

- (1) 学生が課外活動又は帰省などで JR 線を利用する場合、乗車区間が片道 100km を超えるときに旅客運賃の割引(2割)を受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用して下さい。(年間使用限度:10枚/人、有効期間:発行日から3ヶ月間)

- (2) 次に掲げる行為があったときは、普通運賃の2倍の追徴金を取られるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用又は不正に使用することのないよう注意して下さい。

- ① 他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき
- ② 名義人が乗車券を購入し、これを他人に使用させたとき
- ③ 使用有効期間を経過したものを使用したとき

- (3) 学割証は、学生談話室(5号館4階)に設置されている「自動発行機」にて発行します。

(利用時間:平日 8:30~21:00)

(問い合わせ先)学務企画課 (TEL 5803-5074)

## 5) 住所・氏名等の変更

本人又は保護者等の住所・本籍又は氏名等(電話番号を含む)に変更が生じた場合は、速やかに学務企画課大学院教務第一係・第二係に申し出て所定の手続きをとって下さい。

この手続きを怠った場合、大学から本人又は保護者等に緊急に連絡する必要性が生じても連絡が取れないので注意して下さい。

#### 提出・問い合わせ窓口

統合教育機構学務企画課大学院教務第一係・第二係(1号館西1階)

#### 届出用紙

	届出用紙	添付、提示書類
改姓した場合	改姓(名)届 学生証記載事項変更	改姓(名)を証明する書類を添付
本人・保護者等が住所・本籍地 を変更した場合	住所・本籍地変更届	住所・本籍地を変更したことを 証明する書類を添付
保護者等を変更した場合	保護者等変更届	なし

## 6) 研修・実習依頼

外部の研究機関等に研修・実習を希望する場合は、依頼希望日の2週間前まで（外国での場合には2ヶ月前まで）に学務企画課大学院教務第一係・第二係へ外部研修・実習届出書を提出してください。

## 7) 遺失物及び拾得物

学内での遺失物又は拾得物の届出は以下のとおりとなります。

- (1) 医学部内・・・・・・・・・・医学部事務部総務係（3号館6階：TEL 5803-5096）
- (2) 歯学部内・・・・・・・・・・歯学部事務部総務係（D棟南2階：TEL 5803-5404）
- (3) その他・・・・・・・・・・紛失及び拾得場所（建物）を管理する各事務部

## 8) 進路調査

大学院を修了（見込みを含む）する場合は、修了日（見込み日）1ヶ月前までに必ず進路届を学生支援事務室に提出して下さい。

（問い合わせ先）学生支援事務室（e-mail：[shinro@ml.tmd.ac.jp](mailto:shinro@ml.tmd.ac.jp)）

## 9) 健康相談・メンタルヘルス相談

### （保健管理センター）

保健管理センターは本学の学生・職員が心身共に健康な生活を送り、所期の目的を達成することができるよう、助言・助力することを目的としている施設です。必要に応じて医療機関への紹介状の発行も行っています。

### (1) 健康相談

健康相談は午前10時～12時30分、午後13時30分～15時30分に受け付けます。

時間に変更になる場合があります。

来室前に保健管理センターホームページの「今週の健康相談」を確認のうえ来室ください。

今週の健康相談



### (2) メンタルヘルス相談（要予約）

精神科医・臨床心理士へ相談をご希望の場合は、予約をお取りします。

03-5803-5081までご連絡ください。

### (3) 各種健康診断等

実施詳細等は、学内Infoメールで周知します。

見落としがないよう普段からよく確認するようにしてください。

※保健管理センターホームページにも健診に関する情報を掲載しています。

※定期健康診断の受診は学生の義務ですので、必ず受けてください。

- |               |           |
|---------------|-----------|
| ① 学生一般定期健康診断  | 5月        |
| ② B型肝炎抗原・抗体検査 | 4月        |
| ③ B型肝炎予防接種    | 6月、7月、12月 |

- ④ 有機溶剤・特定化学物質健康診断 4月、10月
- ⑤ 放射線業務従事者健康診断 4月、10月
- ⑥ その他 インフルエンザ予防接種 等

#### (4) 健康診断証明書の発行

各種資格試験受験、病院研修申請、就職・進学などを目的として必要な健康診断証明書を発行しています。

※証明書の発行は定期健診を受診している方に限ります。

保健管理センターホームページ：<https://www.tmd.ac.jp/hsc/>

TEL：03-5803-5081

MAIL：hokencenter.hsc@tmd.ac.jp



## 10) 学生相談

(学生・女性支援センター：<http://www.tmd.ac.jp/labs/gakuseihokenkikou/scsfs/index.html>)

学生・女性支援センターは、本学の学生に対して、生活・修学・就職・メンタルヘルスやハラスメント、キャリアパスや学業（仕事）と家庭との両立に関する事など、キャンパスライフ全般に渡り、全学的に支援を行い、学生支援活動の充実を図ることを目的として設置されています。なお、本センターは男女問わずご利用いただけます。

下記のような問題、その他大学生活を送るうえで悩みや心配事が起きたときにご相談ください。

また、内容により担当が異なりますので、各ホームページをご参照ください。

<学生生活全般に関する事> e-mail：[scenter.stc@tmd.ac.jp](mailto:scenter.stc@tmd.ac.jp)

- ・生活に関する相談・・・家族の問題・経済的な問題・恋愛問題など
- ・修学に関する相談・・・勉強の進捗状況・進学・研究室の人間関係など
- ・就職に関する相談・・・卒業後の進路・就職活動など
- ・メンタルに関する相談・・・健康の問題・ストレス・心の問題・対人関係など
- ・ハラスメントに関する相談・・・アカデミックハラスメント・パワーハラスメント・セクシャルハラスメントなど
- ・その他・・・セクシュアリティやジェンダーに関する事、障害や持病に関する事など

ホームページ <http://www.tmd.ac.jp/stdc/index.html>



<キャリア支援や学業（仕事）と家庭との両立支援に関する事> e-mail：[info.ang@tmd.ac.jp](mailto:info.ang@tmd.ac.jp)

- ・今後の進路や生き方に関する相談
- ・妊娠・出産・育児との両立や保育園入園・介護に関する相談

ホームページ <http://www.tmd.ac.jp/ang/counsel/index.html>



☆個別相談時間

事前予約制です。詳細はホームページをご参照ください。

### 11) 研究不正関連講習会の受講

本学では、「遺伝子組換え実験」「病原微生物等・特定病原体等を取扱う実験」及び「動物実験」を行う者は『「安全で適正な研究」に係る研修会』を、「ヒト（試料・データを含む）を対象とする研究」を行う者は『研究倫理講習会』を受講し、それぞれ基礎研究 ID（「安全で適正な研究」に係る研修会）、受講証番号（研究倫理講習会）を取得することとしておりますが、大学院生についてはいずれも受講必須となっております。実施詳細は学内 Info メールおよび HP で周知いたしますので確認のうえ必ず受講するようにしてください。

(HP) <https://www.tmd.ac.jp/tmd-research/safety/koushoukaiannai/>

(問い合わせ先) 統合研究機構事務部研究推進課 研究基盤係 (e-mail : anzen.adm@tmd.ac.jp )

### 12) 院生ラウンジ

院生はM&Dタワー14階院生ラウンジを利用することができます。

<利用時間> 8:00~21:00

<注意事項> ①利用後は整理整頓を行い、必ず原状復帰すること。

②ゴミは各自の研究室に持ち帰り、責任を持って処分すること。同フロアに設置されている他の教室のゴミ箱に捨てないこと。

③他の利用者に迷惑となる行為（大声で話す、長時間の睡眠をとる、遊具を持ち込む等）をしないこと。

④私物を放置したままにしないこと。

⑤手洗い、マスク着用等基本的な感染対策に留意してご利用ください。

### 13) その他

(1) 個人宛の郵便物等には、必ず分野名の記載を相手方に周知してください。

(2) 本学では、構内での交通規制が行われており、学生の車での通学は認められていませんので、注意して下さい。ただし、電車、バス等で通学することが困難な者については、申請に基づき許可することがあります。

(3) 担当課

① 教務事務・・・学務企画課大学院教務第一係・第二係

(1号館西1階：TEL 5803-4676、4679、4534)

② 授業料の納入・・・財務企画課資金管理係

(1号館西3階：TEL 5803-5048)

③ 奨学金・授業料免除・・・学生支援事務室

(5号館3階：TEL 5803-5077)

## 9. 長期履修制度について(医歯学総合研究科博士課程対象)

### 1) 長期履修学生制度とは

長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により標準修業年限（医歯学専攻：4年、生命理工医療科学専攻：3年）を超えて履修を行い修了することができる制度であり、願い出た者については、審査のうえ許可する。

### 2) 対象者

長期履修を申請できるのは原則下記にあてはまる者とする。

- ・企業等の常勤職員又は自ら事業を行っている者
- ・出産、育児、介護等を行う必要がある者

### 3) 申請手続き

#### 提出・問い合わせ窓口

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

#### 提出書類

- ・長期履修申請書
  - ・在職証明書（企業等の常勤職員の場合）
  - ・その他申請理由を証明できる書類
- （例）出産・育児を理由とする場合は、母子手帳や保険証のコピーなど

#### 提出期限

- ・入学志願者が長期履修を希望する場合・・・入学手続き期間の最終日
- ・在学者が長期履修を申請する場合・・・医 歯 学 専 攻：3年次の2月末日  
生命理工医療科学専攻：2年次の2月末日

※10月入学者の申請書提出期限は各専攻とも8月末日とする。

※在学者が長期履修申請をした場合、申請年次の次年度から長期履修が適用される。

### 4) 長期履修期間

長期履修者が在学できる期間の限度は標準修業年限の2倍（医歯学専攻：8年、生命理工医療科学専攻：6年）とする。なお、長期履修期間を最大修業年限未満に設定したもののについては、長期履修後、最大修業年限までは在学期間延長の手続きをすることができる。（在学期間延長については「諸手続きについて」を参照）

### 5) 長期履修の短縮

長期履修は短縮することができるが、短縮後の在学年数を標準修業年限未満（医歯学専攻：4年、生命理工医療科学専攻：3年）にすることはできない。なお短縮申請は1回限りとする。また、長期履修を延長することはできない。

#### 提出・問い合わせ窓口

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

#### 提出書類

- ・長期履修期間短縮申請書

#### 提出期間

希望する長期履修期間満了日の7か月前まで

（例）8年間から5年間への短縮を行う場合（休学等がない場合）：4年次の2月末日までに手続きを行う

- 6) 履修登録  
長期履修者の履修登録にあたっては、担当教員と事前に相談し単位取得に関する履修計画を作成のうえ、計画的に履修を行わなければならない。その際、医歯学専攻においては1年間に取得できる単位数の上限は12単位とし、原則として3年以上の期間にわたって単位取得するものとする。
- 7) 授業料  
標準修業年限分の授業料を長期履修年数に応じて分割納入するものとする。なお、長期履修の短縮申請を行った場合は、標準修業年限分の授業料から既納入分を差し引き、残りの在学年数で分割納入する。  
※日本学生支援機構の奨学金に申請する学生は、貸与期間等に特別の定めがある場合があるので、学生支援事務室（5号館3階）に問い合わせること。
- 8) 学位申請  
学位申請が行えるのは、長期履修の最終年度のみである。最終年度以外の年度には学位申請は受け付けないので注意すること。なお、申請した長期履修期間より早く学位申請が行えるようになった場合は、前もって長期履修短縮申請をすること。  
※5) 長期履修の短縮を参照
- 9) 長期履修中の休学及び留学  
長期履修学生の休学、留学については、事例ごとに審議することとする。なお、休学が認められた場合、休学期間は在学期間に算入しない。  
※休学、留学の手続き等詳細については、「諸手続きについて」を参照すること
- 10) 長期履修事由の消滅  
長期履修期間中に長期履修の事由が消滅した場合（常勤職員のため長期履修を申請したが、会社を辞めた等の理由で学業に専念できるような状況になったなど）は、長期履修の短縮をすることができる。

## 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科長期履修に関する要項

### (趣旨)

第1条 この要項は、東京医科歯科大学大学院学則第13条の規定に基づき、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科（以下「研究科」という。）における長期履修の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

### (資格)

第2条 長期履修を申請できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- (1) 企業等の常勤の職員又は自ら事業を行っている者
- (2) 出産・育児・介護等を行う必要がある者
- (3) その他長期履修することが必要と認められる者

### (申請手続)

第3条 長期履修を希望する者は、指導教員と相談の上、次に掲げる書類により研究科長に申請しなければならない。

- (1) 長期履修申請書(別紙様式)
- (2) 在職証明書(前条第1号に該当する者)その他の前条の資格を証明する書類
- (3) その他必要と認める書類

2 前項の規定による申請は、次の各号に掲げる区分により、当該各号に掲げる日までに行わなければならない。

- (1) 入学(再入学、進学、編入学、転科、転入学及び転専攻を含む。)志願者が長期履修を希望する場合

入学手続き期間の最終日

- (2) 在学者が長期履修を希望する場合

医歯学専攻 3年次の2月(10月入学者にあつては8月)末日

生命理工医療科学専攻 2年次の2月(10月入学者にあつては8月)末日

### (許可)

第4条 長期履修の許可は、研究科委員会の議を経て研究科長が行う。

2 研究科長は、前項の規定により長期履修を許可した場合は、長期履修に係る履修計画及び授業料並びにその徴収方法等について、長期履修の許可を受けた者(以下「長期履修学生」という。)に通知するものとする。

### (履修)

第5条 長期履修学生は、研究科が定めた履修計画に基づき、計画的な履修を行わなければならない。



(長期履修の期間)

第6条 長期履修学生が在学できる期間の限度は、標準修業年限の2倍とする。

2 長期履修の開始時期は4月(10月入学者にあつては10月)からとする。

3 長期履修学生が長期履修期間の短縮を希望する場合は、希望する修了予定年度の前年度の2月(10月入学者にあつては8月)末日までに研究科長に願い出て、その許可を得なければならない。ただし、標準修業年限を下回ることはできない。

(雑則)

第7条 この要項に定めるものほか、長期履修の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成18年10月17日から施行する。

附 則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成30年6月21日制定)

この要項は、平成30年6月21日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

## 10. 諸手続きについて

各手続きに必要な本学指定の様式については、学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）もしくは本学ホームページより取得することができる。

本学ホームページ (<http://www.tmd.ac.jp/index.html>) → 「教育研究組織等」 → 「大学院医歯学総合研究科」  
→ 「統合教育機構学務企画課」 → 「諸手続（休学・退学・住所変更等に必要な手続関係）」

URL：[http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate\\_school/kyoumuka/index.html](http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/kyoumuka/index.html)

### 1) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上就学できない場合は下記の手続きにより休学もしくは休学延長することができる。なお、休学期間は通算して2年を超えることはできない。また、休学期間は在学期間に算入しないものとする。

**提出・問い合わせ窓口**

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

**提出書類**

・休学願または休学延長願（本学指定様式）

※開始日は原則として、月初めとする

※病気療養を理由とする場合は、医師の診断書を添付すること

**提出期限**

休学を希望する前々月の20日まで

### 2) 復学

休学している学生が、休学期間途中もしくは休学期間満了時に復学を希望する場合は、下記の手続きを行わなければならない。

**提出・問い合わせ窓口**

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

**提出書類**

・復学願（本学指定様式）

※病気療養を理由に休学した場合は、医師の診断書を添付すること。また、保健管理センターの受診が必要になるので、事前に申し出ること。

**提出期限**

復学を希望する前々月の20日まで

### 3) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、下記の手続きを行わなければならない。

**提出・問い合わせ窓口**

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

**提出書類**

・退学願（本学指定様式）

**提出期限**

退学を希望する前月の20日まで

### 4) 研究指導委託

他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他機関」という。）において研究指導を受けたい場合は、先方とあらかじめ協議したうえで下記の手続きを行わなければならない。なお、申請期間は年度を超えることができない。翌年度も引き続き研究指導を受ける場合は、1月末までに

再度申請をすること。

なお、修士課程在学者が研究指導委託できる期間は、最大1年間である。

提出・問い合わせ窓口

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

提出書類

・研究指導委託申請書（本学指定様式）

※開始日は原則として、月初めとする

提出期限

研究指導委託希望日の3ヶ月前の20日まで

※研究指導委託に伴う実習用定期の申請について

研究指導委託申請の承認後、他機関に通学することになった場合は、申請により実習用定期を購入することができる。

提出・問い合わせ窓口

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

提出書類

実習用通学定期乗車券申込書（本学指定様式）

提出期限

2ヶ月前まで（鉄道会社の許可を得るのに1ヶ月程度要する）

## 5) 留学

外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関において修学する場合は、先方とあらかじめ協議のうえで下記の手続きを行わなければならない。

留学期間に制限があるので、必ず事前に問い合わせること。

提出・問い合わせ窓口

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

提出書類

- ・留学願（本学指定様式）
- ・指導教員の理由書（書式自由）
- ・相手先の受入承諾書等の書類（写し）
- ・相手先の受入承諾書等の書類の和訳

留学希望日の前々月の20日まで

【留学期間を変更したい場合】

提出・問い合わせ窓口

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

提出書類

- ・留学期間変更願（本学指定様式）
- ・留学期間変更に係る文書（写し）
- ・留学期間変更に係る文書の和訳
- ・留学許可書（写し）

提出期限

留学期間変更希望日の3ヶ月前の20日まで

6) 在学期間延長

標準修業年限を超えて在学（休学期間を除く）しようとする者は、下記の手続きを行わなければならない。なお、在学期間は標準修業年限の2倍（下表参照）まで延長することができる。

研究科	課程	専攻	年数
医歯学総合研究科	修士課程	医歯理工保健学専攻（医療管理学コースを除く）	4年
		医療管理学コース	2年
	博士課程	医歯学専攻	8年
		生命理工医療科学専攻	6年
保健衛生学研究科	一貫制博士課程	看護先進科学専攻 共同災害看護学専攻	10年

なお、在学期間に休学期間は含めない。

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

・在学期間延長願（本学指定様式）

・在学期間満了日の前々月の20日まで

7) 専攻分野変更

在学中に研究内容に変更が生じた等の理由で、所属研究分野の変更を希望する場合は、下記の手続きを行わなければならない。

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

・専攻分野変更願（本学指定様式）

変更希望日の前々月の20日まで

8) 在学コース変更

在学中に職に就いた場合、もしくは社会人コースで入学したがその事由が消滅した場合は下記の手続きを行わなければならない。

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

・在学コース変更願（本学指定様式）

※「一般コース」から「社会人コース」への変更を希望する場合は下記も添付すること

・勤務先の承諾書（本学指定様式）

・指導教員の承諾理由書（書式自由）

変更希望日の前々月の20日まで

9) 転学

他大学への転学するための転入学試験を受験する場合は下記の手続きを行わなければならない。

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

**提出書類**

・転入学試験受験承諾書請求願（本学指定様式）

**提出期限**

受験日の3ヶ月前の20日まで

転入学試験受験の結果、合格した場合は下記の手続きを行わなければならない。

**提出書類**

・転学願（本学指定様式）  
・合格通知書の写し

**提出期限**

転入学日の3ヶ月前の20日まで

**10) 死亡**

学生本人が死亡した場合、保護者等は速やかに下記手続きを行わなければならない。

**提出・問い合わせ窓口**

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

**提出書類**

・死亡届（本学指定様式）

**提出期限**

速やかに提出

**11) 履修取消**

登録済みの科目のうち、履修を継続しない科目の取消しを行う場合は、下記の手続きを行わなければならない。

**提出・問い合わせ窓口**

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

**提出書類**

・履修登録科目取消願（本学指定様式）

**提出期限**

・専攻により異なるため問い合わせ窓口を確認すること。

**12) 成績評価**

成績評価について異議がある場合は、所定の期日までに下記の手続きを行わなければならない。

**異議申し立て**

**提出・問い合わせ窓口**

学務企画課大学院教務第一係・第二係（1号館西1階）

**提出書類**

・成績評価異議申し立て書（本学指定様式）

**提出期限**

・専攻により異なるため問い合わせ窓口を確認すること。

**【注意】**

上記の諸手続きは「履修取消」を除き全て研究科運営委員会付議事項であるため、**提出期限は厳守**のこと。期限を過ぎての提出は、希望日以降の許可となる。

8月は研究科運営委員会が開催されないため、9月から希望する学生は、上記の提出期限の更に1ヵ月前までに届け出ること。

研究科長	副研究科長	事務部長	課長	副課長	専門職員	係長	係員
専	専	専	専	専	専		

## 履修登録科目取消願

Request for Cancelling Registered Subject

年 月 日  
Year Month Date

大学院 \_\_\_\_\_ 研究科長 殿  
Dean, Graduate School of \_\_\_\_\_

Year of Admission \_\_\_\_\_ 年度入学 School Year 第 \_\_\_\_\_ 学年

修士課程 Master's Program

博士課程 Doctoral Program

Department ( \_\_\_\_\_ 分野)

学籍番号 Student ID No. 第         号

氏名 (Name) \_\_\_\_\_ (※)

(※) 本人が自署しない場合は、記名押印してください。

When a person submitting this form does not sign the above space (※), you must type/write his/her name and affix his/her seal in the space(※) on behalf of him/her.

携帯電話番号 (Mobile) \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

下記のとおり、履修登録を取り消したいのでお届けいたします。

I would like to request cancellation of my registered subject as below.

記

1. 科目コード Subject Code	
2. 科目名 Subject	
3. 担当教員名 Teacher in Charge	

受付日・印
年 月 日受付

研究科長	副研究科長	事務部長	課長	副課長	専門職員	係長	係員
専	専	専	専	専	専		

## 授 業 欠 席 届

年 月 日

大学院 研究科長 殿

\_\_\_\_\_ 年度入学 第 \_\_\_\_\_ 学年

修士課程  博士課程  
( \_\_\_\_\_ 分野)

学籍番号 第 

--	--	--	--	--	--	--	--

 号

氏 名 \_\_\_\_\_ (※)  
(※)本人が自署しない場合は、記名押印してください

携帯電話番号 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

下記のとおりに、授業を \_\_\_\_\_ 欠席します \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ 欠席しました \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ のでお届けいたします。

### 記

1. 欠席期間 自 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( \_\_\_\_\_ 限)  
至 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( \_\_\_\_\_ 限)

2. 欠席科目

---

3. 欠席理由

---



---



---

様式（第7条関係）

年 月 日

成績評価異議申し立て書

研究科 \_\_\_\_\_

課程・専攻 \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

授 業 科 目 名	担 当 教 員
(問い合わせ内容)	
担当教員への連絡	年 月 日に _____ にて連絡
(教員の回答)	年 月 日
学 生 へ の 連 絡	年 月 日 に連絡
担当教員から 教務係への連絡	成績訂正：有（訂正後の成績 _____）・無 年 月 日 氏名
教 務 係 確 認 欄	年 月 日



## 11. 学内主要施設・校内案内図

施設名	所在地	内線番号
学生支援事務室	5号館3階	5077
学務企画課	1号館西1階	5074(企画調査係) 4676,4679,4534(大学院教務)
入試課	1号館西1階	4924
財務企画課資金管理係	1号館西3階	5048
図書館	M&Dタワー3階	5596
保健管理センター	5号館2階	5081
談話室(証明書自動発行機)	5号館4階	—
生活協同組合 食堂・売店	5号館1階・地下1階	—
リサーチコアセンター	8号館南	5788

